

2025

TBGU ハンドブック シラバス

Graduate School of Health and Environment Sciences
HANDBOOK FOR STUDENTS & COURSE SUMMARY

健康社会システム研究科
大学院

東 北 文 化 学 園 大 学

T O H O K U B U N K A G A K U E N U N I V E R S I T Y

目 次

はじめに

建学の精神	1
本学の教育理念	1
健康社会システム研究科の目的	2
東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 アドミッション・ポリシー、 カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	2
専攻・課程別 3つのポリシー	3
学園の沿革	6
東北文化学園大学の構成図	7
2025 年度学事日程（大学院）	8
2026 年度入学試験日程	10
東北文化学園大学における個人情報保護等に係る基本方針について	11

I 学生生活案内（基本編）

1. 各種相談窓口案内	15
2. 学生生活の基本	16
(1)学生証 (2)学内における連絡方法等 (3)通学方法 (4)学内での遺失・盗難について (5)通学証明書について (6)学割について	
3. 大学キャンパスにおける禁止事項	18
(1)全学禁煙について (2)自家用車・自動二輪車等の乗り入れ (3)キャンパス内におけるスケートボード等、ボール運動等の規制について (4)その他、学則違反について	
4. TBGU ポータルサイトについて	18
5. 各種証明書・願書等について	19
(1)窓口受付時間 (2)各種証明書 (3)自動発行機について (4)願書・届出書等	
6. 各種届出、身分異動等	24
(1)本人の住所、氏名、電話番号、本籍地、保証人（保護者）の住所、氏名、電話番号等に変更の あった場合について (2)学籍異動等 (3)除籍・賞罰	
7. 授業料について	25
(1)授業料等納付金額 (2)授業料等の納付期限 (3)退学及び除籍の場合の授業料等 (4)休学の場合の授業料等 (5)復学の場合の授業料等 (6)学年の途中で修了する場合の授業料等 (7)授業料等の延納・分納 (8)納付した授業料等	

II 修学案内

1. 授業科目の履修について	27
(1)修業年限・在学期間 (2)学期 (3)単位制 (4)単位の計算方法 (5)授業科目の種類 (6)授業時間 (7)休講・補講・集中講義	
2. 履修登録手続きについて	28
(1)履修登録 (2)登録上の注意事項	
3. その他、単位認定について	28
(1)既修得単位の認定	
4. 定期試験等	28
(1)試験の種類 (2)受験資格 (3)不正行為について (4)定期試験時間割	
5. 成績評価	29
(1)評価方法 (2)成績発表 (3)成績の通知について (4)成績に関する問い合わせについて	

6. 研究	29
7. 修了・学位	29

III 学生生活案内（全般編）

1. オフィスアワー	31
2. 定期健康診断の実施について	31
3. 奨学金制度	31
(1)日本学生支援機構奨学金 (2)大学院奨学生「授業料後払い制度」(日本学生支援機構)	
(3)東北文化学園大学大学院奨学生制度について（給付型）(4)その他の奨学金	
4. 加入者被扶養者証・遠隔地被保険者証	32
5. 学生保険について	32
(1)保険金が支払われる事故の範囲 (2)保険金が支払われるまでの手続き	
(3)保険金が支払われない場合	
6. 国民年金保険料の学生納付特例制度について	33
7. TA（ティーチング・アシスタント）制度について	33
8. アルバイト・ボランティア活動について	33
9. ハラスメントについて	33
(1)セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント	
(2)アルコール・ハラスメント	
10. 一人暮らしのマナーについて	34
11. 東北文化学園大学 学生用 SNS（ソーシャルメディア）活用ガイドラインについて	34
12. 地震・火災等、災害非常時の心構えについて	35
13. その他	36
(1)文書類の掲示	

IV 各種センター、施設等利用案内

1. 大学施設（講義室・実習室等）の利用について	37
2. 図書館の利用方法について	39
(1)利用資格 (2)開館時間 (3)利用の注意 (4)館内閲覧 (5)館外貸出	
(6)館内資料の複写 (7)相互利用 (8)購入希望図書 (9)グループ学習室の利用	
3. 健康管理センターについて	41
(1)健康管理センター（保健室・学生相談室・特別支援室）利用時間 (2)利用方法・連絡先	
(3)新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等学校感染症に罹患した場合の手続きについて	
4. キャリアサポートセンター（就職支援について）	44
(1)就職活動支援 (2)キャリア形成の支援	
(3)就職情報収集支援 (4)就職に関する参考書籍の提供 (5)就職活動に必要な書類準備の支援	
5. 地域連携センターについて	45
(1)開設時間 (2)活動内容	
6. PC コーナーとレンタルパソコンの利用方法について	45
(1)2 階 PC コーナー (2)レンタルパソコン	
7. 学生食堂・その他厚生施設情報	45
(1)学生食堂（5 号館地下 1 階、2 号館地下 1 階）	
(2)セブンイレブン東北文化学園店（厚生棟 1 階）(3)厚生棟自習室（厚生棟 2 階）	
(4)コピー機 (5)自動販売機コーナー (6)ATM・キャッシュコーナー (7)全館で Wi-Fi が利用可能です。	
8. 運動施設（体育館・運動場等）の利用について	46
(1)使用目的 (2)使用時間	
9. 美術館及び博物館のキャンパスメンバーズ	46

V 授業科目一覧表

健康社会システム研究科	
健康福祉専攻（博士課程前期2年の課程）	49
生活環境情報専攻（博士課程前期2年の課程）	50
健康福祉専攻（後期3年の課程）	51
生活環境情報専攻（後期3年の課程）	52

VI 授業概要（シラバス）

健康福祉専攻（前期2年の課程）	57
生活環境情報専攻（前期2年の課程）	123
健康福祉専攻（後期3年の課程）	153
生活環境情報専攻（後期3年の課程）	161

VII 学位論文審査

1. 修士学位論文審査	
1) 健康社会システム研究科 前期課程 学位授与審査申合せ	169
2) 様式（第M-1～6号）	170
3) 修士論文等審査手順	172
2. 博士学位論文審査	
1) 健康社会システム研究科 後期課程 学位授与審査申合せ	173
2) 様式（第D-1～8号）	174
3) 博士論文審査手順	177
3. 後期課程を経ない者の学位授与申請及び審査	
1) 健康社会システム研究科 後期課程を経ない者の学位授与申請及び審査に関する規程	179
2) 様式（第E-1～3号）	181
3) 博士論文審査手順	182
博士課程 後期3年の課程 修了モデル図	184

VIII 諸規程

東北文化学園大学大学院学則	185
東北文化学園大学学位規程	196
東北文化学園大学大学院履修規程	201
東北文化学園大学大学院科目等履修生規程	202
東北文化学園大学大学院研究生規程	203
東北文化学園大学大学院特別研究学生規程	203
東北文化学園大学研究倫理規程	205
東北文化学園大学ティーチング・アシスタント取扱要項	207
東北文化学園大学総合情報センター図書館利用規程	208
東北文化学園大学大学院学位論文審査料に関する基準	209

IX 校舎案内・防災ガイド

校舎配置図	211
施設見取図	212
防災ガイド	225

は じ め に

TOHOKU BUNKA GAKUEN

建学の精神

「輝ける者を育む」

建学の精神・理念に基づく人材像

「輝ける者」とは、自立した力を持ち、他者とかわり合いながら未経験の問題に応える人

学生へのメッセージ

私達の学園は協同ということを大切にしています。教職員や同級生とのかかわりはもとより、上級生や下級生、地域の人達とのつながりの中から、同じ目的のもとに行動するチームアプローチを学びます。

人口流出、高齢化、少子化、地域コミュニティの再構築、地域文化の継承と創造、震災復興…。東北は今、全国に先んじて、誰もが経験したことのない深刻な課題に直面しています。豊かな自然あふれる東北で、その恵みを享受し、また、地域の誇りを持ち続けるために、目的を共有する人達と力を合わせて解決策を練らなければなりません。

さまざまな垣根を越えて協同しながらの課題研究や課外活動、学生自らが企画しての社会貢献や地域活動など、仲間たちと熱く輝く瞬間が学生生活を彩ります。

一人の職業人として活躍するための専門知識や資格に加えて、周囲とつながる学生生活によって「輝ける者」に至るあなたを全力で支え、未来に送り出していきます。

本学の教育理念

新時代の実学を担う有為な人材を育成するために5つの教育理念を掲げ、人間教育を重視した専門教育を実施する。

(1) 豊かな人間性と創造力の養成

専門技術・知識を習得し、独自に工夫・応用できる創造性を育成する。同時に、豊かな人間性と愛情をはぐくむ。

(2) 専門技術の研鑽

専門技術の学問としての確立と研究の推進を行い、あわせて、実社会の需要に積極的に応えられる技術と情熱を持つ人材を育成する。

(3) 国際性豊かな人材の育成

高い識見と専門技術を生かし、多様な世界との文化・技術交流に積極的に取り組むことのできる国際性豊かな人材を育成する。

(4) 社会の一員としての自覚と問題解決能力による貢献

国際社会、国家、地域社会の一員としての役割、責任を自覚し、社会に対する洞察力と問題解決能力をもつて、進んで社会貢献に参加する人材を育成する。

(5) 地域社会とともに発展する大学

地域社会との交流を活発に行い、同時に職業人の再教育、編入学、科目等履修生及び社会人の受け入れなど、生涯学習に対応する。

健康社会システム研究科の目的

健康社会システム研究科は、健康福祉及び生活環境情報に関する学術の理論並びに応用を教授研究し、その深奥をきわめるとともに、高度の専門職性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、社会文化の進展に寄与することを目的とする。

【健康福祉専攻の目的】

健康福祉専攻は、福祉社会の形成に必要な保健・医療・福祉に関する学術の理論及び応用を教授研究するとともに、高度の専門職性が求められる職業を担うための深い知識や卓越した能力を培い、健康福祉に関する高い学問的見識と研究能力を有する人材を育成する。

【生活環境情報専攻の目的】

生活環境情報専攻は、健康・安全生活環境の維持・創成に必要な情報・環境及びその応用工学に関する理論及び技術を教授研究するとともに、高度の専門職性が求められる職業を担うための深い知識や卓越した能力を培い、生活環境情報に関する高い学問的見識と研究能力を有する人材を育成する。

東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、 ディプロマ・ポリシー

東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科のアカデミック・ポリシー

健康社会システム研究科では、東北文化学園大学大学院学則第6条の2に定める「研究科の目的」を達成するため、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定める。

アドミッション・ポリシー

博士課程前期2年の課程

高度な専門技術・知識を学ぶとともに、課題の背景や要因を分析し解決する能力を身につけ、社会に貢献する意欲のある者。

博士課程後期3年の課程

現在及び未来におよぶ社会的課題に対して、専門知識・技術をもって解決する能力を有し、具体的な手立てによって社会に貢献する意欲のある者。

カリキュラム・ポリシー

1. 共通領域・学際領域の教授

各専攻分野にとらわれない、広い社会的視点を身につけさせるため、共通領域・学際領域における講義を充実させる。

2. 各専攻分野の専門知識の教授

各専攻分野の専門知識を体系的に理解させる講義科目をおく。また、各専攻分野固有の問題を解決する能力を身につけさせる演習科目を設ける。さらに、自ら課題を発見し、解決する姿勢を修得させる研究科目をおく。

3. 社会人学生の支援

具体的研究課題を有する社会人の入学を奨励し、社会人学生の本研究科における円滑な学習活動及び研究活動を支援する。

4. 社会における研究活動の支援

研究指導の課程では、各学協会が主催する研究報告会等への参加を奨励する。博士課程後期3年の課程の学生については、国内の研究報告会に加えて国際会議への参加を奨励し、その研究活動を支援する。

ディプロマ・ポリシー

博士課程前期 2 年の課程

保健医療福祉及び生活環境情報において、広い視野に立って研究能力及び高度な知識と技術を有する専門的職業人と認められる者。

博士課程後期 3 年の課程

博士課程前期 2 年の課程の目標とする専門的能力を基礎に、さらに高度な知識や技術を修得し、高い学問的見識と自立的な研究開発・指導能力を有する、高度専門技術者、研究者及び教育者となる人材と認められる者。

専攻・課程別 3 つのポリシー

【健康福祉専攻】

博士課程前期 2 年の課程

1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

① 「知識・理解」

健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉及びその応用に関する理論及び技術について理解している。

② 「思考・判断」

健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉及びその応用に関する理論及び技術について深く考察し、その妥当性を判断できる。

③ 「技能・表現」

保健医療福祉の高度な専門職性が求められる領域における深い知識、卓越した技能や研究能力を身に付けている。ナースプラクティショナー養成では保健師助産師看護師法に定める特定行為を確実に実施できる臨床能力を身に付けている。

④ 「関心・意欲」

保健医療福祉に関する高い学問的見識と研究能力を有し、高い倫理観を身に付け社会に貢献できる。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

① 「知識・理解」

健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉及びその応用に関する理論及び技術について、深く学びたい者。

② 「思考・判断」

健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉及びその応用に関する理論及び技術について、多面的かつ理論的に考察したい者。

③ 「技能・表現」

保健医療福祉に関する高度な専門技術、研究能力を獲得したい者。ナースプラクティショナー養成では看護師臨床経験 5 年以上を有し、保健師助産師看護師法に定める特定行為研修を受けたい者。

④ 「関心・意欲」

保健医療福祉に関する問題意識を持ち、研究課題を設定し、それを解決して社会に貢献する意欲のある者。ナースプラクティショナー養成ではチーム医療に貢献する意欲のある者。

3. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育課程を編成し実施する。

① 「共通科目」

健康社会システム研究科に学ぶ学生が共通に理解しておくべき科目を設け、教授する。

② 「専門科目」

保健医療福祉、ナースプラクティショナー養成に関わる専門科目を設け、より専門性の高い事項について研究教授する。

博士課程後期 3 年の課程

1. ディプロマ・ポリシー

- ① 知識・思考
健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉に関する高度な専門知識を修得し、自立して問題を考察し、独創的な発想を有している。
- ② 技能・表現
豊かな学識に基づいて、保健医療福祉において独創的な研究を遂行でき、国際的な場で研究成果を発信できる。
- ③ 関心・意欲
社会的及び学問的ニーズを踏まえ、高い倫理と責任をもって、社会貢献しようとする熱意を有している。

2. アドミッション・ポリシー

- ① 健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉に関する高度な専門知識と技術を修得しようとする者。
- ② 健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉に関する高度な専門知識と技術を修得するための基礎理論及び思考能力を有している者。
- ③ 健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成において、問題意識を持ち、それを解決して社会に貢献する意欲のある者。

3. カリキュラム・ポリシー

- ① 健康で安全な生活の維持・長寿社会の創成に必要な保健医療福祉に関する専門知識を体系的に教授するとともに、学際的視野を養成する。
- ② 研究活動を通して幅広い知識を身に付け、自ら研究課題を発見し、解決する能力を養う。
- ③ 学術会議等での研究発表を通して、コミュニケーション能力を鍛え、国際的視野を育成する。

【生活環境情報専攻】

博士課程前期 2 年の課程

1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

- ① 「知識・理解」
健康で安全な生活環境及び高度情報社会の維持・創成に必要な情報・環境及びその応用に関する理論及び技術について理解している。
- ② 「思考・判断」
健康で安全な生活環境及び高度情報社会の維持・創成に必要な情報・環境及びその応用に関する理論及び技術について深く考察し、その妥当性を判断できる。
- ③ 「技能・表現」
生活環境情報の高度な専門職性が求められる職業を担うための深い知識や卓越した技能や研究能力を身に付けている。
- ④ 「関心・意欲」
生活環境情報に関する高い学問的見識と研究能力を有し、高い倫理観を身に付け社会に貢献できる。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

- ① 「知識・理解」
健康・安全な生活環境の維持・創成に必要な情報・環境及びその応用に関する理論及び技術について、深く学びたい者。
- ② 「思考・判断」
健康・安全な生活環境の維持・創成に必要な情報・環境及びその応用に関する理論及び技術について、多面的かつ理論的に考察したい者。
- ③ 「技能・表現」

生活環境情報に関する高度な専門技術、研究能力を獲得したい者。

④ 「関心・意欲」

生活環境情報に関する問題意識を持ち、研究課題を設定し、問題を解決しようとする者。

3. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育課程を編成し実施する。

① 「共通科目」

健康社会システム研究科に学ぶ学生が共通に理解しておくべき科目を設け、教授する。

② 「専門科目」

生活情報科学、生活環境科学に関わる専門科目を設け、より専門性の高い事項について研究教授する。

博士課程後期 3 年の課程

1. ディプロマ・ポリシー

① 知識・思考

健康で安全な生活環境及び高度情報社会に関して高度な専門知識を修得し、自立して問題を考察し、独創的な発想を有している。

② 技能・表現

豊かな学識に基づいて、生活環境情報において独創的な研究を遂行でき、国際的な場で研究成果を発信できる。

③ 関心・意欲

社会的及び学問的ニーズを踏まえ、高い倫理と責任をもって、社会貢献しようとする熱意を有している。

2. アドミッション・ポリシー

① 健康で安全な生活環境及び高度情報社会において、高度な専門知識と技術を修得しようとする者。

② 健康で安全な生活環境及び高度情報社会において、高度な専門知識と技術を修得するための基礎理論及び思考能力を有している者。

③ 健康で安全な生活環境及び高度情報社会において、問題意識を持ち、それを解決して社会に貢献する意欲のある者。

3. カリキュラム・ポリシー

① 健康で安全な生活環境及び高度情報化社会において、専門知識を体系的に教授するとともに、学際的視野を養成する。

② 研究活動を通して幅広い知識を身に付け、自ら研究課題を発見し、解決する能力を養う。

③ 学術会議等での研究発表を通して、コミュニケーション能力を鍛え、国際的視野を育成する。

学園の沿革

- 1978年 3月 学校法人東北文化学園の設立認可。
- 1978年 4月 仙台市青葉区本町に宮城デザイン専門学校開校。
- 1981年 4月 東北工科美術専門学校に学校名称変更。
- 1983年12月 専修学校として東北医療専門学校の設置認可。
- 1984年 4月 東北医療専門学校開校。
- 1985年 3月 学校法人木村学園から東北商科専門学校（昭和 55 年 4 月設置認可）を継承。
- 9月 東北情報工学専門学校に学校名称変更。
- 1990年 4月 仙台市青葉区国見にキャンパスを移転。
- 科増設に伴う東北工科美術専門学校と東北情報工学専門学校を統合、東北工科情報専門学校に学校名称変更。
- 東北医療専門学校に科を増設、東北医療福祉専門学校に学校名称変更。
- 1993年 4月 東北初の理工系カレッジとして東北科学技術短期大学開学。
- 1995年 1月 東北工科情報専門学校及び東北医療福祉専門学校の平成 6 年度卒業生から、文部大臣告示により「専門士」の称号を付与。
- 1998年12月 東北文化学園大学の設置認可、学校法人東北文化学園大学に法人名称変更。
- 1999年 4月 東北文化学園大学開学。
- 東北医療福祉専門学校と東北工科情報専門学校を統合、東北文化学園専門学校に学校名称変更。
- 2000年10月 東北科学技術短期大学の廃止認可。
- 2002年 9月 学校法人東北文化学園大学に設置していた東北文化学園専門学校を、友愛幼稚園を設置している学校法人友愛学園に移管。
- 2002年10月 東北文化学園大学医療福祉学部収容定員の変更認可。
- 2002年12月 東北文化学園大学大学院の設置認可。
- 2003年 3月 学校法人東北文化学園大学とアレン国際短期大学及び久慈幼稚園を設置している学校法人頌美学園が合併。
- 2003年 4月 東北文化学園大学大学院開学。
- 2006年11月 東北文化学園大学大学院修士課程を博士課程に課程変更認可。
- 2007年 1月 アレン国際短期大学の廃止認可。
- 2007年 4月 東北文化学園大学大学院博士課程前期課程及び博士課程後期課程を設置。
- 2008年 4月 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科に言語聴覚学専攻及び視覚機能学専攻を設置。
- 2009年10月 学校法人東北文化学園大学と友愛幼稚園及び東北文化学園専門学校を設置する学校法人友愛学園が合併。
- 2010年 4月 東北文化学園大学医療福祉学部看護学科を設置。
- 2011年 4月 東北文化学園大学大学院の健康社会システム研究科健康福祉専攻博士課程前期課程にナースプラクティショナー養成分野を設置。
- 2016年 2月 東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科健康福祉専攻（ナースプラクティショナー養成分野）が、厚生労働大臣から保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項第 5 号に規定する特定行為研修指定研修機関（特定行為 21 区分）として指定。
- 2016年 4月 東北文化学園大学科学技術学部臨床工学科を設置。
- 2017年 9月 東北文化学園大学に附属施設「東北文化学園大学総合発達研究センター附属国見の杜クリニック」を設置。
- 2021年 4月 東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科社会学専攻及び社会福祉学専攻を設置。
- 東北文化学園大学総合政策学部総合政策学科を、経営法学部経営法学科に学部学科名称変更。
- 東北文化学園大学科学技術学部を、工学部に学部名称変更。

本学園のロゴマークには、次のような意味が込められています。

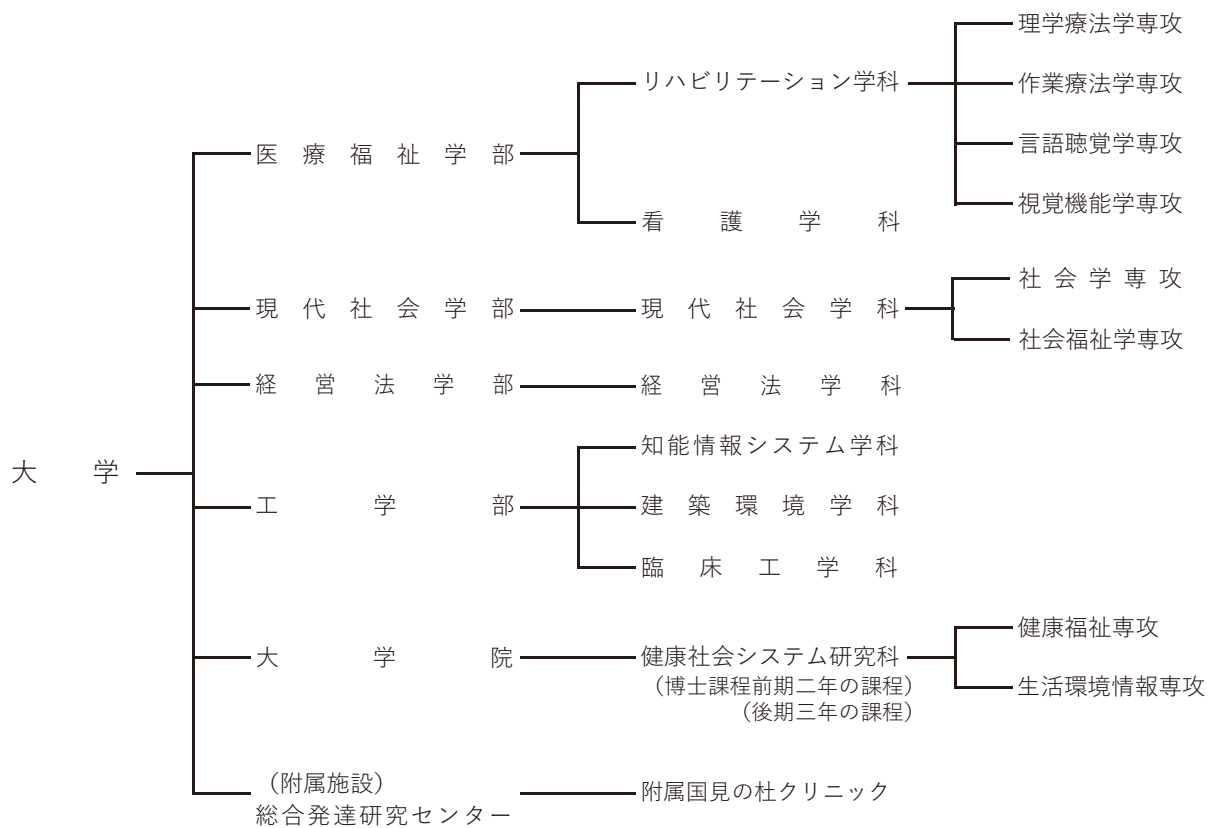


1. 3つの輪は「東北文化学園大学の3つの柱（社会科学系、工学系、医療系）の協調による学際教育」を表しています。
2. 右肩上がりの楕円形は「現状に甘んじることなく、常に成長・発展を志向する姿勢を表しています。

ロゴマークのデザインは、東北芸術工科大学の名誉教授で、長野冬季五輪デザイン検討委員長を務められた馬場雄二先生の制作によります。

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

東北文化学園大学の構成図



(事務局・各センター・IR室)

- 庶務課
- 教務部
 - 教務課
 - 実習教育計画課
- 学生部
 - 学生課
- キャリアサポートセンター
 - キャリアサポート課
- アドミッションセンター
 - 入試・広報課
- 総合情報センター
 - 図書館
- 健康管理センター
 - 保健室
 - 学生相談室
 - 特別支援室
- 基礎教育センター
 - ラーニング・コモンズEサポ
- 地域連携センター
- IR室

2025 年度学事日程（※丸付の数字は授業回数を表す）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1 火 在学生健康診断	1 木	④ 1 日	1 火	⑪ 1 金 集中講義期間	1 月
2 水 前期在学生ガイダンス /前期Web履修登録(～14日)	2 金	④ 2 月	⑧ 2 水	⑫ 2 土	2 火
3 木	3 土 憲法記念日	3 火	⑦ 3 木	⑫ 3 日 オープンキャンパス	3 水
4 金 入学式	4 日 みどりの日	4 水	⑧ 4 金	⑫ 4 月 集中講義期間	4 木
5 土 在学生健康診断	5 月 こどもの日	5 木	⑧ 5 土	5 火 集中講義期間	5 金
6 日	6 火 振替休日	6 金	⑧ 6 日 オープンキャンパス	6 水 FD・SD 研修会	6 土
7 月 新入生ガイダンス(～9日)	7 水	④ 7 土	7 月	⑬ 7 木	7 日
8 火 輝ける者ベシッ クテスト	8 木 補講日(月曜日割当)	④ 8 日	8 火	⑫ 8 金 追試験日程発表	8 月
9 水	9 金 補講日(火曜日割当)	③ 9 月	⑨ 9 水	⑬ 9 土	9 火
10 木 前期授業開始	① 10 土	10 火	⑧ 10 木	⑬ 10 日 大学閉鎖期間	10 水
11 金	① 11 日	11 水	⑨ 11 金	⑬ 11 月 山の日 大学閉鎖期間	11 木
12 土 新入生健康診断	12 月	⑤ 12 木	⑨ 12 土	12 火 大学閉鎖期間	12 金 前期成績発表
13 日	13 火	④ 13 金	⑨ 13 日	13 水 大学閉鎖期間	13 土
14 月	① 14 水	⑤ 14 土	14 月	⑭ 14 木	14 日
15 火 博士・修士論文等 審査願提出日 (9月修了者)	① 15 木	⑤ 15 日	15 火 博士・修士論文等 提出日(9月修了者)	⑬ 15 金	15 月 敬老の日
16 水 履修登録修正期間	① 16 金	⑤ 16 月	⑩ 16 水	⑭ 16 土	16 火 博士・修士論文等 審査願提出日 (3月修了者)
17 木 履修登録修正期間	② 17 土	17 火	⑨ 17 木	⑭ 17 日	17 水 後期Web履修登録期 間(～24)
18 金 履修登録修正期間	② 18 日	18 水	⑩ 18 金	⑭ 18 月 追試験期間	18 木 夏季休業終了
19 土	19 月	⑥ 19 木	⑩ 19 土	19 火 追試験期間	19 金 後期ガイダンス 防災訓練
20 日	20 火	⑤ 20 金	⑩ 20 日	20 水 追試験期間	20 土 教育相談会
21 月	② 21 水	⑥ 21 土	21 月 海の日	21 木 追試験期間	21 日 教育相談会
22 火	② 22 木	⑥ 22 日 オープンキャンパス	22 火 前期授業終了	⑭ 22 金 追試験期間 大学院一般！期・ 学内推薦！期入試	22 月 後期授業開始 ①
23 水	② 23 金	⑥ 23 月	⑪ 23 水 前期定期試験期間	23 土	23 火 秋分の日
24 木	③ 24 土	24 火	⑩ 24 木 前期定期試験期間	24 日 オープンキャンパス	24 水 ①
25 金	③ 25 日 オープンキャンパス	25 水	⑪ 25 金 前期定期試験期間	25 月	25 木 ①
26 土	26 月	⑦ 26 木	⑪ 26 土 オープンキャンパス	26 火	26 金 履修登録修正期間 ①
27 日 創立記念日	27 火	⑥ 27 金	⑪ 27 日 オープンキャンパス	27 水	27 土 履修登録修正期間
28 月	28 水	⑦ 28 土	28 月 前期定期試験期間	28 木	28 日 履修登録修正期間
29 火 昭和の日	29 木	⑦ 29 日	29 火 前期定期試験期間	29 金	29 月 履修登録修正期間 ②
30 水	③ 30 金	⑦ 30 月	⑫ 30 水 夏季休業開始 集中講義期間	30 土	30 火 履修登録修正期間 9月学位記授与式 ①
	31 土		31 木 集中講義期間	31 日	

2025 年度学事日程（※丸付の数字は授業回数を表す）

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 水		② 1 土		1 月		⑨ 1 木	元旦 大学閉鎖期間	1 日		1 日	
2 木		② 2 日		2 火		⑩ 2 金	大学閉鎖期間	2 月	集中講義期間	2 月	
3 金		② 3 月	文化の日	3 水		⑩ 3 土	大学閉鎖期間	3 火	追試日程発表	3 火	
4 土		4 火		⑥ 4 木		⑨ 4 日	大学閉鎖期間	4 水	立入制限（入試準備）	4 水	立入制限（入試準備）
5 日	東北文化学園大学 フォーラム	5 水	補講日（月曜日割当）	⑥ 5 金		⑩ 5 月		5 木	一般前期入試	5 木	一般後期・一般編 入学Ⅱ期入試
6 月		③ 6 木		⑥ 6 土		6 火	冬季休業終了	6 金		6 金	
7 火		② 7 金		⑥ 7 日		7 水	後期授業再開	⑬ 7 土		7 土	
8 水		③ 8 土		8 月		⑩ 8 木		⑬ 8 日		8 日	
9 木		③ 9 日		9 火		⑪ 9 金		⑭ 9 月		9 月	
10 金	休講・立入制限 （入試準備）	10 月		⑦ 10 水		⑪ 10 土		10 火		10 火	
11 土	総合型選抜Ⅰ期入試	11 火		⑦ 11 木		⑩ 11 日		11 水	建国記念の日	11 水	
12 日	総合型選抜Ⅰ期入試	12 水		⑦ 12 金		⑪ 12 月	成人の日	12 木	追試験期間	12 木	
13 月	スポーツの日	13 木	補講日（金曜日割当）	⑦ 13 土	総合型選抜Ⅱ期入試	13 火		⑭ 13 金	追試験期間	13 金	学位記授与式
14 火		③ 14 金	休講・立入制限 （入試準備）	14 日	学校推薦入試Ⅱ期・ 社会人入試	14 水		⑭ 14 土		14 土	
15 水		④ 15 土	学校推薦型Ⅰ期・ 一般編入学Ⅰ期・ 指定校編入学入試	15 月		⑪ 15 木	博士・修士論文等 提出日（3月修了者）	⑭ 15 日		15 日	
16 木	補講日（金曜日割当）	③ 16 日	学校推薦型Ⅰ期・ 一般編入学Ⅰ期・ 指定校編入学入試	16 火		⑫ 16 金	休講・立入制限 （入試準備）	16 月	追試験期間	16 月	
17 金	休講（大学祭準備）	17 月		⑧ 17 水	補講日（月曜日割当）	⑫ 17 土	大学入学共通テスト	17 火	追試験期間	17 火	
18 土	大学祭	18 火		⑧ 18 木		⑪ 18 日	大学入学共通テスト	18 水	追試験期間	18 水	
19 日	大学祭 オープンキャンパス	19 水		⑧ 19 金		⑫ 19 月	後期授業終了	⑭ 19 木		19 木	
20 月		④ 20 木		⑦ 20 土		20 火	定期試験期間	20 金		20 金	春分の日
21 火		④ 21 金		⑧ 21 日		21 水	定期試験期間	21 土		21 土	
22 水		⑤ 22 土		22 月		⑬ 22 木	定期試験期間	22 日		22 日	オープンキャンパス
23 木		④ 23 日	勤労感謝の日	23 火		⑬ 23 金	定期試験期間	23 月	天皇誕生日	23 月	
24 金		④ 24 月	振替休日	24 水		⑫ 24 土	大学入学共通テスト 予備日	24 火		24 火	
25 土		25 火		⑨ 25 木		⑫ 25 日	大学入学共通テスト 予備日	25 水	大学院一般Ⅱ期・ 学内推薦Ⅱ期入試	25 水	
26 日		26 水		⑨ 26 金		⑬ 26 月	定期試験期間	26 木		26 木	
27 月		⑤ 27 木		⑧ 27 土	冬季休業開始	27 火	春季休業開始 集中講義期間	27 金	卒業認定者発表	27 金	
28 火		⑤ 28 金		⑨ 28 日		28 水	集中講義期間	28 土		28 土	
29 水		⑥ 29 土		29 月	大学閉鎖期間	29 木	集中講義期間			29 日	
30 木		⑤ 30 日		30 火	大学閉鎖期間	30 金	集中講義期間			30 月	
31 金		⑤		31 水	大学閉鎖期間	31 土				31 火	

2026 年度 入学試験日程

入 試 名		試 験 日	入 構 制 限
大学院Ⅰ期	一般	2025 年 8 月 21 日（木）	
	学内推薦		
総合型選抜Ⅰ期	育成	2025 年 10 月 11 日（土）	前日 10 日（金）から制限（休講措置有り）
	自己アピール	2025 年 10 月 12 日（日）	
	スポーツ特別		
編入学試験Ⅰ期	一般編入	2025 年 11 月 15 日（土）	前日 14 日（金）から制限（休講措置有り）
	指定校編入		
学校推薦型選抜Ⅰ期	一般推薦	2025 年 11 月 15 日（土）	
	協定校推薦		
	指定校推薦	2025 年 11 月 16 日（日）	
総合型選抜Ⅱ期	自己アピール	2025 年 12 月 13 日（土）	
	スポーツ特別		
学校推薦型選抜Ⅱ期	一般推薦	2025 年 12 月 14 日（日）	
	指定校推薦		
社会人特別選抜			
大学入学共通テスト		2026 年 1 月 17 日（土） ・ 18 日（日）	前日 16 日（金）から制限（休講措置有り） 予備日（予定）: 2026 年 1 月 24 日（土）・25 日（日）
一般選抜前期日程		2026 年 2 月 5 日（木）	前日 4 日（水）から制限 翌日 6 日（金）5 号館の一部立入り制限有り
大学院Ⅱ期	一般	2026 年 2 月 25 日（水）	
	学内推薦		
一般選抜後期日程		2026 年 3 月 5 日（木）	前日 4 日（水）から制限
編入学試験Ⅱ期	一般編入		

東北文化学園大学における個人情報保護等に係る基本方針について

東北文化学園大学（以下「本学」という。）は、入学時及び在学中などに取得した個人情報が安全に管理されるよう、法令及び東北文化学園大学個人情報保護規程に基づき、以下のとおり基本方針（プライバシーポリシー）を定めています。この基本方針は、本学が取得した個人情報をどのような目的で取得し、どのように利用・共有するのか、また、ご自身に係る個人情報の管理について説明するものです。

東北文化学園大学における個人情報保護等に係る基本方針

1. 個人情報の取得

本学は、本学の入学志願者、入学予定者、学生、保護者・保証人、地域住民その他本学の教育研究活動に関連のある方々、等の個人情報の重要性に鑑み、取得する個人情報は、業務の遂行上必要な場合に限り、かつ、利用目的の範囲内で個人情報を取得します。取得にあたっては、個人情報保護法などの法令や東北文化学園大学個人情報保護規程等に基づき、適法かつ公正な手段によりこれを行います。

2. 個人情報を利用する業務

個人情報は、利用する業務の目的の範囲のみで利用します。この範囲を超えて個人情報を利用させていただく場合には、事前にその目的及び利用範囲をお知らせし同意いただくものとします。なお、個人情報を利用する業務は以下のとおりです。

(1) 教育指導上の個人情報の利用

- ・ 学生生活全般に関する連絡（呼出揭示を含む）、手続きに関すること
- ・ 学納金等諸納付金管理に伴う連絡・手続きに関すること
- ・ 履修登録、授業試験運営、単位認定、進級卒業判定、学位記授与、学籍簿の管理その他学事に必要な連絡、手続きに関すること
- ・ 学生の課外活動、ボランティア活動、福利厚生、健康管理、学生保険等の学生生活の支援及び指導助言に関すること
- ・ 課外講座及び資格取得、検定試験受験等に関すること
- ・ 各種証明書の交付に関すること
- ・ 学友会活動に関すること
- ・ 入学者の統計解析等に関すること
- ・ 就職活動や進路選定活動等の支援に関すること
- ・ 入試広報、調査あるいはアンケート活動等に関すること

- ・ 高大接続、入学前教育に関すること
- ・ 図書館サービス等に関すること
- ・ 学内情報ネットワークの利用・管理・運営等に関すること
- ・ その他の教育研究上の活動に関すること

(2) 卒業生の個人情報の利用

- ・ 各種証明書発行等に関すること
- ・ 図書館サービス等に関すること
- ・ 在学学生就職活動支援に関すること
- ・ 卒業生のデータベース管理に関すること
- ・ 同窓会運営に関すること
- ・ 各種統計解析、調査に関すること
- ・ その他卒業生に対するサービスに関すること

(3) 保護者・保証人の個人情報の利用

- ・ 各種案内、通知、依頼文書等発送に関すること
- ・ 各種統計調査に関すること
- ・ その他学生の修学及び学生生活上の支援等に関すること

(4) 地域連携事業の利用

- ・ 大学公開講座、市民学習講座等に関すること
- ・ 大学開放事業に関すること
- ・ 社会貢献、ボランティア活動に関すること
- ・ 図書館サービス等に関すること
- ・ その他、地域連携事業に関すること

3. 利用する個人情報

- (1) 在学生、卒業生、入学予定者、高校卒業予定者など本学を志願・利用する者に関する個人情報
氏名、所属、生年月日、性別、郵便番号・住所、電話番号、メールアドレス、学籍番号、学籍情報、課外活動情報、ボランティア活動情報、地域連携等活動情報、図書館利用情報、福利厚生・健康管理情報、学生保険・奨学金受給関連の情報、入試情報、志願者情報、高等学校学籍記録 等

- (2) 保護者・保証人等に関する個人情報
氏名、住所、電話番号、奨学金受給関連の情報、
公的機関の各種証明情報 等
- (3) 地域住民・一般市民、企業等（地域連携事業、
就職活動等）に関する個人情報
氏名、所属、性別、年齢、郵便番号・住所、職
業、電話番号、メールアドレス、所属町内会、ボ
ランティア依頼者の場合、所属、氏名、郵便番号・
住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス、所
属先機関の URL、図書館利用情報 等

4. データの共同利用

(1) 東北文化学園大学学友会

【共同利用の目的】

本学では正規の授業以外にも学生が主体的に企画立案する行事、スポーツ活動、文化芸術活動など、様々な自発的な活動が行われています。これらの活動を支援する全学的な組織が東北文化学園大学学友会です。学友会は、本学の教職員・学生で構成され、会員相互の交流と支援により、その運営が行われています。本学は、学生が主体的に行事やサークル活動等に参加し、その中で他者との関わりながら、豊かな人間性を身につけていくことを期待しています。東北文化学園大学学友会ではこのような活動のために個人情報を本学と共同利用します。

【利用する個人情報】

学生に関する個人情報のうち、氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、所属学部・学科・専攻、入学年月日、学籍番号、メールアドレス 等

(2) 東北文化学園大学同窓会

【共同利用の目的】

東北文化学園大学同窓会は、本学の卒業生を中心に構成されており、会員相互の親睦を図るとともに、本学の発展に寄与することを目的として、様々な同窓会活動を行っています。東北文化学園大学同窓会ではこのような活動のために個人情報を本学と共同利用します。

【利用する個人情報】

学生及び卒業生に関する個人情報のうち、氏名、生年月日、住所、電話番号、卒業学部、学科、専攻、入学年月日、卒業年月日、学籍番号、メールアドレス、保証人の氏名、住所、続柄、電話番号、卒業生に関する個人情報のうち、進路・進学情報 等

(3) 株式会社 TBG サービス

【共同利用の目的】

株式会社 TBG サービスは、学校法人東北文化学園大学が 100%出資し設立された会社です。株式会社 TBG サービスは、学校法人の多方面にわたる関連業務を引き受け、その効率化とコスト削減に寄与するとともに、学生、保護者、保証人、教職員並びに地域の方々のニーズに応える様々なサービスを提供します。株式会社 TBG サービスはこのような活動のために個人情報を本学と共同利用します。

【利用する個人情報】

本学の学生及び入学予定者に関する個人情報のうち、氏名、生年月日、住所、電話番号、性別、受験番号、学籍番号、メールアドレス、保証人の氏名・住所 等

5. 個人データを安全に管理するための措置

本学は、個人情報を正確かつ最新の内容に保つよう努め、不正なアクセス、改ざん、漏えい・滅失及び毀損から保護するための予防措置及び安全対策を講じます。また、東北文化学園大学個人情報保護規程に基づき、個人情報の安全管理に関する定期的な点検を行います。

6. 個人情報の第三者への提供

本学では、法令及び政府のガイドライン等に別段の定めがある場合を除き、あらかじめ同意を得ることなく個人情報を第三者に提供することはありません。

7. 個人情報の開示等

本学では、個人情報の開示、訂正、利用停止、消去等の要望があったときは、所定の手続きにより本人確認をしたうえで、すみやかに対応します。

8. Web サイトにおける扱い

本個人情報保護方針は、本学の公式 Web サイトを通じて、学生・保護者（保証人）その他本学を利用する方からご提供いただく個人情報についても適用します。

9. 個人情報をご提供いただけない場合

個人情報の一部または全部をご提供いただけない場合は、それに関連する本学のサービスの一部を利用できないことがあります。

10. 問合せ先

個人情報の問合せ等については、下記まで書面

等にてご連絡ください。

〒 981-8551

仙台市青葉区国見 6 丁目 45-1

東北文化学園大学 大学事務局 庶務課

I 学生生活案内（基本編）

1. 各種相談窓口案内

窓口受付時間【平日 8:40-17:00】

場所（号館・階）		担 当 窓 口	主な取り扱い内容
1 号 館	1 階 【学生総合サービスセンター】	教 務 課	各種証明書発行／授業・成績及び試験／履修登録／転学部・転学科／休退学等
		実 習 教 育 計 画 課	学外実習／国家試験等
		学 生 課	サークル・同好会関係・課外活動／通学証明書及び学割証明書発行／拾得・遺失物届／各種奨学金／学生保険等／ Student JOB
		庶 務 課	学部ゼミ活動及び大学院研究活動に伴う補助経費申請／TA、学生アルバイト（SJを除く）の報酬申請等
	1 階	総 合 情 報 セ ン タ ー	図書の貸出／ノート PC 貸出等
	地下 1 階	基 礎 教 育 セ ン タ ー (ラーニング・コモンズEサポ)	コンサルティング&コーチング（修学に関する相談、学習指導等）／Eサポセミナー等

窓口受付時間【平日 9:00-17:00】

場所（号館・階）		担 当 窓 口	主な取り扱い内容
1 号 館	1 階	キャリアサポートセンター	就職活動支援／進路相談／求人紹介等
		地 域 連 携 セ ン タ ー	ボランティアに関すること
		学 生 相 談 室	学生生活全般に関する相談
		特 別 支 援 室	特別な配慮を必要とする学生への支援・相談
5 号 館	2 階	保 健 室	健康相談／応急処置／禁煙相談等
	1 階	管 理 課	施設管理／警備・防災に関すること
	1 階	アドミッションセンター	入試相談・入学願書受付に関すること／オープンキャンパス等の実施・広報に関すること
	1 階	経 理 課	授業料等納入に関すること

※ハラスメント相談窓口：学生部学生課、健康管理センター（保健室、学生相談室、特別支援室）等

I 学生生活案内（基本編）

2. 学生生活の基本

(1) 学生証

学生証は、東北文化学園大学大学院の学生であることを証明するものなので、通学の際はもちろん常時携帯してください。

また、学生証は定期試験の受験、図書館等本学施設の利用、学割その他各種証明書の申請及び通学定期券購入の際にも必要です。学生証の有効期間は、原則として2年間又は3年間ですので、汚したり、紛失したりしないよう大切に取扱ってください。

なお、退学等により学籍を失ったときは、直ちに返還しなければなりません。

1) 学籍番号：入学してから卒業するまで、各自固有の番号を使用します。

学籍番号は下記のように8桁で表示されています。

例) 6 2 5 1 1 0 0 1
A B C D E

A：大学院コード

B：入学年度 ※西暦の下2桁で表示

C：所属研究科

健康社会システム研究科……………1

D：専攻

健康福祉専攻（博士課程前期）……………1

生活環境情報専攻（博士課程前期）……………2

健康福祉専攻（博士課程後期）……………3

生活環境情報専攻（博士課程後期）……………4

E：学生番号

新入生……………001～

研究生……………601～

2) 紛失・汚損：学生証を紛失した場合は、悪用されるおそれがあるので、速やかに学生課に申し出て、所定の「学生証再発行願」を提出してください。また、汚損した場合は、汚損した学生証を持参して再発行の申請をしてください。

(2) 学内における連絡方法等

1) WEB上での連絡：

授業・試験等学修に関する事項をはじめ、学生生活上必要な連絡事項は、主にWEBによって連絡します。そのためのユーザーIDとパスワードを一人ひとりに配付します。アクセスの方法等は、「4. TBGUポータルサイト」を参照してください。

2) 掲示板：

WEB上での連絡の他、奨学金情報や学生生活上の注意喚起などは掲示によって周知を行うことがあります。登下校の際は必ず掲示板を確認してください。

健康福祉専攻掲示板……………3号館1階

生活環境情報専攻掲示板……………1号館3階

なお、掲示やWEB上での連絡を確認しなかったことによる不利益は、個人の責任となりますので、注意してください。

3) 授業欠席の連絡について

疾病その他の事由により、授業を7日以上にわたり欠席する場合は、速やかに「欠席届」を教務課に提出してください。

公共交通機関の運休や対外試合、忌引きなどで、やむを得ず授業を欠席せざるを得ない場合は、「公認欠席」の手続きをとってください。授業担当教員の判断で特別の配慮を受けることができます。

4) 郵便物：私的郵便物は取り扱いません。郵便物は必ず自宅の住所に郵送してください。

5) 電話：私的電話の学生呼出しは、緊急時を除いては取り次ぎません。（家族の方も同様です。）

(3) 通学方法

1) 本学では、JR等の公共交通機関、自転車、原付一種以外の通学手段（自動二輪車・自動車等）を禁止しています。

ただし、通常の交通手段による通学が困難な学生に対しては、自動車通学が認められる場合があります

ので、教務課に相談してください。

- 2) 原付一種又は自転車で通学する場合は、教務課に届け出て許可証の交付を受けてください。

なお、所定の駐輪場（原付一種・自転車：体育館裏）を利用してください。

- 3) 大学が認めていない手段により通学した学生に対して、厳しい対応を行います。
- 4) 交通事故に遭ったときは、冷静に対応し事故処理・応急処置等が一段落したら、速やかに学生課に連絡し「いつ」「どこで」「何が起きたか」等を報告してください。

※なお、大学が認めていない通学方法での事故の場合、学生保険の対象とはなりませんので、保険金は支払われません。また、学生課に届け出て許可証の交付を受けていない原付一種等で通学して事故にあったときも保険金が支払われない場合があります。

（詳細は別頁「学生保険について」参照）

【学生課 TEL 022-233-6116】

(4) 学内での遺失・盗難について

学内での遺失、盗難、拾得については、学生課に届け出てください。

拾得物のうち、現金、貴重品は学生課で**1週間**保管し、その間に申し出がなければ警察へ引渡します。それ以外の拾得物は学生課で保管し、**3ヶ月**を経過した時点で処分します。

なお、貴重品については、常に携帯するようにし、盗難防止に努めてください。また、教科書や大切なものには、氏名等の記入を心掛けてください。

(5) 通学証明書について

- 1) JR 及び仙台市営バス、地下鉄、宮城交通バスの通学定期乗車券を購入する際は、毎年度初めの購入時に「通学証明書」が必要となる場合があります。通学証明書が必要な学生は、必要とする日の2日前（土・日曜日・祝日・大学閉鎖期間を除く）までに「通学証明書発行願」を学生課へ提出してください。

【JR の場合】次回以降は、旧通学定期乗車券と学生証を提示することにより新たな通学定期乗車券を購入することができます。

【仙台市営バス、地下鉄の場合】次回以降は旧通学定期券と学生証を提示することにより新たな通学定期券を購入することができます。（有効期限は次年度の4月30日を越えないものに限る）

- 2) 実習用定期乗車券を購入する際は実習用の通学証明書が必要となりますので、実習教育計画課に申し出てください。

(6) 学割について

- 1) 学生旅客運賃割引制度は、修学上の経済的負担を軽減することを目的として、JR の乗車区間が片道101 Km 以上の区間を学生が下記の目的で旅行する場合に限り、通常旅客運賃が2割引される制度です。

〔対象となる旅行目的〕

- ① 休暇、所用による帰省
- ② 実験実習及び試験などの正課の教育活動
- ③ 学校が認めた体育・文化に関する正課外の教育活動
- ④ 就職又は進学のための受験等
- ⑤ 学校が修学上、適当と認めた見学又は行事への参加
- ⑥ 傷病の治療、その他修学上、支障となる問題の処理等
- ⑦ 保護者の旅行への随行

学割の有効期限は発行日から3ヶ月です。（但し、卒業年次生に関しては、卒業する年の3月31日が使用期限となります）

なお、本人以外が学割を使用することは禁じられています。

- 2) 学生旅行団体割引制度は、8人以上の学生が課外活動等で本学教職員の引率のもと、同一行程をJRを利用し旅行する際に、学生団体割引（鉄道・連絡船が5割引、JRバスが2割引）が受けられる制度です。

申し込みを希望する場合は、駅、旅行センター及び旅行会社等に備え付けてある「団体（グループ）旅行申込書」に必要事項を記入の上、学生課に提出し「証明」を受けて、出発の14日前までに申し込んでください。

I 学生生活案内（基本編）

3. 大学キャンパスにおける禁止事項

(1) 全学禁煙について

本学はキャンパス構内全面禁煙です。学生の皆さんには、自らの健康維持のためだけでなく、非喫煙者の受動喫煙防止のためにも本学の禁煙推進活動に協力してください。

＜禁煙推進の取り組み＞

1) キャンパス内の全面禁煙

学生・教職員はもとより、来学者を含めすべてのの方の喫煙を禁止しています。

2) 入学時の宣誓と禁煙励行に関する調査

①新入生には、禁煙に係る宣誓を求めます。（宣誓書の提出）

②学生の禁煙励行状況等について、全学生を対象とした調査を実施します。

3) 禁煙教育講習の実施

ガイダンス等を通じて、禁煙の社会的必要性、喫煙が身体に及ぼす健康被害等について、禁煙教育講習を実施します。

4) 健康管理センターによる禁煙支援

①健康管理センターに禁煙相談窓口を設け、禁煙したい学生を対象に禁煙支援を行います。

②禁煙治療が必要な学生については、医療機関を紹介します。

5) 違反学生に対する指導、処分の実施

違反学生には、学生課及び学科教員スチューデントアドバイザー（SA）からの厳重注意及び指導を行います。悪質な違反者は、懲戒規程に則した処分対象となる場合があります。

(2) 自家用車・自動二輪車等の乗り入れ

本学は、自家用車・自動二輪車等による通学を認めていません。また、サークル等の課外活動においても学内への車両乗り入れや駐車・駐輪を禁止しています。

(3) キャンパス内におけるスケートボード等、ボール運動等の規制について

キャンパス内でのスケートボード、それに準ずるものの使用は、事故防止のため、禁止されています。また、ボールを使う運動は屋上テニスコート前広場でのみ認められていますが、以下の注意を必ず守り、周囲に迷惑がかからないようにしてください。

1) バットや硬式・準硬式ボール等は使用しない。

2) 多人数で場所を独占して行うボール遊びは行わない。

3) 隣接する車路部分、駐車場にボールが飛ばないように充分注意する。

その他、奇声を上げたり騒音を出すなど、授業及び自習学生の妨げになることは禁止されています。

なお、危険行為等により、施設を損壊した場合は自己責任で弁償することになります。

(4) その他、学則違反について

上記以外であっても、学生の本分に反することをした場合は、学則に従い懲戒処分の対象となりますので注意してください。（学内での飲酒、迷惑行為等）

4. TBGU ポータルサイトについて

本学に在籍する学生は大学が運営するポータルサイト（名称：TBGU ポータルサイト）を利用し、学内外からいつでも大学に関する情報を確認することができます。また、受講を希望する科目の登録を行う「履修登録」についても本ポータルサイトを利用して行います。履修登録方法についての詳細はP24の「履修登録手続きについて」の内容を確認してください。

1) TBGU ポータルサイトの主な機能

・WEB 上での履修登録

・個人の時間割・履修状況・成績（期間限定）の確認

・授業支援（講義予告等）

・大学からの各種お知らせ

・休講、補講及び教室変更等の授業に関する連絡

・奨学金説明会、就職支援ガイダンス等の開催に関する連絡

※大学からの各種お知らせについては学内の掲示板も併せて確認してください。

2) ログイン方法

- ①東北文化学園大学のホームページにアクセスします。(https://www.tbgu.ac.jp/)
 - ②TBGU ポータルサイトのバナーをクリックします。
 - ③ユーザー ID (=学籍番号) とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
- ※初期パスワードは生年月日西暦 8 桁です。[(例) 生年月日が 2006 年 4 月 27 日の場合:「20060427」]
不正アクセス防止のため、初回ログイン時に必ずパスワードを変更してください。

3) 利用方法

学内及び学外（自宅等）のパソコンやスマートフォン等からアクセス可能です。
アクセス方法：大学ホームページのトップ画面のバナーをクリックしてください。

5. 各種証明書・願書等について

(1) 窓口受付時間

各種証明書及び願書等の受付時間は、次のとおりです。
平 日 8:40～17:00（※月末最終営業日は15:00まで）

(2) 各種証明書

各種証明書は、その種類に応じて証明書自動発行機（1号館1階）又は窓口で交付します。なお、窓口での受取り時には学生証の提示が必要です。

種別	取扱窓口		発行所要 日数	手数料	備考
1. 在学証明書	証明書自動 発行機		即時	100 円	注①
2. 修了見込証明書				100 円	
3. 成績証明書				200 円	
4. 修了証明書				200 円	
5. 健康診断証明書				100 円	
6. 学割証（学生旅客運賃割引証）				無 料	
7. 学生証（再発行）	注②	学生課	2 日	1,000 円	（入学時交付）
8. 通学証明書		学生課	2 日	無 料	
9. 推薦書		教務課	2 日	300 円	
10. 英文証明書		教務課	7 日	500 円	修了又は成績証明書等
11. 仮学生証		教務課	即時	200 円	定期試験受験者心得参照
12. 再試験受験料		教務課	即時	1,000 円	試験規程参照

（備 考）

注①修了見込証明書は、修了年次生を対象にその年度に修了要件を満たす見込みのある学生にのみ5月上旬以降発行します。

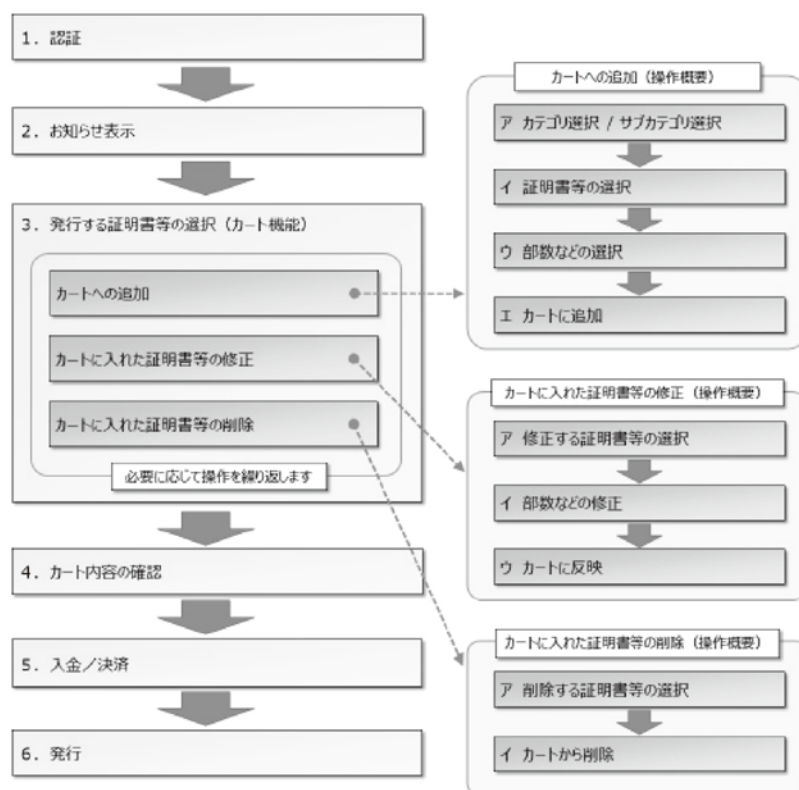
I 学生生活案内（基本編）

注②証明書自動発行機で申請書を発行（手数料納付を含む）し、必要事項を記入の上、窓口で申請してください。

(3) 自動発行機について

自動発行機では、証明書を即日発行することができます。

- 自動発行機で発行できる証明書
 - ・ 在学証明書 ・ 修了見込証明書 ・ 成績証明書 ・ 修了証明書
 - ・ 健康診断証明書 ・ 学割証（学生旅客運賃割引証） ・ 各種証明書
- 発行までの操作の流れ



1) 認証

- ① 「在籍中の学生はこちらをタッチ」をタッチします。



- ② 指定の入力欄をタッチし、学籍番号及びパスワードを入力後、「ログイン」ボタンをタッチします。
（初期パスワードは生年月日西暦 8 桁となります。）

例：生年月日が 2005 年 4 月 27 日の場合、「20050427」となります）

※パスワードはログイン後、「設定」メニューから変更できます。



- 2) 発行する証明書（カテゴリ）の選択について
選択可能なカテゴリが表示されますので、目的のカテゴリを選択し、タッチしてください。



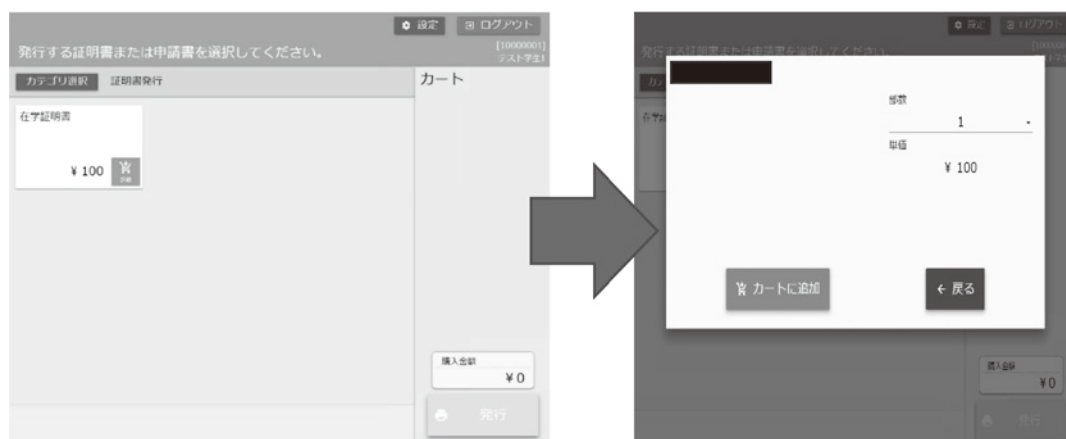
- ① 証明書発行及び各種申請

希望する証明書を選択後、必要部数を選択し、「カートに追加」をタッチしてください。

<証明書発行>

在学証明書、卒業見込証明書、成績証明書、卒業証明書、健康診断証明書

I 学生生活案内（基本編）



<各種申請>

発行する証明書または申請書を選択し、教務課窓口で申し込んでください。



② 学割証発行

学割証の使用目的が表示されるので、該当する使用目的の「詳細」ボタンをタッチしてください。



- ① 部数：学生証の必要発行部数を選択してください。
- ② カートへ追加：カート確認画面に遷移します。
- ③ 戻る：1つ前の画面に戻ります。

3) カートに追加

「カートへ追加」ボタンをタッチすることで、追加した証明書等は、カート欄に表示されます。発行に進む場合は「発行」ボタンを押してください。「戻る」ボタンを押すと証明書等の選択画面に戻ります。



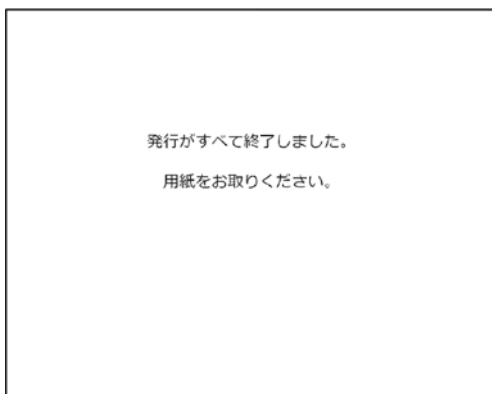
4) 発行手数料の納入

「支払方法の選択」画面で「現金でお支払い」ボタンをタッチし、必要な金額を入金した上で、「確定」ボタンをタッチください。
(レシートの発行を希望する場合は「発行する」ボタンををタッチしてください。)



5) 発行

発行された証明書等の取り出ししてください。取り出しが完了するとタイトル画面に遷移します。



I 学生生活案内（基本編）

(4) 願書・届出書等

① 身上異動、授業関係

種 別	担当窓口	備 考
1. 公認欠席届	教務課	「公認欠席の取扱いに関する申合せ」に基づく理由で欠席する場合
2. 欠席届	教務課	授業を7日以上欠席する場合
3. 追試験願	教務課	病気等が理由の場合は診断書添付
4. 休学願	教務課	2か月以上修学困難な場合
5. 復学願（届）	教務課	事由が発生した時
6. 留学願	教務課	事由が発生した時
7. 退学願	教務課	あらかじめ相談してください。
8. 届出事項変更届	学生課	本人の住所、氏名、電話番号、本籍地（国籍）保護者及び保証人の住所、氏名、電話番号に変更のあった場合

② その他問い合わせ先等

事 項	問 い 合 せ 先
1. 奨学金の申請手続等	学生課
2. 拾得物関係	学生課
3. 遺失物・盗難関係	学生課
4. 自転車・原付一種通学	学生課
5. 学生生活・進路等に関する相談	スチューデント・アドバイザー（SA）、学生相談室
6. アルバイト情報	学生課
7. ボランティア関係	地域連携センター
8. 履修方法・手続き関係	教務課
9. 大学行事等	教務課、学生課（※巻頭学事日程参照）
10. 定期試験時間割・受験心得	教務課、その都度掲示
11. 休講・補講関係	教務課、その都度掲示
12. 図書館	図書館カウンター
13. 就職関係	キャリアサポート・センター
14. 傷害保険の手続関係	学生課
15. 授業料等の納入（延納・分納）	経理課

6. 各種届出、身分異動等

(1) 本人の住所、氏名、電話番号、本籍地、保証人（保護者）の住所、氏名、電話番号等に変更のあった場合について

在学中、入学時に届け出た学生記録記載の本人及び保証人（保護者）に関する事項について、変更があった場合は、速やかに以下のとおり、学生課に届け出てください。

- 1) 本人の住所・電話番号、保証人（保護者）の住所・電話番号を変更する場合、「届出事項変更届」を提出してください。
- 2) 本人氏名、本籍地、保証人（保護者）氏名を変更する場合、「届出事項変更届」に公的な証明書（戸籍抄本等）を添付して提出してください。

(2) 学籍異動等

休学や退学などの学籍異動を願い出る場合は、手続きをする前に必ず指導教員に相談をしてください。その後、教務課窓口に出し、所定の用紙を受け取り、手続きについての説明を受けてください。

なお、学籍異動を願い出る場合は、当該学期の授業料等が納付されていなければなりません。

1) 休学及び復学

疾病その他やむを得ない理由により、引き続き2か月以上修学することが困難な場合は、「休学願」を教務課に提出し、学長の許可を得て休学することができます。休学期間は1年以内としますが、特別の事由がある場合は、1年を限度に延長することができます。また、休学期間は、通算2年又は3年を

超えることはできませんので、休学期間が2年又は3年を超えて復学できない場合は、除籍になります。
なお、疾病による休学の場合は、休学願と併せて医師の診断書を提出してください。

また、休学の申請期限は、前期休学の場合は前年度の3月末日、後期休学の場合は当該年度の9月末日です。学期の途中で休学の事由が生じた場合は、速かに申請してください。

※休学期間の授業料等の取扱いについては、p. 22「7. 授業料について（4）休学の場合の授業料等」を参照してください。

許可された休学期間が満了したとき、又は、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の「復学届」又は「復学願」を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。この場合も、疾病の回復であれば、医師の診断書を添付する必要があります。

2) 退学

疾病、その他やむを得ない理由により退学しようとする場合は、「退学願」を教務課に提出し学長の許可を得なければなりません。

※「退学願」は、前期末で退学する場合は9月末日、後期末で退学する場合は3月末日までに提出してください。

3) 転学

他の大学院へ入学又は転学を志願する場合は、「転学願」を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。

4) 留学

外国の大学等へ留学を志願する場合は、「留学願」を教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。

なお、留学期間は修業年限に含めることができます。

5) 再入学

本大学院を退学した後、再度入学を志願しようとする場合は、教務課に相談してください。当該専攻の収容定員に余裕がある場合に限り、選考の上、相当年次に再入学を許可することがあります。

(3) 除籍・賞罰

1) 除籍

学生が、次のいずれかの項目に該当する場合は、除籍になります。

- ①授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ②在学年限を超えた者
- ③休学の期間を超えて、なお復学しない者
- ④死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者

2) 賞罰

①表彰

学生として表彰に値する行為があった者には、学長が表彰することがあります。

②懲戒

本大学院の学則その他の諸規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行った場合には、懲戒処分を受けることになります。

懲戒の種類は、訓告、謹慎、停学及び退学です。次のいずれかの項目に該当する場合には退学処分の対象となります。

- ア) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- イ) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ウ) 正当な理由がなく、出席が常でない者
- エ) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

※別頁の学則を参照

7. 授業料について

(1) 授業料等納付金額

本大学院に在籍する学生は、下表の授業料等（年額）を納付しなければなりません。

納付を怠り、督促してもなお納付に応じない場合は、学則第41条第1項により除籍になり、その場合は、

I 学生生活案内（基本編）

学生としての一切の資格を失います。

経理課から督促があった場合は、速やかに経理課へ連絡してください。

（連絡先：経理課 022-233-3055）

（単位：円）

授業料等納付金（年額）

区 分	健康社会システム研究科 （博士課程前期及び博士課程後期）	
	健康福祉専攻	生活環境情報専攻
授 業 料	800,000	800,000
施設設備費	300,000	300,000
実験実習費	200,000	200,000

(2) 授業料等の納付期限

授業料・施設設備費及び実験実習費（以下「授業料等」という）は、次の二期に分けて年額の2分の1に相当する額を、それぞれの納付期限までに納付してください。

- ・前期 納付期限：4月末日
- ・後期 納付期限：10月末日

(3) 退学及び除籍の場合の授業料等

学期の途中で退学を願い出る場合、又は除籍された学生は、学則第53条により当該期の授業料等を納付しなければなりません。

(4) 休学の場合の授業料等

① 学期の全期間を休学する場合

休学が許可された期間の授業料等は免除されます。ただし、2022年度以降の入学者については、在籍料（各学期10,000円）を納付しなければなりません。

② 学期の途中で休学する場合

当該期の授業料等を納付しなければなりません。

(5) 復学の場合の授業料等

学期の途中で復学した学生は、復学した学期から当該学期末までの授業料等を復学した月に納付してください。

(6) 学年の途中で修了する場合の授業料等

学年の途中で修了する学生は、修了する月までの授業料等を納付してください。

(7) 授業料等の延納・分納

授業料等負担者が経済的理由等により、納付期限までに納入できない場合には、授業料等の延納・分納を規程により申請することができます。申請方法等については、経理課に問い合わせてください。

(8) 納付した授業料等

既に納付した授業料等はいかなる事情があっても返還しません。

Ⅱ 修 学 案 内

1. 授業科目の履修について

本大学院に入学した学生は、「学則」、「履修規程」にしたがって学修し、所定の単位を修得しなければなりません。履修登録の誤りは、その後の履修、修了に直接影響しますので、学則、履修規程、授業時間割、授業概要（シラバス）等を熟読し、各自履修計画を立ててください。

(1) 修業年限・在学期間

修業年限は、前期課程については2年、後期課程については3年です。

また、学生は前期課程は4年、後期課程は6年を超えて在学することはできません。

(2) 学期

学年を分けて、次の2学期制とします。

前期：4月1日から9月30日まで

後期：10月1日から3月31日まで

※前・後期の授業開始日は年度によって変更になることがあります。特に後期授業開始日は授業回数確保のため、例年9月中旬となっていますので、学事日程を確認してください。

(3) 単位制

「単位」は、学修の量を示す基準で、個々の授業科目について所定の授業時間数を履修し、試験に合格することにより、単位が与えられるもので、所定の単位修得をもって卒業要件としています。

(4) 単位の計算方法

次の基準により単位数を計算します。

- ・講義及び演習：15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- ・実験及び実習：30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(5) 授業科目の種類

授業科目は、前期課程については、共通科目及び専門科目、後期課程については、学際領域科目及び専門科目から構成されており、共に必修科目及び選択科目の別があります。

- ・必修科目：必ず単位を修得しなければならない授業科目です。すべての必修科目の単位を修得しないと修了することはできません。
- ・選択科目：学生が自主的に選択する授業科目です。ただし、選択科目も定められた単位数以上の単位を修得しないと修了することはできません。

(6) 授業時間

授業の開始時刻及び終了時刻は、次のとおりです。ただし、授業科目によっては別に指定することがあります。

時限	授業時間帯	時間
1 時限	8:50～10:30	(100 分)
2 時限	10:40～12:20	(100 分)
昼休み (12:20～13:10)		
3 時限	13:10～14:50	(100 分)
4 時限	15:00～16:40	(100 分)
5 時限	16:50～18:30	(100 分)
6 時限	18:40～20:20	(100 分)
7 時限	20:30～22:10	(100 分)

※授業等の都合により、授業時間が変更される場合があります。その場合は掲示、TBGU ポータルサイト等で連絡します。

※土曜日は、原則として授業は行いませんが、NP（ナースプラクティショナー養成分野）の講義は土曜日に行うことがあります。

(7) 休講・補講・集中講義

- ・休 講：授業担当教員の諸事情（公務、出張、病気等）により、授業を行わない場合があります。
- ・補 講：休講となった授業に対しては、原則として補講を行います。
- ・集中講義：科目によっては、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

II 修学案内

【注 意】

1. 「休講」・「補講」・「教室変更」・「時間割変更」は TBGU ポータルサイトで連絡します。「定期試験」・「授業に関する重要な情報」はすべて掲示、TBGU ポータルサイトで連絡します。登下校の際には、必ず大学院掲示板を確認してください。
2. 掲示板を確認せずに、不利益を被った場合は、自己責任となります。
3. 掲示の内容に関する電話等による確認、問い合わせはできませんので注意してください。

2. 履修登録手続きについて

(1) 履修登録

授業を履修して、単位を修得するためには、所定の期間内に、当該学期に開講する授業科目の履修登録手続きを行わなければなりません。本学では、基本的に TBGU ポータルサイトの WEB 上で履修登録をすることで履修登録が完了します。この履修登録を怠ると、授業や試験を受けることができませんので、慎重に手続きを行ってください。

(2) 登録上の注意事項

- ①病気等により履修登録期間内に履修手続きができない場合は、必ず事前に教務課に連絡し、指示を受けてください。
 - ②履修登録を行う際は、所属専攻の履修ガイダンスに従い、授業時間割、授業概要（シラバス）等を参照しながら2年間又は3年間の履修計画を立てて履修するよう心がけてください。
 - ③時間割上、同じ時間帯に2科目の授業を履修することはできません。
 - ④履修登録者数が適正履修人数を越えた場合には、履修人員を制限することがあります。
 - ⑤履修登録者数が極端に少ない場合は、その授業を開講しない場合があります。
- なお、履修した科目が開講されなかった場合は、代替の授業科目を追加登録することができます。

3. その他、単位認定について

(1) 既修得単位の認定

本大学院入学前に他の大学院において、単位を修得している場合は、本人の申請により、審査のうえ15単位を超えない範囲で、本学の修得単位として認定を受けることができます。

なお、単位認定を受けた授業科目については、履修登録をすることができませんので、注意してください。

4. 定期試験等

(1) 試験の種類

1年に2回、前期末・後期末にそれぞれ定期試験が行われます。また、他に追試験及び再試験があります。

・定期試験：定期試験は、原則として各学期末に一定期間実施されます。

ただし、授業の担当教員が必要と認めたときは、定期試験の期間外に随時試験が実施されることがあります。

(2) 受験資格

- ①受験する授業科目について履修登録を行っていること。
- ②授業の出席時間数が、総時間数の3分の2以上であること。
- ③当該学期分の授業料等を滞納していないこと。

(3) 不正行為について

試験に際して、不正行為が確認された学生は、懲戒規程により停学等処分の対象となります。

(4) 定期試験時間割

- ①試験期日・時限及び試験室については、掲示板、TBGU ポータルサイトで発表します。

5. 成績評価

(1) 評価方法

- ①授業科目の成績の評価は、S、A、B、C、及びDの5種とし、S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とします。
- ②授業科目によって成績評価の方法が異なりますので、授業概要（シラバス）を参照してください。
- ③合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

(2) 成績発表

成績の発表方法等については、学期末に掲示及びTBGUポータルサイトにより周知します。

(3) 成績の通知について

本大学院では、学期末または学期初めにTBGUポータルサイトで成績を確認できます。

(4) 成績に関する問い合わせについて

成績評価で不合格となった科目について疑義がある場合は、成績発表日から10日以内（土・日曜日・祝日を除く）に、所定の様式で教務課窓口に出すことができます。
その他、成績に関する問い合わせについては、教務課窓口にご相談してください。

6. 研究

本大学院において研究の計画及び実施が、「東北文化学園大学研究倫理規程」に定める「人を対象とする医学系研究」に該当する場合、同規程に沿って研究倫理審査委員会の審査を受けなければなりません。

なお、原則として授業の枠内で実施される研究内容については、授業担当者が、大学院生が行う研究に関しては、指導教員が指導研究者となり、申請を行います。

審査には相当の時間を要する場合がありますので、研究の計画に当っては指導教員とよく相談し、早めの申請を行うようにしてください。

7. 修了・学位

前期課程は2年、後期課程は3年以上本学に在学し、所定の単位を修得して論文審査に合格した学生は、教授会の議を経て修了が認定され、それぞれ次に掲げる学位が授与されます。

健康社会システム研究科（博士課程前期2年の課程）

健康福祉専攻	修士（健康福祉）
生活環境情報専攻	修士（生活環境情報）

健康社会システム研究科（博士課程後期3年の課程）

健康福祉専攻	博士（健康福祉）
生活環境情報専攻	博士（生活環境情報）

※₁ 2年間又は3年間に在学して、修了に必要な単位を充足できなかった場合や、休学歴があつて在学期間が2年又は3年間に満たなかった場合は、留年することになります。

※₂ 別頁に博士課程後期3年の課程の修了モデル図がありますので、参照してください。

Ⅲ 学生生活案内（全般編）

1. オフィスアワー

オフィスアワーとは、学生と教員のコミュニケーションを充実させるために設けられた時間帯のことです。この時間帯は、学生からの授業についての質問や勉強の方法、さらには就職や将来の進路について個人的な相談を受けるため教員が研究室で待機している時間帯のことです。

学生の質問や相談に対しては、教員は普段から時間の許す限り、いつでも対応するように努めていますが、学生への便宜をいっそう図るため、この制度を設けました。

オフィスアワーは、あらかじめ設定された時間帯に専任の教員が研究室で待機し、質問や相談を受けやすくするための制度です。所属学科の教員だけでなく、どの学部・学科の教員を訪ねてもかまいません。授業・履修に関すること、進路相談など、気軽に相談できるように各教員は待機しています。

オフィスアワー予定表は、学期の始めに掲示等で発表します。

相談を希望する教員のオフィスアワーの実施時間を確認したうえで研究室を訪問してください。

また、非常勤講師のオフィスアワーは、原則として授業終了時に、教室で質問を受け付けています。

2. 定期健康診断の実施について

本大学院では、「学校保健安全法」に基づき、全学生の健康増進、疾病の予防・早期発見・早期治療などに役立てるために、毎年4月に定期健康診断を実施します。実施日、場所等については、その都度掲示しますので、必ず受診してください。また、実習対象学生については、別途実習に必要な集団検査をする場合もあります。

なお、受診しなかった場合は、就職試験、奨学金申請等で必要となる「健康診断証明書」は発行できませんので注意してください。

3. 奨学金制度

奨学金の募集は、1号館1階学生総合サービスセンターそばの奨学金専用掲示板とTBGUポータルサイトで案内します。奨学金の募集がある都度、情報を提供しますので、見落とさないように注意してください。奨学金の募集は4～6月に案内が集中します。なお、奨学金のほとんどは貸与型であり、卒業後には返還が必要となります。慎重に検討してから申込みをしてください。

(1) 日本学生支援機構奨学金（貸与制…卒業後返還の義務があります）

	第1種		第2種
貸与月額	博士課程前期 50,000 円 88,000 円から選択	博士課程後期 80,000 円 122,000 円から選択	50,000 円、80,000 円、100,000 円、 130,000 円、150,000 円から選択
利息	利息なし		利息あり
出願資格	学業成績が優秀 家族の年収が一定基準以下 今年度留年生、休学者は出願資格なし		学業成績が平均水準以上 家族の年収が一定基準以下
募集期間	原則として毎年1回（4月下旬頃）		
その他	翌年度の奨学金を継続するための手続きが必要（毎年12月～1月頃）。 継続の手続きをしても成績が不良の場合は、「停止」または「廃止」となります。		

○緊急採用・応急採用奨学金

通常の申込みは年1回に限られますが、以下のようなことが発生してから1年以内の場合、緊急的な措置として奨学金を申し込むことが出来ます。詳しくは学生課に問い合わせてください。

- ・家計支持者が失業・会社倒産・破産・死亡・病気等で著しく収入が減少、または支出が増大
- ・火災・風水害・震災等自然災害により著しく支出が増大、または収入が減少

III 学生生活案内（全般編）

(2) 大学院奨学生「授業料後払い制度」（日本学生支援機構）

大学院修士課程（博士課程前期）に入学した者が対象となります。

- ① この制度は授業料年額の相当額を貸与する制度であることから、在学採用の申込は入学月に応じた時期（第一採用時期）に限ります。
- ② 取り扱う奨学金は第一種奨学金と同じとなります。
- ③ 第二種奨学金は別途申し込みが必要となります。
- ④ 貸与終了後の返還等については学生課窓口でお聞きください。

(3) 東北文化学園大学大学院奨学生制度について（給付型）

東北文化学園大学大学院奨学生規程に基づく奨学生制度については、郵送等により募集要項を通知します。

(4) その他の奨学金

自治体（都道府県、市町村）や民間団体が募集する奨学金制度があります。大学に案内があるものは、その都度案内しますが、情報提供のない場合もありますので、各自で照会してください。なお、大学を通さずに応募した場合でも、その採否については学生課に報告してください。

4. 加入者被扶養者証・遠隔地被保険者証

学生が親元を離れて生活をしている場合、風邪や疾病等で医療機関の診察する際に、「加入者被扶養者証」または「遠隔地被保険者証」が必要になります。一人暮らしを始める際には、早めに保護者から取り寄せておいてください。

なお、「遠隔地被保険者証」の交付手続きには、「在学証明書」が必要ですので、早めに証明書発行申請を行い、保護者に送付してください。（保護者が勤務先を通じ保険事務所に申請して交付を受けます。）

5. 学生保険について

本学では、学生が教育研究活動中の不慮の災害・事故及び、課外活動中や通学途中の事故を補償するために、「学生教育研究災害傷害保険」の賛助会員となっており、入学時の手続きと併せて、学生保険に全員加入しています。保険制度の概要は次のとおりです。医療機関で治療を受けた場合、完治後以内に学生課に必ず報告してください。

(1) 保険金が支払われる事故の範囲

教育研究活動中に事故によって傷害をうけた場合

- 1) 正課中（治療日数 1 日目から） 講義、実験、実習、などの授業中とそれらに関する研究活動を行っている間の傷害事故
- 2) 学校行事中（治療日数 1 日目から） 入学式、オリエンテーション、学位記授与式等大学が主催する行事中の傷害事故
- 3) 大学施設内にいる間（治療日数 4 日目から） 大学が教育研究活動のために管理している施設内にいる間の傷害事故
- 4) 課外活動中（治療日数 14 日目から） 大学が認めている課外活動団体の管理下で行っている活動の間の傷害事故
- 5) 通学中・学校施設相互間の移動中（治療日数 4 日目から） 大学の授業等の他、学校行事または課外活動への参加の目的を持って合理的な経路及び方法により住居と大学施設等との間を往復する間の傷害事故

(2) 保険金が支払われるまでの手続き

- 1) 事故発生 速やか学生課へ事故の連絡（代理者による報告も可）
学生課で「Skett Book」の案内を受取り、アプリで必要事項を入力して東京海上日動へ提出
- 2) 治療が終了したら 保険金請求手続（書類の作成）
「Skett Book」の案内に従い、手続きを行う
- 3) 保険会社手続き（事実の確認等）を経て、保険金が振り込まれます。

(3) 保険金が支払われない場合

- ・故意、犯罪行為、地震、噴火等及び危険を伴う運動（山岳登山、スカイダイビング、ヨット等）によ

る傷害の場合

- ・通学中・学校施設相互間の移動中の事故による治療日数が3日以内（課外活動中においては13日以内）で怪我が完治した場合
- ・本学が認めていない通学方法による通学途中の事故による傷害の場合

補償内容等の詳細については、新入生ガイダンスで配布しているパンフレットを確認してください。

6. 国民年金保険料の学生納付特例制度について

学生を含めた日本国内に住むすべての人は、20歳になった時から国民年金の被保険者となり、保険料を納付することが義務付けられていますが、申請により在学中の国民年金保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。

本学は、日本年金機構から指定を受けているため、住所地の市（区）役所・町（村）役場、年金事務所にかわり、学生課で本制度の申請を受け付けることができます。

日本年金機構のホームページから「国民年金保険料学生納付特例申請書」をダウンロードし、必要事項を記入して学生課へ提出してください。

7. TA（ティーチング・アシスタント）制度について

本大学院では、在学する優秀な大学院生に対し、指導者としてのトレーニングも兼ねて教育補助業務の機会（手当て有）を提供しています。

詳細は別頁の「東北文化学園大学ティーチング・アシスタント取扱要項」を参照してください。

8. アルバイト・ボランティア活動について

学生時代のアルバイト経験やボランティア活動は、現実の社会を学ぶ貴重な経験であり、豊かな人間形成のためにも必要な機会であると考えます。そのため、大学宛にアルバイトやボランティアの案内が届いた場合は、掲示等で情報提供をしています。

ただし、アルバイトは家計的に必要な場合もありますが、その職種や勤務時間帯によっては、疲労等が原因で、学生の本分である学業がおろそかになってしまう場合もありますので、過度なアルバイト活動は自粛し、学業に支障のない範囲にとどめるよう注意してください。

9. ハラスメントについて

以下のハラスメントの被害にあった場合や、友人等の被害を見聞した時は、速やかにハラスメント相談窓口相談員である学部教員やSAまたは大学事務局学生課、教務課、健康管理センター等に相談してください。秘密は厳守します。

本学にはこれらのハラスメント防止委員会が組織されており、ハラスメントに関する相談窓口が置かれています。プライバシーを尊重し学生の不利益にならないよう十分配慮して対応します。

(1) セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント

セクシャルハラスメント（相手を不快にさせる性的な言動）、アカデミックハラスメント（教育、研究上の権力関係に由来した不適切な言動）等により、精神面を含め、教育、研究又は修学に関連して一定の不利益を生じさせる行為等のことです。

(2) アルコール・ハラスメント

アルコール・ハラスメントとは、酒を介して嫌がらせをしたり、人権侵害を行うことを言います。イッキ飲ませ、罰ゲームで酒を飲ませる、伝統や慣習の名目に飲酒を強要する、酔いつぶすことを目的として飲ませる、宴会の席上等で酒が飲めない人がいるのにアルコール（類）しか用意しない、酔ってからんだり暴言・暴力・性的嫌がらせなどを行う、などです。時には、命を失うケースもあり、また傷害などの犯罪に発展する可能性のある極めて悪質かつ危険な行為です。

III 学生生活案内（全般編）

特に、最近は新入生歓迎コンパと称して新入生に「イッキ飲み」を強要する等の悪習により、急性アルコール中毒により救急車で病院に搬送され、最悪の結果、死に至る事例が新聞等で多数報道されています。事故を絶対起こさないよう、他人に迷惑をかけないよう、十分気をつけてください。

10. 一人暮らしのマナーについて

アパートや下宿生活をするにあたっては、他人に迷惑をかけることのないよう学生として節度ある生活を心がけ、近隣とのトラブルを回避するよう次のマナーを守りましょう。

- ゴミの分別収集等は居住地域（町内会等）のルールを守る。
- 部屋の中では騒音を出さないよう気をつける。（特に夜間等）
- アパートの駐輪・駐車スペースに無断で友人等の車両を停めさせない。

11. 東北文化学園大学 学生用 SNS（ソーシャルメディア）活用ガイドラインについて

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス；X、Facebook、Google+、LINE、ブログ、掲示板等）の利用にあたって、あらかじめその特徴とルールを十分理解しておく必要があります。

以下のガイドラインをよく読み、理解した上で SNS を有効的に活用しましょう。

【SNS 利用で知っておきたいこと】

(1) 「SNS」の世界は、普通の社会と同様です。

SNS は、匿名でも気軽に自分の言葉を発信できますが、時にはこれがインターネット上に広がり、削除してもその発信が世界中のどこかのコンピュータに記録される可能性があります。

「容易に削除できる」「特定の友人しか見ない」などの意識はやめ、十分考えてから発信しましょう。匿名であっても、責任が伴う発言として取り扱われます。

(2) 個人情報の重みをもう一度確認してください。

個人情報には、個人を特定できる氏名や電話番号などのほかにも、行動（いつ、どこにいた等）や文字情報以外の写真、動画、音声も個人情報に含まれます。

匿名で個人名は伏せていても、発信された情報を組み合わせることで、個人を特定することもできるので、注意しましょう。

また、友人や知人が写っている写真や動画を SNS 上に掲載したいときは、必ず本人の承諾を得ましょう。

(3) 「絶対に書いていけないこと」を確認してください。

臨床実習先、アルバイト先等で、病院、会社等の内部情報や内情等を知る機会がありますが、そこで知り得た情報は SNS で発信してはいけません。発信したことにより、病院、会社等に被害があった場合は、法的に訴えられたり、損害賠償を請求されることもありますので、絶対に発信しないでください。

また、「外部で〇〇がデートしていた」という目撃情報や「20 歳未満の学生が飲酒している」といった法律に反すること、他人に不快感を与える情報も発信してはいけません。

(4) セキュリティに対する意識を高めてください。

ID・パスワード・登録時のメールアドレスはしっかり管理してください。忘れた場合、発信した情報が消せない場合もあります。

また、第三者が他人に成りすまして発信する場合もあるので、パスワードは容易に想像できるものとしなないようにしましょう。

(5) 発信した情報が自分の未来や家族、友人に影響があることを知ってください。

不用意な発信が原因で、時には、過去の投稿等から、第三者によって家族や友人の個人情報が特定され、その情報がインターネットに掲載され、迷惑をかけることがあります。

また、就職活動の際に、病院や会社等が SNS の発信内容を確認することにより、内定にも影響する場合があります。第三者がその情報をみてどのように感じるかを常に意識してください。

SNS やインターネット上は、一般社会と同じです。

「他人を思いやる気持ち」「自分を大事にする気持ち」を持って利用してください。

12. 地震・火災等、災害非常時の心構えについて

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では、宮城県は甚大な被害を受けました。

本学も校舎が一部損壊し、多くの在学生や保護者の方々が被災しました。

そして、日本は今後も大きな地震の発生が予測されており、宮城県も決して油断の出来ない状況です。

本学では、このような中、この東日本大震災での経験を活きた教訓として、常に防災意識を忘れないよう、学生や教職員に災害時の心構え、有事の備え等について啓蒙活動を継続的に行っています。

また、大学では災害避難時に必要となる医薬品、非常食、飲料水、毛布等を常備し、万一の際の学生や地域住民の受入に備えています。

災害はいつ発生するか誰も予測ができません。学生の皆さんも「最後は自分の身は自分で守る」ということを常に忘れず、日頃から非常時の備えをしておくよう心がけてください。

（※別途配布の「震災対応マニュアル」参照）

以下は、大学にいる時間帯に地震や火事等の災害が発生した場合の留意事項です。大学で災害が発生した際には、教職員が避難誘導しますので、その指示に従ってください。

非常時にはパニックにならず、冷静に行動することが一番大切です。普段から万一の事態にどう行動するかをイメージしておいてください。

- ・日頃から、避難経路、非常口、建物の状況等を校舎配置図などで確認しておくこと。
- ・授業中に火災や地震が発生した場合は、教職員や構内放送の指示、誘導に従って、落ち着いて行動、避難すること。（荷物は最小限に、出入り口に殺到しないこと。）
- ・地震の際は、頭上からの落下物に気をつけて、机等の下に入るなど、自分の身を守ること。
- ・学内で火災を発見した場合は、周囲に大声で知らせること。
- ・避難する際、特に階段は駆け下りないこと。（将棋倒しの危険有。）
- ・地震の際、エレベーターは絶対に使用しないこと。また、エレベーター内で地震に遭ったら、ただちに、最寄りの階で降りること。万一閉じ込められたら、非常ボタンを押して冷静に待つこと。（携帯電話があれば外部に連絡を試みること。）

【安否連絡について（大学 HP から確認できます）】

大地震が発生した場合、本学は学生の安否確認を行います。

地震発生時に登校していない場合は、連絡可能な状況になり次第、下記の方法で学校に連絡してください。

(1) E メール

anpi@tbgu.ac.jp

(2) 電話

0120-556-923

※電話がつながりにくくなる可能性が高いので、なるべく E メールで連絡してください。

報告事項

- 1) 所属（大学・専学・教職員）
- 2) 学籍番号・氏名
- 3) 本人・家族の状況
- 4) 自宅や付近の状況・連絡先

Ⅲ 学生生活案内（全般編）

13. その他

（1）文書類の掲示

学生が学内で文書、ポスター等を掲示しようとする場合は、所定の「文書等掲示願」と文書等を学生課に提出し、許可を受けてください。

なお、掲示期間を経過した文書等は、速やかに撤去してください。

IV 各種センター、施設等利用案内

1. 大学施設（講義室・実習室等）の利用について

講義室、実習室、ゼミ室等、校舎内の施設利用時間は、原則として、以下のとおりです。

平日 時間内： 8:50～18:30、時間外： 18:30～22:00（2号館のみ 時間外： 18:00～20:00）

土・日曜日・祝日・年末年始の休業日、その他本学が定めた日は使用できません。

授業がない時間帯に自習などで、講義室や実習室を使用したい場合は、時間内、時間外にかかわらず、担当教員の承認を受け事前に「施設等使用願」を教務課に提出してください。

また、学内の諸施設を利用する場合は、大学のルールを守り、学生として節度ある行動を心がけてください。卒業年次生については、夜間の施設利用が担当教員の申請により認められる場合があるので、利用を希望する場合は、担当教員に申請してください。許可された際は、次頁の注意事項を遵守してください。

（注意事項）

- (1) 代表者は、施設等の使用状況を確認のうえ、「施設等使用願」を事前に提出すること。
- (2) 時間外に使用する場合は、使用日の16:00までに「施設等使用願」を提出すること。
- (3) 破損や紛失が生じた場合は、速やかに申し出ること。
- (4) 使用後は原状復帰し、実習室等は施錠を行うこと。
- (5) 時間外に鍵を返却する場合は、警備室に返却すること。
- (6) 借りた鍵は、又貸ししたり、持ち帰ったりしないこと。

施 設 等 使 用 願				西暦 年 月 日
東北文化学園大学学長 殿				
使用代表者		承認者 ※顧問・担当教員等		
所属	学科・研究科		印	
	理 作 言 視 保 社 福【健 生】専攻			
学籍番号	年次			
氏名	TEL	— —		
サークル名 ゼミ名	☐ 特になし	使用人数	名	
使用施設	使用施設名称		※ 該当する場合はチェックすること	
	使用備品等		☐ 鍵の貸し出し不要 ☐ 空調を終了時刻まで利用	
使用日	年 月 日() ～ 年 月 日() のうち a. 毎 日 b. 毎 週 (月 火 水 木 金) c. その他使用日			
※使用時間	時間内	時 分 ～ 時 分	※ 使用日によって異なる場合は、備考に使用日ごとの時間を記入すること。	
	時間外	時 分 ～ 時 分		
使用理由				
備考				

1. 施設等の使用状況を確認のうえ、事前に提出すること。
2. **時間外(18:30～22:00)に使用する場合は、使用日の16:00までに提出すること。**
3. サークル室を利用する際、21:00を超える場合は提出すること。
4. 設備及び備品の破損 紛失等が生じた場合は、速やかに申し出ること。
5. 使用後は教室の原状復帰及び施錠を行い、必ず「当日中」に鍵を返却すること。
6. 鍵の返却は、時間内の場合は教務課窓口、時間外の場合は警備室にて行うこと。
7. 感染症の対策に努めること。

管理課連絡	受付

IV 各種センター、施設等利用案内

夜間に及ぶ時間外施設等使用に関する注意事項（大学院生対象）

所属研究科からの学長への届け出により、夜間及び翌朝までの時間外施設等使用を認められた場合、学生の皆さんには、下記【施設等使用上の注意事項】をよく読み、マナーを守って大学の施設を利用するようにしてください。ただし、夜間から翌朝までの時間外申請については、原則として研究活動に限り、許可されています。

また、夜間の時間外利用申請が許可されていても、警備保安上の理由により、実際に使用する日時を明確にして、必ず事前に「施設使用願」を教務課に届出を提出してください。

なお、夜間の施設利用中に大学の学則等に違反する行為が認められた場合は、それ以降の施設使用については、全面禁止となりますので注意してください。

記

【施設等使用上の注意事項】

- ・ 時間外（特に夜間）の大学施設の使用中の事件事故については、基本的に自己責任になるので、保安上、避難経路や、消火器の位置を事前に確認し、事件、事故の未然防止に努めるとともに、必要以上に滞在しないようにすること。
- ・ 自家用車やバイクの構内乗り入れは、全面禁止とする。
- ・ 講義室、実習室、演習室、ゼミ室、湯沸し室、その他自分が使用した施設について、汚した場合は掃除し、原状復帰に努めること。
- ・ 照明、ポット、コーヒーマーカー等電気器具を使用した場合は、必ず、退館時にスイッチを切るかまたはコンセントを抜く等、電源を切ること。（コーヒーマーカー等の電源切り忘れは、火災の原因となるので特に注意すること。）
- ・ 大学の施設・備品は大事に取り扱うこと。また、誤って破損した場合は翌朝教務課に申し出ること。（学生保険で対応可能な場合有）
- ・ 急病や怪我など、緊急を要する場合は、119番と警備室（内線 1916、電話 022-233-7118）に通報すること。
- ・ 地震や火災が発生した場合は、一時的な消火活動を行える場合を除いては、119番と警備室に通報の上、緊急避難をすること。
- ・ 不審者を見かけた場合は、すぐに警備室もしくは 110 番通報し、必要に応じて避難すること。
- ・ 21 時以降は以下の出入口を除いて施錠するので、他の出入口は利用しないこと。
1 号館：増築棟 1 階出口（駐車場側） 3 号館：東側出口 5 号館：南側出口
- ・ 時間外の施設使用を許可された者以外の施設等利用は認められないので、友人などを勝手に構内に入れないこと。
- ・ 深夜や明け方に帰宅する場合は、必ず警備室に連絡すること。（機械警備上）

教務課・管理課

＜大学院自習室使用の心得＞

- ① 自習室入口の鍵は、自習室使用者が連帯責任により管理し最終退室者は責任を持って施錠すること。なお、離席時には、こまめに施錠を心がけること。
- ② 各自の机・ロッカーの鍵は自己責任で管理すること。紛失した際は速やかに教務課に申し出ること。なお、複製に係る費用は自己負担になります。
- ③ 無断で電気製品等の物品を持込んだり配線等をしないこと。教務課で必ず許可を受けた後、使用すること。
- ④ 備付けの備品は、他室に移動しないこと。
- ⑤ 学籍を失った際は、直ちに貸与物品の鍵を返却すること。
- ⑥ 3号館正面入口は平日が21時に施錠されます。

【連絡先】

8時40分～17時 教務課

電話 022-233-6116（直通）・022-233-3310（代表）

【夜間及び緊急時】

警 備 室 022-233-7118（直通）

2. 図書館の利用方法について

下記の事項と「図書館利用規程」（別頁）を参照し、積極的に図書館を利用してください。

(1) 利用資格

- ① 本学の学生
- ② 本学の教職員
- ③ 同窓会員
- ④ その他センター長が許可した者

(2) 開館時間

通常期間

平日 8:40～21:00

土曜 9:00～18:00

※試験前は日曜も開館。(10:00～17:00)

長期休業期間

平日 9:00～17:00

土曜・日曜は休館

※大学の定める休業日は休館、または時間を変更して開館。

※蔵書点検期間中は休館、または利用を制限して開館。

(3) 利用の注意

- ①入館の際は、学生証を必ず携帯してください。
- ②図書館には、飲み物を持参できますが、食べ物は持ち込み禁止です。飲み物はふたが密閉できるペットボトル・水筒に限り、飲用可能です。必ず席についてお飲みください。
- ③大声での談話、携帯電話の使用など、他の利用者の迷惑となる行為はしないでください。
- ④図書を紛失・破損した場合は、速やかに申し出てください。
- ⑤返却期限を厳守してください。
- ⑥借りた図書の転貸はできません。
- ⑦盗難には各自注意し、所持品を放置しないでください。盗難等が発生した場合、図書館では責任を負いかねますので、注意してください。
- ⑧1階入口にブックディテクション・システム（BDS）を設置しています。貸出手続きを行っていない資料を持ってBDSを通るとアラームが鳴ります。必ず貸出手続きを行ってください。
- ⑨プライバシー保護および著作権保護のため、館内での写真（動画）撮影は禁止しております。撮影を必

IV 各種センター、施設等利用案内

要とする場合は、カウンターにご相談ください。

(4) 館内閲覧

館内の蔵書は約 14 万冊です。閲覧席は約 400 席で、書架から図書を自由に取り出して閲覧できます。利用を終えた図書は、必ず元の位置に戻してください。禁帯出図書・雑誌・新聞・視聴覚資料は、館内での閲覧のみとなります。

(5) 館外貸出

①貸 出：借りたい図書と学生証をカウンターに提示してください。

貸出可能冊数と期間は以下の通りです。

学部学生	5 冊	14 日間
大学院生	10 冊	30 日間
聴講生・研究生・科目等履修生	3 冊	14 日間
教職員	10 冊	30 日間
同窓会員	3 冊	14 日間

※貸出期間の延長：借りている図書に予約が入っていなければ、1 回のみ継続して借りることができます。返却期限内に、図書と学生証をカウンターに提示してください。

※実習による長期貸出は、実習開始日 2 週間前から利用可能です。返却日は、実習終了日から 10 日以内を申告してください。延長はできません。

※卒業論文・卒業研究による長期貸出は 1 ヶ月となります。延長はできません。

②返 却：借りた図書は、カウンターで返却手続きを行ってください。閉館時は、図書館入口の返却ポストへ入れてください。

※返却期限に遅れた場合は、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。

③予 約：利用したい図書が貸出中のときは、カウンターまたは OPAC から予約手続きをすることができます。予約図書の返却があり次第連絡します。ただし、連絡から 1 週間過ぎても貸出手続きがない場合、予約は取り消しになります。

④視聴覚資料：視聴覚資料を利用したい学生は、学生証を提示し、館内の視聴覚コーナーで利用してください。（館外貸出不可）

なお、DVD・CD-R などの視聴覚資料は、2 階 PC コーナーでも利用できます。

※視聴覚資料の持込みは認めていません。ただし、教材等の資料については、認める場合があるので、カウンターに申し出てください。

(6) 館内資料の複写

図書館所蔵の資料は、著作権法の範囲内で複写することができます。「複写申込書」に必要事項を記入し、提出してください。1 人につき、1 部のみ複写することができます。料金は、白黒 1 枚 10 円、カラー 1 枚 40 円です。

※持ち込んだ資料やノート、プリントなどのコピーはできません。

(7) 相互利用

必要な資料が本学に所蔵されていない場合、他機関からコピーや資料そのものを郵送してもらうことができます。

※詳しくは、「図書館利用案内」又は、ホームページ（<https://www.tbgu.ac.jp/library>）を参照してください。

(8) 購入希望図書

読みたい図書や、学習・研究・論文作成等で利用したい図書が図書館にない場合、購入希望の申込をすることができます。「購入希望図書申込書」に必要事項を記入し、カウンターまでお申し込みください。希望図書は利用が前提となります。なお、必ず購入されるとは限りませんのでご了承ください。

(9) グループ学習室の利用

複数人で学習する（グループワーク）場合は、図書館入口付近のグループ学習室を利用することができます。予約制となりますので、利用するにはカウンターにて手続きを行ってください。空きがあれば、当日予約も可能です。

3. 健康管理センターについて

健康管理センターは1号館2階に「保健室」、1階に「学生相談室」・「特別支援室」を設置し、皆さんが健康で快適な大学生活を送るための健康相談、学生相談、ハラスメント相談、修学環境の整備・調整等の相談ならびに発達障がい支援を行っています。

個人情報厳重に管理し、秘密は厳守しますので、気軽に利用してください。

(1) 健康管理センター（保健室・学生相談室・特別支援室）利用時間

平日 9:00～17:00

土・日曜日・祝日、大学の休業日は休館となります。

(2) 利用方法・連絡先

①保健室

学生の皆さんが充実したキャンパスライフを送ることができるよう、心身両面にわたる健康の保持増進のため支援を行っています。

【健康相談】

看護師が健康に関する相談に応じます。禁煙支援も行いますのでご相談ください。

【応急処置】

けがや病気の応急処置を行います。体調不良時はベッドで休むこともできます。また必要な場合は医療機関を案内します。医薬品はありませんので常用薬のある方は携行し備えてください。

【健康診断】

学校保健安全法で定められています。必ず受診してください。なお有所見の方には再検査や受診勧奨等の事後措置を行います。

【身体測定】

身長計・体重計・血圧計などを設置していますのでご利用ください。

※保健室からのお知らせはホームページやポータルサイトに掲示しますので、こまめに確認してください。

保健室直通 ☎ 022-233-5245

②学生相談室

性格、対人関係、こころの健康、進路など、学生生活を送るにあたっての困りごとなら、どんなことでもご相談ください。公認心理師・臨床心理士である専任のカウンセラーが対応します。

もちろん、相談内容等の秘密は厳守されます。

【たとえば、こんなとき】

- ・人とうまく関われない
- ・夜眠れない、落ち着かず、なにもする気にならない
- ・勉強が身に入らない
- ・セクシャリティ・ジェンダーに関する悩みがある

直接、学生相談室にお越しください。予約は電話・メール・相談予約フォーム（以下のQRコード）でも受け付けます。

相談予約フォーム

学生相談室 直通 ☎ 022-207-0074
面談予約専用メールアドレス：gakuso@office.tbgu.ac.jp



③特別支援室

心身の障がいや病気等により、修学上で困り事や悩み事のある方は、お気軽にご相談ください。

教職員と連携し、修学しやすい環境の整備・調整をいたします。

※注意

適切な配慮・調整には準備が必要です。障がいによる困り事・悩み事がある場合は、なるべく早くご相談ください。

また、学生本人との話し合い、意思表示が大切になりますので、ご相談の際は、保護者（保証人）だけでなく、必ず学生本人もお越しください。

また、特別支援室では休憩できる居場所「学生サロン」を週3日オープンしています（月・木・金 11:00～13:30）。予約等は不要ですので、気軽にお越しください。

IV 各種センター、施設等利用案内

特別支援室 直通☎ 022-233-6098 面談予約専用メールアドレス : gakushien@office.tbgu.ac.jp
--

(3) 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等学校感染症に罹患した場合の手続きについて

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等学校感染症に罹患した場合は、入構せず速やかに連絡フォームにて保健室まで連絡してください。連絡フォームはホームページやポータルサイトにあります。公認欠席扱いになりますので、速やかに学生課または教務課に連絡してください。

なお、感染症治癒後の登校に際しては、別紙の登校許可証明書の提出が必要となります。登校許可証明書については、次頁をコピーして利用してください。

保健室☎ 022-233-5245 学生課・教務課☎ 022-233-6116
--

御担当医様

東北文化学園大学

登校許可証明書記入のご依頼

学校保健安全法の定めにより、学校で予防すべき感染症に罹患した本学学生について、診断名及び出席停止が必要であったと考えられる期間を、下記にご記入いただきますようお願い申し上げます。

【問い合わせ先】健康管理センター保健室 TEL022-233-5245

登校許可証明書

(本人記入)

学籍番号	氏名	学部	学科	専攻

上記の学生は、下記疾病が軽快したので登校しても支障がないことを証明します。

- ・インフルエンザ
- ・麻疹
- ・流行性耳下腺炎
- ・風疹
- ・水痘
- ・新型コロナウイルス感染症
- ・結核
- ・感染性胃腸炎
- ・その他の感染症()

○初診 20 年 月 日

○出席停止期間 20 年 月 日～20 年 月 日

20 年 月 日

医療機関名

医師名

印

IV 各種センター、施設等利用案内

4. キャリアサポートセンター（就職支援について）

キャリアサポートセンターは「職業安定法」第33条の2第1項「学校等の行う無料職業紹介事業」に基づき、様々な形で学生の「キャリア形成」を応援しています。

本センターでは、過去の就職実績や先輩が受験した採用試験等の情報も提供しています。

「Next Stage のお手伝い」を合言葉に掲げ、就職に限らず進学等、進路全般に関する相談業務を行っており、学年を問わず個別相談ができますので、積極的に活用してください。

本センターの具体的な支援内容は以下の通りです。

(1) 就職活動支援	①	「合同就職説明会」「業種別就職説明会」の開催	
	②	「学内個別企業説明会」の開催	
	③	「学内業界研究会」の開催	
	④	インターンシップや求人・採用試験情報の収集と情報提供・相談業務	
	⑤	活動報告書の整理、採用試験内容に関する情報提供	
	⑥	エントリーシート・履歴書・論作文等の添削支援	
	⑦	面接試験対策（対面・オンライン）	
	⑧	学科別就職ガイダンスの開催	
	⑨	各種講座の開催（就活作文講座・公務員講座・就活ゼミなど）	
(2) キャリア形成の支援	①	進路・就職関連セミナーの開催	
	②	新卒応援ハローワーク等外部講師による学内個別相談の実施	
	③	職業選択、進学など進路全般に関する相談と情報提供	
(3) 就職情報収集支援	①	就職支援システム「東北文化学園 CareerNavi」の運用	
	②	情報収集用 PC コーナーの整備	
	③	学外就労支援事業所に関する相談と情報提供	
(4) 就職に関する参考書籍の提供	①	就職関連書籍（就職活動・自己分析・論作文・SPI 対策など）の閲覧	
	②	企業研究書籍（会社四季報・就職四季報・東商信用録など）の閲覧	
	③	新聞雑誌（日本経済新聞・河北新報・日経ビジネスなど）の閲覧	
(5) 就職活動に必要な書類準備の支援	①	学校指定履歴書	キャンパス内「セブン・イレブン」にて販売
	②	成績証明書	各種証明書の発行については、本ハンドブック 19 ページ「5. 各種証明書・願書等について」を参照してください。
	③	卒業見込証明書	
	④	健康診断証明書	
	⑤	証明写真撮影会の実施	

キャリアサポートセンターの利用について

利用時間：平日 9:00～17:00

場所：1 号館 1 階 学生総合サービスセンター内

電話：022-233-7998 FAX：022-233-8372

代表メールアドレス：career@office.tbgu.ac.jp



キャリアサポートセンター
ホームページ

5. 地域連携センターについて

地域連携センターは地域と大学との窓口として、本学の教育研究活動を最大限に活用し、地域の活性化と地域振興に寄与する事業を運営します。また、ボランティア活動を通じて本学学生が地域社会の実態を学び、今何をすべきかを人として考えていくための支援も行っています。

(1) 開設時間

平 日 9:00～17:00

土・日曜日・祝日・大学閉鎖期間は利用できません。（地域連携センター 直通電話 022-233-3451）

(2) 活動内容

- ①社会貢献活動／ボランティア活動の支援
- ②地域連携事業の推進
- ③市民講座・公開講座事業の推進
- ④その他地域連携を目的とする事業の推進

6. PC コーナーとレンタルパソコンの利用方法について

図書館カウンターで、ノートパソコンの貸出を行っています。利用に際しては「利用誓約書」の提出が必要となりますが、手続き後は学生証の提示のみで利用することができます。また、図書館2階には「PC コーナー」が開設されており、自由に使用することができます。

(1) 2階 PC コーナー

①利用時間

平 日 8:40～閉館1時間前まで 土 曜 9:00～閉館1時間前まで

②利用上のルール

- 1. 食事はできません。飲み物はふたが密閉できるペットボトル・水筒に限り飲用可能です。
- 2. ソフトウェアのダウンロード、インストールはできません。
- 3. パソコンの設定変更はしないでください。
- 4. 使用後は、電源を切り整理整頓を心がけてください。

(2) レンタルパソコン

①利用資格

- 1. 本学の学生
- 2. その他総合情報センター長が特に許可をした者

②利用時間

平 日 8:40～閉館30分前まで 土 曜 9:00～閉館30分前まで

③利用上のルール

- 1. 機器の利用は、大学の施設内のみです。
- 2. 機器は、利用者が保管の責任を負い、他者への転貸はできません。
- 3. 返却時間を厳守してください。

7. 学生食堂・その他厚生施設情報

(1) 学生食堂（5号館地下1階、2号館地下1階）

営業内容：日替定食、麺類、パスタ、カレー他

営業時間：平日（月曜日～金曜日）：学生の休業期間中は営業時間帯を変更する場合があります。

11:00～14:30（オーダーストップ14:00）

※土・日曜日・祝日は休業。

※営業時間以外は学生のコミュニティースペースや自習室として開放されています。

利用時間は、以下のとおりです。利用する際はマナーとルールを守ってください。

【利用時間】平日9:00～20:00

【注 意】11:45～13:30までは食事のみの利用とします。

IV 各種センター、施設等利用案内

(2) セブンイレブン東北文化学園店（厚生棟 1 階）

営業内容：文房具、日用品、飲食類、書籍、雑貨等

営業時間：月曜日～金曜日 7:00～20:00・土曜日（営業の場合） 7:00～18:00

休業日：日曜日・祝日（その他学事日程により営業日は変更があります。）

（休業期間中は変更されます。）

(3) 厚生棟自習室（厚生棟 2 階）

自習スペースとして自由に利用できます。ただし、自習室内での飲食は、黙食を徹底してください。

【利用時間】平 日のみ 8:00～21:00

(4) コピー機

1 号館西入口、2 号館正面入口、3 号館南入口、5 号館南入口（各 1F）付近にコピー機が設置されています。

(5) 自動販売機コーナー

1 号館（地下ドライエリア中央入口・1F 南入口外・北入口（地域連携センター前））、3 号館（南入口）、2 号館 1F 中央階段、4 号館入口、2・5 号館地下学生食堂、体育館入口、セブンイレブン前に飲料自動販売機が設置されています。なお、災害時対応の緊急時飲料提供ベンダーが 5 号館地下食堂、1 号館地下（ドライエリア）、1 号館北入口に設置されています。

(6) ATM・キャッシュコーナー

①セブン銀行：セブン・イレブン東北文化学園店内に自動預払機（ATM） 1 台設置

営業時間：月曜日～金曜日 7:00～20:00

土曜日（営業の場合） 7:00～18:00

（※銀行によって取扱可能な時間帯は異なります。）

休業期間中は変更されます。

②ゆうちょ銀行：本学正門脇に自動預払機（ATM） 1 台設置

営業時間：月曜日～金曜日 9:00～18:00

※営業日、営業時間等は変更される場合があります。

(7) 全館で Wi-Fi が利用可能です。（体育館は利用不可）

8. 運動施設（体育館・運動場等）の利用について

本学の体育館、屋上テニスコート、第一総合運動公園、第二総合運動公園は、授業や研究以外でも、以下の目的であれば、サークルや、各種スポーツの練習に利用することができます。使用を希望する場合は、所定の「体育施設使用願」を学生課に使用予定日の 2 週間前までに提出し、許可を受けてください。

(1) 使用目的

- ①本学の学生の課外体育活動
- ②本学の教職員の体育活動
- ③本学が行う行事
- ④その他学長が使用を認めたもの

(2) 使用時間

区 分	体育館	第一・第二総合運動公園
平 日	9 時 15 分から 21 時まで	9 時 15 分から 19 時（又は日没）まで
土曜日	9 時 15 分から 18 時まで	9 時 15 分から 18 時（又は日没）まで

日曜日・祝日・年末年始の休業日、その他本学が定めた日は原則として使用できません。

前項の規程にかかわらず、許可を得て使用時間を延長することができます。

9. 美術館及び博物館のキャンパスメンバーズ

本学では、下記施設のキャンパスメンバーズに加入しています。学生の皆さんは、学生証を提示することにより、展示内容により何度でも無料・割引などの特典が受けられます。ぜひ積極的に活用してください。

VI 授業概要（シラバス）

IV 各種センター、施設等利用案内

1. 利用対象施設

- (1) 宮城県美術館 [改修工事に伴い、現在休館中（2025 年度中オープン予定）]
- (2) 仙台市博物館
- (3) 東北歴史博物館

2. 利用方法

窓口で学生証を提示し、キャンパスメンバーズ制度を利用することを申し出てください。

3. 特典

- ①常設展は観覧無料（何度でも観覧可能）
- ②特別展は観覧料の半額割引（年数回開催される特別展すべて、当日券のみ）

授業科目一覧表

健康社会システム研究科 博士課程前期 2 年の課程
【健康福祉専攻】

科 目 区 分		授業科目の名称	配当年次	単 位 数			備 考
				必修	選択	自由	
共 通 科 目		教育原理特論	1 前		2		30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し、審査に合格すること。 ナースプラクティショナー養成分野は、ナースプラクティショナー領域の科目を全て修得すること。
		教育方法特論	1 後		2		
		地域活性システム論	1 前		2		
		健全都市環境形成論	1 前		2		
		快適・健康住環境論	1 前		2		
		居住福祉環境論	1 前		2		
専 門 科 目	理学療法学領域	理学療法学研究法	1 前		4		
		身体運動学特論	1 前		2		
		運動生理学特論	1 前		2		
		数値解析法	1 前		4		
		運動・動作分析セミナー	1 後		2		
		体力評価セミナー	1 後		2		
		理学療法総合特別講義	2 前		4		
	作業療法学領域	作業療法学特論	1 前		4		
		作業療法学専門特論	1 前		2		
		作業療法研究方法論	1 前		2		
		作業療法研究実践論	1 後		2		
		障害科学論	1 後		2		
		作業療法研究方法セミナー	2 前		2		
		作業療法研究実践セミナー	2 前		2		
	言語聴覚学領域	言語聴覚学研究法Ⅰ	1 前		4		
		言語聴覚学研究法Ⅱ	1 後		4		
		言語聴覚学臨床技術Ⅰ	1 前		2		
		言語聴覚学臨床技術Ⅱ	1 後		2		
		言語聴覚学臨床技術Ⅲ	2 前		2		
		心理言語学研究	1 前		2		
		地域言語聴覚学	2 前		2		
	視覚機能学領域	視覚機能眼科学研究法Ⅰ	1 前		4		
		視覚機能眼科学研究法Ⅱ	1 後		4		
		眼光学特論	1 前		2		
		色彩学特論	1 前		2		
		眼鏡学特論	1 前		2		
		水晶体研究特論	1 後		2		
		ロービジョン特論	1 後		2		
		前眼部バイオメトリー特論	2 前		2		
		ロービジョンケア特論	2 前		2		
	臨床工学領域	臨床工学特論	1 前		2		
		医用機器安全管理特論	1 前		2		
		医用治療機器学特論	1 前		2		
		生体計測装置学特論	1 前		2		
		生体機能代行装置学特論Ⅰ	1 前		2		
		生体機能代行装置学特論Ⅱ	1 後		2		
		生体機能代行装置学特論Ⅲ	2 前		2		
		臨床工学特別セミナー	2 前		4		
	保健福祉学領域	保健福祉システム特論	1 前		2		
		保健福祉システムセミナー	1 後		4		
		健康長寿科学特論	1 前		2		
		健康長寿科学セミナー	1 後		4		
		保健福祉総合サービス論	1 前		2		
		保健福祉総合サービスセミナー	1 後		4		
		保健福祉総合特別講義	2 前		4		
	ナースプラクティ ショナー領域	現代医療看護学特論	1 前		2		
		外科医療病態診断学特論	1 前		3		
		臨床生理学	1 前		2		
		内科学総合講義	1 通		4		
		麻酔・救急・集中医療総合講義	1 通		4		
		フィジカルアセスメント	1 後		3		
		臨床薬理学	1 後		2		
		現代地域医療総合講義	1 前		2		
		外科治療学総合講義Ⅰ	1 後		2		
		外科治療学総合講義Ⅱ	1 後		3		
		ライフサイクル医療	2 前		2		
		外科治療学特別実習	2 通		8		
		麻酔・救急・集中医療特別実習	2 通		8		
	特別研究	健康福祉特別研究	2 通	8			

V 授業科目一覧表

健康社会システム研究科 博士課程前期 2 年の課程

【生活環境情報専攻】

科 目 区 分	授業科目の名称	配当年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
共 通 科 目	教育原理特論	1 前		2		30 単位以上を修得し、かつ修士論文等を提出し、審査に合格すること。
	教育方法特論	1 後		2		
	地域活性システム論	1 前		2		
	健全都市環境形成論	1 前		2		
	快適・健康住環境論	1 前		2		
	居住福祉環境論	1 前		2		
専 門 科 目	健全都市環境形成セミナー	1 後		4		
	快適・健康住環境セミナー	1 後		4		
	生体情報福祉工学	1 前		2		
	生体情報福祉工学セミナー	1 後		4		
	安全・安心環境システム論	1 後		2		
	安全・安心環境システムセミナー	1 後		4		
	自然環境保全論	1 前		2		
	水環境システム論	1 前		2		
	水環境システムセミナー	1 後		4		
	居住福祉環境セミナー	1 後		4		
	音環境情報論	1 前		2		
	音環境情報セミナー	1 後		4		
	環境情報計測システム論	1 前		2		
	環境情報計測システムセミナー	1 後		4		
	ソフトコンピューティング論	1 後		2		
	ソフトコンピューティングセミナー	1 後		4		
	情報ネットワークシステム論	1 前		2		
	生活環境文化論	1 前		2		
	生活環境文化セミナー	1 後		4		
	先端情報処理システム論	1 後		2		
	先端情報処理システムセミナー	1 後		4		
	生活環境関連法	1 後		2		
	環境情報総合特別講義	2 前		2		
	生活環境情報特別研究	2 通	8			

V 授業科目一覧表

健康社会システム研究科 博士課程後期 3 年の課程
【健康福祉専攻】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
学際領域科目	教育原理特別講義	1 前		2		12 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、審査に合格すること。
	教育方法特別講義	1 後		2		
	臨床運動学特別講義	1 前		2		
	福祉工学特別講義	1 前		2		
専門科目	リハビリテーション科学特別講義	2 前		2		5 科目から 4 単位以上選択履修すること。
	保健福祉科学特別講義	2 前		2		
	感覚器情報処理特別講義	1 後		2		
	健康福祉科学特別演習	1～3	8			

V 授業科目一覧表

健康社会システム研究科 博士課程後期 3 年の課程
【生活環境情報専攻】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			備 考
			必修	選択	自由	
学際領域科目	教育原理特別講義	1 前		2		12 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、審査に合格すること。
	教育方法特別講義	1 後		2		
	臨床運動学特別講義	1 前		2		
	福祉工学特別講義	1 前		2		
専門科目	生活情報科学特別講義	2 前		2		4 科目から 4 単位以上選択履修すること。
	生活環境科学特別講義	2 前		2		
	生活環境情報科学特別演習	1～3	8			

V 授業科目一覧

目 次

【博士課程前期 2 年の課程・健康福祉専攻】

授業科目の名称	配当年次	単位数	担当教員名	ページ
共通科目				
・教育原理特論	[1 前	選 2]	(佐々木真由美)	57
・教育方法特論	[1 後	選 2]	(佐々木真由美)	58
・地域活性システム論	[1 前	選 2]	(吉田 裕人)	59
・健全都市環境形成論	[1 前	選 2]	(○山本 和恵・川村 広則)	60
・快適・健康住環境論	[1 前	選 2]	(野崎 淳夫)	61
・居住福祉環境論	[1 前	選 2]	(山本 和恵)	62
専門科目				
・理学療法研究法	[1 前	選 4]	(小林 武)	63
・身体運動学特論	[1 前	選 2]	(藤澤 宏幸)	64
・運動生理学特論	[1 前	選 2]	(○藤澤 宏幸・鈴木 誠)	65
・数値解析法	[1 前	選 4]	(藤澤 宏幸)	66
・運動・動作分析セミナー	[1 後	選 2]	(○藤澤 宏幸・村上 賢一)	67
・体力評価セミナー	[1 後	選 2]	(藤澤 宏幸)	68
・理学療法総合特別講義	[2 前	選 4]	(○藤澤 宏幸・小林 武・黒後 裕彦・鈴木 誠)	69
・作業療法学特論	[1 前	選 4]	(○王 治文・大黒 一司・本多ふく代・北川 公路)	70
・作業療法学専門特論	[1 前	選 2]	(○王 治文・大黒 一司・本多ふく代・北川 公路)	71
・作業療法研究方法論	[1 前	選 2]	(○西澤 哲・大黒 一司・王 治文)	72
・作業療法研究実践論	[1 後	選 2]	(○王 治文・大黒 一司・西澤 哲)	73
・障害科学論	[1 後	選 2]	(大黒 一司)	74
・作業療法研究方法セミナー	[2 前	選 2]	(大黒 一司)	75
・作業療法研究実践セミナー	[2 前	選 2]	(○王 治文・大黒 一司・西澤 哲)	76
・言語聴覚学研究法Ⅰ	[1 前	選 4]	(○藤原加奈江・高卓 輝・柴田 寛)	77
・言語聴覚学研究法Ⅱ	[1 後	選 4]	(○藤原加奈江・高卓 輝)	78
・言語聴覚学臨床技術Ⅰ	[1 前	選 2]	(○藤原加奈江・高卓 輝)	79
・言語聴覚学臨床技術Ⅱ	[1 後	選 2]	(○藤原加奈江・高卓 輝)	80
・言語聴覚学臨床技術Ⅲ	[2 前	選 2]	(○藤原加奈江・高卓 輝)	81
・心理言語学研究	[1 前	選 2]	(柴田 寛)	82
・地域言語聴覚学	[2 前	選 2]	(○藤原加奈江・高卓 輝)	83
・視覚機能眼科学研究法Ⅰ	[1 前	選 4]	(○坂本 保夫・小野 峰子・辻川 寛)	84
・視覚機能眼科学研究法Ⅱ	[1 後	選 4]	(○坂本 保夫・小野 峰子・辻川 寛)	85
・眼光学特論	[1 前	選 2]	(坂本 保夫)	86
・色彩学特論	[1 前	選 2]	(坂本 保夫)	87
・眼鏡学特論	[1 前	選 2]	(○坂本 保夫・小野 峰子)	88
・水晶体研究特論	[1 後	選 2]	(坂本 保夫)	89
・ロービジョン特論	[1 後	選 2]	(小野 峰子)	90
・前眼部バイオメトリー特論	[2 前	選 2]	(坂本 保夫)	91
・ロービジョンケア特論	[2 前	選 2]	(小野 峰子)	92
・臨床工学特論	[1 前	選 2]	(○相澤 康弘・浅井 仁・家名田敏昭)	93
・医用機器安全管理特論	[1 前	選 2]	(相澤 康弘)	94
・医用治療機器学特論	[1 前	選 2]	(○相澤 康弘・浅井 仁・家名田敏昭)	95
・生体計測装置学特論	[1 前	選 2]	(○相澤 康弘・浅井 仁・家名田敏昭)	96
・生体機能代行装置学特論Ⅰ	[1 前	選 2]	(○相澤 康弘・佐々木典子)	97
・生体機能代行装置学特論Ⅱ	[1 後	選 2]	(○工藤 剛実・佐藤 秀隆)	98
・生体機能代行装置学特論Ⅲ	[2 前	選 2]	(工藤 剛実)	99
・臨床工学特別セミナー	[2 前	選 4]	(相澤 康弘)	100
・保健福祉システム特論	[1 前	選 2]	(吉田 裕人)	101
・保健福祉システムセミナー	[1 後	選 4]	(吉田 裕人)	102
・健康長寿科学特論	[1 前	選 2]	(吉田 裕人)	103
・健康長寿科学セミナー	[1 後	選 4]	(吉田 裕人)	104
・保健福祉総合サービス論	[1 前	選 2]	(加藤 由美)	105
・保健福祉総合サービスセミナー	[1 後	選 4]	(加藤 由美)	106
・保健福祉総合特別講義	[2 前	選 4]	(吉田 裕人)	107
・現代医療看護学特論	[1 前	選 2]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・荒木とも子・草間 朋子・鈴木 美穂) …	108
・外科医療病態診断学特論	[1 前	選 3]	(○渡邊 隆夫・内藤 輝・佐藤 秀隆・津田 丈秀・宇月 美和・未定) …	109
・臨床生理学	[1 前	選 2]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・古林 俊晃・浅野 浩一・松谷 幸子) …	110
・内科学総合講義	[1 通	選 4]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・佐々木典子・舘脇 康子・森 建文) …	111

・麻酔・救急・集中医療総合講義	[1 通]	選 4]	(○渡邊 隆夫・岩崎 夢大・上之原広司・勝田 賢・久志本成樹・工藤 大介・黒澤 伸・小林 正和・佐藤 武揚・布川 麻代・藤田 基生・古川 宗・三瓶 想・吾妻 俊弘) ……………	112
・フィジカルアセスメント	[1 後]	選 3]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・工藤 剛実・荒木とも子・浅野 浩一・中村 はな・松谷 幸子) ……………	113
・臨床薬理学	[1 後]	選 2]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・柳澤 輝行) ……………	114
・現代地域医療総合講義	[1 前]	選 2]	(○渡邊 隆夫・古林 俊晃・植木 章三・上野 草太・木村 紀久・富田 尚希・中瀬 泰然・野呂 美香・本多 正久・未定) ……………	115
・外科治療学総合講義Ⅰ	[1 後]	選 2]	(○渡邊 隆夫・津田 丈秀・赤松大二郎・石橋 直也・井本 博文・片岡ひとみ・亀井 尚・佐々木多恵子・島村 弘宗・菅原 崇史・鈴木 秀幸・谷山 裕亮・堂地 大輔・戸子台和哲・原田 成美・武藤 満完) ……………	116
・外科治療学総合講義Ⅱ	[1 後]	選 3]	(○渡邊 隆夫・工藤 剛実・佐々木典子・津田 丈秀・伊藤 校輝・齋木 佳克・鈴木 佑輔・武藤 満完) ……………	117
・ライフサイクル医療	[2 前]	選 2]	(○渡邊 隆夫・渡辺 彰・木村 正人・鈴木 陽・田中総一郎・藤井 喜充・松原 雄・村田 祐二・未定) ……………	118
・外科治療学特別実習	[2 通]	選 8]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・工藤 剛実・井本 博文・大坪 毅人・小澤 洋介・西條 文人) ……………	119
・麻酔・救急・集中医療特別実習	[2 通]	選 8]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・工藤 剛実・荒木とも子・遠藤 智之・片岡ひとみ・小林 正和・田畑 雅央) ……………	120
・健康福祉特別研究	[2 通]	必 8]	(○津田 丈秀・古林 俊晃) ……………	121
・健康福祉特別研究(NP)	[2 通]	必 8]	(○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆・津田 丈秀・工藤 剛実・古林 俊晃・荒木とも子) ……………	122

【博士課程前期2年の課程・生活環境情報専攻】

授業科目の名称	配当年次	単位数	担当教員名	ページ
共通科目				
・教育原理特論	[1 前]	選 2]	(佐々木真由美) ……………	123
・教育方法特論	[1 後]	選 2]	(佐々木真由美) ……………	124
・地域活性システム論	[1 前]	選 2]	(吉田 裕人) ……………	125
・健全都市環境形成論	[1 前]	選 2]	(○山本 和恵・川村 広則) ……………	126
・快適・健康住環境論	[1 前]	選 2]	(野崎 淳夫) ……………	127
・居住福祉環境論	[1 前]	選 2]	(○山本 和恵・石井 敏) ……………	128
専門科目				
・健全都市環境形成セミナー	[1 後]	選 4]	(○山本 和恵・川村 広則) ……………	129
・快適・健康住環境セミナー	[1 後]	選 4]	(野崎 淳夫) ……………	130
・生体情報福祉工学	[1 前]	選 2]	(古林 俊晃) ……………	131
・生体情報福祉工学セミナー	[1 後]	選 4]	(古林 俊晃) ……………	132
・安全・安心環境システム論	[1 後]	選 2]	(須藤 諭) ……………	133
・安全・安心環境システムセミナー	[1 後]	選 4]	(○須藤 諭・川村 広則・福井 啓太) ……………	134
・自然環境保全論	[1 前]	選 2]	(開講時指示) ……………	135
・水環境システム論	[1 前]	選 2]	(八十川 淳) ……………	136
・水環境システムセミナー	[1 後]	選 4]	(八十川 淳) ……………	137
・居住福祉環境セミナー	[1 後]	選 4]	(山本 和恵) ……………	138
・音環境情報論	[1 前]	選 2]	(鈴木 陽一) ……………	139
・音環境情報セミナー	[1 後]	選 4]	(鈴木 陽一) ……………	140
・環境情報計測システム論	[1 前]	選 2]	(開講時指示) ……………	141
・環境情報計測システムセミナー	[1 後]	選 4]	(開講時指示) ……………	142
・ソフトコンピューティング論	[1 後]	選 2]	(鈴木 伸夫) ……………	143
・ソフトコンピューティングセミナー	[1 後]	選 4]	(鈴木 伸夫) ……………	144
・情報ネットワークシステム論	[1 前]	選 2]	(鈴木 伸夫) ……………	145
・生活環境文化論	[1 前]	選 2]	(岡 恵介) ……………	146
・生活環境文化セミナー	[1 後]	選 4]	(○岡 恵介・王 元・文 慶喆) ……………	147
・先端情報処理システム論	[1 後]	選 2]	(沈 紅) ……………	148
・先端情報処理システムセミナー	[1 後]	選 4]	(○沈 紅・長田 俊明) ……………	149
・生活環境関連法	[1 後]	選 2]	(李 玉友) ……………	150
・環境情報総合特別講義	[2 前]	選 2]	(鈴木 伸夫) ……………	151
・生活環境情報特別研究	[2 通]	必 8]	(鈴木 伸夫) ……………	152

【博士課程後期3年の課程・健康福祉専攻】

授業科目の名称	配当年次	単位数	担当教員名	ページ
学際領域科目				
・教育原理特別講義	[1 前]	選 2]	(佐々木真由美) ……………	153

・教育方法特別講義	[1 後 選 2]	(佐々木真由美)	154
・臨床運動学特別講義	[1 前 選 2]	(○藤澤 宏幸・西澤 哲)	155
・福祉工学特別講義	[1 前 選 2]	(○藤澤 宏幸・大黒 一司・野崎 淳夫)	156

専門科目

・リハビリテーション科学特別講義	[2 前 選 2]	(○藤澤 宏幸・西澤 哲・藤原加奈江・王 治文)	157
・保健福祉科学特別講義	[2 前 選 2]	(吉田 裕人)	158
・感覚器情報処理特別講義	[1 後 選 2]	(○坂本 保夫・藤原加奈江・小野 峰子・高卓 輝・辻川 寛) …	159
・健康福祉科学特別演習	[1～3 通必 8]	(○渡邊 隆夫・工藤 剛実・佐藤 秀隆・浅野 朝秋)	160

【博士課程後期 3 年の課程・生活環境情報専攻】

授業科目の名称	配当年次	単位数	担当教員名	ページ
学際領域科目				
・教育原理特別講義	[1 前 選 2]	(佐々木真由美)		161
・教育方法特別講義	[1 後 選 2]	(佐々木真由美)		162
・臨床運動学特別講義	[1 前 選 2]	(藤澤 宏幸)		163
・福祉工学特別講義	[1 前 選 2]	(藤澤 宏幸)		164
専門科目				
・生活情報科学特別講義	[2 前 選 2]	(鈴木 伸夫)		165
・生活環境科学特別講義	[2 前 選 2]	(鈴木 伸夫)		166
・生活環境情報科学特別演習	[1～3 通必 8]	(鈴木 伸夫)		167

健康福祉専攻（前期 2 年の課程）

科 目 名		教育原理特論		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング					非常勤	
D P				教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・常に社会の変化や進展を背景に改訂される教育。教育の不易と流行（時代が激しく変化しようとも変わらない価値のあるもの〔不易〕、時代の変化とともに変えていく必要があるもの〔流行〕）を基底にすえ、受けてきた教育や見聞きする教育など身近な教育問題を取り上げながら、教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を学ぶ。成長する教師に必要な教育観の形成に資する内容である。						
【学習の到達目標】 ・教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則や理論的基礎を理解することができる。 ・教育現場や指導場面で役立つ基礎・基本を身に付けることができるとともに、学習者に寄り添う指導者としての教育観を形成できる。						
【成績評価方法】 ・科目に必要な評価項目・基準を定めたルーブリックに基づき評価する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（到達目標、学習内容、学習評価等）④ルーブリック	予習：受けてきた教育を振り返り、教育に必要な要件を考える。復習：必要な学び方等を整理し、キャリアデザインを作成する。			
2	佐々木真由美	教育の原義をふまえ、教育の必要性を考える。④ルソーの『エミール』、『アヴェロンの野生児』	予習：『エミール』『アヴェロンの野生児』について調べる。復習：ルソーの理想とした教育について双括型の文章にまとめる。			
3	佐々木真由美	教育の意義と目的をおさえ、問題点を考える。○キ中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月 21 日）ゆとり教育	予習：公教育制度について 800 字程度で所見を述べる。復習：生きる力についてまとめる。			
4	佐々木真由美	人間の育ち・成長について考える。④発達の最近接領域、タイダル・ウェーブ	予習：ヴィゴツキーの発達の最近接領域説を調べる。復習：。その説を踏まえた経験 800 字程度にまとめる。			
5	佐々木真由美	様々な指導方法を取り上げ、教え方の変遷を理解する。④問答法、一斉教授、生活単元学習	予習：問答法、一斉教授、生活単元学習、系統学習、問題解決学習について調べる。復習：時代背景をふまえ、教え方の変遷をまとめる。			
6	佐々木真由美	教育を受ける権利と教育格差について理解する。④教育勅語、改定教育基本法、検定教科書	予習：指摘されている教育上の格差や差別を一覧にする。復習：教育を受ける権利をふまえ、教育格差を是正するための方策を提案する。			
7	佐々木真由美	学びを支える教育行政制度の仕組みを理解する。④文科省、教育委員会、地域協働	予習：文科省、教育委員会等の仕組みを調べる。復習：大学教育の効果を高めるための地域や関係機関との連携について提案する。			
8	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④夜間中学、フリースクール	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
9	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④発達の特性、個別の支援、通級指導	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
10	佐々木真由美	授業における望ましい関係性について考える。④いじめ防止対策推進法、学習性無力感	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
11	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。	予習：資料（新聞記事）について考えをまとめる。復習：学友の意見を聞くことで考えを深める。			
12	佐々木真由美	教育課程の仕組みを理解し、理想の教育課程について考える。④ヒドゥンカリキュラム、初年次教育	予習：顕在的カリキュラム、潜在カリキュラムについてについて知り調べる。復習：自身の無自覚の規範や価値観等を整理する。			
13	佐々木真由美	日本の教員養成制度を理解し、目指す教師像を考える。④教師の専門性と資質能力	予習：日本の教員養成制度の現状と課題についてレポートする。復習：「総合的な発達援助職としての教師に必要なこと」をまとめる。			
14	佐々木真由美	教育における課題について考え、自身や教育の未来を想像する。④キャリアデザイン	予習：レポート 800 字「私が目指す指導者（教師）像とその理由」。復習：キャリアデザインを見直し、加筆する。			
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（勝野正章、庄井良信 有斐閣ストゥディア）、教育学原論（ミネルヴァ書房）カリキュラム論（成文社）教育社会学（ミネルヴァ書房）				
備 考		特になし				

科 目 名		教育方法特論		担 当 者		佐々木真由美	
科目ナンバリング						非常勤	
D P				教 員 研 究 室		非常勤講師室	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次		1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 ・「教師の指導方法は、受けた教育に影響される」と指摘されている。いわゆる、「教育の再生化」である。先達が実践し、築き上げた教育理念及び指導方法を学び、多様な視点から効果的な教育方法について考え、学習者と教材との出会いをコーディネートし、主体的な学習を促す教育方法について理解する。教育における「守破離」を実感し、学びの中心に学習者を位置付ける教育方法の修得に資する内容である。				【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。			
【学習の到達目標】 ・先達の教育理念や指導方法について理解し、学習者の個性や特性及び教材等の特徴をふまえ、多様な視点から学習者の主体的な学習を促す効果的な教育方法について考えることができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。			
【成績評価方法】 ・科目の評価項目と基準等を定めたルーブリックに基づき評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりすることができるようになる。他者の発言に傾聴し、深く思考するようになる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる。			
【実務家教員担当科目】 該当なし							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（14 回の見通し：到達目標、学習内容、評価方法等）⑤ルーブリック	予習：自分自身の教育観を整理する。復習：ターニングポイントとなった授業、心に残る授業から特徴的な。導方法を取り上げる。				
2	佐々木真由美	大正自由教育を推進した先人	予習：樋口勘次郎、及川平治に関する資料を基に、両先達の教育理念を探る。復習：時代背景、両氏が学んだ教育、目指した教育についてまとめる。				
3	佐々木真由美	戦中・戦後教育の概要	予習：資料（戦後教育の概要等）を読み、時代と当時の教育の特徴等について調べる。復習：資料（学習指導要領の改訂ダイジェスト版）を参考に戦後の教育についてまとめる。				
4	佐々木真由美	無着成恭と生活綴方	予習：資料（無着成恭と生活綴方）等を読み、無着成恭の教育理念と教育方法について調べる。復習：資料（続・山びこ学校）を参考に、無着成恭の「守破離」についてまとめる。				
5	佐々木真由美	糸賀一雄と障がい児教育	予習：⑦「この子らを世の光に」④「この子らに世の光を」違いを述べよ。800 字。復習：所見を推敲するとともに、糸賀一雄の目指した教育理念と実践についてまとめる。				
6	佐々木真由美	大村はまと教えること（1）	予習：大村はまの資料「教えるということ」について調べる。復習：大村はまの目指した「優劣のかなた」についてまとめる。				
7	佐々木真由美	大村はまと教えること（2）	予習：大村はまの時代の教育方法等を調べ、戦前戦後の教育の変遷を知る。復習：主体的な学びが可能となる学習の在り方について考える。				
8	佐々木真由美	斎藤喜博と教師の実践	予習：斎藤喜博について調べ「授業の展開」について所見を述べよ。800 字。復習：斎藤喜博の目指した教育理念と授業についてまとめる。				
9	佐々木真由美	岸本裕史と学力の基礎	予習：岸本裕史について調べる。復習：「落ちこぼれを出さない」実践を目指した教育理念についてまとめる。				
10	佐々木真由美	金森俊朗といのちの学習	予習：生と死のリアリティの回復を目指した教育について調べる。復習：金森俊朗の目指す教育理念と授業についてまとめる。				
11	佐々木真由美	和光小学校・和光」鶴川小学校と総合学習	予習：左記の学校の「実感のある学び」と「血の通った学力」について調べる。復習：生活教育と総合学習の展開についてまとめる。				
12	佐々木真由美	ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義（開発教授）	予習：ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義（開発教授）調べる。復習：戦後教育への影響について考える。				
13	佐々木真由美	高大接続と教育方法	予習：高大システム改革会議最終報告書に示されたこれからの人材育成と教育方法を読み取る。復習：就職 1 年目に経験する課題を想定し、教育方法の視点から対応策を示す。				
14	佐々木真由美	教育答申に見るこれからの教育	予習：答申を貫く理念（教育の不易）と教育の流行を比較する。復習：これまでの授業と照らし合わせ、主体的な学びを促す教育方法についてまとめる。				
教 科 書		適宜プリントを配付					
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、時代を拓いた教師たち（田中耕治編著 日本標準）、教師の歴史（創文社）、及川平治、糸賀一雄、無着成恭、大村はま、斎藤喜博、岸本裕史、金森俊朗、和光小学校等の文献、高大接続システム改革会議最終報告（平成 28 年）、中央教育審議会答申（平成 8 年、平成 28 年他）、学制百年史（文科省）他					
備 考		特になし					

科 目 名	地域活性システム論			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1201
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域政策と経営、地域社会と福祉の2つについてそのあり方について検討する。				【課題等のフィードバック方法】 少人数での授業なので、毎回ディスカッションをすることになるので、フィードバックはその都度行われる。	
【学習の到達目標】 社会における地域の捉え方を社会学、経済学、環境学の多面的側面からの考え方を学ぶ。				【履修上の注意・予習・復習について】 受講者は予習・復習として新聞や関連書籍を読み、各自の考え方を構築していただきたい。	
【成績評価方法】 小テスト（レポート等）80% 受講態度など20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会における地域の捉えかたに関して、社会学、経済学、環境学といった多面的側面からの考え方を学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	吉田 裕人	地域経済の現状と課題 経済データでみる地域経済Ⅰ	新聞などで地域経済の現状などを調べておく。	
2	吉田 裕人	地域経済の現状と課題 経済データでみる地域経済Ⅱ	新聞などで地域経済の現状などを調べておく。	
3	吉田 裕人	地域経済の現状と課題 経済データでみる地域経済Ⅲ	新聞などで地域経済の現状などを調べておく。	
4	吉田 裕人	地方財政の現状と課題Ⅰ	新聞などで地域財政の現状などを調べておく。	
5	吉田 裕人	地方財政の現状と課題Ⅱ	新聞などで地域財政の現状などを調べておく。	
6	吉田 裕人	地方財政の現状と課題Ⅲ	新聞などで地域財政の現状などを調べておく。	
7	吉田 裕人	地域における福祉の現状	新聞などで地域福祉の現状などを調べておく。	
8	吉田 裕人	地域社会の変動とその要因	日本における地域社会の歴史などを調べておく。	
9	吉田 裕人	地域社会の少子・高齢化とその活性化対策Ⅰ	新聞などで地域の少子・高齢化の現状とその対策などを調べておく。	
10	吉田 裕人	地域社会の少子・高齢化とその活性化対策Ⅱ	新聞などで地域の少子・高齢化の現状とその対策などを調べておく。	
11	吉田 裕人	地域社会の少子・高齢化とその活性化対策Ⅲ	新聞などで地域の少子・高齢化の現状とその対策などを調べておく。	
12	吉田 裕人	地域づくり・健康づくり・生きがいづくりⅠ	地域における様々な取り組みを調べておく。	
13	吉田 裕人	地域づくり・健康づくり・生きがいづくりⅡ	地域における様々な取り組みを調べておく。	
14	吉田 裕人	地域づくり・健康づくり・生きがいづくりⅢ	地域における様々な取り組みを調べておく。	
教 科 書		なし（必要な資料は講義時に配布する）		
参 考 書		特になし		
備 考		問合せ先：吉田裕人 授業計画の内容は変更する場合がある。		

科 目 名		健全都市環境形成論		担 当 者	○山本 和恵・川村 広則	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1213	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 少子高齢化、人口減少、環境問題等を踏まえた健全都市形成論が求められている。健全な「都市環境」とは何かという問題を、家庭生活、都市生活、生活空間、都市空間という視点から考察・検討する。都市環境および建築環境の形成と発展に関して、「生活」と「空間」をキーワードに文化的小および社会的視点から多角的、総合的に論じ、その問題点と活性化の可能性を探る。				【課題等のフィードバック方法】 講義内の質疑		
【学習の到達目標】 現代都市の健全環境形成を考察する諸科学のアプローチを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 各担当教員の指示によること。		
【成績評価方法】 授業への取り組みとレポート評価				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代都市の健全環境形成を考察する諸科学のアプローチを理解することによって、都市研究の一助とすることができる。		
				【実務家教員担当科目】 特になし		

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	山本 和恵	講義の主旨とガイダンス	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
2	山本 和恵	都市の形成過程と健全都市環境創造への思想	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
3	山本 和恵	少子高齢化・人口減少社会に適応する都市のカたち	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
4	山本 和恵	健全都市形成の海外事例	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
5	山本 和恵	まりづくり事例研究 1	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
6	山本 和恵	まちづくり事例研究 2	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
7	山本 和恵	日本の環境問題とその取組	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
8	山本 和恵	サステナビリティ：環境的持続可能性と社会的持続可能性	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
9	山本 和恵	エコロジカル：生物学的生態学と人間生態学（ヒューマンエコロジー）	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
10	山本 和恵	ビオトープ創出とエコロジカル・ネットワーク	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
11	川村 広則	騒音問題の歴史と現状、法規制	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
12	川村 広則	事例研究 1：騒音防止対策と評価手法	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
13	川村 広則	事例研究 2：低周波騒音と心理学的及び生理学的評価	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
14	川村 広則	まとめと考察：都市における音環境のあり方	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする		
教 科 書		特に指定しない			
参 考 書		適宜紹介する			
備 考		問い合わせは山本、川村のいずれかまで			

科 目 名		快適・健康住環境論			担 当 者	野崎 淳夫
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	1311
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代では高齢者から小児・児童までを含むすべての人々にとって、快適で健康に配慮した室内環境が求められている。本講義では最新理論を用いて、室内空気汚染メカニズム、汚染物質と健康影響、汚染防止対策技術の効用と限界に関する講義を行う。これにより、居住、執務、医療、福祉、娯楽など、各種用途の空間に対して、快適で健康な環境を創造し、実現するための理論の展開と手段・技術の開発への道が拓かれる。						【課題等のフィードバック方法】 最終講義で全体に対するフィードバックを行う。
【学習の到達目標】 本講義では子供から高齢者に至る幅の広い居住者にとって、理想的な室内環境のあり方について論ずるもので、特に室内における環境とその改善策を重点的に学ぶ。						【履修上の注意・予習・復習について】 講義開始から 20 分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻 2 回で欠席 1 回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。
【受講して得られる効果・メリット、その他】 居住者に寄り添った理想的な室内環境のあり方や室内における環境とその改善策を重点的に習得できる。						【実務家教員担当科目】 室内環境実務を経験している教員が、室内環境の特性と改善策を実例を交えて講義する。
定期試験、レポート、提出物状況等を考慮して判定する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	野崎 淳夫	健康・快適住環境論とは	教科書、配布資料で「健康・快適住環境論」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
2	佐藤 慎也	子どもと本生と遊び	教科書、配布資料で「子どもと本生と遊び」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
3	佐藤 慎也	成育環境（1）	教科書、配布資料で「成育環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
4	佐藤 慎也	成育環境（2）	教科書、配布資料で「成育環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
5	野崎 淳夫	室内環境の構成	教科書、配布資料で「室内環境の構成」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
6	野崎 淳夫	空気環境と健康影響	教科書、配布資料で「空気環境と健康影響」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
7	野崎 淳夫	室内環境の実態	教科書、配布資料で「室内環境の実態」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
8	野崎 淳夫	室内環境の物理・化学的特性、各種法規制、ガイドラインなど	教科書、配布資料で「室内環境の物理・化学的特性、各種法規制、ガイドライン」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
9	野崎 淳夫	室内汚染対策技術（1）	教科書、配布資料で「室内汚染対策技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
10	野崎 淳夫	室内汚染対策技術（2）	教科書、配布資料で「室内汚染対策技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
11	羽石 隆彦	快適環境の設計手法（1）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
12	石崎 裕行	快適環境の設計手法（2）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
13	野崎 淳夫	快適環境の設計手法と実例（1）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
14	野崎 淳夫	快適環境の設計手法と実例（2）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
教 科 書		「室内空気環境設計法」技法堂出版				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		問い合わせ先：野崎淳夫（1311 教員研究室）				

科 目 名	居住福祉環境論			担 当 者	山本 和恵
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1213
学 科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子高齢化、人口減少の社会背景を踏まえ、まちづくりやすまいづくりといった建築環境のあり方が転換期を迎えている。他方で医療・福祉の分野においても、施設中心のケアから「地域移行」の動きも激しい。生活と福祉の基盤となる住環境の再整備は学際的な視点から再考することが必要である。本講義では、特に医療・福祉の観点から住環境の基盤整備のあり方について論じる。				【課題等のフィードバック方法】 講義内での質疑・討論	
【学習の到達目標】 医療・福祉・居住施設の空間整備の基本的な考え方や手法を学び、関連する今日的な課題について議論できる。自分の専門分野を基盤としながら、他分野を視野に入れた学際的な知見を提案できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 積極的な講義参加態度が望まれる	
【成績評価方法】 講義におけるディスカッションならびにレポートの内容によって評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 学際的な視点から諸問題をとらえ、基盤としての住環境に関する今日の課題を学ぶことができる。また人間と環境の関係に関する研究方法についても学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 特になし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	山本 和恵	講義ガイダンスと講義の主旨	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
2	山本 和恵	居住福祉のまちづくり 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
3	山本 和恵	居住福祉のまちづくり 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
4	山本 和恵	療養環境としてのすまい 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
5	山本 和恵	療養環境としてのすまい 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
6	山本 和恵	生活環境としての施設 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
7	山本 和恵	生活環境としての施設 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
8	山本 和恵	総括・討議	レポートの制作	
9	石井 敏	介護保険と地域包括ケア	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
10	石井 敏	高齢者介護施設の歴史と今	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
11	石井 敏	高齢者住宅 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
12	石井 敏	高齢者住宅 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
13	石井 敏	北欧フィンランドの暮らし福祉	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
14	石井 敏	北欧フィンランドの高齢者介護と環境	レポートの制作	
教 科 書		特に指定しない		
参 考 書		特に指定しない		
備 考		問い合わせ等の受付は山本まで		

科 目 名	理学療法研究法			担 当 者	小林 武
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	小林：3103
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 reference manager を用いた論文 meta データの活用法と、調査・研究データのまとめ方や解析法について演習・実習を通して学ぶ。 【学習の到達目標】 1)reference manager を用いて論文の meta データを管理するとともに、それらを研究チームで共有したり投稿論文へ引用したりできる。 2) 調査・実験データの特性から適切な統計法を選択し解析できる。 【成績評価方法】 平常点（10%）、課題への取り組み状況（40%）、プレゼンテーション（配付資料含む）（50%）の内容から評定する。 【課題等のフィードバック方法】 講義の中で逐次フィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 1. ノートパソコン（Windows OS）と USB メモリ（8GB 以上）を準備すること。 2. 予習・復習は必須である。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. reference manager を用いて論文の meta データを管理するとともに、それらを研究チームで共有したり投稿論文へ引用したりできる。 2. 研究論文のデータ解析とその解釈の妥当性を判断できるようになる。 3. 各種データの解析法が身に付く。 【実務家教員担当科目】 理学療法研究の経験のある教員が、論文 meta データの管理と活用法、ならびにデータ解析法の実践について教授する。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小林	授業オリエンテーション、統計解析ソフトウェアと reference manager の導入	ノートパソコンの環境設定と USB メモリへのアプリケーションインストールと設定について予習・復習すること		
2	小林	reference manager の活用	reference manager について予習・復習すること		
3	小林	記述統計と図表表現	MS Excel のデータ記録ならびに関数操作とグラフ表現、R を用いた記述統計について予習・復習すること		
4	小林	比率の検定	対応のある 2 群間の比較について予習・復習すること		
5	小林	2 群間の比較	2 群間の比較について予習・復習すること		
6	小林	一元配置分散分析（1）	一元配置分散分析と多重比較について予習・復習すること		
7	小林	一元配置分散分析（2）	一元配置分散分析と多重比較について予習・復習すること		
8	小林	多元配置分散分析（1）	多元配置分散分析と多重比較について予習・復習すること		
9	小林	多元配置分散分析（2）	多元配置分散分析と多重比較について予習・復習すること		
10	小林	多元配置分散分析（3）	多元配置分散分析と多重比較について予習・復習すること		
11	小林	相関と回帰、一致度（1）	主に相関と回帰について予習・復習すること		
12	小林	相関と回帰、一致度（2）	主に一致度について予習・復習すること		
13	小林	多変量解析（1）	主に重回帰分析について予習・復習すること		
14	小林	多変量解析（2）	主に因子分析・主成分分析について予習・復習すること		
教 科 書	指定しない。				
参 考 書	指定しない。				
備 考	質問等は小林が受け付ける。				

科 目 名	身体運動学特論			担 当 者	藤澤 宏幸
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4210
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ヒトの運動動作は、関節の可動域により制限される。しかし、ヒトは巧みに身体を操り、合目的な運動を行う事が可能である。本講では、ヒトがなぜ合目的に運動ができるかをテーマに、前半では、ヒトにおける身体運動の原理・原則および特徴について、特に動作における運動パターンの形成に関する原理やコストの観点から捉えることを中心に、後半では随意運動のできる仕組みやその異常機能について神経制御理論を中心に幅広く話題を提供し、双方向型の授業を展開する。 【学習の到達目標】 ヒトの運動制御における基本的原理を説明出来るようになること。また、現在必要とされている研究課題を理解し、自らの研究に活かせること。 【成績評価方法】 講義中の取り組み 50%、課題への取り組み 50% 【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。 提示された課題に関する英語論文を読み、理解しておくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ヒトの身体運動の原理・原則を知ること、医療系、福祉系の専門領域を深めるために基礎を固めることができる。 ヒトの正常な運動制御機構に関する知識の習得ばかりでなく、不随運動のメカニズムについての基礎知識も習得することができる。 【実務家教員担当科目】 病院等で実務経験のある教員が、臨床で観察される病態との関係性を説明しながら、理解を促す。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤澤 宏幸	運動発現の原理 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
2	藤澤 宏幸	運動発現の原理 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
3	藤澤 宏幸	関節運動の原理 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
4	藤澤 宏幸	関節運動の原理 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
5	藤澤 宏幸	関節運動の原理 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
6	藤澤 宏幸	運動形成論 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
7	藤澤 宏幸	運動形成論 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
8	藤澤 宏幸	協調運動 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
9	藤澤 宏幸	協調運動 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
10	藤澤 宏幸	運動学習理論 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
11	藤澤 宏幸	運動学習理論 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
12	藤澤 宏幸	日常生活活動における各種の動作 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
13	藤澤 宏幸	日常生活活動における各種の動作 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
14	藤澤 宏幸	日常生活活動における各種の動作 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
教 科 書	特に指定なし				
参 考 書	基礎運動学（中村隆一、斎藤宏、長崎浩著、医歯薬出版） 臨床運動学（中村隆一、斎藤宏、長崎浩著、医歯薬出版） 日常生活活動の分析（藤澤宏幸、医歯薬出版）				
備 考	質問・問い合わせ先：科目責任者				

科 目 名	運動生理学特論			担 当 者	○藤澤 宏幸・鈴木 誠
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4210
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 運動に対する生理学的応答を教授する。特に、呼吸循環応答を中心に、体温調節、体液調節を含め、基本的な知識を整理する。また、最新のトピックスについても紹介し、身体運動学と共に幅広い視野を身に付けてもらう。				【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。	
【学習の到達目標】 運動に対する生体の応答について説明できるようになること。また、現在の研究課題について理解し、自らの研究に活かせること。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。	
【成績評価方法】 講義中の取り組み 50%、課題への取り組み 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 運動に対する生理学的応答の知識が深まり、研究にとどまらず臨床における病態の理解にも役立つ。	
【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として実務経験のある教員が、臨床で観察される病態との関連性を説明しながら理解を促す。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間	
				予習・復習	学修時間
1	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動時の循環調節：自律神経活動、心拍数、一回拍出量、心拍出量、刺激伝導系、血圧、末梢血管		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
2	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動時の呼吸調節：呼吸数、一回換気量、分時換気量、死腔、無酸素性閾値		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
3	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動時の体温調節：Core temperature、shell temperature、皮膚血流		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
4	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動と血液		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
5	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動とエネルギー代謝 1		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
6	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動とエネルギー代謝 2		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
7	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動と免疫機能 1		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
8	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動と免疫機能 2		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
9	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動とホルモン調節 1		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
10	藤澤 宏幸 鈴木 誠	運動とホルモン調節 2		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
11	藤澤 宏幸 鈴木 誠	環境に対する適応：高温環境		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
12	藤澤 宏幸 鈴木 誠	環境に対する適応：低温環境		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
13	藤澤 宏幸 鈴木 誠	環境に対する適応：水中環境		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
14	藤澤 宏幸 鈴木 誠	環境に対する適応：高所		予習：事前学習課題 復習：授業内容	
教 科 書	特になし				
参 考 書	特になし				
備 考	質問・問い合わせ先：科目責任者				

科 目 名		数値解析法		担 当 者		藤澤 宏幸	
科目ナンバリング						常勤	
D P				教員研究室		4210	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次		1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当する	
【授業内容】 デジタル信号処理の基礎を学び、それを実現するためのプログラミングを学ぶ。特に、身体運動学分野の研究データに対する解析方法を中心とし、計測から解析まで一貫して実験系を組み立てられるように指導する。				【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。			
【学習の到達目標】 身体運動学、運動生理学で用いる基本的データ解析を自ら開発したプログラムで処理できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。			
【成績評価方法】 講義中の取り組み 50%、課題の内容 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 デジタル信号処理とプログラミングを学ぶことにより、研究の遂行能力を高めることが可能となる。他研究者の論文におけるデータ解析の詳細について検討できるようになる。			
【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として実務経験のある教員が、臨床研究におけるデータの扱いを含めて教授する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間			
				予習・復習			学修時間
1	藤澤 宏幸	SI 単位系		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
2	藤澤 宏幸	アナログ信号とデジタル信号		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
3	藤澤 宏幸	A/D 変換		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
4	藤澤 宏幸	デジタルフィルタ		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
5	藤澤 宏幸	周波数解析		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
6	藤澤 宏幸	筋電図解析		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
7	藤澤 宏幸	運動データの解析		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
8	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：データの扱い		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
9	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：代入文		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
10	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：for 文を用いた繰り返しの計算		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
11	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：簡単な統計解析		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
12	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：グラフィック		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
13	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：時系列データの処理 1		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
14	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：時系列データの処理 2		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
15	藤澤 宏幸	プログラミングの基礎：時系列データの処理 3		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
16	藤澤 宏幸	プログラミング実践 1		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
17	藤澤 宏幸	プログラミング実践 2		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
18	藤澤 宏幸	プログラミング実践 3		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
19	藤澤 宏幸	プログラミング実践 4		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
20	藤澤 宏幸	プログラミング実践 5		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
21	藤澤 宏幸	プログラミング実践 6		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
22	藤澤 宏幸	プログラミング実践 7		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
23	藤澤 宏幸	プログラミング実践 8		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
24	藤澤 宏幸	プログラミング実践 9		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
25	藤澤 宏幸	プログラミング実践 10		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
26	藤澤 宏幸	プログラミング実践 11		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
27	藤澤 宏幸	プログラミング実践 12		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
28	藤澤 宏幸	プログラミング実践 13		予習：事前学習課題	復習：授業内容		
教 科 書		内山靖、他編著：計測法入門。協同医書出版					
参 考 書		特になし					
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者					

科 目 名		運動・動作分析セミナー		担 当 者	○藤澤 宏幸・村上 賢一	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	4210	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディバート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する	
【授業内容】 身体運動学特論で学んだ知識を基に、実際に身体運動の計測並びに身体運動時の生体内観測を行う。身体計測は、単純な単関節運動から複雑な多関節運動の運動学的計測法を演習し、特に基本的な日常生活活動の運動計測を重点的に行う。運動時の生体内観測として、反応時間、誘発筋電図をもちい、そこから得られる様々な生体信号を観察し、生理学的解釈について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。		
【学習の到達目標】 身体運動の計測および解析を自ら実施できるようになること。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。 関連項目の英語論文を検索し、目を通しておくこと。		
【成績評価方法】 講義中の取り組み 50%・課題への取り組み 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体運動の分析に必要な計測を行うことで、研究遂行能力を高めることができる。 運動時の生体信号から生理学的解釈の仕方を学び、正常機能と異常機能の把握ができるようになる。		
				【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として実務経験のある教員が、臨床における応用を含めて教授する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習		学修時間
1	藤澤 宏幸	単関節運動（肘関節屈伸運動）1：電気角度計、筋電計による計測と解析		予習：事前課題	復習：授業内容	
2	藤澤 宏幸	単関節運動（肘関節屈伸運動）2：電気角度計、筋電計による計測と解析		予習：事前課題	復習：授業内容	
3	藤澤 宏幸	単関節運動（肘関節屈伸運動）3：電気角度計、筋電計による計測と解析		予習：事前課題	復習：授業内容	
4	藤澤 宏幸	反応時間 1：力－時間曲線の解析、ロードセル		予習：事前課題	復習：授業内容	
5	藤澤 宏幸	反応時間 2：力－時間曲線の解析、ロードセル		予習：事前課題	復習：授業内容	
6	藤澤 宏幸	反応時間 3：力－時間曲線の解析、ロードセル		予習：事前課題	復習：授業内容	
7	藤澤 宏幸	Silent period の計測と解析 1		予習：事前課題	復習：授業内容	
8	藤澤 宏幸	Silent period の計測と解析 2		予習：事前課題	復習：授業内容	
9	藤澤 宏幸	Silent period の計測と解析 3		予習：事前課題	復習：授業内容	
10	藤澤 宏幸 村上 賢一	ブレ・プログラム反応の計測と解析 1：圧センサ、筋電計		予習：事前課題	復習：授業内容	
11	藤澤 宏幸 村上 賢一	ブレ・プログラム反応の計測と解析 2：圧センサ、筋電計		予習：事前課題	復習：授業内容	
12	藤澤 宏幸 村上 賢一	ブレ・プログラム反応の計測と解析 3：圧センサ、筋電計		予習：事前課題	復習：授業内容	
13	藤澤 宏幸	運動軌道の最適性 1：リーチ動作		予習：事前課題	復習：授業内容	
14	藤澤 宏幸	運動軌道の最適性 2：リーチ動作		予習：事前課題	復習：授業内容	
15	藤澤 宏幸	運動軌道の最適性 3：リーチ動作		予習：事前課題	復習：授業内容	
16	藤澤 宏幸	立ち上がり動作の解析 1：3 次元運動解析装置		予習：事前課題	復習：授業内容	
17	藤澤 宏幸	立ち上がり動作の解析 2：3 次元運動解析装置		予習：事前課題	復習：授業内容	
18	藤澤 宏幸	立ち上がり動作の解析 3：3 次元運動解析装置		予習：事前課題	復習：授業内容	
19	藤澤 宏幸	片脚立位保持における運動制御 1：床反力計、筋電図、電気角度計		予習：事前課題	復習：授業内容	
20	藤澤 宏幸	片脚立位保持における運動制御 2：床反力計、筋電図、電気角度計		予習：事前課題	復習：授業内容	
21	藤澤 宏幸	片脚立位保持における運動制御 3：床反力計、筋電図、電気角度計		予習：事前課題	復習：授業内容	
22	藤澤 宏幸	歩行解析 1		予習：事前課題	復習：授業内容	
23	藤澤 宏幸	歩行解析 2		予習：事前課題	復習：授業内容	
24	藤澤 宏幸	歩行解析 3		予習：事前課題	復習：授業内容	
25	藤澤 宏幸 村上 賢一	反応時間 1：単純反応時間、選択反応時間、刺激種類		予習：事前課題	復習：授業内容	
26	藤澤 宏幸 村上 賢一	反応時間 2：単純反応時間、選択反応時間、刺激種類		予習：事前課題	復習：授業内容	
27	藤澤 宏幸 村上 賢一	反応時間 3：単純反応時間、選択反応時間、刺激種類		予習：事前課題	復習：授業内容	
28	藤澤 宏幸 村上 賢一	誘発筋電図 1：H－反射法、脊髄内の抑制機構の観察		予習：事前課題	復習：授業内容	
教 科 書		特になし				
参 考 書		特になし				
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者				

科 目 名	体力評価セミナー			担 当 者	藤澤 宏幸
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4210
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 運動生理学特論で学習した内容を、演習をとおして理解を深める。運動に対する生理学的応答の測定をとおして、特に呼吸循環応答を中心に、体温調節、体液調節を含めて学習する。				【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。	
【学習の到達目標】 運動に対する生体応答を自ら計測し、また解析できるようになること。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。	
【成績評価方法】 講義の取り組み 50%・課題への取り組み 50%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士として実務経験のある教員が、臨床で観察される病態を含めて説明する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
2	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
3	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における呼吸循環応答 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
4	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における呼吸循環応答 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
5	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における漸増負荷時の血中乳酸値の測定 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
6	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における漸増負荷時の血中乳酸値の測定 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
7	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における漸増負荷時の血中乳酸値の測定 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
8	藤澤 宏幸	トレッドミル歩行における漸増負荷時の血中乳酸値の測定 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
9	藤澤 宏幸	自転車エルゴメータでの一定負荷に対する呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
10	藤澤 宏幸	自転車エルゴメータでの一定負荷に対する呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
11	藤澤 宏幸	自転車エルゴメータでの一定負荷に対する呼吸循環応答 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
12	藤澤 宏幸	自転車エルゴメータでのランプ負荷に対する呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
13	藤澤 宏幸	自転車エルゴメータでのランプ負荷に対する呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
14	藤澤 宏幸	自転車エルゴメータでのランプ負荷に対する呼吸循環応答 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
15	藤澤 宏幸	階段昇降における呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
16	藤澤 宏幸	階段昇降における呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
17	藤澤 宏幸	階段昇降における呼吸循環応答 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
18	藤澤 宏幸	階段昇降における呼吸循環応答 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
19	藤澤 宏幸	免荷歩行における呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
20	藤澤 宏幸	免荷歩行における呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
21	藤澤 宏幸	免荷歩行における呼吸循環応答 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
22	藤澤 宏幸	杖歩行における呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
23	藤澤 宏幸	杖歩行における呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
24	藤澤 宏幸	杖歩行における呼吸循環応答 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
25	藤澤 宏幸	各種体操における呼吸循環応答 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
26	藤澤 宏幸	各種体操における呼吸循環応答 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
27	藤澤 宏幸	クリティカル・フォースの測定 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
28	藤澤 宏幸	クリティカル・フォースの測定 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容	
教 科 書	特になし				
参 考 書	特になし				
備 考	質問・問い合わせ先：科目責任者				

科 目 名		理学療法総合特別講義		担 当 者	○藤澤 宏幸・小林 武 黒後 裕彦・鈴木 誠	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	4210	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 理学療法の専門的知識と技術の応用性について考察研究を行う。理学療法は、疾病や障害を負った者の身体機能の回復だけを目標とした介入手段ではなく、予防を目的とした介入方法でもある。また、理学療法は身体機能と生活環境及び社会環境との整合や適合についても理論的に関連付けることができる。本講義では、リハビリテーション医療及び健康増進に関する理学療法効果について、文献的考察から研究法と効果の実証を学習する。教育研究領域として evidence based practice（EBP）に関する基本概念と検証法及び理学療法の社会的役割や職域的ニーズなど広範な問題を対象とする。授業形態は、論文及び書籍の検索と講義を交えて行う。 【学習の到達目標】 EBP の基本を理解し、理学療法に関する活用について説明できること。 【成績評価方法】 講義中の取り組み 50%・課題への取り組み 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	藤澤 宏幸	Evidence Based Practice（EBP）と理学療法 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
2	藤澤 宏幸	Evidence Based Practice（EBP）と理学療法 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
3	藤澤 宏幸	Evidence Based Practice（EBP）と理学療法 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
4	藤澤 宏幸	Evidence Based Practice（EBP）と理学療法 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
5	小林 武	神経筋系障害理学療法の効果検証 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
6	小林 武	神経筋系障害理学療法の効果検証 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
7	小林 武	神経筋系障害理学療法の効果検証 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
8	小林 武	神経筋系障害理学療法の効果検証 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
9	鈴木 誠	発達系障害理学療法の効果検証 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
10	鈴木 誠	発達系障害理学療法の効果検証 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
11	鈴木 誠	発達系障害理学療法の効果検証 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
12	鈴木 誠	発達系障害理学療法の効果検証 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
13	小林 武	筋骨格系障害理学療法の効果検証 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
14	小林 武	筋骨格系障害理学療法の効果検証 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
15	小林 武	筋骨格系障害理学療法の効果検証 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
16	小林 武	筋骨格系障害理学療法の効果検証 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
17	藤澤 宏幸	呼吸循環器系障害理学療法の効果検証 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
18	藤澤 宏幸	呼吸循環器系障害理学療法の効果検証 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
19	藤澤 宏幸	呼吸循環器系障害理学療法の効果検証 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
20	藤澤 宏幸	呼吸循環器系障害理学療法の効果検証 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
21	黒後 裕彦	地域理学療法の効果検証 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
22	黒後 裕彦	地域理学療法の効果検証 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
23	黒後 裕彦	地域理学療法の効果検証 3	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
24	黒後 裕彦	地域理学療法の効果検証 4	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
25	黒後 裕彦	健康管理介入理学療法の効果検証 1	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
26	黒後 裕彦	健康管理介入理学療法の効果検証 2	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
27	黒後 裕彦	社会制度や行政と理学療法	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
28	黒後 裕彦	理学療法産業の開発	予習：事前学習課題	復習：授業内容		
教 科 書		特になし				
参 考 書		特になし				
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者または授業担当者				

科 目 名		作業療法学特論		担 当 者	○王 治文・大黒 一司 本多ふく代・北川 公路	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	3205	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 本講義では、作業療法の哲学、歴史について解説し、実践において先人たちが築いてきた作業療法の理念、主張及び原理原則を学習する機会とする。講義および文献・書籍の輪読を通して学生は人・作業・環境の関係の中で作業療法の視点を学び、作業療法士としての自らの位置を作業療法学体系のなかで再確認する。本講義を通して作業療法学に関する基礎的なバックボーンを育成する作業療法の実践の意義への理解を促す。 【学習の到達目標】 1. 学生は人・作業・環境の関係の中で作業療法の視点を学び、作業療法士としての自らの位置を作業療法学体系のなかで再確認する。 2. 本講義を通して作業療法学に関する基礎的なバックボーンを育成する作業療法の実践の意義への理解を促す。 【成績評価方法】 参加態度及び授業への取り組み状況により総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 授業中随時質問を受け付けし、ディスカッションを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 積極的な態度で参加することが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 1. 学生は人・作業・環境の関係の中で作業療法の視点を学び、作業療法士としての自らの位置を作業療法学体系のなかで再確認できる。 2. 本講義を通して作業療法学に関する基礎的なバックボーンを育成する作業療法の実践の意義への理解を深めることができる。 【実務家教員担当科目】 臨床および研究両方経験のある教員は経験に基づき、研究における一連の過程について説明し、作業療法の臨床研究の進み方について紹介する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習		学修時間
1	王	オリエンテーション		特になし		
2	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 1		配布資料の熟読		
3	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 2		配布資料の熟読		
4	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 3		配布資料の熟読		
5	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 4		配布資料の熟読		
6	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 5		配布資料の熟読		
7	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 6		配布資料の熟読		
8	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 7		配布資料の熟読		
9	王, 他	作業療法の歴史と先人たちの主張研究 8		配布資料の熟読		
10	王, 他	人間と作業の分析		配布資料の熟読		
11	王, 他	人間の諸状態（機能）と作業療法の働きかけ		配布資料の熟読		
12	王, 他	人と作業および環境の相互関係		配布資料の熟読		
13	王, 他	作業療法の進化		配布資料の熟読		
14	王, 他	まとめ		配布資料の熟読		
教 科 書		必要に応じて資料を配布する				
参 考 書		必要に応じて紹介する				
備 考		他教員と共同担当する場合はある 本科目に関する問い合わせ先：科目責任者 王治文				

科 目 名		作業療法学専門特論		担 当 者	○王 治文・大黒 一司 本多ふく代・北川 公路	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	3205	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 作業療法は身体障害、知的障害、精神障害を対象とし、新生児期から老年期・終末期に至るまでの全生涯にわたり、医療、保健、福祉、家庭、地域、学校、職場のあらゆる領域で活動が展開されている。本講義は作業療法をはじめ各領域の専門教員が、自分の専門領域における研究の紹介とともに、作業療法が各領域での実践について講義する。講義内容に基づく考察・議論を通して、作業療法各専門領域の今日の課題を明らかにするとともに、その展開の方向性を探求する。				【課題等のフィードバック方法】 授業中随時質問を受け付けし、ディスカッションを行う。		
【学習の到達目標】 講義内容に基づく考察・議論を通して、作業療法各専門領域の今日の課題を明らかにするとともに、その展開の方向性を探求する。				【履修上の注意・予習・復習について】 積極的な態度で参加することが望ましい。		
【成績評価方法】 参加態度及び授業への取り組み状況により総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 講義内容に基づく考察・議論を通して、作業療法各専門領域の今日の課題を明らかにするとともに、その展開の方向性を探求できる。		
【実務家教員担当科目】 臨床および研究両方経験のある教員は経験に基づき、研究における一連の過程について説明し、作業療法の臨床研究の進み方について紹介する。						

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	王	オリエンテーション	特になし		
2	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 1	配布資料の熟読		
3	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 2	配布資料の熟読		
4	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 3	配布資料の熟読		
5	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 4	配布資料の熟読		
6	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 5	配布資料の熟読		
7	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 6	配布資料の熟読		
8	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 7	配布資料の熟読		
9	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 8	配布資料の熟読		
10	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 9	配布資料の熟読		
11	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 10	配布資料の熟読		
12	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 11	配布資料の熟読		
13	王, 他	作業療法各専門領域での研究実践 12	配布資料の熟読		
14	王, 他	今後作業療法における研究実践の展開・まとめ	配布資料の熟読		
教 科 書		必要に応じて資料を配布する			
参 考 書		必要に応じて紹介する			
備 考		他教員と共同担当する場合はある 本科目に関する問い合わせ先：科目責任者 王治文			

科 目 名		作業療法研究方法論		担 当 者	○西澤 王 哲・大黒 一司 治文	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	3212	
学 科 (専攻)		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 研究と分析の総論(研究デザインなど)と各論(作業療法各分野における研究手法、バッテリー、分析方法など)について講義する				【課題等のフィードバック方法】 毎回のテーマについての議論		
【学習の到達目標】 作業療法学研究の様々な分野における研究方法を習得する。この習得の基礎知識となる研究(計測や調査、実験)における基礎知識を得る				【履修上の注意・予習・復習について】 統計学的検定の基礎知識をもっていることが望ましい		
【成績評価方法】 出席状況、レポート				【受講して得られる効果・メリット、その他】 本科目で学ぶ研究・分析の基礎論や具体的な方法論等が、研究計画書作成につながる		
				【実務家教員担当科目】 該当なし		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習		学修時間
1	西澤	研究方法のありかたと本授業との関係		配布資料を復習		
2	西澤	研究における妥当性について		配布資料を復習		
3	王	研究デザインの概念 - 調査的研究 -		配布資料を復習		
4	西澤	研究デザインの概念 - 実験的研究 -		配布資料を復習		
5	王・西澤	テストバッテリーについて		配布資料を復習		
6	王・西澤	研究計画書について		配布資料を復習		
7	王	各論		配布資料を復習		
8	王	各論		配布資料を復習		
9	西澤	各論		配布資料を復習		
10	西澤	各論		配布資料を復習		
11	藤原	各論		配布資料を復習		
12	本多	各論		配布資料を復習		
13	佐直	各論		配布資料を復習		
14	西澤	ヒュームの環 - まとめにかえて -		配布資料を復習		
教 科 書		とくになし				
参 考 書		必要に応じて授業中に紹介する				
備 考		とくになし				

科 目 名		作業療法研究実践論			担 当 者	○王 治文・大黒 一司 西澤 哲	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教員研究室		3205
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次		1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位		選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 研究疑問を具体化するには、研究計画書の作成は欠かせないことである。また、明らかにしようとするテーマを客観的に検証するには、検証ツールとして統計学的手法の習得が必要である。学生は研究計画書の作成演習を通して、研究計画の立て方や研究の過程と手順を学ぶ。また作業療法研究領域で遭遇する具体例を提示しながら、各種の統計手法についてパソコンの統計解析ソフトを用いて学習する。評価方法の検証演習を通して、統計学的手法の意味および研究の実践方法について理解を深める。					【課題等のフィードバック方法】 随時質問を受け付けし、ディスカッションを行う。		
【学習の到達目標】 1. 研究計画書の作成演習を通して、研究計画の立て方や研究の過程と手順を学ぶ。 2. 作業療法研究領域で遭遇する具体例を提示しながら、各種の統計手法についてパソコンの統計解析ソフトを用いて学習する。 3. 評価方法の検証演習を通して、統計学的手法の意味および研究の実践方法について理解を深める。					【履修上の注意・予習・復習について】 積極的な態度で参加することおよび授業内容の復習が望ましい。		
【成績評価方法】 参加態度及びレポートにより総合的に評価する。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 研究計画書の作成演習を通して、研究計画の立て方や研究の過程と手順を学び、各種の統計手法についてパソコンの統計解析ソフトを用いて学習できる。また、評価方法の検証演習を通して、統計学的手法の意味および研究の実践方法について理解を深めることができる。		
【実務家教員担当科目】 臨床および研究両方経験のある教員は経験に基づき、研究における一連の過程について説明し、研究計画書の作成等を指導する。また、作業療法の臨床研究の進み方について紹介する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	王, 大黒, 西澤	評価測定の基本的概念	授業内容の復習				
2	王, 大黒, 西澤	研究計画の立て方 (1)	授業内容の復習				
3	王, 大黒, 西澤	研究計画の立て方 (2)	授業内容の復習				
4	大黒, 王, 西澤	評価方法の選択 (1)	授業内容の復習				
5	大黒, 王, 西澤	評価方法の選択 (2)	授業内容の復習				
6	大黒, 王, 西澤	データ収集について (1)	授業内容の復習				
7	大黒, 王, 西澤	データ収集について (2)	授業内容の復習				
8	王, 大黒, 西澤	データ処理について (1)	授業内容の復習				
9	王, 大黒, 西澤	データ処理について (2)	授業内容の復習				
10	西澤, 大黒, 王	データの統計的手法による解析 (1)	授業内容の復習				
11	西澤, 大黒, 王	データの統計的手法による解析 (2)	授業内容の復習				
12	西澤, 大黒, 王	データの統計的手法による解析 (3)	授業内容の復習				
13	大黒, 西澤, 王	評価方法の検証	授業内容の復習				
14	王, 大黒, 西澤	まとめ	授業内容の復習				
教 科 書		必要に応じて資料を配布する					
参 考 書		必要に応じて紹介する					
備 考		他教員と共同担当する場合はある 本科目に関する問い合わせ先：科目責任者 王治文					

科 目 名		障害科学論			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	3211
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本講では障害科学の研究方法について学ぶ。授業は課題に関する文献の検索、抄読を行う。学生の研究テーマに関連する文献についても紹介し、研究内容と合わせて検討する。そのため、授業は学生が主体になり進められ、教員と議論することに積極的に参加することを期待する。 また、障害モデルの変遷と生活機能分類（ICF）について学習する。 【学習の到達目標】 障害科学研究に関する方法論を理解できる 【成績評価方法】 課題遂行状況 100% 【課題等のフィードバック方法】 講義の中で適時行う 【履修上の注意・予習・復習について】 指定する文献を事前に学習する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 障害科学に関する研究について学び、修士論文作成のための研究に繋げる 【実務家教員担当科目】 作業療法士として障害者のリハビリテーションを実践した						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	大黒 一司	障害科学とは	復習：授業の資料を復習する			
2	大黒 一司	総合科学としての障害科学	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
3	大黒 一司	融合科学としての障害科学	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
4	大黒 一司	障害研究をめぐって	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
5	大黒 一司	障害科学の研究法 ・研究法の基礎	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
6	大黒 一司	障害科学の研究法 ・研究倫理	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
7	大黒 一司	障害科学の研究法 ・研究の展開	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
8	大黒 一司	障害科学の研究法 ・文献研究 1	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
9	大黒 一司	障害科学の研究法 ・文献研究 2	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
10	大黒 一司	障害科学の研究法 ・質的研究法 1	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
11	大黒 一司	障害科学の研究法 ・質的研究法 2	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
12	大黒 一司	障害科学の研究法 ・単一事例研究法	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
13	大黒 一司	現代の障害観 ・障害モデルの変遷と生活機能分類	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
14	大黒 一司	まとめ	予習：事前配布資料を読む 復習：授業内容を復習する			
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		授業に関する問い合わせ：大黒一司（3211 研究室）				

科 目 名	作業療法研究方法セミナー			担 当 者	大黒 一司
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	3211
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 研究疑問、研究動機を明確にし修士論文作成に向けた準備を開始します。学生が自分の興味ある研究に関する先行研究（文献）を読み、その内容について紹介します。文献の紹介は批判的吟味を充分に行い参加者に分かりやすいように行うことが望まれます。また、紹介した文献に関連する事項についても理解し説明することが求められます。				【課題等のフィードバック方法】 講義に適時行う。	
【学習の到達目標】 学生が進める研究に参考になる文献を紹介し、研究に活用できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 修士論文に参考となる文献を紹介する。文献抄読の際には、関連する文献についても学習して臨むこと。	
【成績評価方法】 課題（文献抄読）発表状況（50％）、課題遂行状況（50％）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 修士論文の参考にできる。	
				【実務家教員担当科目】 作業療法士として臨床を通した研究活動を実施している。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間	
				予習・復習	学修時間
1	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
2	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
3	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
4	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
5	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
6	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
7	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
8	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
9	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
10	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
11	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
12	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
13	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
14	大黒 一司 他	修士論文の参考となる文献抄読と考察		紹介する文献を理解し要点をまとめる。	
教 科 書		特になし			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考		授業には大学院の受講生や教員が参加する。			

科 目 名		作業療法研究実践セミナー		担 当 者	○王 治文・大黒 一司 西澤 哲	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	3205	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 作業療法研究実践を進めることに当たり、データの解析方法を習得することは必須である。本セミナーは1年後期で開講する作業療法研究実践論で習得した内容を具体的に実践するとの位置づけで、学生はデータ収集を行った後、収集したデータを統計的手法で解析を行い、結果を検証する一連の過程を経験する。この一連の過程を通して、学生は作業療法研究に対する理解を深める。 【学習の到達目標】 学生はデータ収集を行った後、収集したデータを統計的手法で解析を行い、結果を検証する一連の過程を経験する。 【成績評価方法】 参加態度及び授業への取り組み状況、成果発表により総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 授業中随時質問を受け付けし、ディスカッションを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 積極的な態度で参加することが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 学生はデータ収集、解析、結果を検証する一連の過程を通して、作業療法研究に対する理解を深めることができる。 【実務家教員担当科目】 臨床および研究両方経験のある教員は経験に基づき、研究における一連の過程について説明し、進み方について指導する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
2	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
3	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
4	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
5	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
6	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
7	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
8	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
9	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
10	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
11	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
12	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
13	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
14	王, 大黒, 西澤	1. データ収集演習 2. データ解析演習	今までの学習内容			
教 科 書		必要に応じて資料を配布する				
参 考 書		必要に応じて紹介する				
備 考		他教員と共同担当する場合はある 本科目に関する問い合わせ先：科目責任者 王治文				

科 目 名		言語聴覚学研究法Ⅰ			担 当 者	○藤原加奈江・高卓 輝 柴田 寛
科目ナンバリング						常勤
D P					教 員 研 究 室	1428
学 科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の評価法及び治療、訓練、支援法について学ぶ。					【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション及びレポートへのフィードバックにより行う。	
【学習の到達目標】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の評価法及び治療、訓練、支援法について概要を説明できる。					【履修上の注意・予習・復習について】 各教員の指示に従う。	
【成績評価方法】 プレゼンテーション 50% レポート 50%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚障害学各領域の評価法及び訓練法の知識を整理できる。	
					【実務家教員担当科目】 各領域で臨床経験を有する教員が講義する。	
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	聴覚障害領域の評価法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる。			
2	高卓 輝	聴覚障害領域の評価法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
3	高卓 輝	聴覚障害領域の治療・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
4	高卓 輝	聴覚障害領域の治療・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
5	未定	音声障害の評価・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
6	藤原加奈江	失語症領域の評価法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
7	藤原加奈江	失語症領域の治療・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
8	藤原加奈江	失語症領域の治療・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
9	藤原加奈江	失語症領域の治療・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
10	未定	構音障害領域の治療・訓練法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
11	藤原加奈江	言語発達障害の評価法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
12	藤原加奈江	言語発達障害の評価法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
13	藤原加奈江	言語発達障害の訓練・支援法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
14	藤原加奈江	言語発達障害の訓練・支援法	予習：予定資料をあらかじめ読んでおく。 復習：学んだ知識をまとめる			
教 科 書		各教員が指定する。				
参 考 書		各教員が指定する。				
備 考		講義スケジュールに関する質問は藤原まで。				

科 目 名		言語聴覚学研究法Ⅱ			担 当 者	○藤原加奈江・高卓 輝
科目ナンバリング						常勤
D P					教 員 研 究 室	1428
学 科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の新しい検査や評価法及び治療、訓練、支援法を学ぶ。						【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション及びレポートを通してフィードバックする。
【学習の到達目標】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の新しい検査や評価法及び治療、訓練、支援法を説明できる。						【履修上の注意・予習・復習について】 各教員の指示に従う。
【成績評価方法】 ディスカッション 10%、プレゼンテーション及びレポート 90%						【受講して得られる効果・メリット、その他】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の新しい検査や評価法及び治療、訓練、支援法を理解し新しい評価法や支援法の開発の基礎を築くことができる。
						【実務家教員担当科目】 各領域で臨床経験を有する教員が講義を行う。
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
2	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
3	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
4	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
5	未定		予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
6	藤原加奈江	失語症・高次脳機能障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
7	藤原加奈江	失語症・高次脳機能障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
8	藤原加奈江	失語症・高次脳機能障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
9	長谷川賢一		予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
10	長谷川賢一		予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
11	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
12	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
13	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
14	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
教 科 書		各教員の指示に従う。				
参 考 書		各教員の指示に従う。				
備 考		講義スケジュールについての質問は藤原まで。				

科 目 名		言語聴覚学臨床技術Ⅰ		担 当 者	○藤原加奈江・高卓 輝	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1428	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30時間	単 位	選択 2単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 言語聴覚障害学Ⅰで学習した聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、言語発達障害などそれぞれの領域の最近の研究について学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション及びレポートをとおしてフィードバックする。		
【学習の到達目標】 1. 各領域の最近の動向を理解できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 授業で紹介された文献を読み要約集を作成する。		
【成績評価方法】 ディスカッション 10%、レポート 90%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語聴覚障害学各領域の最近の動向を広く知ることができる。		
				【実務家教員担当科目】 各領域の臨床経験を有する教員が講義を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	高卓 輝	聴覚障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
2	高卓 輝	聴覚障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
3	高卓 輝	聴覚障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
4	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：領域のテキストを読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
5	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
6	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
7	藤原加奈江	失語症学の最近の研究	予習：領域のテキストを読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
8	未定	音声障害の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
9	未定	構音障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
10	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
11	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
12	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
13	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
14	藤原加奈江	高次脳機能障害学の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
15	藤原加奈江	言語発達障害（知的障害）の最近の研究	予習：領域のテキストを読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
16	藤原加奈江	言語発達障害（知的障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
17	藤原加奈江	言語発達障害（知的障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
18	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
19	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
20	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
21	藤原加奈江	言語発達障害（特異的言語発達障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
22	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
23	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
24	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
25	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
26	藤原加奈江	言語発達障害（自閉症スペクトラム）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
27	藤原加奈江	言語発達障害（読み書き障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
28	藤原加奈江	言語発達障害（読み書き障害）の最近の研究	予習：予定されている資料を読んでおく。 復習：授業で紹介された文献を読み、要約集を作成する。			
教 科 書		各教員が指示。				
参 考 書		各教員が指示。				
備 考		講義スケジュールについての質問は藤原まで。				

科 目 名		言語聴覚学臨床技術Ⅱ		担 当 者	○藤原加奈江・高卓 輝	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1428	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の新しい検査や評価法及び治療、訓練、支援法を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーション及びレポートを通してフィードバックする。		
【学習の到達目標】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の新しい検査や評価法及び治療、訓練、支援法を説明できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 各教員の指示に従う。		
【成績評価方法】 ディスカッション 10%、プレゼンテーション及びレポート 90%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など言語聴覚障害各領域の新しい検査や評価法及び治療、訓練、支援法を理解し新しい評価法や支援法の開発の基礎を築くことができる。		
				【実務家教員担当科目】 各領域で臨床経験を有する教員が講義を行う。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
2	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
3	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
4	高卓 輝	聴覚障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
5	未定		予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
6	藤原加奈江	失語症・高次脳機能障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
7	藤原加奈江	失語症・高次脳機能障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
8	藤原加奈江	失語症・高次脳機能障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
9	長谷川賢一		予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
10	長谷川賢一		予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
11	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
12	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
13	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
14	藤原加奈江	言語発達障害	予習：予定資料を読んでおく。 復習：学んだことを整理し、考察を加える。			
教 科 書		各教員の指示に従う。				
参 考 書		各教員の指示に従う。				
備 考		講義スケジュールについての質問は藤原まで。				

科 目 名		言語聴覚学臨床技術Ⅲ		担 当 者	○藤原加奈江・高卓 輝	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1428	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 体外循環に焦点を当てて教授する。				【課題等のフィードバック方法】 課題を返却しフィードバックする。		
【学習の到達目標】 様々な循環不全患者の疾患・原因に対応した体外循環を説明・実践できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 基礎的な生理学および循環器疾患について予習しておく。		
【成績評価方法】 講義への取り組み（50%） 課題への取り組み（50%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 心臓手術や集中治療室に欠かせない装置について知識を得ることができる。		
				【実務家教員担当科目】 人工心肺装置等を実践した臨床工学技士が担当する。		

科 目 名		心理言語学研究			担 当 者	柴田 寛
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	1413
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 言語の理解や表出などの処理過程を解明するための認知心理学的、認知神経科学的な研究について学ぶ。文献の内容を発表してレポートしてまとめることを通じて、言語処理の心理的過程を研究するための方法を考える力を身につける。 【学習の到達目標】 1. ヒトの言語処理を認知心理学的、脳科学的観点から分析的に理解できる 2. ヒトの言語処理の心理的過程を解明するための研究手法を考えることができる 【成績評価方法】 プレゼンテーション 50%、レポート 50% 【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーションおよびレポートに対してコメントを行う 【履修上の注意・予習・復習について】 取り上げる文献の内容や研究手法についてまとめてもらう。また、その内容を発表したりレポートとしてまとめて提出してもらう。授業で取り上げる文献やまとめる観点などは受講者の意見を取り入れながら進める。能動的に授業に取り組む姿勢を重視する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 言語処理の心理的過程を解明する研究を展開する際に直接的に役立つ知識を得ることができる。 【実務家教員担当科目】 心理学領域の研究、臨床（心理検査）の実務経験を持つ教員が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	柴田 寛	オリエンテーション、言語処理の認知心理学的理解	授業の進め方を説明する。授業で紹介された文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。			
2	柴田 寛	言語処理の認知心理学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
3	柴田 寛	言語処理の認知心理学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
4	柴田 寛	言語処理の認知心理学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
5	柴田 寛	言語処理の認知心理学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
6	柴田 寛	言語処理の認知心理学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
7	柴田 寛	言語処理の認知心理学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
8	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
9	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
10	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
11	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
12	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
13	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
14	柴田 寛	言語処理の認知神経科学的理解	予習：予定されている文献を読んでその内容を説明できるようにしておく。 復習：指示された観点到に基づいて内容をまとめる。			
教 科 書		なし				
参 考 書		授業の進行に応じて指示する				
備 考		なし				

科 目 名		地域言語聴覚学			担 当 者	○藤原加奈江・高卓 輝	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教 員 研 究 室	1428	
学 科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 聴覚障害、高次脳機能障害、失語症、言語発達障害など各言語聴覚障害領域での地域連携の実態と課題を学ぶ。					【課題等のフィードバック方法】 レポートを通してフィードバックする。		
【学習の到達目標】 聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、言語発達障害など各言語聴覚障害領域での地域連携の実態と課題を説明でき、今後の対応について具体的な対応策を提示できる。					【履修上の注意・予習・復習について】 各教員の指示に従う。		
【成績評価方法】 ディスカッション 10%、レポート 90%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、言語発達障害など各言語聴覚障害領域での地域連携の実態と課題を理解し、対応策が考えられるようになる。		
					【実務家教員担当科目】 各領域で臨床経験を有する教員が講義を行う。		

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	高卓 輝	聴覚障害領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
2	高卓 輝	聴覚障害領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
3	藤原加奈江	高次脳機能障害領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
4	藤原加奈江	高次脳機能障害領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
5	藤原加奈江	高次脳機能障害領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
6	藤原加奈江	高次脳機能障害領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
7	未定	音声障害領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
8	未定	音声障害領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
9	藤原加奈江	失語症領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
10	藤原加奈江	失語症領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
11	藤原加奈江	言語発達障害領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
12	藤原加奈江	言語発達障害領域の地域連携の実態と課題	予習：資料を前もって読んでおく。 復習：実態と課題をまとめておく。	
13	藤原加奈江	言語発達障害領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
14	藤原加奈江	言語発達障害領域の地域連携の実態と課題	予習：対応策を考えてくる。 復習：対応策についてまとめておく。	
教 科 書		各教員の指示に従う。		
参 考 書		各教員の指示に従う。		
備 考		講義スケジュールについての質問は藤原まで。		

科 目 名		視覚機能眼科学研究法Ⅰ		担 当 者	○坂本 保夫・小野 峰子 辻川 寛
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4205・4202・4203
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位
授 業 形 式		講義</			

科 目 名		視覚機能眼科学研究法Ⅱ			担 当 者	○坂本 保夫・小野 峰子 辻川 寛	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教 員 研 究 室	4205・4202・4203	
学 科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 眼科学・視機能学分野では、幅広い領域にわたる疾患を扱い、眼には様々な組織があり、その研究にも様々な方向（基礎～臨床）から行われている。そこで、「視覚機能眼科学研究法」では、Ⅰ（基礎編・前期）とⅡ（実践編・後期）に分けている。 「Ⅱ」の実践編では、具体的に研究をスタートすることを前提とし、最新の研究論文などを利用して、模擬研究を組み立て、プレゼンテーションを行い、研究法を学修する。					【課題等のフィードバック方法】 レポート課題はコメント、プレゼンテーションはディスカッションにてフィードバックを行う。		
【学習の到達目標】 本分野の研究論文の構成内容を理解し、研究方法を組み立てることができるようになる。					【履修上の注意・予習・復習について】 各担当教員のオフィスアワーを利用して、履修上の相談に来て下さい。		
【成績評価方法】 レポート、プレゼンテーション、ディスカッションなど：100%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学・視機能学の研究を行うための基本的な方法を習得できる。		
【実務家教員担当科目】 該当なし							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習		学修時間		
1	坂本 保夫・小野 峰子・辻川 寛	オリエンテーション／各分野の研究の進め方	視覚機能眼科学研究法Ⅰの復習				
2	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（1）の事前閱讀／復読				
3	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（1）の発表スライド作成／スライドの修正				
4	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（1）の発表原稿・スライドのまとめ				
5	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（2）の事前閱讀／復読				
6	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（2）の発表スライド作成／スライドの修正				
7	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（2）の発表原稿・スライドのまとめ				
8	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（3）の事前閱讀／復読				
9	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（3）の発表スライド作成／スライドの修正				
10	坂本 保夫	眼科医療機器の性能・精度・再現性／眼光学分野／前眼部の生体光学測定／眼鏡・サングラスの特性、等	文献（3）の発表原稿・スライドのまとめ				
11	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（4）の事前閱讀／復読				
12	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（4）の発表スライド作成／スライドの修正				
13	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（4）の発表原稿・スライドのまとめ				
14	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（5）の事前閱讀／復読				
15	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（5）の発表スライド作成／スライドの修正				
16	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（5）の発表原稿・スライドのまとめ				
17	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（6）の事前閱讀／復読				
18	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（6）の発表スライド作成／スライドの修正				
19	辻川 寛	視覚器の解剖・生理／人体の解剖・生理／脊椎動物の比較解剖／人類進化と視機能／霊長類の視機能、等	文献（6）の発表原稿・スライドのまとめ				
20	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（7）の事前閱讀／復読				
21	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（7）の発表スライド作成／スライドの修正				
22	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（7）の発表原稿・スライドのまとめ				
23	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（8）の事前閱讀／復読				
24	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（8）の発表スライド作成／スライドの修正				
25	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（8）の発表原稿・スライドのまとめ				
26	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（9）の事前閱讀／復読				
27	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（9）の発表スライド作成／スライドの修正				
28	小野 峰子	ロービジョンケア／ロービジョンリハビリテーション、等	文献（9）の発表原稿・スライドのまとめ				
教 科 書		特になし。適宜資料を配布する。					
参 考 書		各授業担当教員が推薦する学術雑誌。					
備 考		問合せ：各授業担当教員					

科 目 名	眼光学特論			担 当 者	坂本 保夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4205
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚に関する研究者（眼科医・視能訓練士・眼鏡作製技能士・医療光学機器開発者など）が、眼科学に関する光の動態を基本から学ぼうとしたときに、どこから手をつけていいのか迷う。本講座では眼光学の基本まで言及していきたい。 【学習の到達目標】 幾何光学と波動光学の差、光の科学と技術などについて学修し、眼光学（生理光学）の基礎の基礎を熟知する。 【成績評価方法】 プレゼンテーション・レポートなど：100%					
【課題等のフィードバック方法】 レポート課題は、対面ではコメント、ディスカッション、オンラインでは Google Classroom にてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-mail を利用して、履修上の相談に来て下さい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学・視覚機能学・医療機器学などの研究における基礎光学を具体的に学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	坂本 保夫	幾何光学（1）	レポート課題		
2	坂本 保夫	幾何光学（2）	レポート課題		
3	坂本 保夫	幾何光学（3）	レポート課題		
4	坂本 保夫	幾何光学（4）	レポート課題		
5	坂本 保夫	幾何光学（5）	レポート課題		
6	坂本 保夫	波動光学（1）	レポート課題		
7	坂本 保夫	波動光学（2）	レポート課題		
8	坂本 保夫	波動光学（3）	レポート課題		
9	坂本 保夫	波動光学（4）	レポート課題		
10	坂本 保夫	波動光学（5）	レポート課題		
11	坂本 保夫	光の科学と技術（1）	レポート課題		
12	坂本 保夫	光の科学と技術（2）	レポート課題		
13	坂本 保夫	眼光学の基礎の基礎（1）	レポート課題		
14	坂本 保夫	眼光学の基礎の基礎（2）	レポート課題		
教 科 書	特になし。適宜資料を配布する。				
参 考 書	新しい眼光学の基礎／著者：西信元嗣・他／金原出版				
備 考	問合せ：坂本保夫（4205 研究室）				

科 目 名	色彩学特論			担 当 者	坂本 保夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4205
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚に関する研究者（眼科医・視能訓練士・眼鏡作製技能士・医療光学機器開発者など）が、眼科学に関する色情報を他覚的にとらえようとしたときに、どこから手をつけていいのか迷う。本講座では色彩科学の基礎、特に色の測定方法について学びたい。					
【学習の到達目標】 光と色について復習し、色再現の理論についてディスカッションでできることが目標である。					
【成績評価方法】 プレゼンテーション・レポートなど：100%					
【課題等のフィードバック方法】 レポート課題は、対面ではコメント、ディスカッション、オンラインでは Google Classroom にてフィードバックする。					
【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-mail を利用して、履修上の相談に来て下さい。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学・視機能学・医療機器学などの研究における色彩科学の基礎と臨床応用を具体的に学ぶことができる。					
【実務家教員担当科目】 該当なし					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	坂本 保夫	光と色	レポート課題	
2	坂本 保夫	光の測定と視覚	レポート課題	
3	坂本 保夫	色の三色表示と CIE 表色系	レポート課題	
4	坂本 保夫	色の測定方法	レポート課題	
5	坂本 保夫	カラーオーダーシステム	レポート課題	
6	坂本 保夫	色名	レポート課題	
7	坂本 保夫	色彩調和論	レポート課題	
8	坂本 保夫	色の生理	レポート課題	
9	坂本 保夫	色の心理	レポート課題	
10	坂本 保夫	色覚モデルと色の見えのモデル	レポート課題	
11	坂本 保夫	色差	レポート課題	
12	坂本 保夫	光源の演色性評価	レポート課題	
13	坂本 保夫	混色・調色	レポート課題	
14	坂本 保夫	色再現の理論	レポート課題	
教 科 書		特になし。適宜資料を配布する。		
参 考 書		新編 色彩科学ハンドブック 第3版／日本色彩学会 編／東京大学出版会		
備 考		問合せ：坂本保夫（4205 研究室）		

科 目 名	眼鏡学特論			担 当 者	○坂本 保夫・小野 峰子
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	4205・4202
学 科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚に関係する研究者（眼科医・視能訓練士・医療光学機器開発者など）が、眼鏡に関係する光の動態を基本から学ぼうとしたときに、どこから手をつけていいのか迷う。本講座では眼鏡の基本から眼鏡開発について学修したい。			【課題等のフィードバック方法】 レポート課題はコメント、ディスカッションにてフィードバックする。		
【学習の到達目標】 これからの眼鏡についてディスカッションできることを目標とした。			【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-mail を利用して、履修上の相談に来て下さい。		
【成績評価方法】 プレゼンテーション・レポートなど：100%			【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学・視機能学・医療機器学・障害科学などの研究における眼鏡学を基礎から具体的に学ぶことができる。		
			【実務家教員担当科目】 該当なし		

科 目 名	水晶体研究特論			担 当 者	坂本 保夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4205
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 国内での白内障失明率は3% 程度と低率であるが、世界的には他の眼疾患に比べてもいまだ失明率は1 位である。高齢化と慢性病により視覚障害への負担は増加し、世界の最貧国では、白内障手術を受けられず、矯正眼鏡も普及していないのが現状である。本講義では水晶体再生へ向け、水晶体構造の基本を学習し、白内障の基礎から疫学までの研究論文についてディスカッションを行う。 【学習の到達目標】 今後の白内障失明率の動態、水晶体研究方法の動きについてディスカッションできることを目標とする。 【成績評価方法】 プレゼンテーション・レポートなど：100%					
【課題等のフィードバック方法】 レポート課題は、対面ではコメント、ディスカッション、オンラインでは Google Classroom にてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-mail を利用して、履修上の相談に来て下さい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学・視機能学・医療機器学・障害科学などの研究において、具体的な研究方法を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	坂本 保夫	発生学	レポート課題		
2	坂本 保夫	解剖学	レポート課題		
3	坂本 保夫	生理学的化学	レポート課題		
4	坂本 保夫	生理学	レポート課題		
5	坂本 保夫	病理学	レポート課題		
6	坂本 保夫	疾患	レポート課題		
7	坂本 保夫	治療	レポート課題		
8	坂本 保夫	手術（無水晶体眼）	レポート課題		
9	坂本 保夫	水晶体の研究文献 1	文献の事前閲読・復読		
10	坂本 保夫	水晶体の研究文献 2	文献の事前閲読・復読		
11	坂本 保夫	白内障の研究文献 1	文献の事前閲読・復読		
12	坂本 保夫	白内障の研究文献 2	文献の事前閲読・復読		
13	坂本 保夫	白内障の研究文献 3	文献の事前閲読・復読		
14	坂本 保夫	白内障の研究文献 4	文献の事前閲読・復読		
教 科 書		特になし。適宜資料を配布する。			
参 考 書		・ The Crystalline Lens System ／ Forgotten Books ／ Louis Stricker ・ Progress in Lens and Cataract Research ／ Karger (Basel) ／ O. Hockwin, etc. ・ Cataract Epidemiology ／ Karger (Basel) ／ K. Sasaki, etd.			
備 考		問合せ：坂本保夫（4205 研究室）			

科 目 名	ロービジョン特論			担 当 者	小野 峰子
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4202
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 ロービジョンケア、ロービジョンリハビリテーションに関する国内外の最新の研究論文の内容及び最新の話題について議論をしながら知識を深めることができる 【学習の到達目標】 ロービジョンケア、ロービジョンリハビリテーションに関する国内外の最新の研究論文で示している知識を深めることができる 【成績評価方法】 平常点 25％ プレゼンテーション・レポートなど：75％ 【課題等のフィードバック方法】 レポート課題、プレゼンテーションはコメント、ディスカッションにてフィードバックする 【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-mail を利用して履修上の相談に来てください 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ロービジョンケアの基礎から研究法を学ぶことができる 【実務家教員担当科目】 小野峰子（認定専任教員視能訓練士）障害科学博士、 坂本保夫（元 Ophthalmic Photographer）工学博士の教員が講義する					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	小野 峰子	ロービジョンのための眼科学 1	レポート課題		
2	小野 峰子	ロービジョンのための眼科学 1	レポート課題		
3	小野 峰子	ロービジョンの疫学 1	レポート課題		
4	小野 峰子	ロービジョンの疫学 2	レポート課題		
5	小野 峰子	視覚障害児（乳幼児・学童）1	レポート課題		
6	小野 峰子	視覚障害児（乳幼児・学童）2	レポート課題		
7	小野 峰子	就労世代の視覚障害者 1	レポート課題		
8	小野 峰子	就労世代の視覚障害者 2	レポート課題		
9	小野 峰子	高齢視覚障害者 1	レポート課題		
10	小野 峰子	高齢視覚障害者 2	レポート課題		
11	小野 峰子	ロービジョンの評価（QOL）	レポート課題		
12	小野 峰子	ロービジョンの評価（ADL）	レポート課題		
13	小野 峰子	ロービジョン者の心理	レポート課題		
14	小野 峰子・坂本 保夫	ロービジョン者の視機能の評価	レポート課題		
教 科 書		適宜資料を配布する			
参 考 書		ロービジョン・マニュアル			
備 考		問い合わせ 小野峰子（4102 研究室） 坂本保夫（4205 研究室）			

科 目 名	前眼部バイオメトリー特論			担 当 者	坂本 保夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	4205
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 視覚に関する研究者（眼科医・視能訓練士・眼鏡作製技能士・医療光学機器開発者など）が、眼科医療機器の開発について学ぼうとしたときに、どこから手をつけていいのか迷う。本講座では前眼部の画像診断システムの構造を用いて、開発構想について学修したい。 【学習の到達目標】 日進月歩である眼科画像診断システムについて、今後の AI を含めて開発ディスカッションを行えることを目標とする。 【成績評価方法】 プレゼンテーション・レポートなど：100% 【課題等のフィードバック方法】 レポート課題は、対面ではコメント、ディスカッション、オンラインでは Google Classroom にてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-mail を利用して、履修上の相談に来て下さい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学・視機能学・医療機器学・障害科学などの研究において、眼科医療機器の開発研究法の基礎を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	坂本 保夫	前眼部測定装置の原理	レポート課題		
2	坂本 保夫	涙液の画像診断	レポート課題		
3	坂本 保夫	波面収差	レポート課題		
4	坂本 保夫	Hartmann 波面	レポート課題		
5	坂本 保夫	OPD 波面	レポート課題		
6	坂本 保夫	眼球光学特性	レポート課題		
7	坂本 保夫	角膜形状解析	レポート課題		
8	坂本 保夫	プラチド角膜形状	レポート課題		
9	坂本 保夫	スリットスキャン角膜形状	レポート課題		
10	坂本 保夫	Scheimpflug カメラ	レポート課題		
11	坂本 保夫	前眼部 OCT	レポート課題		
12	坂本 保夫	屈折矯正での前眼部画像診断	レポート課題		
13	坂本 保夫	前眼部疾患の画像診断	レポート課題		
14	坂本 保夫	白内障手術・緑内障での画像診断	レポート課題		
教 科 書	特になし。適宜資料を配布する。				
参 考 書	専門医のための眼科診療クオリファイ 24. 前眼部の画像診断／前田直之 編／中山書店				
備 考	問合せ：坂本保夫（4205 研究室）				

科 目 名		ロービジョンケア特論			担 当 者	小野 峰子
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	4202
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 ロービジョンケアに必要な知識を、最新の研究論文から掘り下げ、知識とともに今後の課題や検討事項について知見を深める内容とする 【学習の到達目標】 ロービジョンケアの知識がアップデートできる 【成績評価方法】 平常点 25% プレゼンテーション、レポート 75% 【課題等のフィードバック方法】 レポート、およびプレゼンテーションは、ディスカッションにてフィードバックする 【履修上の注意・予習・復習について】 オフィスアワー、E-メールを利用して、履修上の相談に来てください 【受講して得られる効果・メリット、その他】 眼科学、障害科学などの研究においてロービジョンケアの基礎から研究法を学ぶことができる 【実務家教員担当科目】 小野峰子：認定専任教員視能訓練士で障害科学博士 坂本保夫：工学博士（元 Ophthalmic photographer）で講義する						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	小野 峰子	ロービジョンエイド（拡大）	レポート課題	
2	小野 峰子	ロービジョンエイド（手持ち式拡大鏡・据え置き式拡大鏡・単眼鏡）	レポート課題	
3	小野 峰子	ロービジョンエイド（非光学的補助具）	レポート課題	
4	小野 峰子	ロービジョンエイド（電子式拡張システム）	レポート課題	
5	小野 峰子	ロービジョンエイド（iPad 他デバイス）	レポート課題	
6	小野 峰子	ロービジョンエイド（暗所視眼鏡 他）	レポート課題	
7	小野 峰子	ロービジョンのコントラスト感度	レポート課題	
8	小野 峰子	ロービジョン読書能力評価	レポート課題	
9	小野 峰子	ロービジョン偏心視訓練	レポート課題	
10	小野 峰子	ロービジョン福祉サービス	レポート課題	
11	小野 峰子	ロービジョン地域包括リハビリテーション 1	レポート課題	
12	小野 峰子	ロービジョン地域包括リハビリテーション 1	レポート課題	
13	小野 峰子	ロービジョンの評価（QOL, ADL）	レポート課題	
14	小野 峰子・坂本 保夫	リハビリテーション専門異業種の連携アプローチ	レポート課題	
教 科 書		適宜資料を配布する		
参 考 書		ロービジョンマニュアル 新しいロービジョンケア		
備 考		問い合わせ 小野峰子（4102 研究室） 坂本保夫（4205 研究室）		

科 目 名		臨床工学特論		担 当 者	○相澤 康弘・浅井 仁 家名田敏昭	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1205 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 医療に係る工学系の基礎、特に機械工学、電気・電子工学を活用した医用工学について生体現象をもとに学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義における質問は常時受け付けて回答する。		
【学習の到達目標】 人体を工学的モデルとして検討し、各種生体信号や物理エネルギーを用いたME 機器の原理・構造・特徴などを理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 医学系から工学系の幅広い内容になるので予習は重要である。		
【成績評価方法】 課題レポート等を総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 工学的視点が身につく。		
				【実務家教員担当科目】 特になし		

科 目 名	医用機器安全管理特論			担 当 者	相澤 康弘
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1205
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☑協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☑ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	☑双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 医療現場で使用される ME 機器の安全性およびそれらの規格、そして安全管理の方法等、講義する。				【課題等のフィードバック方法】 講義における質問は常時受付し、回答する。	
【学習の到達目標】 医療現場の状況による ME 機器の安全基準と医療機関の設備についても理解し、ME 機器関連の安全な医療提供ができるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 生体物性および基礎工学的知識が基礎となる。	
【成績評価方法】 課題レポート、講義中の討論等を総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ME 機器を取り扱う上での安全基準等が理解できる。	
				【実務家教員担当科目】 臨床工学技士であり、医療機器メーカーに従事した経験をもつ教員が担当する。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	相澤 康弘	ME 機器に関連する安全問題		
2	相澤 康弘	人体の各種物理エネルギーに対する安全	配布資料を読んで予習する。	
3	相澤 康弘	ME 機器の安全規格 1	配布資料を読んで予習する。	
4	相澤 康弘	ME 機器の安全規格 2	配布資料を読んで予習する。	
5	相澤 康弘	病院電気設備 1	配布資料を読んで予習する。	
6	相澤 康弘	病院電気設備 2	配布資料を読んで予習する。	
7	相澤 康弘	ME 機器の点検管理 1	配布資料を読んで予習する。	
8	相澤 康弘	ME 機器の点検管理 2	配布資料を読んで予習する。	
9	相澤 康弘	安全管理手法 1	配布資料を読んで予習する。	
10	相澤 康弘	安全管理手法 2	配布資料を読んで予習する。	
11	相澤 康弘	医療機関における電磁環境	配布資料を読んで予習する。	
12	相澤 康弘	具体的 ME 機器管理例 1	配布資料を読んで予習する。	
13	相澤 康弘	具体的 ME 機器管理例 2	配布資料を読んで予習する。	
14	相澤 康弘	まとめ	配布資料を読んで予習する。	
教 科 書		適宜プリント等を配布する。または必要に応じてテキストを指示する。		
参 考 書		適宜紹介する。		
備 考		特になし		

科 目 名		医用治療機器学特論		担 当 者	○相澤 康弘・浅井 仁 家名田敏昭	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1205 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☒ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 医療に用いられる物理エネルギーおよび治療用 ME 機器の原理・構造を講義する。また新しい技術による治療機器の実際についても述べる。 【学習の到達目標】 エネルギーを人体に印可することによる主作用と副作用を理解し治療技術の理解を深める。 【成績評価方法】 課題レポート等、授業中の討論を含めて総合的に評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 講義における質問は常時受け付け回答する。 【履修上の注意・予習・復習について】 機器の工学的な視点だけではなく、治療には疾患を理解する必要がある。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ME 機器を使用する治療の原理・構造等が理解できる。 【実務家教員担当科目】 内容により臨床工学技士が担当する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	相澤 康弘	治療とは				
2	相澤 康弘	治療に用いるエネルギー	資料等の配布により予習すること			
3	相澤 康弘	主作用と副作用、治療効果	資料等の配布により予習すること			
4	相澤 康弘	電気・電磁波による治療機器 1	資料等の配布により予習すること			
5	相澤 康弘	電気・電磁波による治療機器 2	資料等の配布により予習すること			
6	家名田敏昭	電気・電磁波による治療機器 3	資料等の配布により予習すること			
7	家名田敏昭	電気・電磁波による治療機器 4	資料等の配布により予習すること			
8	浅井 仁	機械エネルギーによる治療機器 1	資料等の配布により予習すること			
9	浅井 仁	機械エネルギーによる治療機器 2	資料等の配布により予習すること			
10	相澤 康弘	機械エネルギーによる治療機器 3	資料等の配布により予習すること			
11	相澤 康弘	光エネルギーによる治療機器	資料等の配布により予習すること			
12	相澤 康弘	その他のエネルギーによる機器	資料等の配布により予習すること			
13	相澤 康弘	植込み型医療機器	資料等の配布により予習すること			
14	相澤 康弘	まとめ	資料等の配布により予習すること			
教 科 書		必要に応じて指示する				
参 考 書		必要に応じて紹介する				
備 考		特になし				

科 目 名		生体計測装置学特論		担 当 者	○相澤 康弘・浅井 仁 家名田敏昭	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1205 他	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☒ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生体計測の基礎と計測システム、並びに医療現場で使用される計測装置の構造と計測技術、そして雑音対策などについて学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義における質問は受け付け回答する。		
【学習の到達目標】 生体信号は微小信号であることが多く、再現性をもって計測できる技術を修得する。また、センサ・トランスデューサなどについても理解する。				【履修上の注意・予習・復習について】 電気・電子工学の基礎および人体の構造と機能を復習して臨むこと。		
【成績評価方法】 課題レポートおよび授業中の討論など総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 診断に利用される生体信号を検出できる知識を得る。		
【実務家教員担当科目】 内容により臨床工学技士が担当する。						

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	相澤 康弘	生体計測技術の基礎	資料を配付するので予習しておく。	
2	浅井 仁	計測論	資料を配付するので予習しておく。	
3	浅井 仁	センサとセンシング・トランスデューサ	資料を配付するので予習しておく。	
4	浅井 仁	生体計測と雑音対策	資料を配付するので予習しておく。	
5	浅井 仁	信号処理	資料を配付するので予習しておく。	
6	相澤 康弘	生体信号の種類と特徴	資料を配付するので予習しておく。	
7	相澤 康弘	生体電気計測 1	資料を配付するので予習しておく。	
8	相澤 康弘	生体電気計測 2	資料を配付するので予習しておく。	
9	相澤 康弘	生体圧力・流量計測	資料を配付するので予習しておく。	
10	相澤 康弘	その他の計測	資料を配付するので予習しておく。	
11	浅井 仁	超音波計測	資料を配付するので予習しておく。	
12	家名田敏昭	画像計測 1	資料を配付するので予習しておく。	
13	家名田敏昭	画像計測 2	資料を配付するので予習しておく。	
14	家名田敏昭	まとめ	資料を配付するので予習しておく。	
教 科 書		必要に応じて指示する。		
参 考 書		必要に応じて紹介する。		
備 考		特になし		

科 目 名		生体機能代行装置学特論Ⅰ			担 当 者	○相澤 康弘・佐々木典子	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教員研究室	1308 他	
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☑協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☑ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		☑双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 血液浄化療法全般における、生体に及ぼす影響について学ぶ。また、メディカルスタッフの一員としての安全管理、チーム医療、医学教育などについて理解を深める。 【学習の到達目標】 血液浄化装置と生体との関係について説明できる。 血液浄化療法における安全管理、およびチーム医療のについて様々な知見を考察し、説明できる。 医療現場において導入されている医学教育の実践内容について考察し、説明できる。 【成績評価方法】 グループワークやプレゼンテーション（70%）、レポート（30%）から評価する。 【課題等のフィードバック方法】 グループワークやプレゼンテーションの成果について定期的に行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 グループワークやプレゼンテーションの成果について定期的に行う。 指示されたレポートは必ず提出すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 各種疾患における血液浄化療法の適応およびその手法が理解できる。 【実務家教員担当科目】 臨床工学技士として医療現場で勤務した経験から、生体機能代行装置学特論Ⅰを担当する。							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習			学修時間	
1	佐々木典子	血液浄化療法を必要とする病態について 1	慢性腎臓病の病態について確認と復習を行う。				
2	佐々木典子	血液浄化療法を必要とする病態について 2	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
3	佐々木典子	血液浄化療法を必要とする病態について 3	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
4	佐々木典子	血液浄化療法における原理、適応、操作運用 1	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
5	佐々木典子	血液浄化療法における原理、適応、操作運用 2	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
6	佐々木典子	血液浄化療法における原理、適応、操作運用 3	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
7	佐々木典子	血液浄化療法における原理、適応、操作運用 4	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
8	佐々木典子	血液浄化療法の現況と今後の展望 1	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
9	佐々木典子	血液浄化療法の現況と今後の展望 2	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
10	佐々木典子	血液浄化療法におけるチーム医療 1	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
11	佐々木典子	血液浄化療法におけるチーム医療 2	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
12	佐々木典子	血液浄化療法におけるチーム医療 3	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
13	佐々木典子	医学教育の調査・検	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
14	佐々木典子、相澤 康弘	災害時の血液浄化療法、まとめ	事前に指示された内容について予習・復習を行う。				
教 科 書		適時、プリントを配する。					
参 考 書		血液浄化療法ハンドブック（透析療法合同専門員会編集 / 共同医書出版社					
備 考		特になし					

科 目 名		生体機能代行装置学特論Ⅱ		担 当 者	○工藤 剛実・佐藤 秀隆	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1306 研究室 /1316 研究室	
学 科（専 攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 呼吸療法に焦点を当てて教授する。				【課題等のフィードバック方法】 講義中のディスカッションでフィードバックを行う 課題を返却しフィードバックする。		
【学習の到達目標】 様々な呼吸不全患者の疾患・原因に対応した呼吸療法を説明・実践できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 基礎的な生理学および呼吸器疾患について予習する。		
【成績評価方法】 講義中のディスカッションおよび取り組み（50%） 課題への取り組み（50%）				【受講して得られる効果・メリット、その他】 人工呼吸器および各種呼吸療法について知識を得ることができる。		
				【実務家教員担当科目】 医師または臨床工学技士が担当する。		
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐藤 秀隆	呼吸不全の状態理解（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
2	佐藤 秀隆	呼吸不全の状態理解（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
3	佐藤 秀隆	呼吸不全の状態理解（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
4	佐藤 秀隆	呼吸不全の状態理解（4）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
5	工藤 剛実	呼吸療法のトレンド（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法のトレンドについて課題に取り組むこと。			
6	工藤 剛実	呼吸療法のトレンド（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法のトレンドについて課題に取り組むこと。			
7	工藤 剛実	呼吸療法のトレンド（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法のトレンドについて課題に取り組むこと。			
8	佐藤 秀隆／ 工藤 剛実	呼吸療法の実践（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の実践について課題に取り組むこと。			
9	佐藤 秀隆／ 工藤 剛実	呼吸療法の実践（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の実践について課題に取り組むこと。			
10	工藤 剛実	呼吸療法の実践（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の実践について課題に取り組むこと。			
11	工藤 剛実	呼吸療法の実践（4）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の実践について課題に取り組むこと。			
12	佐藤 秀隆／ 工藤 剛実	呼吸療法の応用（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の応用について課題に取り組むこと。			
13	工藤 剛実	呼吸療法の応用（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の応用について課題に取り組むこと。			
14	工藤 剛実	呼吸療法の応用（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：呼吸療法の応用について課題に取り組むこと。			
教 科 書		必要に応じて指示する。				
参 考 書		ヘスとカクマレックの THE 人工呼吸ブック 第2版／田中竜馬他訳／メディカル・サイエンス・インターナショナル/2015 年 人工呼吸管理レジデントマニュアル / 則末泰博編 / 医学書院 /2019 年（第1版第2刷）				
備 考		特になし				

科 目 名		生体機能代行装置学特論Ⅲ			担 当 者	工藤 剛実
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	1306 研究室
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 体外循環に焦点を当てて教授する。 【学習の到達目標】 様々な循環不全患者の疾患・原因に対応した体外循環を説明・実践できる。 【成績評価方法】 講義中のディスカッションおよび取り組み（50％） 課題への取り組み（50％）						【課題等のフィードバック方法】 講義中のディスカッションでフィードバックを行う 課題を返却しフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 基礎的な生理学および循環器疾患について予習しておく。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 心臓手術や集中治療室に欠かせない装置について知識を得ることができる。 【実務家教員担当科目】 人工心肺装置等を実践した臨床工学技士が担当する。
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	工藤 剛実／ 医師	循環不全の状態理解（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：循環不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
2	工藤 剛実／ 医師	循環不全の状態理解（2）	事前に指示された内容について予習・復習を行う。予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：循環不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
3	工藤 剛実／ 医師	循環不全の状態理解（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：循環不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
4	工藤 剛実／ 医師	循環不全の状態理解（4）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：循環不全の状態理解について課題に取り組むこと。			
5	工藤 剛実	体外循環のトレンド（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環のトレンドについて課題に取り組むこと。			
6	工藤 剛実	体外循環のトレンド（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環のトレンドについて課題に取り組むこと。			
7	工藤 剛実	体外循環のトレンド（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環のトレンドについて課題に取り組むこと。			
8	工藤 剛実	体外循環の実践（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の実践について課題に取り組むこと。			
9	工藤 剛実	体外循環の実践（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の実践について課題に取り組むこと。			
10	工藤 剛実	体外循環の実践（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の実践について課題に取り組むこと。			
11	工藤 剛実	体外循環の実践（4）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の実践について課題に取り組むこと。			
12	工藤 剛実	体外循環の応用（1）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の応用について課題に取り組むこと。			
13	工藤 剛実	体外循環の応用（2）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の応用について課題に取り組むこと。			
14	工藤 剛実	体外循環の応用（3）	予習：事前に配信された資料を通読すること。 復習：体外循環の応用について課題に取り組むこと。			
教 科 書		必要に応じて指示する。				
参 考 書		最新人工心肺 第6版／上田裕一編／名古屋大学出版会 /2024 年（第6版第1刷） 新 ME 早わかり Q & A 2 人工心肺・補助循環／見目恭一編／南江堂				
備 考		特になし				

科 目 名	臨床工学特別セミナー			担 当 者	相澤 康弘
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1205 他
学 科 (専攻)	健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☑協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☑ディスカッション・ディベート ☑グループワーク ☑プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	☑双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 各自が多種多様な臨床工学に関するテーマについて選び、そのテーマを調べ、レポートにまとめる。				【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。	
【学習の到達目標】 種々の ME 機器や幅広い臨床工学の理解を深める。				【履修上の注意・予習・復習について】 特になし	
【成績評価方法】 各自が作成したレポートと発表内容に基づいて評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 自身のテーマに沿う	
				【実務家教員担当科目】 特になし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	ガイダンス			
2	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	テーマ選択及び決定			
3	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	調査・検討 1	テーマについて調べる		
4	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	調査・検討 2	テーマについて調べる		
5	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	調査・検討 3	テーマについて調べる		
6	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	レポート作成 1	レポート作成と発表資料作成		
7	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	レポート作成 2	レポート作成と発表資料作成		
8	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	発表・討論 1			
9	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	調査・検討 4	テーマについて調べる		
10	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	調査・検討 5	テーマについて調べる		
11	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	調査・検討 6	テーマについて調べる		
12	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	レポート作成 3	レポート作成と発表資料作成		
13	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	レポート作成 4	レポート作成と発表資料作成		
14	相澤／古林／佐藤／家名田／浅井／工藤／佐々木	発表・討論 2・まとめ			
教 科 書		必要に応じて指示する。			
参 考 書		必要に応じて紹介する。			
備 考		特になし			

科 目 名	保健福祉システム特論			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1201
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 21 世紀の日本型少子高齢社会を見据えた医療保健福祉システムを構築していく上で、社会システム論の考え方は重要である。社会システム論は、複雑多岐に絡み合っている様々な社会現象の相互関連を人間行為の基本構造から解明し、集団や組織の統合の力、社会の変動の要因などを発見することを目指している。講義では、まず個人レベルの行為システムからマクロ社会レベルの行為システムを解説する。その上で集団レベル、制度レベルの実態システムに言及する。そして社会福祉政策、地域福祉政策に具体化された支援の社会化的歴史的プロセスを考察し、医療保健福祉システム確立の課題を検討する。また、医療保健福祉システムをさらに成熟させていくためには、超高齢社会のなかで高齢者がどのように介護予防事業等を活用していくべきかを考える必要があり、それを老年学の視点から検討する。 【学習の到達目標】 現代社会における医療保健福祉システムを社会システム論と老年学的な観点からとらえ直す。 【成績評価方法】 授業でのディカッションと課題レポートによる評価					
【課題等のフィードバック方法】 担当教員の課題別レポートにコメントと評価を行い、履修者にフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示による。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会における医療福祉システムを社会システム論と老年学的な観点からとらえ直すことによって、医療保健福祉システムの課題を発見し、研究課題の一助とすることができる。 【実務家教員担当科目】 なし					

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	未定	社会システム論とは	社会システム論の考え方を理解する。	
2	未定	行為理論と役割	T. パーソنزの社会システム論における行為理論と役割理論を理解する。	
3	未定	社会システムとしての医療と福祉①	社会システムとしての医療と福祉の捉え方を理解する。	
4	未定	社会システムとしての医療と福祉②	社会システムとしての医療と福祉の捉え方を理解する。	
5	未定	専門職制度と社会システム①	社会システムとしての専門職制度とその機能を理解する。	
6	未定	専門職制度と社会システム②	社会システムとしての専門職制度とその機能について医療職を事例に理解する。	
7	吉田 裕人	老年学概要	老年学についてその対象と研究方法を理解する。	
8	吉田 裕人	高齢化の現状と将来予測	高齢化の指標及び高齢化を要因とした人口変動について理解する。	
9	吉田 裕人	高齢者の自立度	高齢者の生活を成立させる自立指標と自立度の測定指標を理解する。	
10	吉田 裕人	介護予防①	高齢者の自立生活の延伸と介護需要を抑制する予防について理解する。	
11	吉田 裕人	介護予防②	高齢者の自立生活の延伸と介護需要を抑制する予防について理解する。	
12	吉田 裕人	介護予防事業の経済的評価①	介護予防に係る事業の経済的評価について理解する。	
13	吉田 裕人	介護予防事業の経済的評価②	介護予防に係る事業の経済的評価について事例を検討する。	
14	吉田 裕人	介護予防事業の経済的評価の課題	介護予防に係る事業の経済的評価の課題を整理する。	
教 科 書		使用しない		
参 考 書		授業の中で紹介する		
備 考		なし		

科 目 名		保健福祉システムセミナー		担 当 者	吉田 裕人	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1201	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 現代社会における保健福祉の支援システムの評価と課題を明確にするための研究方法について学ぶ。 地域生活での協同、連携を基盤とした保健福祉システムを考察する。 素材として地域福祉調査や貧困をめぐる調査をとりあげ、先行研究の成果を踏まえたうえで、地域における保健福祉システムの課題等について探求する。 老年学を通して日本の保健福祉システムの現状等を整理する。老年学は学際的な学問であり、日本の医療・福祉における諸課題を経済学的な視点も含めて考察していく。						
【課題等のフィードバック方法】 担当教員の課題別にコメントと評価を行い、履修者にフィードバックする。						
【履修上の注意・予習・復習について】 担当教員の指示による。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会における保健福祉の支援システムの評価と課題を明確にするための研究方法を考察することによって、支援システム研究の一助とすることができる。						
【実務家教員担当科目】 なし						
授業での取り組みと課題レポート評価						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	吉田 裕人	地域保健福祉に関する調査研究論文を収集する方法と、研究目的、研究仮説、研究方法、結果、分析、考察を抽出して検討する方法について学ぶ。			研究文献の探索・収集方法と研究論文の読み方を理解する。	
2	吉田 裕人	論文探索・収集			地域福祉実態調査関係文献を探索し、収集する。	
3	吉田 裕人	論文講読 1－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
4	吉田 裕人	論文講読 1－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
5	吉田 裕人	論文講読 2－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
6	吉田 裕人	論文講読 2－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
7	吉田 裕人	論文講読 3－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
8	吉田 裕人	論文講読 3－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
9	吉田 裕人	論文講読 4－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
10	吉田 裕人	論文講読 4－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
11	吉田 裕人	講読論文のまとめ 1			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
12	吉田 裕人	講読論文のまとめ 2			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
13	吉田 裕人	講読論文のまとめ 3			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
14	吉田 裕人	講読論文のまとめ 4			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
15	吉田 裕人	老年学の研究論文を収集し、それを通じて様々な観点から超高齢社会における保健福祉の支援システムの在り方を検討する。			研究文献の探索・収集方法と研究論文の読み方を理解する。	
16	吉田 裕人	論文探索・収集			老年学関係文献を探索し、収集する。	
17	吉田 裕人	論文購読 1－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
18	吉田 裕人	論文購読 1－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
19	吉田 裕人	論文購読 2－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
20	吉田 裕人	論文購読 2－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
21	吉田 裕人	論文購読 3－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
22	吉田 裕人	論文購読 3－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
23	吉田 裕人	論文購読 4－1			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
24	吉田 裕人	論文購読 4－2			講読論文の要旨と課題をまとめる。	
25	吉田 裕人	講読論文のまとめ 1			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
26	吉田 裕人	講読論文のまとめ 2			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
27	吉田 裕人	購読論文のまとめ 3			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
28	吉田 裕人	講読論文のまとめ 4			講読論文について批判的に検討し課題をまとめる。	
教 科 書		使用しない				
参 考 書		授業の中で紹介する				
備 考		なし				

科 目 名	健康長寿科学特論			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1201
学 科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 高齢社会において人々が望む「健康」は単に疾病の予防にとどまらず、活動能力の維持や主観的健康感あるいは生きがい、満足感などの精神的な充実をも含むいわゆる「健やかな老い（successful aging）」の達成である。本講義では、「健やかな老い」の概念を高齢期の健康及び生活の質（QOL）の保持・増進と関連づけて整理するとともに、それをもたらす諸要因（条件）について社会、心理、身体的側面から総合的に考察する。また、人々の「健やかな老い」を支援するための人的・物的環境の整備、ヘルスプロモーションの役割、意義についても学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。	
【学習の到達目標】 「健やかな老い」の概念を高齢期の健康及び生活の質（QOL）の保持・増進と関連づけて、それをもたらす諸要因（条件）について社会、心理、身体的側面から総合的に考察できるようになる。また、人々の「健やかな老い」を支援するための人的・物的環境の整備、ヘルスプロモーションの役割、意義について理解できるようになる。				【履修上の注意・予習・復習について】 老年学関連の専門書や学術論文を事前に図書館やインターネット通じて読んでおくこと。講義で配布されたプリント等の資料を授業後、復習すること。	
【成績評価方法】 レポート課題により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 老年学の最新の知見を駆使して高齢者の健康長寿に向けた課題を理解した上で新たな方策を検討する能力を養うことができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	未定	健康長寿科学の概要	超高齢社会と健康長寿	
2	未定	老年学の課題と世界の老年学研究	老年学の概要	
3	未定	老年期の健康と QOL の概念と指標	高齢者の自立度を測る様々な指標など	
4	未定	老化の指標（1）	運動系の指標	
5	未定	老化の指標（2）	循環器・代謝系指標	
6	未定	老年学の研究方法（1）	横断研究、縦断研究、介入研究	
7	未定	老年学の研究方法（2）	調査の設計、結果の分析と解釈	
8	未定	老年学の研究方法（3）	高齢者の保健サービスの費用対効果分析と解釈	
9	未定	健康長寿の要因（1）	横断研究と縦断研究の成果	
10	未定	健康長寿の要因（2）	介入研究の成果	
11	未定	健康長寿のための地域介入実践活動のあり方（1）	リーダー・サポーター養成	
12	未定	健康長寿のための地域介入実践活動のあり方（2）	介護予防事業の事例（T 市・A 市など）	
13	未定	健康長寿のための地域介入実践活動のあり方（3）	介護予防事業の事例（K 町・B 市など）	
14	未定	健康長寿のための地域介入実践活動のあり方（4）	身近な体操の工夫	
教 科 書	適宜プリント等を配布する。			
参 考 書	適宜紹介する。			
備 考	問い合わせ教員：吉田裕人			

科 目 名	健康長寿科学セミナー			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1201
学 科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 健康長寿の要因及びその支援策に係る内外の文献購読から健康長寿を達成するために必要な知識や技法について考究し、実践的な介入・評価方法について学習する。 【学習の到達目標】 健康長寿を達成するために必要な知識や技法について理解し実践的な介入・評価方法について最新の知見の習得すること。 【成績評価方法】 発表内容により評価する。 【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 国内外の学術論文を抄読するため、医学専門の英和辞典や大英和辞典、老年学系の専門図書を適宜図書館で借りるなど準備しておくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 国内外の老年学の最新知見を習得することができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	未定	健康長寿科学セミナーの進め方と役割分担	講義の目的の理解と論文収集方法		
2	未定	論文探索・収集	老年学関係文献を探索し、収集		
3	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
4	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
5	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
6	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
7	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
8	未定	論文講読のまとめ①	講読論文から得た課題をまとめる。		
9	未定	論文探索・収集	老年学関係文献を探索し、収集する。		
10	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
11	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
12	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
13	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
14	未定	論文講読	講読論文の要旨と課題をまとめる。		
教 科 書	発表論文は受講者が準備する。				
参 考 書	適宜紹介する。				
備 考	問い合わせ教員：吉田裕人				

科 目 名	保健福祉総合サービス論			担 当 者	加藤 由美
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1301
学 科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 保健医療福祉サービスに関する以下のテーマを中心に講義する。 ・地域の多分野・多職種ヘルスケアネットワークの評価 ・昨今の老年学（フレイルなど） ・行動分析学等				【課題等のフィードバック方法】 テーマ毎に担当教員が説明する。	
【学習の到達目標】 保健福祉サービスに係る複眼的・俯瞰的な視野の獲得を目指す。				【履修上の注意・予習・復習について】 加藤の授業はBYOD（Bring Your Own Device）のためPCまたはタブレットを必携のこと	
【成績評価方法】 授業におけるディスカッションの内容及び課題レポートの達成度等に基づき総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 保健福祉サービスを複眼的・俯瞰的に把握する視点が涵養される。	
				【実務家教員担当科目】 ・加藤由美：医療ソーシャルワーカーとして病院で17年7ヶ月勤務した経験・知見を活かし、実践的理解を促す講義を行う。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	加藤 由美、吉田 裕人、北川 公路、未定	オリエンテーション	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
2	加藤 由美	地域包括ケアシステムの概要	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
3	加藤 由美	地域の多分野・多職種によるヘルスケアネットワーク活動	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
4	加藤 由美	地域の多分野・多職種ヘルスケアネットワークの評価（1）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
5	加藤 由美	地域の多分野・多職種ヘルスケアネットワークの評価（2）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
6	吉田 裕人	昨今の老年学（1）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
7	吉田 裕人	昨今の老年学（2）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
8	吉田 裕人	昨今の老年学（3）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
9	吉田 裕人（4）	昨今の老年学（4）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
10	北川 公路	行動分析学（1）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
11	北川 公路	行動分析学（2）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
12	北川 公路	行動分析学（3）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
13	北川 公路	行動分析学（4）	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
14	加藤 由美、吉田 裕人、北川 公路、未定	全体の振り返りとまとめ	担当教員の指導に基づき、授業内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。		
教 科 書		必要に応じ適宜指示する。			
参 考 書		必要に応じ適宜指示する。			
備 考		特になし。			

科 目 名		保健福祉総合サービスセミナー			担 当 者	加藤 由美
科目ナンバリング					常勤	
D P					教員研究室	1301
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 本セミナーは、多様化している保健福祉サービスの課題を探求し、その解決に向けた方策を検討することを目的とする。保健福祉サービスに係る今日のテーマを扱い、文献講読やその内容についての考察、プレゼンテーション、議論等を通じて目的の達成を図る。					【課題等のフィードバック方法】 テーマ毎に担当教員が説明する。	
【学習の到達目標】 ・保健福祉サービスを複眼的かつ俯瞰的に捉える視点を獲得する。 ・研究活動を行う上で必要な基本的知識を身につける。					【履修上の注意・予習・復習について】 テーマ毎に問題意識をもって主体的に臨むこと。	
【成績評価方法】 各テーマに対する取り組み状況、討論の内容、プレゼンテーション及びレポートの完成度などを勘案して、総合的に評価する。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・保健福祉サービスを複眼的かつ俯瞰的に捉える視点が醸成される。 ・研究活動を行う上で必要な基本的知識が身につく。	
【実務家教員担当科目】 ・加藤由美：医療ソーシャルワーカーとして病院で17年7ヶ月勤務した経験に基づき、実践的理解を促す演習を行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員		学修内容		学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	加藤 由美、吉田 裕人、北川 公路		オリエンテーション		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
2	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (1)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
3	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (2)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
4	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (3)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
5	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (4)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
6	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (5)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
7	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (6)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
8	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (7)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
9	加藤 由美		地域における医療介護連携の現状と課題 (8)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
10	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (1)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
11	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (2)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
12	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (3)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
13	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (4)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
14	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (5)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
15	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (6)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
16	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (7)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
17	吉田 裕人		現代社会における保健福祉サービスの現状と課題 (8)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
18	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (1)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
19	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (2)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
20	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (3)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
21	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (4)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
22	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (5)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
23	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (6)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
24	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (7)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
25	北川 公路		行動分析学に関する諸課題 (8)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
26	加藤 由美、吉田 裕人、北川 公路		領域別まとめ (1)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
27	加藤 由美、吉田 裕人、北川 公路		領域別まとめ (2)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
28	加藤 由美、吉田 裕人、北川 公路		領域別まとめ (3)		担当教員の指導に基づき、講義内容と自分の研究テーマを関連付けて検討する。報告及び議論等に必要な準備を整えてセミナーに臨む。セミナーで得た新たな知見を自分の研究活動に活かす。	
教 科 書			必要に応じ適宜指示する。			
参 考 書			必要に応じ適宜指示する。			
備 考			特になし。			

科 目 名		保健福祉総合特別講義			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	1201
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子高齢化が予想以上の速さで進行する現代社会において、保健福祉サービスの基本も、行政による「措置」から利用者による「選択」へ、さらには要援護者の「足らない部分」「満たされない部分」へのサービスから全ての人に対する「自己実現」を進めるためのサービスへと一変した。その意味では、子どもから高齢期までの生涯を通じた総合的な保健福祉施策への期待が高まっている。本講義では、人びとの「Well-being」を阻害する疾病・障害の身体的・心理的要因や加齢に伴う虚弱促進要因などについて学び、あわせて「自立生活」の支援、「Well-being」の促進策を考究するとともに、科学的根拠に基づいた保健福祉学的アプローチの展開について理解を深める。 【学習の到達目標】 科学的根拠に基づいた保健福祉学的アプローチの展開について理解できること。 【成績評価方法】 各担当教員からのレポート課題により評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 各担当教員の指示に従うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学的根拠に基づいた保健福祉学的アプローチの展開について理解できるようになること。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	未定	保健福祉総合特別講義の目的			配布プリントの内容	
2	未定	現代社会における社会保障制度の現状と課題			配布プリントの内容	
3	未定	現代社会における保健医療福祉と経済			配布プリントの内容	
4	未定	福祉社会における企業福祉の位置づけ			配布プリントの内容	
5	未定	企業福祉と社会保障の歴史的展開過程			配布プリントの内容	
6	未定	医療福祉の質の評価			配布プリントの内容	
7	未定	医療福祉の質マネジメント			配布プリントの内容	
8	未定	リハビリテーションにおける障害福祉の課題			配布プリントの内容	
9	未定	地域包括ケアと保健医療福祉専門職の連携の課題			配布プリントの内容	
10	未定	支援とは何かー哲学的に問うことの意味			配布プリントの内容	
11	未定	ストレス緩和のための心理学的技法			配布プリントの内容	
12	未定	障害児の心理と福祉			配布プリントの内容	
13	未定	福祉ニーズとは何か：調査と課題			配布プリントの内容	
14	未定	介護予防における健康福祉支援と評価（参加型アクションリサーチ			配布プリントの内容	
教 科 書		適宜プリント等を配布する。				
参 考 書		適宜紹介する。				
備 考		問い合わせ教員：吉田裕人				

科 目 名		現代医療看護学特論		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・荒木とも子 草間 朋子・鈴木 美穂
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教 員 研 究 室	3214 他
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代医療は急速な高齢化と医療技術の進歩により大きく変貌しているが、その中でナースプラクティショナーはチーム医療の中核を担う存在として期待されている。その活動内容や役割、医と看護の倫理、看護実践で活用できる看護理論、看護管理の知識と技術について講義する。米国など先進地域での実像についても講義を行い、わが国の現代医療における看護業務のあり方の全体像とその中でナースプラクティショナーの果たすべき役割を把握でき、自己の職業観・将来像を確立、発展させることができ、また、過去の実践現場での経験を新たな視点で概括できるようになる。NPとしての医療安全を構築する方法をプレゼンした後、討論する。 【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 ナースプラクティショナーに関わる論文をできるだけ多く読んでおくことが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 変貌する現代医療の中でのナースプラクティショナーに期待される役割を把握でき、新たな職業観・職業倫理の確立にむけて実践的・理論的な知識を更新することができる。 【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・荒木とも子 【学習の到達目標】 1. 現代医療医の倫理におけるトピックを説明できる。 2. 現代チーム医療の諸相と看護師の役割について説明できる。 3. ナースプラクティショナーの歴史・将来像について説明できる。 4. 現代チーム医療での看護理論・マネジメントについて概説できる。 【成績評価方法】 1. 現代医療看護学特論で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお 1 年次前期において科目独自の試験を実施し中間成績とする。 2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。					
授 業 計 画					
【授業計画】全授業サポート担当渡邊隆夫・荒木とも子 1. 医の倫理観の基盤 渡邊隆夫 1-2. 医療倫理の事例検討 渡邊隆夫・荒木とも子 2. 患者の権利・自己決定権 渡邊隆夫・津田丈秀・佐藤秀隆・荒木とも子・工藤剛実 3. 看護理論 1 荒木とも子 4. 看護理論 1 荒木とも子 5. 看護マネジメント 1 荒木とも子 6. 看護マネジメント 2 荒木とも子 7. 看護マネジメント 3 荒木とも子・渡邊隆夫 8. 看護マネジメント 4 荒木とも子・佐藤秀隆 9. 医療安全 1 荒木とも子・渡邊隆夫 10. 医療安全 2 荒木とも子・津田丈秀 11. 医療安全 3 荒木とも子・佐藤秀隆 12. 諸外国における看護事情 鈴木美穂・荒木とも子 13. ナースプラクティショナー実践 鈴木美穂・荒木とも子 14. ナースプラクティショナー教育 鈴木美穂・荒木とも子 15. わが国における研修制度の概要 渡邊隆夫・荒木とも子 16. 手順書演習 1 荒木とも子・渡邊隆夫・佐藤秀隆・津田丈秀・工藤剛実 17. 手順書演習 2 荒木とも子・渡邊隆夫・佐藤秀隆・津田丈秀・工藤剛実 18. 手順書演習 3 荒木とも子・渡邊隆夫・佐藤秀隆・津田丈秀・工藤剛実 19. 手順書演習 4 荒木とも子・渡邊隆夫・佐藤秀隆・津田丈秀・工藤剛実					
教 科 書		特に指定しません。			
参 考 書		特に指定しません。			
備 考		特になし。			

科 目 名		外科医療病態診断学特論		担 当 者	○渡邊 隆夫・内藤 輝 佐藤 秀隆・津田 丈秀 宇月 美和・未定	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教 員 研 究 室	3214 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 3 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 解剖学的・病理学的・生理学的基礎に立って外科手術前後の病態生理を理解できることを目的に、急性期重症患者、救急患者などで頻繁に用いられる臨床検査について科学的理解を得、臨床現場で応用が出来るよう系統的に講義を行なう。麻酔、救命救急治療、脳卒中治療、集中治療を必要とする患者の包括的アセスメントとその治療管理について講義を行う。 【学習の到達目標】 1. 疾患急性期の病態を微細構造の観点から説明できる。 2. 疾患急性期の病態を生体機能・恒常性の揺らぎの観点から説明できる。 3. 代表的な急性期病態について病態生理学的観点から説明できる。 4. 代表的な急性期病態における検査所見・画像所見について説明できる。 【成績評価方法】 1. 1 年次に中間評価をおこない独自科目ごとの成績とする。外科医療病態診断学特論で実施する指定科目全てが合格することにより最終的に合格と判定する。 2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。 【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ外科手術などが関連した臨床報告論文を読むことが望ましい。解剖学は手持ちの教科書を再読することが必要である。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 急性期病態生理について基礎的かつ系統的な知識を修得でき、外科医療・急性期における疾患・変化の病態生理学的側面を的確に把握でき、正確な診断が出来るようになる。 【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・工藤剛実・荒木とも子・						
授 業 計 画						
※講義内容 ・研修制度講義内容に下記内容を含める。 ・現役看護実践者である院生の知識を確認するため、講義最終でディスカッション・プレゼンテーションにより NP として実習・演習時、症例を提示し包括的健康アセスメントを含め考察する。 1. 疾患急性期の病態を微細構造・生理学的観点について 2. 疾患急性期の病態を生体機能・恒常性の揺らぎについて 3. 代表的な急性期病態について病態生理学的観点からについて 4. 代表的な急性期病態における検査所見・画像所見について 【授業計画】 全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 解剖学 1 2 3 4 5 6 内藤 輝 7. 病理学 1（循環障害） 宇月美和 8. 病理学 2（代謝障害） 宇月美和 9. 病理学 3（炎症） 宇月美和 10. 病理学 4（組織の壊死と再生） 宇月美和 11. 病理学 5（創傷治癒） 宇月美和 12. 病理学 6（創傷治癒 2、腫瘍） 宇月美和 13. 14. 中枢神経解剖・病理 津田丈秀 15. 中枢神経解剖 3 津田丈秀 16. 神経病理・画像診断 1 津田丈秀 17. 外科周術期疼痛管理 渡邊隆夫 18. 呼吸不全 / ガス交換 渡邊隆夫 19. 胸部 X 線診断演習 佐藤秀隆 20. 胸部 X 線診断演習 1 渡邊隆夫 21. 胸部 X 線診断演習 2 渡邊隆夫 22. ～ 24 血液ガス分析酸塩基平衡 123（講義） 渡邊隆夫 25. 血液ガス分析酸塩基平衡 45（演習） 渡邊隆夫 27 ～ 29. 血液ガス分析酸塩基平衡 678（実習） 工藤剛実 30. 31 超音波検査法 1. 2（講義） 渡邊隆夫 32. ～ 38 超音波検査法 3（講義・実習） 工藤剛実・渡邊隆夫 39. 40. 循環動態と超音波検査 1.2（演習） 工藤剛実・渡邊隆夫						
教 科 書		生理学テキスト第 7 版、大地陸男著、文光堂、ISBN 978-4-8306-0226-9				
参 考 書		症例問題から学ぶ生理学 原書 3 版 Linda S. Costanzo 著 鯉淵 典之 監訳 発行元：丸善出版（株）ISBN 978-4-621-08187-7				
備 考		特になし				

科 目 名		臨床生理学		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・古林 俊晃 浅野 浩一・松谷 幸子																																																						
科目ナンバリング					常勤・非常勤																																																						
D P				教員研究室	3214 他																																																						
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期																																																						
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位																																																					
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし																																																									
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない																																																						
【授業内容】 生体は分子・細胞・器官が連携したいくつかの機能系を構築し、それらの機能系が相互に関連して生理機能を調節し生体内の恒常性を維持している。臨床生理学では各種疾患の成因、病態、治療、予後に関わる病態生理を理解するため、機能系毎にその構造と機能を学ぶ。急性期病態生理についての確にかつ系統的な知識を修得でき、外科医療・急性期における疾患・変化の生理学的側面を的確に把握でき、正確な判断が出来るようになる。 【学習の到達目標】 1. 臓器群毎の機能と不全時の病態を説明できる。 2. 臓器群間の相互連関と不全時の病態を説明できる。 3. 代表的な疾患について生理学的観点から説明できる。 4. 術前・術後の生体機能動態について生理学的観点から説明できる。 【成績評価方法】 1. 臨床生理学で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。 2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。 【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 解剖学については特に教科書の通読をして講義に臨むこと。中枢神経生理学については解剖学に立ち返りながら復讐すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 解剖学については最新の知見に基づく講義により、病態生理と直結した生きた解剖学を学ぶことができる。急性期病態生理について解剖学的・生理学的知識の裏付けにより的確にかつ系統的な理解が可能となる。外科医療・急性期における疾患・変化の生理学的側面を的確に把握でき、正確な判断が出来るようになる。 【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫、佐藤秀隆、津田丈秀、浅野浩一、松谷幸子、荒木とも子																																																											
授 業 計 画																																																											
1. ディスカッションにより、高度看護実践、医療提供を NP として再考し、実践に結び付ける。 【授業計画】 全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子																																																											
<table><tr><td>講義小題</td><td>担当</td><td>対応指定科目名</td></tr><tr><td>1. 運動機能 1（解剖・運動学）</td><td>古林俊晃</td><td>臨床病態生理学 13（臨床生理学）</td></tr><tr><td>2. 運動機能 2（解剖・運動学）</td><td>古林俊晃</td><td>臨床病態生理学 14（臨床生理学）</td></tr><tr><td>3. 運動機能 3（解剖・生理学）</td><td>古林俊晃</td><td>臨床病態生理学 15（臨床生理学）</td></tr><tr><td>4. 中枢神経生理 1</td><td>渡邊隆夫</td><td>臨床病態生理学 16（臨床生理学）</td></tr><tr><td>5. 中枢神経生理 2</td><td>渡邊隆夫</td><td>臨床病態生理学 17（臨床生理学）</td></tr><tr><td>7. 感覚器系 1</td><td>松谷幸子</td><td>疾病・臨床病態概論 1</td></tr><tr><td>8. 感覚器系 2</td><td>浅野浩一</td><td>疾病・臨床病態概論 2</td></tr><tr><td colspan="3">(7, 8：主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 感覚器系)</td></tr><tr><td>9. 呼吸器系</td><td>佐藤秀隆</td><td>胸腔ドレーン管理関連 1</td></tr><tr><td>10. 循環器系</td><td>渡邊隆夫</td><td>循環器関連 1</td></tr><tr><td>11. 代謝系</td><td>渡邊隆夫</td><td>糖コントロールに係る薬剤投与関連 1</td></tr><tr><td>12. 代謝系 2</td><td>渡邊隆夫</td><td>血糖コントロールに係る薬剤投与関連 2</td></tr><tr><td>13. 内分泌系</td><td>渡邊隆夫</td><td>創傷管理関連 1</td></tr><tr><td>14. 消化器系 1</td><td>渡邊隆夫</td><td>臨床病態生理学 18（臨床生理学）</td></tr><tr><td>15. 消化器系 2</td><td>渡邊隆夫</td><td>臨床病態生理学 19（臨床生理学）</td></tr><tr><td>16. 凝固・線溶・免疫 1</td><td>渡邊隆夫</td><td>創傷管理関連 2</td></tr><tr><td>17. 凝固・線溶・免疫 2</td><td>渡邊隆夫</td><td>創傷管理関連 3</td></tr></table>						講義小題	担当	対応指定科目名	1. 運動機能 1（解剖・運動学）	古林俊晃	臨床病態生理学 13（臨床生理学）	2. 運動機能 2（解剖・運動学）	古林俊晃	臨床病態生理学 14（臨床生理学）	3. 運動機能 3（解剖・生理学）	古林俊晃	臨床病態生理学 15（臨床生理学）	4. 中枢神経生理 1	渡邊隆夫	臨床病態生理学 16（臨床生理学）	5. 中枢神経生理 2	渡邊隆夫	臨床病態生理学 17（臨床生理学）	7. 感覚器系 1	松谷幸子	疾病・臨床病態概論 1	8. 感覚器系 2	浅野浩一	疾病・臨床病態概論 2	(7, 8：主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 感覚器系)			9. 呼吸器系	佐藤秀隆	胸腔ドレーン管理関連 1	10. 循環器系	渡邊隆夫	循環器関連 1	11. 代謝系	渡邊隆夫	糖コントロールに係る薬剤投与関連 1	12. 代謝系 2	渡邊隆夫	血糖コントロールに係る薬剤投与関連 2	13. 内分泌系	渡邊隆夫	創傷管理関連 1	14. 消化器系 1	渡邊隆夫	臨床病態生理学 18（臨床生理学）	15. 消化器系 2	渡邊隆夫	臨床病態生理学 19（臨床生理学）	16. 凝固・線溶・免疫 1	渡邊隆夫	創傷管理関連 2	17. 凝固・線溶・免疫 2	渡邊隆夫	創傷管理関連 3
講義小題	担当	対応指定科目名																																																									
1. 運動機能 1（解剖・運動学）	古林俊晃	臨床病態生理学 13（臨床生理学）																																																									
2. 運動機能 2（解剖・運動学）	古林俊晃	臨床病態生理学 14（臨床生理学）																																																									
3. 運動機能 3（解剖・生理学）	古林俊晃	臨床病態生理学 15（臨床生理学）																																																									
4. 中枢神経生理 1	渡邊隆夫	臨床病態生理学 16（臨床生理学）																																																									
5. 中枢神経生理 2	渡邊隆夫	臨床病態生理学 17（臨床生理学）																																																									
7. 感覚器系 1	松谷幸子	疾病・臨床病態概論 1																																																									
8. 感覚器系 2	浅野浩一	疾病・臨床病態概論 2																																																									
(7, 8：主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 感覚器系)																																																											
9. 呼吸器系	佐藤秀隆	胸腔ドレーン管理関連 1																																																									
10. 循環器系	渡邊隆夫	循環器関連 1																																																									
11. 代謝系	渡邊隆夫	糖コントロールに係る薬剤投与関連 1																																																									
12. 代謝系 2	渡邊隆夫	血糖コントロールに係る薬剤投与関連 2																																																									
13. 内分泌系	渡邊隆夫	創傷管理関連 1																																																									
14. 消化器系 1	渡邊隆夫	臨床病態生理学 18（臨床生理学）																																																									
15. 消化器系 2	渡邊隆夫	臨床病態生理学 19（臨床生理学）																																																									
16. 凝固・線溶・免疫 1	渡邊隆夫	創傷管理関連 2																																																									
17. 凝固・線溶・免疫 2	渡邊隆夫	創傷管理関連 3																																																									
教 科 書		生理学テキスト第 7 版、大地陸男、文光堂、ISBN978-4-8306-0226-9																																																									
参 考 書		病気がみえる vol.7 脳・神経（医療情報科学研究所編、第 1 版 ISBN 978-4-89632-358-0）																																																									
備 考		特になし。																																																									

科 目 名		内科学総合講義		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・佐々木典子 館脇 康子・森 建文	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教員研究室	3214 他	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 臓器別に系統的な疾患論を講義する。循環器病・呼吸器病に重点を置き、高齢化社会の中での急性期医療に必要な病態生理学的知識の理解を深め、あわせて、重症患者の治療において必要になる各種治療手段についてもその概念すなわち根本理念が理解できるよう講義を行う。多彩な疾患群について解剖・生理・病態・診断・治療法にいたるまで系統的な理解が得られ、医療倫理・医療安全・病態機能・包括的アセスメント・治療マネジメントを包括した講義により、急性期病態についての総合的な判断が多角的見地から迅速に出来るようになる。 【学習の到達目標】 1. 循環器疾患・呼吸器疾患・腎疾患・代謝・内分泌疾・解剖・生理・病態・診断について概説できる。 2. 各疾患群の急性期病態・診断・治療について概説できる。 3. NP の役割と責任を医療安全・治療マネジメントの視点で述べることができる。 【成績評価方法】 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。 内科学総合講義で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお1年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。 【課題等のフィードバック方法】 原則2週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義に際しては疾患群の予備知識を得るために該当部分の疾患論を資料・持参の教科書で通読することが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 多彩な疾患群について解剖・生理・病態・診断・治療法にいたるまで系統的な理解が得られる。急性期・慢性期を通じて病態と予後についての総合的な判断が多角的見地から迅速に出来るようになる。 【実務家教員担当科目】 森建文・館脇康子・渡邊隆夫・荒木とも子						
授 業 計 画						
I. 急性期病態についての総合的な判断を医療倫理・医療安全・病態機能・包括的アセスメント・治療マネジメントを包括した講義を受け、自施設での臨床経験から急性期における NP の役割と責任を検討する。【授業計画】 全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1～8 心臓、血管系の構造と機能、虚血性心疾患の診断・治療 心臓弁膜疾患 心筋症、心筋炎 心臓電気生理学と薬物治療 不整脈 渡邊隆夫 9～16 呼吸器系の症候・診断・検査法、治療 閉塞性肺疾患 呼吸器感染症（肺炎）塵肺・間質性肺炎 急性呼吸不全・ARDS アレルギー性呼吸器疾患 気管支・肺腫瘍 佐藤秀隆 17～24 消化器疾患1・2 自己免疫疾患1・2（薬物治療）内分泌疾患1・2 代謝性疾患の診断と治療1・2 渡邊隆夫 25～28 腎泌尿器の解剖生理・腎不全・治療学1・2 渡邊隆夫 森建文 佐々木典子 29 大動脈疾患・心不全・不整脈 渡邊隆夫 30～32 血液疾患1・2・3 渡邊隆夫 33～38 神経疾患病態生理・診断治療 神経疾患の画像診断1・2 神経疾患の薬物療法1・2 館脇康子 津田丈秀						
教 科 書		特に指定しません。				
参 考 書		「メディカルスタッフのための内科学」森博愛編著、医学出版社、ISBN978-4-87055-125-1 「シンプル内科学」菅谷仁/清水輝夫/羽田勝征、南江堂、ISBN 978-4-524-22344-2 「内科診断学」福井次矢、奈良信雄編著、医学書院、ISBN978-4-260-00287-5				
備 考		特になし。				

科 目 名		麻酔・救急・集中医療総合講義		担 当 者	○渡邊 隆夫・岩崎 夢大 上之原広司・勝田 賢 久志本成樹・工藤 大介 黒澤 伸・小林 正和 佐藤 武揚・布川 麻代 藤田 基生・古川 宗 三瓶 想・吾妻 俊弘	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P					教員研究室 3214 他	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・通年	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 手術や術後管理を受ける患者の疾患や病態は多岐にわたる。患者の術前状態を把握し、適切で安全な麻酔管理と術後管理を行うために必要な麻酔と集中治療・救急治療・医療倫理・医療安全について講義する。麻酔・周術期管理について具体的かつ系統的な知識を修得でき、外科医療・急性期における疾患・変化に的確・迅速に対応出来るようになる。					【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。	
【学習の到達目標】 1. 麻酔法および麻酔管理・代表的な救急疾患の診断・管理・重症救急患者の集中治療管理・重症患者の周術期管理について概説できる。 2. NP の役割と責任を医療倫理・医療安全の視点で述べることができる。					【履修上の注意・予習・復習について】 講義疾患群についてあらかじめ資料・教科書などの該当部分を通読し、関連論文を読むことが望ましい。臨床第 1 線の医師によるオムニバス形式が多いので毎回丁寧に復習すること。	
【成績評価方法】 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。 麻酔・救急・集中医療総合講義で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお 1 年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。					【受講して得られる効果・メリット、その他】 系統講義により病態の理解とアセスメントに必要な治療についての正確な理解が可能となり、また、急性期医療に関して第 1 線の臨床医師の講義を聴講することにより、最新医療知識を更新することができる。 NP の役割と責任について学ぶことができる。	
【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・上之原広司・村田祐二・黒澤伸・布川麻代・岩崎夢大・吾妻俊弘・久志本成樹・勝田賢・藤田基生・工藤大介・小林正和・古川宗・三瓶想・勝田賢・佐藤武揚・荒木とも子						
授 業 計 画						
I. 麻酔・救急・集中医療の医療倫理・医療安全・病態機能・包括的アセスメント・治療マネジメントを包括した講義を受け、自施設での臨床経験から麻酔・救急・集中医療における NP の役割と責任を検討する。 【授業計画】 全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1～8. 心不全 ショック 心肺蘇生法 と気道確保 骨折・外傷 1・2 感染症 1・2（敗血症） 渡邊隆夫 9. 脳外科救急 上之原広司 10. 地域救急医療（小児心身症ほか） 村田祐二 11. 麻酔 1 黒澤伸 12. 麻酔 2（5. 輸液療法の目的と種類） 黒澤伸 13. 麻酔 3（8. 輸液療法の計画） 黒澤伸 14. 麻酔 4（講義 1 時間、演習 0.5 時間） 黒澤伸 15. 麻酔 5（循環不全の評価） 布川麻代 16. 麻酔 6（循環不全の管理） 布川麻代 17. 麻酔 7（7. 輸液時に必要な検査） 吾妻俊弘 18. 麻酔 8（6. 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌） 岩崎夢大 19. 脳死の病態・判定と脳死下臓器提供 久志本成樹 20. ARDS と人工呼吸の調節 勝田賢 21. 外傷治療の標準化と人工呼吸 藤田基生 22. 広範囲熱傷の治療戦略 工藤大介 23. 院外心停止の治療戦略 小林正和 24. 災害医療 古川宗 25. 敗血症の治療成績向上を目指して 三瓶想 26. 集中治療の栄養管理 佐藤武揚 27～32. 中毒、環境障害 1 中毒、環境障害 2 脳卒中 1・2 救急疾患における糖尿病、泌尿器救急疾患 渡邊隆夫						
教 科 書		「標準救急医学」有賀徹他、医学書院、ISBN978-4-260-01755-8 「標準麻酔科学」古家仁他、医学書院、ISBN978-4-260-01179-2				
参 考 書		「メデイカルスタッフのための救急医学」医学出版社、渡邊隆夫他、ISBN978-4-87055-126-8				
備 考		特になし。				

科 目 名		フィジカルアセスメント		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・工藤 剛実 荒木とも子・浅野 浩一 中村 はな・松谷 幸子	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教 員 研 究 室	3214 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 3 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 身体所見および変化の把握・スクリーニングに必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を講義する。急性期患者の病態の変化に伴う身体所見を的確にかつ系統的に評価する基礎を修得し、外科医療において必要な検査・処置を迅速に計画できるようになる。 【学習の到達目標】 1. フィジカルアセスメントの進め方と基本技術を理解する。 2. 全身のフィジカルアセスメントができる。 3. 身体所見の変化を把握できる。 4. 身体所見と病態の関連を概説できる。 【成績評価方法】 1. フィジカルアセスメントで実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお1年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。 2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。 【課題等のフィードバック方法】 原則2週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ教科書・資料の該当部分を通読しておくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 臨床に即した症状を的確に捉え、また理学的診断法を駆使して病態を的確に捉え、病態急変に速やかに対応でき、治療経過を正確に判断することにより最良の結果を得るためのマネジメントが可能になる。臨床推論の技法を学ぶことにより、医療安全を推進するチーム医療のキーパーソンとしての素養を得ることができる。 【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・荒木とも子・津田丈秀、佐藤秀隆、松谷幸子・中村はな						
授 業 計 画						
※講義 ・包括的健康アセスメントを含めた講義 ・臨床に即した症状を提示され、臨床推論技法と治療経過判断を学んだのち、NPとして医療安全を考察する 【授業計画】 1. フィジカルアセスメント概論 荒木とも子 2. 感覚器系症状と所見 1 松谷幸子・荒木とも子 3. 感覚器系症状と所見 2 浅野浩一・荒木とも子 4. 内科診断学の基礎 1 渡邊隆夫・荒木とも子 5. 内科診断学の基礎 2 渡邊隆夫・荒木とも子 6. 内科診断学の基礎 3 医療面接演習 1 荒木とも子・渡邊隆夫 7. 内科診断学の基礎 4 医療面接演習 2 荒木とも子・渡邊隆夫 8. 内科診断学の基礎 5 医療面接演習 3 荒木とも子・渡邊隆夫 9. 呼吸器系解剖と生理 佐藤秀隆・荒木とも子 10. 呼吸器系症状と所見 佐藤秀隆・荒木とも子 11. 循環器系解剖と病態生理 渡邊隆夫・荒木とも子 12. 循環器系症状と所見 渡邊隆夫・荒木とも子 13. 神経系症状と所見 1 津田丈秀・荒木とも子 14. 神経系症状と所見 2 津田丈秀・荒木とも子 15. 消化器症状と所見 渡邊隆夫・荒木とも子 16. 代謝系疾患の症状と所見 渡邊隆夫・荒木とも子 17. 皮膚・筋疾患の症状と所見 渡邊隆夫・荒木とも子 18. 血液疾患の症状と所見 渡邊隆夫・荒木とも子 19. 頭頸部の身体所見と診察法 松谷幸子・荒木とも子 20. 超音波検査法と身体所見（演習） 渡邊隆夫・工藤剛実・荒木とも子 21. 画像診断と身体所見 渡邊隆夫・荒木とも子 22. 高血圧と身体所見 中村はな・荒木とも子 23. 腎疾患と身体所見 中村はな・荒木とも子 24. 循環動態と超音波検査（演習） 渡邊隆夫・工藤剛実・荒木とも子 25. 循環動態と超音波検査見 2（演習） 渡邊隆夫・工藤剛実・荒木とも子						
教 科 書		「内科診断学」奈良信雄、福井次矢編集、医学書院、ISBN 978-4-260-00287-5				
参 考 書		フィジカルアセスメント関係書籍				
備 考		特になし。				

科 目 名		臨床薬理学		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・柳澤 輝行
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教員研究室	3214 他
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 薬物の作用・動態等の生理学的理解を基礎に、現代臨床で用いられる薬剤の種類、作用、相互作用などを講義する。麻酔薬、呼吸・循環作動薬などを初めとし、特に手術前後、急性期、ICU（集中治療）重症患者などにおいて用いられる薬剤について重点的な講義を行なう。急性期に用いる薬剤についての的確にかつ系統的な知識を修得でき、外科医療において必要な薬物治療を迅速に計画、投与量の調節などが的確に実施できるようになる。				【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に講義課題解答例をフィードバックする。	
【学習の到達目標】 1. 薬物の生体内動態と作用・副作用について理解できる。 2. 主な神経系作用薬について適応、用法、注意点を列挙できる。 3. 主な循環系作用薬について適応、用法、注意点を列挙できる。 4. 主な呼吸器系作用薬について適応、用法、注意点を列挙できる。 5. その他の急性期管理に用いる薬剤について適応、用法、注意点を列挙できる。 6. 感染防止法、医薬品管理、法令について要点を列挙できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ教科書の該当部分を通読しておくこと。	
【成績評価方法】 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。 臨床薬理学で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお 1 年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 種々の薬剤についての基礎知識を得、適応、薬理作用、相互作用、副作用などにつき薬理学的基礎に基づく系統的な知識を得ることができる。	
【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・柳澤輝行・渡辺彰・荒木とも子					
授 業 計 画					
I. 包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意思決定能力など、薬物治療で必要になる診療看護師（NP）に必要な知識を習得するとともに、臨床経験をもとに講師への質疑応答と大学院教員とディスカッションすることで、薬物を安全に患者さんに提供できる環境構築を NP として再考する。 【授業計画】 全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 総論・新薬開発情報伝達 柳澤輝行 2. 自律神経系 柳澤輝行 3. 中枢神経系 1 柳澤輝行 4. 中枢神経系 2 柳澤輝行 5. 循環器・血液系 1 柳澤輝行 6. 循環器・血液系 2 柳澤輝行 7. 循環器・血液系 3（演習） 柳澤輝行 8. 呼吸器・消化器系 柳澤輝行 9. 呼吸器・消化器系 2 柳澤輝行 10. 代謝・内分泌系 1 柳澤輝行 11. 代謝・内分泌系 2 渡邊隆夫 12. 13. その他の薬物治療 1・2 渡邊隆夫 14. 薬物治療副作用 佐藤秀隆 15. 薬物治療相互作用 津田丈秀 16. 心臓血管系作用薬 1 渡邊隆夫 17. 心臓血管系作用薬 2（演習） 渡邊隆夫 18. 呼吸器系作用薬 1 佐藤秀隆 19. 呼吸器系作用薬 2（演習） 佐藤秀隆 20. 中枢神経系作用薬 1 津田丈秀 21. 中枢神経系作用薬 2（演習） 津田丈秀 22. 23. 呼吸器系作用薬 1・2（感染症） 渡辺彰 24. 代謝系作用薬 1 渡邊隆夫 25. 代謝系作用薬 2（演習） 渡邊隆夫 26. 27. 血液凝固・線溶系作用薬 12 渡邊隆夫					
教 科 書	カツツング薬理学 エッセンシャル 原書 12 版 柳澤 輝行（監訳）、ISBN- 978-4-621-30636-9				
参 考 書	イラストレイテッド薬理学 原書 5 版、柳澤輝行・丸山 敬 監訳、丸善出版（株）、ISBN 978-4-621-08563-9				
備 考	特になし。				

科 目 名	現代地域医療総合講義			担 当 者	○渡邊 隆夫・古林 俊晃 植木 章三・上野 草太 木村 紀久・富田 尚希 中瀬 泰然・野呂 美香 本多 正久・未定
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教員研究室	3214 他
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域医療をめぐる体制、政策、評価法、方略・地域医療・保健活動を縦横に展開し、発展させることができる能力を得るための幅広い知識を目的として健康増進・疾病予防を含め地域医療における問題点を迅速・正確に把握でき医療における家族・コミュニティ、保健医療福祉関連法律や制度の活用・開発知識を習得し資源の有機的な活用、在宅医療の現状医療保健福祉制度の改善に向けて情報発信や調査・研究、提言などの取り組みができるか討論する。				【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に採点返却する。	
【学習の到達目標】 1. 地域においてチーム医療を形成する多職種間連携について概説できる。 2. 地域における疾病構造の把握・保健・医療計画・医療活動・具体的にについて概説できる。3. 地域救急医療の問題・高齢者在宅医療の問題点・健康増進・疾病予防を概説できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 地域医療に関する論文を数篇通読することが望ましい。	
【成績評価方法】 1. 現代地域医療総合講義で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお 1 年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代地域医療は特に高齢化、過疎化の影響が深刻であるが、その中で一次予防、二次予防、三次予防や健康増進の実態、各種取り組みの現状、在宅医療の現状・患者の意思決定、地域救急医療の現状などについて学ぶことができ、ナースプラクティショナーの活動範囲の拡大が必要であること、また各自の職域での NP の役割と責任活動のあり方についての深い考察が可能になる。	
				【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・田中総一郎・木村紀久・野呂美香・中瀬泰然・本多正久・富田尚希・上野草太・荒木とも子	
授 業 計 画					
I. 地域研究専門家からの地域医療をめぐる体制、政策、評価法、方略を講義受け、地域における NP の役割と責任を検討する。 全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 地域チーム医療論 渡邊隆夫 2. 地域救急医療体制 渡邊隆夫 3. 地域医療論 1 加藤由美 4. 地域医療制度論 1 加藤由美 5. 現代在宅医療 1 渡邊隆夫 6. 現代在宅医療 2（在宅人工呼吸療法） 渡邊隆夫 7. 現代在宅医療 3 田中総一郎 8. 現代在宅医療 4 木村紀久 9. 現代在宅医療 5 渡邊隆夫 10. 現代在宅医療 6 野呂美香 11. 12. 地域ヘルスプロモーション 1・2 植木章三 13. 地域リハビリテーション 1 藤澤宏幸 14. 地域リハビリテーション 2 大黒一司 15. 16. 地域障害者支援論 1・2 中瀬泰然 17. 地域障害者支援論 3 富田尚希 18. 19. 地域障害者支援論 4・5 上野草太 20. 地域障害者支援論 6 本多正久 21. 高齢者・神経疾患慢性期医療 津田丈秀 22. 高齢者神経疾患在宅医療 津田丈秀 23. 医療統計学概論 古林俊晃 24. 医療統計学演習 1・2 古林俊晃					
教 科 書	特に指定しません。				
参 考 書	特に指定しません。				
備 考	特になし。				

科 目 名		外科治療学総合講義Ⅰ		担 当 者	○渡邊 隆夫・津田 丈秀 赤松大二朗・石橋 直也 井本 博文・片岡ひとみ 亀井 尚・佐々木多恵子 島村 弘宗・菅原 崇史 鈴木 秀幸・谷山 裕亮 堂地 大輔・戸子台和哲 原田 成美・武藤 満完	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教 員 研 究 室	3214 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 外科治療は手術によって患者さんの健康を回復させることを目的としている。手術適応となる疾患の領域は広汎であり、手術は年々専門化、高度化している。これらの手術治療を理解する上で、基本となる外科治療の総論を講義し、ついで消化器系の外科治療について詳しく解説する。消化器外科を中心として疾患の徴候・診断・治療について系統的な知識を修得でき、術前の検査データの判読とその総合的判断から診断に至る思考過程を学ぶ。外科医療・急性期におけるチーム医療の1員として不可欠な臨床知識を得ることが出来る。 【学習の到達目標】 1. 外科治療における診断・手術管理について概説できる。手術室において患者の入室から麻酔導入、手術開始、手術終了、麻酔覚醒、退室の流れのなかで一連の患者管理方法を説明できる。 2. 消化器疾患の病態・治療法を概説できる。 3. 外科治療における特殊治療法について概説できる。 【成績評価方法】 1. 外科治療学総合講義Ⅰで実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお1年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。 2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）における観察評価を行い評価する。 【課題等のフィードバック方法】 原則2週間以内に採点返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ該当部分を教科書・資料などで通読すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 外科的疾患とその治療法について知識を更新し、第1線の臨床医師の講義を聴講することにより、外科医療チームの1員としての知識態度を身につけることができる。 【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・石川奈津江・井本博文・小林実・堂地大輔・島村弘宗・武藤満完・亀井尚・谷山裕亮・赤松大二朗・戸子台和哲・原田成美・菅原崇史・石橋直也・荒木とも子						
授 業 計 画						
※講義内容 ・臨床医から講義内容すべてにおいてNPとの役割について・協働を視野に入れた下記内容を含む。 ・病態機能・包括的アセスメント・治療マネジメント過程・チーム医療・医師、コメディカルとの協働、タスクシフト・シェア・医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援・医療倫理・医療安全を踏まえ周術期のNPとしての役割を獲得・周術期の看護マネジメント・高度実践看護について 【授業計画】前授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 外科学総論 診察と症状 渡邊隆夫 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 医療面接の理論と演習・実習 渡邊隆夫 4. 周術期の看護マネジメント 5. 周術期における高度実践看護について 荒木とも子 2. 外科学総論 診察と症状 2 手術前後の管理 渡邊隆夫 4. 手術前後の（創傷）管理 渡邊隆夫・石川奈津江 医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援について 石川奈津江 高度実践看護および看護マネジメントを実践することについて 荒木とも子 5. 手術前後の管理、代謝管理・栄養管理 渡邊隆夫 6. 消化器外科1（胃・十二指腸疾患） 井本博文 7. 消化器外科2（小腸・大腸疾患） 小林実 8. 消化器外科3（内視鏡外科・肝臓外科） 堂地大輔 9. 消化器外科4（胆・膵疾患） 島村弘宗 10. 消化器外科5（腹壁・腹膜疾患・創傷管理） 武藤満完 11. 外科学総論1 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援について 亀井尚 12. 食道外科 谷山裕亮 13. 血管外科 赤松大二朗 臨床病態生理学 12（臨床病理学 11） 14. 移植外科 コンサルテーションの方法・多職種協働の課題 戸子台和哲 15. 乳腺疾患外科治療 原田成美 16. 呼吸器疾患外科1 菅原崇史 17. ～ 21. 呼吸器疾患外科2 石橋直也 18. 外科医療薬物治療学1 抗癌剤の種類と臨床薬理1）2） 各種抗癌剤の適応と使用方法 外科医療薬物治療学4（演習）（各種抗癌剤の副作用） 渡邊隆夫 22. 23. 外科医療薬物治療学5 6 津田丈秀 24. ～ 26. 外科医療薬物治療学7・8（演習）ERAS プログラム★ 渡邊隆夫						
教 科 書		「標準外科学」医学書院、加藤 治文監修、ISBN978-4-260-01631-5				
参 考 書		特に指定しません。				
備 考		特になし。				

科 目 名		外科治療学総合講義Ⅱ		担 当 者	○渡邊 隆夫・工藤 剛実 佐々木典子・津田 丈秀 伊藤 校輝・齋木 佳克 鈴木 佑輔・武藤 満完	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教 員 研 究 室	3214 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	45 時間	単 位	選択 3 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 脳神経病学、心臓血管外科および整形外科的知識などについて解説・症例提示を行い、救急疾患、重症疾患や外傷などで複数の分野にまたがる治療を要する患者の病態把握が出来るようにする。またそれらの外科分野での代表的な治療手段についても理解を深める。医療倫理・医療安全・病態機能・包括的アセスメント・治療マネジメントを講義することにより、特殊外科を中心として疾患の徴候・診断・治療について系統的な知識を修得できる。特殊管理、特殊治療手段、補助手段についても外科医療・急性期におけるチーム医療の1員として不可欠な臨床知識を得ることが出来る。				【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に採点返却する。 【履修上の注意・予習・復習について】 あらかじめ教科書・資料などの該当部分を通読すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 外科系の関連疾患などについても最新の知識を更新し、特に集中医療を要する様々な疾患の病態・検査・治療を系統的に身につけることができる。		
【学習の到達目標】 1. 脳神経病学、心臓血管外科、呼吸器外科および整形外科治療における診断・手術管理について概説できる。2. 脳神経外科代表的疾患の画像診断ができる。3. 心臓血管外科における特殊治療法を概説できる。4. 外傷治療の戦略を概説できる。 5. NP の役割と責任を医療安全・治療マネジメントの視点で述べる ことができる。				【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・工藤剛実、齋木佳克・鈴木佑輔・伊藤校輝・松谷幸子・石川奈津江・荒木とも子		
【成績評価方法】 1. 外科治療学総合講義Ⅱで実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお1年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。 2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。						
授 業 計 画						
※講義内容 ・臨床医から講義内容すべてにおいて NP との役割について・協働を視野に入れた下記内容を含む。・病態機能・包括的アセスメント・治療マネジメント過程について・チーム医療・医師、コメディカルとの協働、タスクシフト・シェアについて ・医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援について・医療倫理・医療安全を踏まえ NP としての役割を獲得することについて・実習において高度実践看護および看護マネジメントを実践するということについて 【授業計画】全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 組織の再生と回復、創傷治癒 2. 外科侵襲と生体反応（演習）渡邊隆夫 3. 外科と栄養・創傷 石川奈津江・荒木とも子 医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援について 石川奈津江 高度実践看護および看護マネジメントを実践することについて 荒木とも子 4. 整形外科総論 渡邊隆夫 5. 外科治療学（手術学） 6. 先天性心疾患1 齋木佳克 7. 先天性心疾患2 8. 肺循環系疾患 鈴木佑輔 9. 心臓血管外科手術法1 10. 心臓血管外科手術法2 伊藤校輝 11. 心臓血管外科手術法3 渡邊隆夫 12. 人工心肺、補助循環（演習） 13. 人工心肺実習 14. 人工心肺実習2 工藤剛実、渡邊隆夫 15. 人工呼吸器と人工呼吸療法様式 16. 人工呼吸器と人工呼吸療法様式演習工藤剛実 17. 血液浄化療法演習 佐々木典子、高橋るみ 18. 血液浄化療法演習2 佐々木典子、高橋るみ コメディカルとの協働について 荒木とも子 19. 気管切開法 松谷幸子 20. 循環動態に関する局所解剖・主要症候 21. 急性期循環動態と薬物療法 22. 急性期水分栄養管理 23. ろう孔の外科的管理論 渡邊隆夫 医療倫理・医療安全を踏まえ NP としての役割を獲得することについて 荒木とも子 24. 外科救急と薬物投与経路 25. 外科治療における薬物治療学演習 26. 体表面の外科 渡邊隆夫 27. 外科的基本手技1 28. 外科的基本手技2 渡邊隆夫、工藤剛実 29. 外科的基本手技演習1 渡邊隆夫、工藤剛実 30. 外科的基本手技演習2 渡邊隆夫、工藤剛実 31. 外科的基本手技演習3 渡邊隆夫、工藤剛実 32. 外科的基本手技演習4 渡邊隆夫、工藤剛実 33. 外科的基本手技演習5 渡邊隆夫、工藤剛実 34. 外科的基本手技演習6 渡邊隆夫、工藤剛実 35. 外科医療薬物治療学9 渡邊隆夫 36. 外科医療薬物治療学10 渡邊隆夫 37. 外科医療薬物治療学11 渡邊隆夫 38. 外科医療薬物治療学12 渡邊隆夫 39. 外科医療薬物治療学13 渡邊隆夫						
教 科 書		標準外科学、医学書院、加藤治文監修、ISBN978-4-260-01631-5				
参 考 書		特になし。				
備 考		特になし。				

科 目 名		ライフサイクル医療		担 当 者		○渡邊 隆夫・渡辺 彰 木村 正人・鈴木 陽 田中総一郎・藤井 喜充 松原 雄・村田 祐二 未定	
科目ナンバリング						常勤・非常勤	
D P				教員研究室		3214 他	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次		2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 妊娠・誕生から成長・老化に至るまでライフサイクルに特有の代表的な疾患と病態を連続的に講義し、系統的な知識として習得させる。健康増進・疾病予防、倫理的意思決定・保健医療福祉に関連した法律を習得・診療看護師（NP）に必要とされる能力、包括的健康アセスメント能力、医療処置・管理の実践能力、熟練した看護実践能力、看護マネジメント能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉制度の活用・開発能力、倫理的意思決定能力、小児科領域においては内科的疾患で外科治療との関連で重要な疾患群、急性期管理、小児外科疾患、周術期管理の要点する。老年期においては、特有の疾病、加齢現象、廃用現象、リハビリテーション、在宅医療などの老年期特有の問題対処法、産婦人科領域は特有の救急疾患及びいて学修する。 【学習の到達目標】 1. 小児期疾患、腫瘍、心疾患、感染症について概説できる。2. 老年期の疾病・病態・医療の問題について概説できる。3. 産婦人科領域の代表的な救急疾患について概説できる。 【成績評価方法】 1. ライフサイクル医療で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。なお2年次に本科目修了試験により中間評価を行なう。2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。							
授 業 計 画							
※講義内容 ・臨床医から研修制度講義内容に下記内容を含める。・現役看護実践者である院生の知識を確認するため、講義最終でディスカッション・プレゼンテーションによりNPとして1.2.3を概説する。1. 小児期疾患、腫瘍、心疾患、感染症・小児救急体制・在宅医療・医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援・チーム医療・医師、コメディカルとの協働、タスクシフト・シェア 2. 老年期の疾病・病態・医療の問題・高齢者医療福祉制度と法律・チーム医療・医師、コメディカルとの協働・医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援 3. 産婦人科領域の代表的な救急疾患・産婦人科救急体制・医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援・チーム医療・医師、コメディカルとの協働 担当講師には、看護実践経験者である院生の知識と技術を深める講義を依頼する。 健康増進・疾病予防、倫理的意思決定について、保健医療福祉に関連した法律を習得させる。診療看護師（NP）に必要とされる能力1）包括的健康アセスメント能力2）医療処置・管理の実践能力3）熟練した看護実践能力4）看護マネジメント能力5）チームワーク・協働能力6）医療保健福祉制度の活用・開発能力7）倫理的意思決定能力 【授業計画】全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 小児腫瘍 藤井喜充 2. 小児救急体制 村田祐二 2-2. 小児救急体制 2 村田祐二 3. 小児診察の基本 4. 小児緊急疾患・トリアージ 5. 小児外科疾患 6. 小児心身症 藤井喜充 7. 小児循環器疾患病態生理 8. 小児循環器疾患アセスメント 木村正人 9. 産婦人科救急疾患の症候と診断 10. 産婦人科救急疾患の症候と診断 2 11. 産婦人科救急疾患の症候と診断 3 松原 雄 12. 小児感染症 1 14. 小児代謝異常 鈴木陽 15. 加齢と代謝疾患（演習） 16. 加齢と循環器疾患 17. 加齢と循環器疾患 18. 加齢と循環器疾患演習 渡邊隆夫 19. 加齢と神経疾患 津田丈秀 20. 高齢者感染症インフルエンザ 渡辺 彰 21. 高齢者感染症肺炎 渡辺 彰 22. 小児在宅医療 田中総一郎 23. 小児在宅医療 2（演習） 田中総一郎							
教 科 書		特に指定しません。					
参 考 書		STEP 小児科、畑江芳郎監修、海馬書房、ISBN978-4-907704-86-5 C3047					
備 考		特になし。					

科 目 名		外科治療学特別実習		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・工藤 剛実 井本 博文・大坪 毅人 小澤 洋介・西條 文人	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教 員 研 究 室	3214 他	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式		実 習	授 業 時 間	360 時間	単 位	選択 8 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 外科医療の高度な医行為の修得を目標とする。一人の自律した診療看護師（NP）を目指す学生として、医療チームの一員であることの自覚をもって、指導医師の指示のもと自ら実施する医行為の修得を目指す。指導医師の指示のもと治療にあたっては患者の社会的背景生活や家族構成、尊厳と権利を守る。在宅医療や介護保険施設等からも考察する。				【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に採点返却する。		
【学習の到達目標】 平均的な予定手術の第 1 助手または第 2 助手を安全に務める。簡単な観血的処置を安全に思考。患者の病態生理に関し正確な評価。急変時対応で必要な処置・適応。病状を適切に患者・家族に説明。できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 感染防止、医療安全上の注意などに関しては実習病院の規定を遵守すること。レポートは臨床教授など指導医のチェックを受け、症例発表会時に提出すること。		
【成績評価方法】 1. 外科治療学特別実習で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。2. 特定行為に係る看護師の研修制度における共通科目、区分別科目ごとに筆記試験、臨床能力評価試験（OSCE）及び実習における観察評価を行い評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 外科処置などを医師の指導下に行うことにより、これまで経験できなかった治療の流れを生きた動態として体得できる。侵襲的な処置の実習においてはその必要性と適応に並んでリスク、合併症をも等しく評価できる視点を持つ。医療倫理、医療安全、倫理的意思決定、NP の役割と責任に関する知識をベースとして実習に臨むことができる。		
【実務家教員担当科目】 ○渡邊隆夫・野村良平・谷山裕亮・曾我端克哉・畑政樹・菅原崇史・島村弘宗・武藤満完・遠藤誠・永谷公一・高橋雄大・丁毅文・荒木とも子						
授 業 計 画						
【実習期間、日程】 病院実習 1) 2 年次第 1 期：4 月第 2 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 2) 2 年次第 2 期：6 月第 3 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 3) 2 年次第 3 期：9 月第 3 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 4) 2 年次第 4 期：11 月第 3 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 ※原則として 1)～4) のうち 2 回を外科治療学特別実習、他の 2 回を麻酔・救急・集中医療特別実習に充てる。						
【授業計画】（表題下は該当研修制度指定共通科目、表内は区分別科目との対応） 1. 東北文化学園大学および東北大学クリニカル・スキルスラボにおける演習（1 年次 3 月）、9 時間 1) 超音波検査法によるフィジカルアセスメント 1 井本博文・荒木とも子 2) 超音波検査法によるフィジカルアセスメント 2 井本博文・荒木とも子 3) 胸腔ドレーン挿入 渡邊隆夫・荒木とも子 4) 胸腔ドレーン管理 渡邊隆夫・荒木とも子 5) 中心静脈カテーテル 1 西條文人・荒木とも子 6) 中心静脈カテーテル 2 谷山裕亮・荒木とも子 2. 医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援について 渡邊隆夫・荒木とも子 3. 臨床実習における演習 1) 診断と治療計画（症例検討）1 協力施設臨床教授 2) 診断と治療計画（症例検討）2 協力施設臨床教授 3) 診断と治療計画（症例検討）3 協力施設臨床教授 4) 診断と治療計画（症例検討）4 協力施設臨床教授 【おもな実習内容】消化器外科周術期管理・心臓血管外科周術期管理医療処置・管理実践及び倫理的意思決定支援 NP の役割と責任 【実技試験（OSCE）担当】（2 コマ） 津田丈秀、佐藤秀隆、工藤剛実、荒木とも子（東北文化）片岡ひとみ（山形大学）						
教 科 書		標準外科学」医学書院、加藤 治文監修、ISBN978-4-260-01631-5				
参 考 書		特に指定しません。				
備 考		特になし。				

科 目 名	麻酔・救急・集中医療特別実習			担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・工藤 剛実 荒木とも子・遠藤 智之 片岡ひとみ・小林 正和 田畑 雅央
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教員研究室	3214 他
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	実習	授 業 時 間	360 時間	単 位	選択 8 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 麻酔・集中治療および救急医療に求められる高度な医行為の修得を目標とする。一人の自律した診療看護師（NP）を目指す学生として、医療チームの一員であることの自覚をもって、指導医師の指示のもと自ら実施する医行為の修得を目指す。				【課題等のフィードバック方法】 原則 2 週間以内に採点返却する。	
【学習の到達目標】 1. 救急患者・症状に応じた医療面接とフィジカルアセスメント・検査の結果から患者の健康を包括的アセスメントできる。2. 平均的な緊急手術の第 1 助手または第 2 助手を安全に務めることができる。手術内容を正確に伝えることができる。3. 救急患者に適した医療を提供するために、診療看護師（NP）として他職種と連携し、協働できる。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 外科処置などを医師の指導下に行うことにより、その時々の判断を指導医の監督下に行う必要があり、臨床推論も現実の患者の治療上刻々と要請されるものとして行うものであることが体得できる。手術などに参加することで、人体内部の構造、病態に直に接する経験が得られるため、術後経過を見る上でも「申し送られた」観点とは全く異なる視点を持つことができる。侵襲的な処置の実習においてはその必要性和適応に並んでリスク、合併症をも等しく評価できる視点を持つことができる。	
【成績評価方法】 1. 麻酔・救急・集中医療特別実習で実施する科目全てが合格することにより合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。				【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・小林正和・遠藤智之・吾妻俊弘・安宅一晃・牧野淳・加藤健吾・渡邊崇・内田寛昭・小林道生・内田祐二・杉村勇輔・岩永航・荒木とも子	
授 業 計 画					
病院実習 1) 2 年次第 1 期：4 月第 2 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 2) 2 年次第 2 期：6 月第 3 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 3) 2 年次第 3 期：9 月第 3 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 4) 2 年次第 4 期：11 月第 3 週より 9 週間、原則 2 日／週、計 18 日間 ※原則として 1)～4) のうち 2 回を麻酔・救急・集中医療特別実習、他の 2 回を外科治療学特別実習に充てる。 【授業計画】全授業サポート担当 渡邊隆夫・荒木とも子 1. 東北文化学園大学および東北大学クリニカル・スキルスラボにおける演習（1 年次 3 月）、16.5 時間 1) 呼吸音の聴取と病態の理解：3 時間 田畑雅央・荒木とも子 2) 心音の聴取と病態の理解：3 時間 加賀谷豊・荒木とも子 3) 救急患者における身体所見・病態の理解と治療計画：遠藤智之、小林正和・荒木とも子 4) 急変対応における身体所見・病態の理解と治療計画 2：4.5 時間 小林正和・荒木とも子 2. 臨床実習における演習 1) 診断と治療計画（症例検討）1・2・3・4 協力施設臨床教授 【実技試験（OSCE）担当】（2 コマ、外科治療学特別実習と併せ 2 コマ） 津田丈秀、佐藤秀隆、工藤剛実、荒木とも子（東北文化学園大学） 片岡ひとみ（山形大学）					
教 科 書	「標準救急医学」有賀徹他、医学書院、ISBN978-4-260-01755-8 「標準麻酔科学」古家仁他、医学書院、ISBN978-4-260-01179-2				
参 考 書	「メデイカルスタッフのための救急医学」医学出版社、渡邊隆夫他、ISBN978-4-87055-126-8				
備 考	特になし。				

科 目 名	健康福祉特別研究			担 当 者	○津田 丈秀・古林 俊晃
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教員研究室	3214 他
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 8 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 健康福祉に関する重要なテーマについて、健康福祉専攻専任教員の指導のもとに研究し、その成果を修士論文としてまとめる。 【学習の到達目標】 健康福祉に関する重要なテーマについて、健康福祉専攻専任教員の指導のもとに研究し、その成果を修士論文としてまとめる。 【成績評価方法】 修士論文の内容と公開発表会での質疑応答状況により総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 別途指示する。 【履修上の注意・予習・復習について】 各担当の指導教員の指示に従うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 計画的に修士論文をまとめる作業を行うことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
各指導教員の指導計画に基づき進める。					
教 科 書	指導教員が適宜指示する。				
参 考 書	指導教員が適宜指示する。				
備 考	問い合わせ教員：各指導教員				

科 目 名		健康福祉特別研究（NP）		担 当 者	○渡邊 隆夫・佐藤 秀隆 津田 丈秀・工藤 剛実 古林 俊晃・荒木とも子
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教員研究室	3214 他
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	2 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 8 単位
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 健康福祉専攻専任教員の指導のもとに研究し、各症例報告、医療技術の現代医療の中における位置づけについての論文としてまとめ、報告を行なう。 実習を通し、研究課題を見出す。研究課題から研究計画書作成、研究実施を経て論文完成後、発表する。				【課題等のフィードバック方法】 classroom meet で面談の上フィードバックする。	
【学習の到達目標】 ナースプラクティショナーの現代医療における位置づけ、展望、課題に関して、習得した保健医療福祉に関連した法律、医療倫理、医療安全知識から NP の役割と責任等を適切に論ずることができる。 学会発表形式で症例や治療手段などについて問題点の提起ができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 先行研究として各種の症例報告論文を 1 症例につき 5 篇以上通読すること。その他の臨床研究論文についても精読すること。	
【成績評価方法】 1. 健康福祉特別研究で実施する科目全てが合格すること、研究成果報告書および報告会における審査合格により合格と判定し、該当部分の点数を合算して成績とする。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 学術集会での発表や学術誌での論文執筆を容易に行えるようになる。 看護・医療双方の発展を促す領域での活動ができるようになる。	
【実務家教員担当科目】 渡邊隆夫・荒木とも子					
授 業 計 画					
I. 研究：NP としての役割・責任等の研究課題設定し、文献検索（英文論文・邦文論文）後、研究計画書を作成する。研究計画発表により、指導教員から指導を受ける。倫理審査ののち、研究実施後論文作成と発表を行う。 II. 院生が体験した症例をプレゼンすることで NP の視点から再考する 回 内容 方法 担当教員 1 症例検討ガイダンス 講義 渡邊隆夫・荒木とも子 2 症例検討 1. 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 3 症例検討 2 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 4 症例検討 3 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 5 症例検討 4 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 6 症例検討 5 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 7 症例検討 6 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 III. 症例報告-2（2 年次） 実習施設臨床指導医のもと、8 症例を NP の視点から症例報告としてまとめる。 指導された症例の中から 3 つの症例を発表する。症例報告を作成する。 各実習病院における症例報告 2 例、計 8 例 実習病院臨床教授の指導を受ける。 領域ごとにまとめた上で序論、考察・まとめを加える。 成果報告書については上記症例のうちから選別し大学院専任教員により別途指導する。 回 内容 方法 担当教員 1 症例報告ガイダンス 講義 渡邊隆夫・荒木とも子 2 症例報告予演会 1.2.3.4.5. 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 3 症例報告会 1 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 4 症例報告予演会 1.2.3.4.5. 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 5 症例報告会 2 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 6 症例報告予演会 1.2.3.4.5. 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 7 症例報告会 3 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 8 症例報告予演会 1.2.3.4.5. 演習 渡邊隆夫・荒木とも子 9 症例・研究発表会 4（修士論文発表）演習 渡邊隆夫・荒木とも子					
教 科 書		特に指定しません。			
参 考 書		特に指定しません。			
備 考		特になし。			

生活環境情報専攻（前期 2 年の課程）

科 目 名		教育原理特論		担 当 者	佐々木真由美
科目ナンバリング					非常勤
D P				教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位
		選択 2 単位			
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし			
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・常に社会の変化や進展を背景に改訂される教育。教育の不易と流行（時代が激しく変化しようとも変わらない価値のあるもの〔不易〕、時代の変化とともに変えていく必要があるもの〔流行〕）を基底にすえ、受けてきた教育や見聞きする教育など身近な教育問題を取り上げながら、教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を学ぶ。成長する教師に必要な教育観の形成に資する内容である。		【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。			
【学習の到達目標】 ・教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則や理論的基礎を理解することができる。 ・教育現場や指導場面で役立つ基礎・基本を身に付けることができるとともに、学習者に寄り添う指導者としての教育観を形成できる。		【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。			
【成績評価方法】 ・科目に必要な評価項目・基準を定めたルーブリックに基づき評価する。		【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりする契機となる。他者の発言に傾聴し、深く思考する自身を実感できる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる。			
【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（到達目標、学習内容、学習評価等）④ルーブリック	予習：受けてきた教育を振り返り、教育に必要な要件を考える。復習：必要な学び方等を整理し、キャリアデザインを作成する。		
2	佐々木真由美	教育の原義をふまえ、教育の必要性を考える。④ルソーの『エミール』、『アヴェロン野生児』	予習：『エミール』『アヴェロン野生児』について調べる。復習：ルソーの理想とした教育について双括型の文章にまとめる。		
3	佐々木真由美	教育の意義と目的をおさえ、問題点を考える。○キ中央教育審議会答申(平成28年12月21日)ゆとり教育	予習：公教育制度について 800 字程度で所見を述べる。復習：生きる力についてまとめる。		
4	佐々木真由美	人間の育ち・成長について考える。④発達の最近接領域、タイダル・ウェーブ	予習：ヴィゴツキーの発達の最近説領域説を調べる。復習：。その説を踏まえた経験 800 字程度にまとめる。		
5	佐々木真由美	様々な指導方法を取り上げ、教え方の変遷を理解する。④問答法、一斉教授、生活単元学習	予習：問答法、一斉教授、生活単元学習、系統学習、問題解決学習について調べる。復習：時代背景をふまえ、教え方の変遷をまとめる。		
6	佐々木真由美	教育を受ける権利と教育格差について理解する。④教育勅語、改定教育基本法、検定教科書	予習：指摘されている教育上の格差や差別を一覧にする。復習：教育を受ける権利をふまえ、教育格差を是正するための方策を提案する。		
7	佐々木真由美	学びを支える教育行政制度の仕組みを理解する。④文科省、教育委員会、地域協働	予習：文科省、教育委員会等の仕組みを調べる。復習：大学教育の効果をも高めるための地域や関係機関との連携について提案する。		
8	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④夜間中学、フリースクール	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。		
9	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④発達の特性、個別の支援、通級指導	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。		
10	佐々木真由美	授業における望ましい関係性について考える。④いじめ防止対策推進法、学習性無力感	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。		
11	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。	予習：資料（新聞記事）について考えをまとめる。復習：学友の意見を聞くことで考えを深める。		
12	佐々木真由美	教育課程の仕組みを理解し、理想的教育課程について考える。④ヒドゥンカリキュラム、初年次教育	予習：顕在的カリキュラム、潜在カリキュラムについてについて知り調べる。復習：自身の無自覚の規範や価値観等を整理する。		
13	佐々木真由美	日本の教員養成制度を理解し、目指す教師像を考える。④教師の専門性と資質能力	予習：日本の教員養成制度の現状と課題についてレポートする。復習：「総合的な発達援助職としての教師に必要なこと」をまとめる。		
14	佐々木真由美	教育における課題について考え、自身や教育の未来を想像する。④キャリアデザイン	予習：レポート 800 字「私が目指す指導者（教師）像とその理由」。復習：キャリアデザインを見直し、加筆する。		
教 科 書		適宜プリントを配付			
参 考 書		問いからはじめる教育学（勝野正章, 庄井良信 有斐閣ストゥディア）, 教育学原論（ミネルヴァ書房）カリキュラム論（成文社）教育社会学（ミネルヴァ書房）			
備 考		特になし			

科 目 名		教育方法特論			担 当 者	佐々木真由美
科目ナンバリング						非常勤
D P					教 員 研 究 室	非常勤講師室
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・「教師の指導方法は、受けた教育に影響される」と指摘されている。いわゆる、「教育の再生化」である。先達が実践し、築き上げた教育理念及び指導方法を学び、多様な視点から効果的な教育方法について考え、学習者と教材との出会いをコーディネートし、主体的な学習を促す教育方法について理解する。教育における「守破離」を実感し、学びの中心に学習者を位置付ける教育方法の修得に資する内容である。 【学習の到達目標】 ・先達の教育理念や指導方法について理解し、学習者の個性や特性及び教材等の特徴をふまえ、多様な視点から学習者の主体的な学習を促す効果的な教育方法について考えることができる。 【成績評価方法】 ・科目の評価項目と基準等を定めたルーブリックに基づき評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりすることができるようになる。他者の発言に傾聴し、深く思考するようになる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（14 回の見直し：到達目標、学習内容、評価方法等）④ルーブリック	予習：自分自身の教育観を整理する。復習：ターニングポイントとなった授業、心に残る授業から特徴的な。導方法を取り上げる。			
2	佐々木真由美	大正自由教育を推進した先人	予習：樋口勘次郎、及川平治に関する資料を基に、両先達の教育理念を探る。復習：時代背景、両氏が学んだ教育、目指した教育についてまとめる。			
3	佐々木真由美	戦中・戦後教育の概要	予習：資料（戦後教育の概要等）を読み、時代と当時の教育の特徴等について調べる。復習：資料（学習指導要領の改訂ダイジェスト版）を参考に戦後の教育についてまとめる。			
4	佐々木真由美	無着成恭と生活綴方	予習：資料（無着成恭と生活綴方）等を読み、無着成恭の教育理念と教育方法について調べる。復習：無着成恭の「守破離」についてまとめる。			
5	佐々木真由美	糸賀一雄と障がい児教育	予習：⑦「この子らを世の光に」④「この子らに世の光を」違いを述べよ。800 字。復習：所見を推敲するとともに、糸賀一雄の目指した教育理念と実践についてまとめる。			
6	佐々木真由美	大村はまと教えること（1）	予習：大村はまの資料「教えるということ」について調べる。復習：大村はまの目指した「優劣のかなた」についてまとめる。			
7	佐々木真由美	大村はまと教えること（2）	予習：大村はまの生きた時代の教育を調べ、戦前戦後の教育の変遷を知る。復習：主体的な学びが可能となる学習の在り方について考える。			
8	佐々木真由美	斎藤喜博と教師の実践	予習：斎藤喜博について調べ「授業の展開」について所見を述べよ。800 字。復習：斎藤喜博の目指した教育理念と授業についてまとめる。			
9	佐々木真由美	岸本裕史と学力の基礎	予習：岸本裕史について調べる。復習：「落ちこぼれを出さない」実践を目指した教育理念についてまとめる。			
10	佐々木真由美	金森俊朗といのちの学習	予習：生と死のリアリティの回復を目指した教育について調べる。復習：金森俊朗の目指す教育理念と授業についてまとめる。			
11	佐々木真由美	和光小学校・和光」鶴川小学校と総合学習	予習：左記の学校の「実感のある学び」と「血の通った学力」について調べる。復習：生活教育と総合学習の展開についてまとめる。			
12	佐々木真由美	ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義	予習：ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義について調べる。復習：戦後教育への影響について考える。			
13	佐々木真由美	高大接続と教育方法	予習：高大システム改革会議最終報告書に示されたこれからの人材育成と教育方法を読み取る。復習：就職 1 年目に経験する課題を想定し、教育方法の視点から対応策を示す。			
14	佐々木真由美	教育答申に見るこれからの教育	予習：答申を貫く理念（教育の不易）と教育の流行を比較する。復習：これまでの授業と照らし合わせ、主体的な学びを促す教育方法についてまとめる。			
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、時代を拓いた教師たち（田中耕治編著 日本標準）、教師の歴史（創文社）、及川平治、糸賀一雄、無著成恭、大村はま、斎藤喜博、岸本裕史、金森俊朗、和光小学校等の文献、高大接続システム改革会議最終報告（平成 28 年）、中央教育審議会答申（平成 8 年、平成 28 年他）、学制百年史（文科省）他				
備 考		特になし				

科 目 名	地域活性システム論			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1201
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地域政策と経営、地域社会と福祉の2つについてそのあり方について検討する。				【課題等のフィードバック方法】 少人数での授業なので、毎回ディスカッションをすることになるので、フィードバックはその都度行われる。	
【学習の到達目標】 社会における地域の捉え方を社会学、経済学、環境学の多面的側面からの考え方を学ぶ。				【履修上の注意・予習・復習について】 受講者は予習・復習として新聞や関連書籍を読み、各自の考え方を構築していただきたい。	
【成績評価方法】 小テスト（レポート等）80% 受講態度など20%				【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会における地域の捉えかたに関して、社会学、経済学、環境学といった多面的側面からの考え方を学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	吉田 裕人	地域経済の現状と課題 経済データでみる地域経済Ⅰ	新聞などで地域経済の現状などを調べておく。	
2	吉田 裕人	地域経済の現状と課題 経済データでみる地域経済Ⅱ	新聞などで地域経済の現状などを調べておく。	
3	吉田 裕人	地域経済の現状と課題 経済データでみる地域経済Ⅲ	新聞などで地域経済の現状などを調べておく。	
4	吉田 裕人	地方財政の現状と課題Ⅰ	新聞などで地域財政の現状などを調べておく。	
5	吉田 裕人	地方財政の現状と課題Ⅱ	新聞などで地域財政の現状などを調べておく。	
6	吉田 裕人	地方財政の現状と課題Ⅲ	新聞などで地域財政の現状などを調べておく。	
7	吉田 裕人	地域における福祉の現状	新聞などで地域福祉の現状などを調べておく。	
8	吉田 裕人	地域社会の変動とその要因	日本における地域社会の歴史などを調べておく。	
9	吉田 裕人	地域社会の少子・高齢化とその活性化対策Ⅰ	新聞などで地域の少子・高齢化の現状とその対策などを調べておく。	
10	吉田 裕人	地域社会の少子・高齢化とその活性化対策Ⅱ	新聞などで地域の少子・高齢化の現状とその対策などを調べておく。	
11	吉田 裕人	地域社会の少子・高齢化とその活性化対策Ⅲ	新聞などで地域の少子・高齢化の現状とその対策などを調べておく。	
12	吉田 裕人	地域づくり・健康づくり・生きがいづくりⅠ	地域における様々な取り組みを調べておく。	
13	吉田 裕人	地域づくり・健康づくり・生きがいづくりⅡ	地域における様々な取り組みを調べておく。	
14	吉田 裕人	地域づくり・健康づくり・生きがいづくりⅢ	地域における様々な取り組みを調べておく。	
教 科 書		なし（必要な資料は講義時に配布する）		
参 考 書		特になし		
備 考		問合せ先：吉田裕人 授業計画の内容は変更する場合がある。		

科 目 名		健全都市環境形成論			担 当 者	○山本 和恵・川村 広則	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教員研究室	1213	
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 少子高齢化、人口減少、環境問題等を踏まえた健全都市形成論が求められている。健全な「都市環境」とは何かという問題を、家庭生活、都市生活、生活空間、都市空間という視点から考察・検討する。都市環境および建築環境の形成と発展に関して、「生活」と「空間」をキーワードに文化的および社会的視点から多角的、総合的に論じ、その問題点と活性化の可能性を探る。					【課題等のフィードバック方法】 講義内の質疑		
【学習の到達目標】 現代都市の健全環境形成を考察する諸科学のアプローチを理解する。					【履修上の注意・予習・復習について】 各担当教員の指示によること。		
【成績評価方法】 授業への取り組みとレポート評価					【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代都市の健全環境形成を考察する諸科学のアプローチを理解することによって、都市研究の一助とすることができる。		
					【実務家教員担当科目】 特になし		
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	山本 和恵	講義の主旨とガイダンス	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
2	山本 和恵	都市の形成過程と健全都市環境創造への思想	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
3	山本 和恵	少子高齢化・人口減少社会に適応する都市のカタチ	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
4	山本 和恵	健全都市形成の海外事例	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
5	山本 和恵	まりづくり事例研究 1	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
6	山本 和恵	まちづくり事例研究 2	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
7	山本 和恵	日本の環境問題とその取組	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
8	山本 和恵	サステナビリティ：環境的持続可能性と社会的持続可能性	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
9	山本 和恵	エコロジカル：生物学的生態学と人間生態学（ヒューマンエコロジー）	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
10	山本 和恵	ビオトープ創出とエコロジカル・ネットワーク	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
11	川村 広則	騒音問題の歴史と現状、法規制	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
12	川村 広則	事例研究 1：騒音防止対策と評価手法	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
13	川村 広則	事例研究 2：低周波騒音と心理学的及び生理学的評価	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
14	川村 広則	まとめと考察：都市における音環境のあり方	関連する文献を複数読み、自分なりの見解を持つ準備をする				
教 科 書		特に指定しない					
参 考 書		適宜紹介する					
備 考		問い合わせは山本、川村のいずれかまで					

科 目 名		快適・健康住環境論			担 当 者	野崎 淳夫
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	1311
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☑双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 現代では高齢者から小児・児童までを含むすべての人々にとって、快適で健康に配慮した室内環境が求められている。本講義では最新理論を用いて、室内空気汚染メカニズム、汚染物質と健康影響、汚染防止対策技術の効用と限界に関する講義を行う。これにより、居住、執務、医療、福祉、娯楽など、各種用途の空間に対して、快適で健康な環境を創造し、実現するための理論の展開と手段・技術の開発への道が拓かれる。 【学習の到達目標】 本講義では子供から高齢者に至る幅の広い居住者にとって、理想的な室内環境のあり方について論ずるもので、特に室内における環境とその改善策を重点的に学ぶ。 【成績評価方法】 定期試験、レポート、提出物状況等を考慮して判定する。						
【課題等のフィードバック方法】 最終講義で全体に対するフィードバックを行う。						
【履修上の注意・予習・復習について】 講義開始から 20 分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻 2 回で欠席 1 回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておくこと。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。						
【受講して得られる効果・メリット、その他】 居住者に寄り添った理想的な室内環境のあり方や室内における環境とその改善策を重点的に習得できる。						
【実務家教員担当科目】 室内環境実務を経験している教員が、室内環境の特性と改善策を実例を交えて講義する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	野崎 淳夫	健康・快適住環境論とは	教科書、配布資料で「健康・快適住環境論」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
2	佐藤 慎也	子どもと本生と遊び	教科書、配布資料で「子どもと本生と遊び」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
3	佐藤 慎也	成育環境（1）	教科書、配布資料で「成育環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
4	佐藤 慎也	成育環境（2）	教科書、配布資料で「成育環境」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
5	野崎 淳夫	室内環境の構成	教科書、配布資料で「室内環境の構成」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
6	野崎 淳夫	空気環境と健康影響	教科書、配布資料で「空気環境と健康影響」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
7	野崎 淳夫	室内環境の実態	教科書、配布資料で「室内環境の実態」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
8	野崎 淳夫	室内環境の物理・化学的特性、各種法規制、ガイドラインなど	教科書、配布資料で「室内環境の物理・化学的特性、各種法規制、ガイドライン」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
9	野崎 淳夫	室内汚染対策技術（1）	教科書、配布資料で「室内汚染対策技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
10	野崎 淳夫	室内汚染対策技術（2）	教科書、配布資料で「室内汚染対策技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
11	羽石 隆彦	快適環境の設計手法（1）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
12	石崎 裕行	快適環境の設計手法（2）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
13	野崎 淳夫	快適環境の設計手法と実例（1）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
14	野崎 淳夫	快適環境の設計手法と実例（2）	教科書、配布資料で「快適環境の設計手法」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
教 科 書		「室内空気環境設計法」技法堂出版				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		問い合わせ先：野崎淳夫（1311 教員研究室）				

科 目 名		居住福祉環境論			担 当 者	○山本 和恵・石井 敏	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教員研究室	1213	
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 少子高齢化、人口減少の社会背景を踏まえ、まちづくりやすまいづくりといった建築環境のあり方が転換期を迎えている。他方で医療・福祉の分野においても、施設中心のケアから「地域移行」の動きも激しい。生活と福祉の基盤となる住環境の再整備は学際的な視点から再考することが必要である。本講義では、特に医療・福祉の観点から住環境の基盤整備のあり方について論じる。					【課題等のフィードバック方法】 講義内での質疑・討論		
【学習の到達目標】 医療・福祉・居住施設の空間整備の基本的な考え方や手法を学び、関連する今日的な課題について議論できる。自分の専門分野を基盤としながら、他分野を視野に入れた学際的な知見を提案できる。					【履修上の注意・予習・復習について】 積極的な講義参加態度が望まれる		
【成績評価方法】 講義におけるディスカッションならびにレポートの内容によって評価する					【受講して得られる効果・メリット、その他】 学際的な視点から諸問題をとらえ、基盤としての住環境に関する今日的課題を学ぶことができる。また人間と環境の関係に関する研究方法についても学ぶことができる。		
					【実務家教員担当科目】 特になし		

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	山本 和恵	講義ガイダンスと講義の主旨	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
2	山本 和恵	居住福祉のまちづくり 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
3	山本 和恵	居住福祉のまちづくり 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
4	山本 和恵	療養環境としてのすまい 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
5	山本 和恵	療養環境としてのすまい 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
6	山本 和恵	生活環境としての施設 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
7	山本 和恵	生活環境としての施設 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
8	山本 和恵	総括・討議	レポートの制作	
9	石井 敏	介護保険と地域包括ケア	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
10	石井 敏	高齢者介護施設の歴史と今	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
11	石井 敏	高齢者住宅 1	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
12	石井 敏	高齢者住宅 2	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
13	石井 敏	北欧フィンランドの暮らし福祉	関連文献を読み。各自の見解が述べられるように準備	
14	石井 敏	北欧フィンランドの高齢者介護と環境	レポートの制作	
教 科 書		特に指定しない		
参 考 書		特に指定しない		
備 考		問い合わせ等の受付は山本まで		

科 目 名	健全都市環境形成セミナー			担 当 者	○山本 和恵・川村 広則	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1213	
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単位	
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション ☑実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用	□双方向型授業 □自主学習支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本セミナーでは、身近な生活環境から多様な地域および時代における建築都市環境の形成と発展を文化のおよび社会的視点から多角的、総合的に捉え、これらに関する文献の講読および具体的事例に即した調査・分析の実際を学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 講義内での質疑、討論		
【学習の到達目標】 本セミナーでは、身近な生活環境から多様な地域および時代における建築都市環境の形成と発展を文化のおよび社会的視点から多角的、総合的に捉え、これらに関する文献の講読および具体的事例に即した調査・分析した結果を総括してプレゼンテーションができる。				【履修上の注意・予習・復習について】 自ら課題を見出し、発言、提案するなど積極的な参加態度が望まれる		
【成績評価方法】 授業への参加度とレポート				【受講して得られる効果・メリット、その他】 学術的・実践的な演習を踏まえ、建築都市環境の形成を多角的、総合的に論じることができる。		
				【実務家教員担当科目】 増田豊文：建築設計事務所勤務経験有		

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	山本 和恵	少子高齢化・人口減少社会に対応するまちづくりに関する今日の課題の抽出	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
2	山本 和恵	近年の研究テーマの傾向に関する調査	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
3	山本 和恵	実践的研究手法ならびに実践報告に関する調査・討議	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
4	山本 和恵	フィールドワーク 1	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
5	山本 和恵	フィールドワーク 2	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
6	山本 和恵	まとめと討議	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
7	山本 和恵	課題分析・提案：情報収集と分析・発想	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
8	山本 和恵	フィールドワーク	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
9	山本 和恵	都市の自然空間の提案：都市の課題抽出・基本構想「計画地選出/コンセプト/エスキース」	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
10	山本 和恵	都市の自然空間の提案 2：計画案まとめ・プレゼンテーション作成	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
11	川村 広則	都市騒音問題の課題分析・課題の設定・調査方法の検討	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
12	川村 広則	文献調査	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
13	川村 広則	実測調査	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
14	川村 広則	まとめと討議	関連論文を複数読み、各自の見解を準備する	
教 科 書	特に指定しない			
参 考 書	特に指定しない			
備 考	問い合わせは山本・増田・川村まで			

科 目 名		快適・健康住環境セミナー		担 当 者	野崎 淳夫	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1311	
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 本セミナーでは、健康で快適な居住、執務等の空間を構成するための基本理論を学び、建築環境工学、環境科学、公衆衛生学、空気調和、空気清浄機等の分野における最新の知見を用いて、問題の解決にあたる。 また、学生を交えての輪講や討論を積極的に行い、問題点を抽出・整理し、具体的対応に至るアプローチを見出す。 【学習の到達目標】 室内において温熱環境と空気環境が如何にして構成されるか、或は換気がこれらにどのような影響を与えるかについて具体的に学ぶ。また、人の健康と室内環境との関わりを学び、健康で快適な住環境を創造するための基礎知識の習得を目標とする。 【成績評価方法】 定期試験：50%、レポート：30%、小テスト：20% 【課題等のフィードバック方法】 最終講義で全体に対するフィードバックを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義開始から 20 分以上遅れてきた場合は、遅刻扱いとする。なお、遅刻 2 回で欠席 1 回とし、講義に対する姿勢を重要視する。使用教科書・参考書に事前に目を通し、予習しておく。また、講義内容に応じた課題が与えられることがあるが、提出期限を厳守する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 室内環境の構成が理解でき、環境構成要因と健康との関係について習得できる。 【実務家教員担当科目】 室内環境実務を経験している教員が、室内環境の特性と改善策について、実例を交えたセミナーを行う。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	野崎 淳夫	室内空気汚染と健康影響	教科書、配布資料で「室内空気汚染と健康影響」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
2	井須 紀文	材料からの発生	教科書、配布資料で「材料からの発生」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
3	野崎 淳夫	機材からの発生	教科書、配布資料で「機材からの発生」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
4	野崎 淳夫	汚染対策技術	教科書、配布資料で「汚染対策技術」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
5	野崎 淳夫	粉塵、ラドンとラドン娘核種	教科書、配布資料で「粉塵、ラドンとラドン娘核種」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
6	野崎 淳夫	ホルムアルデヒド	教科書、配布資料で「ホルムアルデヒド」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
7	野崎 淳夫	揮発性有機化合物（VOC）	教科書、配布資料で「揮発性有機化合物（VOC）」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
8	野崎 淳夫	NOx・SOx	教科書、配布資料で「NOx・SOx」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
9	野崎 淳夫	臭気	教科書、配布資料で「臭気」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
10	野崎 淳夫	アレルゲン・微生物	教科書、配布資料で「アレルゲン・微生物」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
11	野崎 淳夫	アスベスト	教科書、配布資料で「アスベスト」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
12	野崎 淳夫	オゾン	教科書、配布資料で「オゾン」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
13	野崎 淳夫	健康・快適住宅の設計事例（1）	教科書、配布資料で「健康・快適住宅の設計事例」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
14	野崎 淳夫	健康・快適住宅の設計事例（2）	教科書、配布資料で「健康・快適住宅の設計事例」に関する部分を読んで予習する。学習内容を整理しながら復習する。			
教 科 書		吉野博、石川哲、野崎淳夫ほか：「シックハウス症候群を防ぐには」東北大学出版会				
参 考 書		特に指定しない				
備 考		問い合わせ先：野崎淳夫（1311 教員研究室）				

科 目 名		生体情報福祉工学			担 当 者	古林 俊晃
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	1203
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 神経生理学に重きをおくが、神経は人体の多様な臓器を支配し制御している。前半では人体の構造と機能を植物系と動物系に分け概説し、後半ではそれぞれの系がどのような神経支配を受けているのかを概説する。 【学習の到達目標】 ・生体の構造と機能と簡単な病態について説明できるようになる ・神経がどのように生体を制御しているのかを説明できるようになる 【成績評価方法】 課題レポート：50%、プレゼンテーション：50% 【課題等のフィードバック方法】 レポートは指定日に、プレゼンテーションは講義時に行う 【履修上の注意・予習・復習について】 ・積極的にディスカッションできるように配布資料についての知識を教科書や論文により予習をしておい下おくこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 人の正常な構造と機能を学びつつ、疾患等による異常機能に関する知識が得られる 人が神経によりどのように制御されているのかを学ぶことができる 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	古林 俊晃	ガイダンス 人間らしさとは	予習：配布資料の確認 復習：振り返りの提出、資料の整理とノート作成			
2	古林 俊晃	植物機能：呼吸器系	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
3	古林 俊晃	植物機能：循環器系	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
4	古林 俊晃	植物機能：内分泌系	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
5	古林 俊晃	植物機能：消化器系とエネルギー	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
6	古林 俊晃	恒常性：生体防御（免疫・体温・水分調整）	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
7	古林 俊晃	泌尿器系：腎臓	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
8	古林 俊晃	動物機能：骨	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
9	古林 俊晃	動物機能：筋肉	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
10	古林 俊晃	動物機能：神経	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
11	古林 俊晃	神経系：末梢神経	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
12	古林 俊晃	神経系：中枢神経系	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
13	古林 俊晃	神経系：感覚器系	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
14	古林 俊晃	高次脳機能と運動制御	予習：教科書による内容確認 復習：資料とノート整理			
教 科 書		・人体の構造と機能及び疾病（佐々木司著 講談社） ・神経・生理心理学（早川友恵・田邊宏樹著 講談社）				
参 考 書		・誘発電位ナビ（飛松省三著 南山堂） ・脳と神経をめぐる旅（寺尾安生著 Medical View）				
備 考		授業の進捗により講義内容の調整を行う場合がある				

科 目 名		生体情報福祉工学セミナー		担 当 者	古林 俊晃	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1203	
学 科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生体情報福祉工学で修得した知識を演習により観察し、生理現象の仕組みを視覚的に確認する。さらに実習で得た結果の処理方法、視点やまとめ方を学ぶ。 演習フローは、当該実習内容の説明⇒演習⇒データ処理と視点を説明する。 【学習の到達目標】 ・演習で得た結果の理論的考察の仕方を修得し、精度の高いプレゼンテーションやレポートにより報告できるようになる。 ・論理的考察の仕方を学び、科学的な視点が身に着く。 【成績評価方法】 成果のプレゼンテーション（40％）とレポート（60％） 【課題等のフィードバック方法】 プレゼンテーションについては、演習時に行います。 レポートについては翌週に行います。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・実習を円滑に行う為、配布資料等により内容把握をした上で演習に参加すること。 ・プレゼンテーションやレポートには、積極的に論文を用いるよう努力すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 生体情報福祉工学で修得した知識を、演習により視覚的に捉えることができるのでより深い理解が得られる。また科学的思考に基づくレポートの書き方ばかりでなく、研究倫理を修得できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	古林 俊晃	ガイダンス：実習の進め方 実験の進め方	予習：PICO に関する本を読む 復習：研究の方法についてまとめる			
2	古林 俊晃	研究倫理の考え方	予習：生命倫理に関する本を読む 復習：実習項目の確認、及び研究倫理についてまとめる			
3	古林 俊晃	血圧と腎機能の概説と実習	予習：血圧と腎の生理的機能と酸塩基平行の確認 復習：実習事項のレポート作成			
4	古林 俊晃	感覚器系（表在・深部感覚）：理論と実習概説	予習：皮膚と深部の感覚器系の確認 復習：実習概要について確認			
5	古林 俊晃	感覚器系（表在・深部感覚）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			
6	古林 俊晃	生体の電気現象（心電図）：理論と実習概要	予習：心機能の確認 復習：心電図の読み方の確認			
7	古林 俊晃	生体の電気現象（心電図）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			
8	古林 俊晃	生体の電気現象（筋電図と反応時間）/ 理論と実習概説	予習：興奮収縮連関と滑走説の確認 復習：筋電図が得られる仕組みについてまとめる			
9	古林 俊晃	生体の電気現象（筋電図と反応時間）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			
10	古林 俊晃	誘発電位（伸張反射）：理論と実習概説	予習：伸張反射の確認 復習：H 反射の確認			
11	古林 俊晃	誘発電位（伸張反射）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			
12	古林 俊晃	電気生理学（脳波）：理論と実習概説	予習：脳波の確認 復習：脳波の原理をまとめる			
13	古林 俊晃	電気生理学（脳波）：実習	予習：実習概要の確認 復習：実習事項のレポート作成			
14	古林 俊晃	電気生理学（科学研究で使われる技術）	予習：誘発電位について調べる 復習：実習事項のレポート確認			
教 科 書		誘発電位ナビ（飛松省三著 南山堂）				
参 考 書		脳と神経をまぐる旅（寺尾安生著 Medical View）				
備 考		実験の進捗や実験室の変更より内容を変更することがある。この場合は事前に指示をする				

科 目 名		安全・安心環境システム論			担 当 者	須藤 論	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教員研究室	1318	
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディバート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 今日では地球温暖化問題、ヒートアイランドなどの環境問題が発生し、さまざまな災害リスク、環境リスクに直面している。人間の活動が地球環境に影響を及ぼすなど、従来はなかった領域にまで拡大してきている。 生活基盤を保持し、安全な環境を保つためには、人間が環境と調和した住環境をつくり上げる努力をすることが必要となる。 本講義ではそのための理念、実現のための方法について論ずる。また、2011 年 3 月に発生した東日本大震災についても考察を加える。							
【課題等のフィードバック方法】 提出を求めるテーマごとのレポートについては、プレゼンテーション・総合討論における講評を通してフィードバックする。							
【履修上の注意・予習・復習について】 本講義の演習授業である「安全・安心環境システムセミナー」を併行的に履修することが望ましい。							
【受講して得られる効果・メリット、その他】 講義内容は、安全で安心な環境を構築するための基本原理・理念についての講義者の「論」であり、聴講者はそれぞれ各自の「論」を組み立てるヒントを得る。							
【実務家教員担当科目】 非該当							

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	須藤 論	安全安心環境システムとは（イントロダクション）	予習：シラバスを熟読しておくこと。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
2	須藤 論	環境リスク 1：地球温暖化と対策	予習：教科書の地球温暖化と対策を熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
3	須藤 論	環境リスク 2：ヒートアイランド現象と対策	予習：教科書のヒートアイランド現象と対策を熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
4	須藤 論	環境リスク 3：ライフサイクル評価	予習：教科書のライフサイクル評価のページを熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
5	須藤 論	都市のインフラストラクチャー	予習：教科書の都市のインフラストラクチャーのページを熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
6	須藤 論	地域冷暖房システム	予習：教科書の地域冷暖房システム該当ページを熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
7	須藤 論	地域エネルギー消費と評価	予習：教科書の地域エネルギー消費と評価のページを熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
8	須藤 論	廃棄物処理システム	予習：教科書の廃棄物処理システムに関するページを熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
9	須藤 論	先進システム事例の見学調査 1	予習：紹介する先進事例 1 について資料調査する。 復習：見学調査の結果をレポートする。		
10	須藤 論	先進システム事例の見学調査 2	予習：紹介する先進事例 1 について資料調査する。 復習：見学調査の結果をレポートする。		
11	須藤 論	大規模災害とインフラ 1：東日本大震災におけるインフラ被害	予習：東日本大震災におけるインフラ被害に関する資料を熟読する。 復習：講義内容のポイントをレポートする。		
12	須藤 論	先進システムシンポジウム聴講 1	予習：紹介するシンポジウム 1 について関連料を調査する。 復習：シンポジウムの概要をレポートする。		
13	須藤 論	先進システムシンポジウム聴講 2	予習：紹介するシンポジウム 2 について関連料を調査する。 復習：シンポジウムの概要をレポートする。		
14	須藤 論	総合課題：本講義と各自の研究テーマ	本講義と履修者の研究テーマに関するレポートについてプレゼンテーション及び Discussion を行う。		
教 科 書		都市環境学 都市環境学教材編集委員会編 森北出版			
参 考 書		適宜、関連資料を配布する。			
備 考		見学調査及びシンポジウム聴講の実施スケジュールは、上記授業計画の順番とは適宜変更されることがある。			

科 目 名		安全・安心環境システムセミナー		担 当 者	○須藤 諭・川村 広則 福井 啓太	
科目ナンバリング					常勤・非常勤	
D P				教員研究室	1318	
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 生活基盤を保持し環境安全を保つために、高密度に人間が居住している都市域におけるエネルギー、水、物流、情報などの都市供給処理施設や、生活環境における安全・安心に関わる問題について分析・考察するため、現象分析、改善方法、リスク対応・防止対策、制御技術等に関するシンポジウム聴講・文献購読・演習・見学等を演習として行う。 【学習の到達目標】 現象分析、改善方法、リスク対応・防止対策、制御技術等に関するシンポジウム聴講・文献購読・演習・見学等を行い、生活環境における安全・安心に関わる様々な問題について分析・考察する力を養う。 【成績評価方法】 ①演習各テーマに関するレポート課題 40% ②調査・シンポジウム・現場調査への参加およびレポート 40% ③プレゼンテーション課題 20% ④その他 を総合して評価する。 【課題等のフィードバック方法】 演習課題ごとに提出を求めるレポートについては、プレゼンテーション発表等を等して、講評・総合討論を行いフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 本セミナーの講義科目である「安全・安心環境システム論」と合わせて履修することが望ましい。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 現代社会における都市や農村の生活環境の安全安心に関わる問題に関して、都市供給処理施設や地域環境資産について体験的に多面的側面から考え方を学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 該当。環境・設備システムに関するコンサルタントに従事する実務家教員（非常勤講師）も参加し、調査研究の実務についても指導する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	須藤 諭	本セミナーの概要と進め方	予習：シラバスを熟読しておくこと。 復習：講義内容のポイントをレポートする。			
2	川村 広則	A1) 先進的研究事例 1（地理情報システム）	予習：紹介する先進的研究事例 1（地理情報システム）について資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる。			
3	川村 広則	A2) 先進的研究事例 2（環境騒音関連研究）	予習：紹介する先進的研究事例 2（環境騒音関連研究）について資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる			
4	川村 広則	A3) 先進的研究事例 3（環境騒音関連研究）	予習：紹介する先進的研究事例 3（環境騒音関連研究）について資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる			
5	川村 広則	A4) 先進的研究事例 1～3 のまとめ	予習：川村担当の演習内容全般をよく振り返る。 復習：演習内容について各自が目目するテーマについてレポート化する。			
6	福井 啓太	B1) 先進的システム事例 1（再生可能エネルギーシステム）	予習：紹介する先進的システム事例 1（再生可能エネルギーシステム）について資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる			
7	福井 啓太	B2) 先進的システム事例 2（地中熱利用システム）	予習：紹介する先進的システム事例 2（地中熱利用システム）について資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる			
8	福井 啓太	B3) 先進的システム事例 3（太陽エネルギー利用システム）	予習：紹介する先進的システム事例 3（太陽エネルギー利用システム）について資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる			
9	福井 啓太	B4) 先進的システム事例 1～3 のまとめ	予習：福井担当の演習内容全般をよく振り返る。 復習：演習内容について各自が目目するテーマについてレポート化する。			
10	須藤 諭	C1) 安全安心環境システムに関する概論	予習：安全安心環境システムについて資料調査する。 復習：演習結果についてレポートをまとめる			
11	須藤 諭	C2) 安全安心環境システムに関連するシンポジウム聴講 1	予習：紹介するシンポジウム 1 について関連料を調査する。 復習：シンポジウムの概要をレポートする。			
12	須藤 諭	C3) 安全安心環境システムに関連するシンポジウム聴講 2	予習：紹介するシンポジウム 2 について関連料を調査する。 復習：シンポジウムの概要をレポートする。			
13	須藤 諭	C4) 安全安心環境システムのまとめ	予習：須藤担当の演習内容全般をよく振り返る。 復習：演習内容について各自が目目するテーマについてレポート化する。			
14	須藤 諭	D1) プレゼンテーションと総合討論	予習：演習 A～C について全般を振り返り、プレゼンテーション案をまとめる。 復習：教員指導の結果を反映させプレゼンテーションをバージョンアップする。			
教 科 書		特に定めず、適宜関連資料を配布する。				
参 考 書		適宜、プリント・資料を配布する。				
備 考		各演習の実施スケジュールは、上記授業計画の順番とは適宜変更されることがある。 問合せ先：須藤諭				

科 目 名	自然環境保全論			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング					
D P				教員研究室	
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【学習の到達目標】 【成績評価方法】 【課題等のフィードバック方法】 【履修上の注意・予習・復習について】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名		水環境システム論		担 当 者	八十川 淳	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	1212	
学 科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 「水」は都市・地域・建物・設備すべての規模において、公衆衛生学、水文学、心理学、生物環境学、水理学、気象学、歴史、景観等、きわめて多くの学術分野との関わりが深い。本講義では「地域環境づくり」あるいは「歴史空間遺産保全」の観点から捉えた「水とその空間」や「地形と本来の水環境」について『スイロ学』として論じる。 【学習の到達目標】 河川水に限らず、用水・廃水としての水の流れは、いずれも地形の制約や広がりに関連付けた理解が不可欠である。この講義を通じて、地形と水のつながりについて、地域性について新たな視点を持つことを目標としている。 【成績評価方法】 平常点 30%、レポートなどの成果物による評価 70%を目安に総合的に評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 提出レポートについて、ディスカッションを行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 外部における活動参加を通じて学習を深める回が多い。そのため授業コマ前後の時間に十分な余裕が必要である。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門分野から水のみを捉えるのではなく、全方向的に広く、深く捉えることが可能となる。 【実務家教員担当科目】 八十川淳、高松市の戸建て住宅の水環境システムを設計。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容		学修課題・必要な学修時間		
				予習・復習	学修時間	
1	八十川	科目オリエンテーション ～足元の自然・水環境との関わり～		復習 配布資料と講義内容の確認		
2	八十川	治水と利水および親水		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
3	八十川	地形理解と自然河川・用水		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
4	八十川	上水道および下水道の仕組み		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
5	八十川	沿岸の土地利用と水辺空間		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
6	八十川	都市の自然空間の公共性		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
7	八十川	都市河川とエリアマネージメント		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
8	八十川	仙台における上水と給水システムの歴史変遷 1		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
9	八十川	仙台における下水と排水システムの歴史変遷 2		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
10	八十川	大学周辺の地形と河川、用・排水の理解 1		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
11	八十川	仙台の地形と河川、用・排水の理解 1		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
12	八十川	仙台の地形と河川、用・排水の理解 2		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
13	八十川	仙台の地形と河川、用・排水の理解 3		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
14	八十川	仙台の都市河川と用・排水、エリアマネージメント		予習 配布資料の確認 復習 配布資料と講義内容の確認		
教 科 書		別途、指示します				
参 考 書		別途、指示します				
備 考		質問、問い合わせは八十川教員研究室で受け付けます				

科 目 名	水環境システムセミナー			担 当 者	八十川 淳
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1212
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 「水」は都市・地域・建物・設備すべての規模において、公衆衛生学、水文学、心理学、生物環境学、水理学、気象学、歴史、景観等、多くの学術分野との関わりが深い。「水環境システム論」で得た知識や見識をもとに、「地域環境づくり」「人間生活と用・排水」「そこにもとめる水環境と景観」の観点において『スイロ学セミナー』を実践する。				【課題等のフィードバック方法】 提出レポートについて、ディスカッションを行う。	
【学習の到達目標】 我々との暮らしと周辺の風景は「水」という要素において連続している。身近な街の中において人間生活と環境との接点を体験的に学習することを目標とする。				【履修上の注意・予習・復習について】 外部において実践する内容が多いために、時間割に配当された時間前後に十分な余裕が必要なことがある。	
【成績評価方法】 平常点 30%、レポートなどの成果物による評価 70%を目安として総合的に評価する				【受講して得られる効果・メリット、その他】 専門分野から水のみを捉えるのではなく、全方位的に広く、深く捉えることが可能となる。	
				【実務家教員担当科目】 八十川淳、高松市の戸建て住宅の水環境システムを設計。	

授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	八十川	科目オリエンテーション	復習：配布資料を確認すること	
2	八十川	足元の自然環境の分析と環境保全実践Ⅰ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
3	八十川	足元の自然環境の分析と環境保全実践Ⅱ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
4	八十川	足元の自然環境の分析と環境保全実践Ⅲ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
5	八十川	足元の自然環境の分析と環境保全実践Ⅳ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
6	八十川	地域水環境評価法	復習：配布資料を確認すること	
7	八十川	地域水環境保全Ⅰ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
8	八十川	地域水環境保全Ⅱ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
9	八十川	地域水環境保全Ⅲ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
10	八十川	地域水環境保全Ⅳ	復習：実践内容について、レポートを作成する	
11	八十川	暮らしの用・排水 1	復習：演習内容について、レポートを作成する	
12	八十川	暮らしの用・排水 2	復習：演習内容について、レポートを作成する	
13	八十川	暮らしの用・排水 3	復習：演習内容について、レポートを作成する	
14	八十川	暮らしの用・排水 4	復習：演習内容について、レポートを作成する	
教 科 書		特になし。随時紹介する。		
参 考 書		特になし。随時紹介する。		
備 考		質問や問い合わせは八十川教員研究室で受け付けます		

科 目 名	居住福祉環境セミナー			担 当 者	山本 和恵
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1213
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 「居住福祉環境論」の生老病死の環境に関する講義を踏まえ、居住福祉環境に関わる文献学習、事例研究、体験学習などをセミナー形式で行う。				【課題等のフィードバック方法】 講義中の質疑・討論	
【学習の到達目標】 居住福祉環境に関わる文献学習、事例研究、体験学習などを踏まえた議論ができること。				【履修上の注意・予習・復習について】 講義時のみならず各自で調査や文献検索等を進める積極的な態度が望まれる	
【成績評価方法】 レポートならびにディスカッションの内容による				【受講して得られる効果・メリット、その他】 居住福祉環境に関わる知見を得て、考えを深めることができる	
				【実務家教員担当科目】 なし	

科 目 名		音環境情報論			担 当 者	鈴木 陽一
科目ナンバリング						常勤
D P					教員研究室	4105
学科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☑該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 我々の生活を取り巻く種々の環境の中で、音は、情報を伝えるものとしての側面、情報伝達を妨害する側面、また、医療や環境の計測の手段としての側面等をもつ。本講義では、人と人、人と外界との重要なコミュニケーション手段である音信号、音声の性質と分析・符号化法に関する講義を行う。 【学習の到達目標】 本講義で扱う音情報処理および音声情報処理の2つの分野の基礎知識および現在利用されている技術を習得する。 【成績評価方法】 定期試験 50%、講義ごとの課題 50% 【課題等のフィードバック方法】 課題を与え、理解不足があれば解説する。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義中の私語・飲食・退室は認めない。遅刻は当該回の出席及び課題を減点する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 音情報処理および音声情報処理の2つの分野の基礎知識および現在利用されている技術についての基盤的、実用的な技術を習得できる。 【実務家教員担当科目】 該当しない。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	鈴木 陽一	音・人・環境のかかわり	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
2	鈴木 陽一	音波	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
3	鈴木 陽一	音の周波数と速度	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
4	鈴木 陽一	周波数スペクトル	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
5	鈴木 陽一	音圧と音の強さ	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
6	鈴木 陽一	距離減衰・吸音・反射・屈折・拡散	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
7	鈴木 陽一	波動方程式	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
8	鈴木 陽一	動電変換・静電変換の原理と機器	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
9	鈴木 陽一	聴器	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
10	鈴木 陽一	聴覚機能（1）	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
11	鈴木 陽一	聴覚機能（2）	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
12	鈴木 陽一	騒音	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
13	鈴木 陽一	難聴と補聴	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
14	鈴木 陽一	超音波とその応用	授業内容について復習し、課題のレポートを作成する。次回の内容について予習を行う。			
教 科 書		講義時に指示する。				
参 考 書		講義時に指示する。				
備 考		なし				

科 目 名	音環境情報セミナー			担 当 者	鈴木 陽一
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	4105
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 我々の生活を取り巻く種々の環境の中で、音は、情報を伝えるものとしての側面、情報伝達を妨害する側面、また、医療や環境の計測の手段としての側面等をもつ。本講義では、人と人、人と外界との重要なコミュニケーション手段である音信号、音声の性質と分析・符号化法に関するセミナー形式の授業を行う。					
【学習の到達目標】 本講義で扱う音情報処理および音声情報処理の2つの分野の基礎知識および現在利用されている技術を習得する。					
【成績評価方法】 試験 50%、レポート 40%、受講態度 10%					
【課題等のフィードバック方法】 レポート課題を与え、理解が不十分な場合は解説を行う。					
【履修上の注意・予習・復習について】 予習・復習を必ず行うこと。講義中の私語・飲食・中座は禁止。遅刻は当該回の出席カウントを減じると共にレポートと受講態度の評価を減ずる。					
【受講して得られる効果・メリット、その他】 音情報処理および音声情報処理の2つの分野の基礎知識および現在利用されている技術についての基盤的、実用的な技術を習得できる。					
【実務家教員担当科目】 該当せず					

授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 陽一	音信号（1）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
2	鈴木 陽一	音信号（2）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
3	鈴木 陽一	聴覚機能（1）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
4	鈴木 陽一	聴覚機能（2）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
5	鈴木 陽一	音信号処理（1）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
6	鈴木 陽一	音信号処理（2）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
7	鈴木 陽一	音情報システム（1）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
8	鈴木 陽一	音情報システム（2）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
9	鈴木 陽一	音情報システム（3）	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
10	鈴木 陽一	音声の物理的性質	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
11	鈴木 陽一	音声の生成	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
12	鈴木 陽一	音声の分析・符号化法	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
13	鈴木 陽一	音声システム	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
14	鈴木 陽一	総まとめ	授業テーマの範囲について予習し、授業内の意見交換の準備を行う。受講後、復習して課題のレポートを作成し、理解を深める。		
教 科 書		なし。資料を配布する。			
参 考 書		なし。			
備 考		特になし			

科 目 名	環境情報計測システム論			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング					
D P				教員研究室	
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【学習の到達目標】 【成績評価方法】 【課題等のフィードバック方法】 【履修上の注意・予習・復習について】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	環境情報計測システムセミナー			担 当 者	開講時指示
科目ナンバリング					
D P				教員研究室	
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 【学習の到達目標】 【成績評価方法】 【課題等のフィードバック方法】 【履修上の注意・予習・復習について】 【受講して得られる効果・メリット、その他】 【実務家教員担当科目】 ※開講時に指示します。					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
教 科 書					
参 考 書					
備 考					

科 目 名	ソフトコンピューティング論			担 当 者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1410
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 近年のコンピュータの著しい性能向上により様々な問題をコンピュータを用いて解くことがあたりまえの時代となった。本講義では具体的な題材を用いてモデル化および計算手法について学ぶ。 【学習の到達目標】 計算科学の概要についての知識を得る。 【成績評価方法】 レポートを総合的に評価する。 【課題等のフィードバック方法】 少人数の演習形式で行うためリアルタイムにフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 特になし。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 柔軟な考察力を養う。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 伸夫	計算科学とは	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
2	鈴木 伸夫	交通渋滞のシミュレーション 1	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
3	鈴木 伸夫	交通渋滞のシミュレーション 2	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
4	鈴木 伸夫	交通渋滞のシミュレーション 3	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
5	鈴木 伸夫	感染モデルのシミュレーション 1	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
6	鈴木 伸夫	感染モデルのシミュレーション 2	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
7	鈴木 伸夫	感染モデルのシミュレーション 3	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
8	鈴木 伸夫	高速化手法 1	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
9	鈴木 伸夫	高速化手法 2	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
10	鈴木 伸夫	高速化手法 3	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
11	鈴木 伸夫	並列化手法 1	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
12	鈴木 伸夫	並列化手法 2	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
13	鈴木 伸夫	並列化手法 3	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
14	鈴木 伸夫	まとめ	授業の内容の予習と授業中に配布する演習課題の復習		
教 科 書	なし				
参 考 書	なし				
備 考	なし				

科 目 名	ソフトコンピューティングセミナー			担 当 者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1410
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単 位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ソフトコンピューティングシステム論の講義をもとに、並列処理技術、シミュレーション、数値計算技術などを学習し、ソフトコンピューティングシステムの理解を深める。また、ソフトコンピューティング処理に関して発表された論文の輪読を行うとともに、教員を含む研究者と共に、研究成果について発表、意見交換を行って研究内容の質的向上を図る。				【課題等のフィードバック方法】 少人数の演習形式で行うためリアルタイムにフィードバックする。	
【学習の到達目標】 ソフトコンピューティングを理解し、応用力を身に着ける。				【履修上の注意・予習・復習について】 なし。	
【成績評価方法】 レポートを総合的に評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 柔軟な発想力を養うことができる。	
				【実務家教員担当科目】 該当者なし	

科 目 名	情報ネットワークシステム論			担 当 者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1428
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 (概要) 情報ネットワークシステムについて、その基礎となる伝送路と通信品質の関係を述べ、種々の伝送システムの方式について、ディジタル化方式、多重化方式などの技術を参照して論じる。さらに、ディジタル伝送における信号処理や符号化の各種方式、及び高度情報ネットワークシステムにおける分散処理と知識処理について論じる。また、人間社会に重要である情報セキュリティとその運用管理についても述べる。これにより、情報ネットワークシステム全般について幅広く理解を得ることを目的とする。 【学習の到達目標】 情報ネットワークシステムを理解する。 【成績評価方法】 調査課題を数回課し、そのレポートにより評価する。 【課題等のフィードバック方法】 少人数の演習形式で行うためリアルタイムにフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 なし 【受講して得られる効果・メリット、その他】 情報ネットワークに関する高度な知識を身に着ける。 【実務家教員担当科目】 否					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 伸夫	情報ネットワークシステムと伝送路	情報ネットワークシステムと伝送路を理解する		
2	鈴木 伸夫	不規則信号論	不規則信号論を理解する		
3	鈴木 伸夫	通信品質	通信品質を理解する		
4	鈴木 伸夫	誤り制御システム	誤り制御システムを理解する		
5	鈴木 伸夫	多重化伝送方式	多重化伝送方式を理解する		
6	鈴木 伸夫	PCM 伝送方式	PCM 伝送方式を理解する		
7	鈴木 伸夫	交換システム	交換システムを理解する		
8	鈴木 伸夫	メディア情報のディジタル伝送	メディア情報のディジタル伝送を理解する		
9	鈴木 伸夫	マルチメディア符号化	マルチメディア符号化を理解する		
10	鈴木 伸夫	ディジタル多重アクセス	ディジタル多重アクセスを理解する		
11	鈴木 伸夫	情報ネットワークシステム	情報ネットワークシステムを理解する		
12	鈴木 伸夫	分散処理システム	分散処理システムを理解する		
13	鈴木 伸夫	分散知識処理	分散知識処理を理解する		
14	鈴木 伸夫	情報セキュリティ	情報セキュリティを理解する		
教 科 書	なし				
参 考 書	なし				
備 考	なし				

科 目 名		生活環境文化論			担 当 者		岡 恵介	
科目ナンバリング							常勤	
D P					教 員 研 究 室		1321	
学 科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次		1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位		選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディバート □グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし						
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない	
【授業内容】 北上山地の山村における周囲の自然環境を生かした生業複合と自給性を重視した「ストック型社会」としての側面について学び、21 世紀最大の課題ともいえる環境問題を考える上で、これら山村の暮らしが示唆するのはどのようなことか、考えていく。								
【課題等のフィードバック方法】 講義の最後に、質問を受け付け回答する。								
【履修上の注意・予習・復習について】 履修者の発表形式で行うので、毎回与えられたテキストの該当箇所について予習し、レジュメを準備して発表し、教員のコメントを克明にノートに記録しておくことが求められる。								
【受講して得られる効果・メリット、その他】 ふだんは気づかず当たり前前に思っている都市の生活環境について、その危うさ、脆弱性に気づき、それに対する本来あるべき生活スタイルについて理解することができる。 また文化人類学、民俗学で行われる現地滞在型フィールドワークの調査法についても、そのノウハウを身につけることができる。								
【実務家教員担当科目】 なし。								
授 業 計 画								
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間			
					予習・復習			学修時間
1	岡 恵介	なぜ「山棲み」について学ぶのか			「山棲み」とは何かについて教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
2	岡 恵介	現地長期滞在型調査の方法論			文化人類学におけるフィールドワークの方法論について図書館で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
3	岡 恵介	北東北の自然・歴史環境の特性 ―「やませ」と凶作・飢饉の常襲地帯			北東北の藩政時代における自然・歴史環境について教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する			
4	岡 恵介	通年の食料確保を支えた畑作と現金収入 ―二年三毛作と牛飼・養蚕			二年三毛作と明治大正期の牛飼・養蚕について教科書と参考書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
5	岡 恵介	主食不足を補った木の実 ―世界と北上山地山村のドングリのアク抜き技術			世界や縄文時代の木の実の利用について教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
6	岡 恵介	木の実のアク抜き技術と照葉樹林文化論 ―岩手山村の木の実のアク抜き法			北上山地山村の木の実のアク抜きについて教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
7	岡 恵介	山村における野生食用動植物の利用 ―森の恵みの実態を探る			とは何かについて教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
8	岡 恵介	食料危機を救った焼畑 ―昭和農村恐慌の事例から			とは何かについて教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
9	岡 恵介	東北の焼畑の二類型 ―アラキ型焼畑とカノ型焼畑			東北の焼畑の分類について教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
10	岡 恵介	北上山地山村の焼畑経営の実態 ―アラキ型地帯にカノ型的な特性			岩手県岩泉町の焼畑を復元した調査について教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
11	岡 恵介	東北の焼畑のバラエティをどうとらえるか ―自給的焼畑と商業的焼畑			東北地方の様々な焼畑について自給型と商業型という視点から教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
12	岡 恵介	北上山地山村における食料の保存・貯蔵技術の変容 ―ストッカーの導入			現代山村の食料の保存・貯蔵技術のイノベーションについて教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
13	岡 恵介	ストック型社会としての山村 ―フローとストックをどうとらえるか			ストック型社会としての山村とは何かについて教科書で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。			
14	岡 恵介	災害時の北上山地山村 ―ストック型社会のレジリエンス			震災や台風などに北上山地がどう対応したかについて教科書や参考文献で予習してレジュメを作成し、学習内容についてノートで復習する。7			
教 科 書		「増補改訂版 山棲みの生き方」岡恵介、七月社						
参 考 書		後日指示。						
備 考		なし。						

科 目 名		生活環境文化セミナー			担 当 者	○岡 恵介・王 元 文 慶 喆	
科目ナンバリング						常勤	
D P					教 員 研 究 室	1321	
学 科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単位	
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし					
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 「日本の農山村文化」、「日韓文化交流」、「中国の生活環境文化」について、順次発表しながら議論を行って深めていく。 岡の担当分については、連続2 コマで1 コマ目はレジュメによる発表、2 コマ目は発表に関するディスカッションを行う。					【課題等のフィードバック方法】 各講義の最後に、質問を受け付け回答する。		
【学習の到達目標】 日本の地域文化や、日中韓の歴史文化交流や各国の生活環境の実態について理解を深め、これら三国の歴史や生活環境、文化について、偏見に片寄らない公正な理解を得る。					【履修上の注意・予習・復習について】 毎回の発表を課せられるので、しっかり予習し、レジュメを準備して授業に臨み、発表後の質疑やディスカッションについてはノートに記録しながら積極的に発言すること。		
【成績評価方法】 最終レポート 60%、ディスカッション内容 40%					【受講して得られる効果・メリット、その他】 日本の農山村文化から日本の原型的な生活文化を理解し、また誤解されがちな隣国、中韓との歴史文化交流の蓄積や両国の生活環境文化の実態を理解することができる。		
					【実務家教員担当科目】 なし。		
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	岡 恵介	稲作民族としての日本人—日本の生活環境文化のルーツをさぐる	アジアの稲作民族の文化の特徴とそこでの日本の位置づけについてレジュメを作成して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
2	岡 恵介	稲作民族としての日本人についてのディスカッション	稲作民族としての日本文化の特性や照葉樹林文化論について図書館で文献を探して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
3	岡 恵介	日本の農村の生活環境文化の特性	稲作文化を基調とする日本の農村文化の特性についてレジュメを作成して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
4	岡 恵介	日本の農村の生活環境文化の特性についてのディスカッション	日本の伝統的な農村文化や生活環境の特性について図書館で文献を探して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
5	岡 恵介	日本の山村の生活環境文化の特性と農村との比較	基本的に稲作に頼らない日本の山村の文化、生活環境についてレジュメを作成して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
6	岡 恵介	日本の山村の生活環境文化の特性と農村との比較についてのディスカッション	日本各地の山村の文化や生活環境の特性について図書館で文献を探して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
7	岡 恵介	東北山村の様々な生業複合とストック型社会的な性格	東北の山村における生業複合とストックについてテキストと参考文献をもとにレジュメを作成して予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
8	岡 恵介	東北山村の様々な生業複合についてのディスカッション	テキストに詳述された北上山地山村における生業複合とストック型社会的な性格について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
9	岡 恵介	被災時の都市と農山村の生活環境の比較	東日本震災などの被災時における都市と農山村の生活環境の劣化についてテキストによりレジュメを作成して予習し、ノートをもとに復習する。				
10	岡 恵介	被災時の都市と農山村の生活環境の比較についてのディスカッション	大地震や台風などの被災時における都市と農山村の生活環境の劣化についてテキストで予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
11	岡 恵介	被災時の都市と農山村の生活環境の比較についてのディスカッション	大地震や台風などの被災時における都市と農山村の生活環境の劣化についてテキストで予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
12	岡 恵介	ふりかえりとまとめ	これまでの12回の日本の生活環境文化に関する学習をノートから予習し、全体のまとめの議論をノートから復習する。				
13	文 岡 慶喆・恵介	日韓文化交流史の原点を探る	古代から現代までの日本と韓国の歴史を理解し、授業で議論した内容をまとめ、日韓文化交流史の内容を復習する。				
14	文 岡 慶喆・恵介	百済の滅亡と渡来人による日本文化への影響	百済が新羅と唐の連合軍によって責められ、日本が救援に行って戦った「白村江の戦い」の背景を理解し、百済から日本に渡って来た渡来人によって日本にどのような文化的影響を与えたのかを復習する。				
15	文 岡 慶喆・恵介	文祿・慶長の役と磁器生産技術の移	文祿・慶長期の東アジアの情勢、即ち明の建国、朝鮮の建国と合わせた日本の事情を理解し、朝鮮から磁器生産技術の移入により日本にどのような影響を与えたのかを復習する。				
16	文 岡 慶喆・恵介	朝鮮通信使と日韓文化交流	文祿・慶長の役以降の日本と国交回復の事情を理解し、朝鮮通信士来日の背景、目的、日程、回数、朝鮮通信使によってどのような文化交流があり、どのような影響を与えたのかを復習する。				
17	文 岡 慶喆・恵介	征韓論から植民地支配へ	18 世紀以降の東アジアの情勢を理解し、日清戦争、日露戦争の原因と結果、征韓論の背景などを復習する。				
18	文 岡 慶喆・恵介	日本統治時代の韓国の経済発展と近代教育制度の整備	日本統治時代において韓国の経済実情を理解し、韓国における近代化に日本がどのように貢献し、韓国の近代教育にどのように影響を与えたのかを復習する。				
19	文 岡 慶喆・恵介	戦後韓国独立後の日韓国交回復と日韓関係	戦後韓国を含めた東アジアの情勢を理解し、韓国独立後の国交回復と日韓関係について復習する。				
20	王 岡 元・恵介	「天円地方説」と福建客家土楼	中国建築の方位と配置、「天円地方説」が与える影響、日本・朝鮮半島の建築様式への影響について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
21	王 岡 元・恵介	「四合院」から見る中国の住居の特徴	北方漢民族住宅の基本型と呼ばれる「四合院」、「四合院」と客家土楼における「主堂」との関係について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
22	王 岡 元・恵介	ヤオトンと三坊一照壁	黄土高原地域・雲南省少数民族地域の民居、「四合院」から見られる地域変化について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
23	王 岡 元・恵介	民居・庭園、日本との比較	民居・庭園など、日本建築との異同について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
24	王 岡 元・恵介	中国の都市化と住宅バブル	中国近代化の手段としての都市化、発展途上国によく見られるスラムと住宅バブル問題について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
25	王 岡 元・恵介	新農村建設	都市と農村の格差是正に向けてインフラ整備の重点を農村に移し、都市の公共サービスを農村まで拡大する「新農村建設」について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
26	王 岡 元・恵介	都市農村一体化改革					
27	王 岡 元・恵介	都市農村一体化改革	都市と農村の二元体制は賃金・待遇の格差を作り出した。格差を縮小し、医療・教育・養老などの社会保障体制の改革を目指す「成都モデル」について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
28	王 岡 元・恵介	一人子政策と戸籍制度	1 組の夫婦に子供1 人しか認めない人口抑制政策とそれを支える戸籍制度について予習し、ノートをもとに議論の内容を復習する。				
教 科 書		初回に指示する。					
参 考 書		授業開始後、順次紹介する。					
備 考		なし。					

科 目 名	先端情報処理システム論			担 当 者	沈 紅
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1411
学科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 情報化社会において、スーパーコンピュータをはじめとする情報処理システムは重要な役割を果たしている。本講義では、最先端の情報処理システムに焦点を当て、その処理方式、ハードウェア技術及び最新の研究動向などをやさしく解説する。 【学習の到達目標】 最先端情報処理システムの仕組みを理解できること。 【成績評価方法】 レポート（50%）及びまとめテスト（50%）による総合評価を行う。 【課題等のフィードバック方法】 授業中に講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・ 毎回講義の内容をきちんと予習復習を取り込む必要がある。 ・ レポート課題を必ず提出すること 【受講して得られる効果・メリット、その他】 高性能コンピュータシステムを構築する知識を習得できる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	沈	情報処理システムの概要	シラバス通読の上、情報処理システムの概要について予習・復習		
2	沈	並列処理システムの分類	並列処理システムの分類について予習・復習		
3	沈	命令パイプライン	命令パイプラインについて予習・復習		
4	沈	複数演算ユニット	複数演算ユニットについて予習・復習		
5	沈	スーパースカラ	スーパースカラについて予習・復習		
6	沈	VLIW	VLIW について予習・復習		
7	沈	プロセッサアレイ	プロセッサアレイについて予習・復習		
8	沈	シストリックアレイ	シストリックアレイについて予習・復習		
9	沈	ベクトルプロセッサ	ベクトルプロセッサについて予習・復習		
10	沈	マルチプロセッサ	情報処理システムの概要について予習・復習		
11	沈	データフローマシン	データフローマシンについて予習・復習		
12	沈	プロセッサ結合方式	プロセッサ結合方式について予習・復習		
13	沈	並列処理におけるソフトウェア	並列処理におけるソフトウェアについて予習・復習		
14	沈	最新の研究動向	最新の研究動向について予習・復習		
教 科 書		講義時に指示			
参 考 書		講義時に指示			
備 考		なし			

科 目 名	先端情報処理システムセミナー			担 当 者	○沈 紅・長田 俊明
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1411・1403
学 科（専 攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	60 時間	単 位	選 択 4 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 講義「先端情報処理システム論」で習得した知識を基に、並列処理システムに関するハードウェア技術、コンパイラ技術、ネットワーク技術などの学術論文や研究を紹介する。				【課題等のフィードバック方法】 授業中に講評する。	
【学習の到達目標】 並列処理及びネットワーク技術の習得を目標とする				【履修上の注意・予習・復習について】 並列処理及びネットワークに関する論文を事前に調べ、予習しておくこと。講義時にディスカッションを行う。	
【成績評価方法】 レポート（50%）及びプレゼンテーション（50%）による評価を行う				【受講して得られる効果・メリット、その他】 研究活動に必要なセンス、まとめ能力、コミュニケーション能力を磨くことができる	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	

科 目 名	生活環境関連法			担 当 者	李 玉友
科目ナンバリング					非常勤
D P				教 員 研 究 室	非常勤講師室
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 地球環境、大気汚染、水質汚濁、上下水道、廃棄物などの様々環境問題の現状と日常生活との関わりについて講義し、環境問題の解決と循環型社会に貢献する法律体系と技術対策を学ぶ。 【学習の到達目標】 様々環境問題の背景、現状および対策を理解し、環境規制を始め、都市環境システムに関する基礎知識を習得し、環境保全に取り組む基礎的素養と手法を身につける。 【成績評価方法】 聴講やプレゼン対応 30%, レポート 30%, 小テスト 40%。 【課題等のフィードバック方法】 計 3 回の出題課題に対してメールにてレポートを提出する。 講義中ディスカッションの時間を設ける。 PPT によるプレゼンテーションを 1 回行う。 【履修上の注意・予習・復習について】 特になし 【受講して得られる効果・メリット、その他】 環境問題の現況をはじめ、水・廃棄物・エネルギーなどの生活環境関連法とシステム体系を理解できる。プレゼンやディスカッションの練習も行う。 【実務家教員担当科目】 該当しない					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	李 玉友	環境基本法と環境基本計画	環境行政関連		
2	李 玉友	地球環境問題とその対策	IPCC 報告書		
3	李 玉友	大気汚染法と酸性雨	汚染物質濃度と pH の関係		
4	李 玉友	くらしと産業を支える水環境システム	生活用水・産業用水		
5	李 玉友	水環境保全に関わる法体系と技術	水質汚濁の歴史		
6	李 玉友	水道法と給水システム	水道の仕組みと仙台市の水道		
7	李 玉友	下水道法と下水道の仕組み	都市下水道の歴史と仕組み		
8	李 玉友	下水道計画	仙台市の下水道		
9	李 玉友	排水処理技術とシステム	浄化技術と再生利用		
10	李 玉友	廃棄物処理法とその対策	仙台市の廃棄物対策		
11	李 玉友	循環型社会推進関連法とリサイクル	リサイクル関連法律		
12	李 玉友	環境影響評価法と再生可能エネルギー	開発と環境保全の関係		
13	李 玉友	環境マネジメントシステム	PDCA サイクルと持続的改善、LCA		
14	李 玉友	有害化学物質の管理対策	化審法と PRTR		
教 科 書		その都度講義資料を配布			
参 考 書		特に指定しない			
備 考		講義中、プレゼンやディスカッションも行う予定			

科 目 名	環境情報総合特別講義			担 当 者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1410
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 都市及び住居を含む人間の生活環境の形成及び現代の社会生活における情報科学の役割について、環境情報の計測技術とネットワーク技術、生活環境の安全性と快適性、水環境の整備及び都市環境の整備と環境情報システム、マルチメディア情報処理、IT インフラでのコンピューティング、などのテーマを取り上げ、広い視点からオムニバスの講義する。				【課題等のフィードバック方法】 授業中に講評する。	
【学習の到達目標】 生活環境情報専攻分野における諸問題を広く理解し、各自の研究テーマの基礎とすること。				【履修上の注意・予習・復習について】 各自の研究テーマを明確に設定し、その位置づけを考慮しながら履修すること。	
【成績評価方法】 毎回の小テスト（レポート・小論文）100%で成績評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 各自の研究テーマに即した、社会的背景や課題について系統的に理解することができる。	
				【実務家教員担当科目】 特記事項なし	
授 業 計 画					
(鈴木 陽一 教授) レジリエント情報通信技術 (沈 紅 教授) 先端情報処理 (野崎 淳夫 教授) 健康住環境 (須藤 諭 教授) 都市環境の整備 (山本 和恵 教授) 居住福祉環境の形成 (岡 恵介 教授) 生活環境文化と社会構造 (鈴木 伸夫 教授) 計算科学					
教 科 書		特に定めない。			
参 考 書		特に定めない。			
備 考		科目代表者・問合せ先：当該年度の専攻主任または副主任が担当する。 兼任教員も一部担当することがある。			

科 目 名		生活環境情報特別研究		担 当 者	鈴木 伸夫	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1410	
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	2 年次・通年	
授 業 形 式		演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 8 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 生活環境情報科学領域において、高度な知識や技術を修得し、高い学問的見識と自立的な研究開発・指導能力を有する高度専門技術者となることを目指し、実験、調査および演習等を通じて、研究および討論を行う。それらの成果を、各学協会が主催する研究報告会等へ参加して発表することを奨励する。 【学習の到達目標】 各自に研究テーマに対する修士論文をまとめ上げること。 【成績評価方法】 演習に関するレポート課題 30% 調査・シンポジウム・現場調査等のレポート 30% その他演習時間以外の研究活動状況 40% 等を総合して評価する。 【課題等のフィードバック方法】 授業中に講評する。 【履修上の注意・予習・復習について】 各自の研究テーマを明確化し、各指導教員の指導を受けること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 修士論文をまとめ上げるための、具体的指導を受けることができる。 【実務家教員担当科目】 特記事項なし						
授 業 計 画						
(野崎 淳夫) 生活環境科学における人間の生活と空気環境、人体有害物質、微量化学汚染物質の評価、環境負荷低減技術等に関する諸課題について、研究指導を行う。 (須藤 諭) 生活環境科学におけるエネルギー消費構造、未利用エネルギーの有効活用を実現する構成技術に関する諸課題について、研究指導を行う。 (沈 紅) 生活情報科学における分散並列処理技術、コンピュータハードウェア開発、プログラミング言語論等に関する諸課題について、研究指導を行う。 (山本 和恵) 生活環境科学における生活福祉と建築計画や建築設計・インテリアデザインに関する諸課題について研究指導を行う。 (岡 恵介) 生活環境科学における深刻化する環境問題を背景として生活環境文化のあり方について、研究指導を行う。 (鈴木 陽一) 生活情報科学におけるマルチメディア情報のセンシング技術、信号処理技術、提示技術に関する諸課題について研究指導を行う (鈴木 伸夫) 生活情報科学における計算科学に関する諸課題について研究指導を行う。						
教 科 書		適宜、研究指導の過程で紹介する。				
参 考 書		適宜、研究指導の過程で紹介する。				
備 考		科目代表・問合せ先：専攻主任または副主任				

生活環境情報専攻（後期 3 年の課程）

科 目 名		教育原理特別講義		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング					非常勤	
D P				教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・常に社会の変化や進展を背景に改訂される教育。教育の不易と流行（時代が激しく変化しようとも変わらない価値のあるもの〔不易〕、時代の変化とともに変えていく必要があるもの〔流行〕）を基底にすえ、受けてきた教育や見聞きする教育など身近な教育問題を取り上げながら、教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を学ぶ。成長する教師に必要な教育観の形成に資する内容である。				【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。		
【学習の到達目標】 ・教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則や理論的基礎を理解することができる。 ・教育現場や指導場面で役立つ基礎・基本を身に付けることができるとともに、学習者に寄り添う指導者としての教育観を形成できる。				【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。		
【成績評価方法】 ・科目に必要な評価項目・基準を定めたルーブリックに基づき評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりする契機となる。他者の発言に傾聴し、深く思考する自身を実感できる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる。		
【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	佐々木真由美	オリエンテーション（到達目標、学習内容、学習評価等）④ルーブリック	予習：受けてきた教育を振り返り、教育に必要な要件を考える。復習：必要な学び方等を整理し、キャリアデザインを作成する。			
2	佐々木真由美	教育の原義をふまえ、教育の必要性を考える。④ルソーの『エミール』、『アヴェロン野生児』	予習：『エミール』『アヴェロン野生児』について調べる。復習：ルソーの理想とした教育について双括型の文章にまとめる。			
3	佐々木真由美	教育の意義と目的を押える。④中央教育審議会答申（平成28年）	予習：公教育制度について800字程度で所見を述べる。復習：生きる力についてまとめる。			
4	佐々木真由美	人間の育ち・成長について考える。④発達の最近接領域、タイダル・ウェーブ	予習：ヴィゴツキーの発達の最近接領域説を調べる。復習：その説を踏まえた経験800字程度にまとめる。			
5	佐々木真由美	様々な指導方法を取り上げ、教え方の変遷を理解する。④問答法、一斉教授、生活単元学習	予習：問答法、一斉教授、生活単元学習、系統学習、問題解決学習について調べる。復習：時代背景をふまえ、教え方の変遷をまとめる。			
6	佐々木真由美	教育を受ける権利と教育格差について理解する。④教育勅語、改定教育基本法、検定教科書	予習：指摘されている教育上の格差や差別を一覧にする。復習：教育を受ける権利をふまえ、教育格差を是正するための方策を提案する。			
7	佐々木真由美	学びを支える教育行政制度の仕組みを理解する。④文科省、教育委員会、地域協働	予習：文科省、教育委員会等の仕組みを調べる。復習：大学教育の効果を高めるための地域や関係機関との連携について提案する。			
8	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④夜間中学、フリースクール、	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
9	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④発達の特性、個別の支援 通級指導	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
10	佐々木真由美	授業における望ましい関係性について考える。④いじめ防止対策推進法、学習性無力感	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
11	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。	予習：資料（新聞記事）について考えをまとめる。復習：学友の意見を聞くことで考えを深める。			
12	佐々木真由美	教育課程の仕組みを理解し、理想的教育課程について考える。④ヒドゥンカリキュラム、初年次教育	予習：顕在的カリキュラム、潜在カリキュラムについて知り調べる。復習：自身の無自覚の規範や価値観等を整理する。			
13	佐々木真由美	日本の教員養成制度を理解し、目指す教師像を考える。④教師の専門性と資質能力	予習：日本の教員養成制度の現状と課題についてレポートする。復習：「総合的な発達援助職としての教師に必要なこと」をまとめる。			
14	佐々木真由美	教育における課題について考え、自身や教育の未来を想像する。④キャリアデザイン	予習：レポート800字「私が目指す指導者（教師）像とその理由」。復習：キャリアデザインを見直し、加筆する。			
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（勝野正章、庄井良信 文社）教育社会学（ミネルヴァ書房） 有斐閣ストゥディア）、教育学原論（ミネルヴァ書房）カリキュラム論（成				
備 考		特になし				

科 目 名		教育方法特別講義			担 当 者	佐々木真由美
科目ナンバリング						非常勤
D P					教員研究室	非常勤講師室
学科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・後期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 ・「教師の指導方法は、受けた教育に影響される」と指摘されている。いわゆる、「教育の再生化」である。先達が実践し、築き上げた教育理念及び指導方法を学び、多様な視点から効果的な教育方法について考え、学習者と教材との出会いをコーディネートし、主体的な学習を促す教育方法について理解する。教育における「守破離」を実感し、学びの中心に学習者を位置付ける教育方法の修得に資する内容である。 【学習の到達目標】 ・先達の教育理念や指導方法について理解し、学習者の個性や特性及び教材等の特徴をふまえ、多様な視点から学習者の主体的な学習を促す効果的な教育方法について考えることができる。 【成績評価方法】 ・科目の評価項目と基準等を定めたルーブリックに基づき評価する。 【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりすることができるようになる。他者の発言に傾聴し、深く思考するようになる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（14 回の見直し：到達目標、学習内容、評価方法等）④ルーブリック	予習：自分自身の教育観を整理する。復習：ターニングポイントとなった授業、心に残る授業から特徴的な。導方法を取り上げる。			
2	佐々木真由美	大正自由教育を推進した先人	予習：樋口勘次郎、及川平治に関する資料を基に、両先達の教育理念を探る。復習：時代背景、両氏が学んだ教育、目指した教育についてまとめる。			
3	佐々木真由美	戦中・戦後教育の概要	予習：資料（戦後教育の概要等）を読み、時代と当時の教育の特徴等について調べる。復習：資料（学習指導要領の改訂ダイジェスト版）を参考に戦後の教育についてまとめる。			
4	佐々木真由美	無着成恭と生活綴方	予習：資料（無着成恭と生活綴方）等を読み、無着成恭の教育理念と教育方法について調べる。復習：無着成恭の「守破離」についてまとめる。			
5	佐々木真由美	糸賀一雄と障がい児教育	予習：⑦「この子らを世の光に」④「この子らに世の光を」違いを述べよ。800 字。復習：所見を推敲するとともに、糸賀一雄の目指した教育理念と実践についてまとめる。			
6	佐々木真由美	大村はまと教えること（1）	予習：大村はまの資料「教えるということ」について調べる。復習：大村はまの目指した「優劣のかなた」についてまとめる。			
7	佐々木真由美	大村はまと教えること（2）	予習：大村はまの生きた時代の教育を調べ、戦前戦後の教育の変遷を知る。復習：主体的な学びが可能となる学習の在り方について考える。			
8	佐々木真由美	斎藤喜博と教師の実践	予習：斎藤喜博について調べ「授業の展開」について所見を述べよ。800 字。復習：斎藤喜博の目指した教育理念と授業についてまとめる。			
9	佐々木真由美	岸本裕史と学力の基礎	予習：岸本裕史について調べる。復習：「落ちこぼれを出さない」実践を目指した教育理念についてまとめる。			
10	佐々木真由美	金森俊朗といのちの学習	予習：生と死のリアリティの回復を目指した教育について調べる。復習：金森俊朗の目指す教育理念と授業についてまとめる。			
11	佐々木真由美	和光小学校・和光 鶴川小学校と総合学習	予習：左記の学校の「実感のある学び」と「血の通った学力」について調べる。復習：生活教育と総合学習の展開についてまとめる。			
12	佐々木真由美	ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義	予習：ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義について調べる。復習：戦後教育への影響について考える。			
13	佐々木真由美	高大接続と教育方法	予習：高大システム改革会議最終報告書に示されたこれからの人材育成と教育方法を読み取る。復習：就職 1 年目に経験する課題を想定し、教育方法の視点から対応策を示す。			
14	佐々木真由美	教育答申に見るこれからの教育	予習：答申を貫く理念（教育の不易）と教育の流行を比較する。復習：これまでの授業と照らし合わせ、主体的な学びを促す教育方法についてまとめる。			
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、時代を拓いた教師たち（田中耕治編著 日本標準）、教師の歴史（創文社）、及川平治、糸賀一雄、無着成恭、大村はま、斎藤喜博、岸本裕史、金森俊朗、和光小学校等の文献、高大接続システム改革会議最終報告（平成 28 年）、中央教育審議会答申（平成 8 年、平成 28 年他）、学制百年史（文科省）他				
備 考		特になし				

科 目 名		臨床運動学特別講義			担 当 者	○藤澤 宏幸・西澤 哲
科目ナンバリング						常勤
D P					教 員 研 究 室	4210
学 科（専攻）		健康福祉専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 臨床運動学は、人体の構造および機能と身体運動との関係、とくに疾病や外傷による機能障害、あるいは老化による生理的機能の低下がもたらす機能的制限および活動制限の状態における両者の関係、さらにそれらの関係に治療介入がもたらす変化を対象とする学問領域である。運動分析や動作分析、さらに運動学的分析と運動力学的分析を通して得られる運動障害の病態にかかわる神経生理学および運動行動に関係する神経科学などの展開について解説する。						【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。
【学習の到達目標】 疾病または加齢の帰結としてもたらされる機能障害が、身体運動にどのような影響を与えるのか、理論的に説明できること。						【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。
【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体運動学を基礎とし、臨床で治療するにあたり理論的背景をもとにアプローチできるようになること。						【実務家教員担当科目】
【成績評価方法】 講義出席 50%・課題への取り組み 50%						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
2	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
3	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
4	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
5	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 5	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
6	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 6	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
7	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 7	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
8	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 8	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
9	西澤 哲	生体力学の手法 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
10	西澤 哲	生体力学の手法 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
11	西澤 哲	生体力学の手法 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
12	西澤 哲	生体力学の手法 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
13	西澤 哲	生体力学の手法 5	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
14	西澤 哲	生体力学の手法 6	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
教 科 書		特になし				
参 考 書		特になし				
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者				

科 目 名		福祉工学特別講義		担 当 者	○藤澤 宏幸・大黒 一司 野崎 淳夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	4210
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用	□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 障害者や高齢者の自立と社会参加とが実現できるユニバーサルデザイン化した社会の構築が要請されている。本講義では、工学分野からの視点、保健医療福祉分野からの視点、両者の複合支援による新たなアプローチとその方法論を取り上げる。ニーズに合致した機器や住宅の開発、さらに住宅環境の整備と改善（リフォーム）を導入した機器などが利用者の安全性の確保、自立の促進、介護負担の軽減、社会との交流などにどのように有効活用されるかの問題、生活環境の整備や改善による QOL の向上など、課題を解決するための理念と技術について紹介する。 【学習の到達目標】 「生活の質」の向上の観点から、対象者に合った福祉機器を選択できるようになること。また、専門家としての立場から、新たに必要な機器・装置の開発に関与できるようになること。 【成績評価方法】 講義出席・レポート・その他				【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体機能に対する理解のもと、福祉機器の総合的性能を評価できるようになる。 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士、作業療法士として実務経験のある教員が、臨床での応用を含めて教授する。	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
2	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
3	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
4	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
5	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 5	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
6	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
7	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
8	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
9	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
10	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 5	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
11	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
12	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
13	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
14	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
教 科 書		特になし			
参 考 書		特になし			
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者および授業担当者			

科 目 名		リハビリテーション科学特別講義		担 当 者	○藤澤 宏幸・西澤 哲 藤原加奈江・王 治文	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教 員 研 究 室	4210	
学 科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 □ディスカッション・ディベート ☑グループワーク □プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		□双方向型授業 ☑自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 心身機能および身体構造に生じた機能障害の多くは、個人の活動や生活場面への参加に制限あるいは制約をもたらす。理学療法、作業療法、言語聴覚療法を含めて、リハビリテーション医学は機能回復医科学とも呼ばれ、機能障害に対して心身機能の回復や機能代償による生活活動の向上を図っている。本講義では、これらの関連領域における最近の進歩を中心に引き上げ、それらの基礎理論、技術体系に生じている変化について解説する。 【学習の到達目標】 リハビリテーション医療における専門領域の体系を理解し、説明できるようにすること。 【成績評価方法】 授業での取り組み 50%、課題への取り組み 50% 【課題等のフィードバック方法】 授業をととしてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 リハビリテーション医療の各専門領域において、理論的背景、最新の治療技術などを総合的に学ぶことができる。 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士、作業療法士、言語聴覚士として実務経験のある教員が、臨床でじの事例をまじえながら授業をおこなう。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習		学修時間	
1	藤澤 宏幸	リハビリテーションに関する歴史と動向 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
2	藤澤 宏幸	リハビリテーションに関する歴史と動向 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
3	藤澤 宏幸	リハビリテーションに関する歴史と動向 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
4	藤澤 宏幸	理学療法に関する歴史と動向 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
5	藤澤 宏幸	理学療法に関する歴史と動向 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
6	藤澤 宏幸	理学療法に関する歴史と動向 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
7	王 治文	作業療法に関する歴史と動向 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
8	王 治文	作業療法に関する歴史と動向 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
9	王 治文	作業療法に関する歴史と動向 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
10	藤原加奈江	言語療法に関する歴史と動向 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
11	藤原加奈江	言語療法に関する歴史と動向 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
12	藤原加奈江	言語療法に関する歴史と動向 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
13	西澤 哲	加齢と心身機能低下及び機能低下予防 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
14	西澤 哲	加齢と心身機能低下及び機能低下予防 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容			
教 科 書		特になし				
参 考 書		特になし				
備 考		参考文献・資料等はその都度提示する。 質問・問い合わせ先：科目責任者および授業担当者				

科 目 名	保健福祉科学特別講義			担 当 者	吉田 裕人
科目ナンバリング					常勤
D P				教員研究室	1201
学科（専攻）	健康福祉専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 少子高齢化が予想以上の速さで進行する現代社会において、保健福祉サービスの基本も、行政による「措置」から利用者による「選択」へ、さらには要援護者の「足らない部分」「満たされない部分」へのサービスから全ての人に対する「自己実現」を進めるためのサービスへと一変した。その意味では、子どもから高齢期までの生涯を通じた総合的な保健福祉施策への期待が高まっている。本講義では、人びとの「Well-being」を阻害する疾病・障害の身体的・心理的要因や加齢に伴う虚弱促進要因などについて学び、あわせて「自立生活」の支援、「Well-being」の促進策を考究するとともに、科学的根拠に基づいた保健福祉学的アプローチの展開について理解を深める。				【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。	
【学習の到達目標】 科学的根拠に基づいた保健福祉学的アプローチの展開について理解できること。				【履修上の注意・予習・復習について】 各担当教員の指示に従うこと。	
【成績評価方法】 各担当教員からのレポート課題により評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 科学的根拠に基づいた保健福祉学的アプローチの展開について理解できるようになること。	
				【実務家教員担当科目】 該当なし	
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	未定	保健福祉総合特別講義の目的	配布プリントの内容		
2	未定	現代社会における社会保障制度の現状と課題	配布プリントの内容		
3	未定	現代社会における保健医療福祉と経済	配布プリントの内容		
4	未定	福祉社会における企業福祉の位置づけ	配布プリントの内容		
5	未定	企業福祉と社会保障の歴史的展開過程	配布プリントの内容		
6	未定	医療福祉の質の評価	配布プリントの内容		
7	未定	医療福祉の質マネジメント	配布プリントの内容		
8	未定	リハビリテーションにおける障害福祉の課題	配布プリントの内容		
9	未定	地域包括ケアと保健医療福祉専門職の連携の課題	配布プリントの内容		
10	未定	支援とは何かー哲学的に問うことの意味	配布プリントの内容		
11	未定	ストレス緩和のための心理学的技法	配布プリントの内容		
12	未定	障害児の心理と福祉	配布プリントの内容		
13	未定	福祉ニーズとは何か：調査と課題	配布プリントの内容		
14	未定	介護予防における健康福祉支援と評価（参加型アクションリサーチ	配布プリントの内容		
教 科 書		適宜プリント等を配布する。			
参 考 書		適宜紹介する。			
備 考		問い合わせ教員：吉田裕人			

科 目 名		感覚器情報処理特別講義		担 当 者		○坂本 保夫・藤原加奈江 小野 峰子・高卓 輝 辻川 寛	
科目ナンバリング						常勤	
D P				教員研究室		4205・1422・4202・1424・4203	
学科（専攻）		健康福祉専攻		配 当 年 次		1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位	
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし					
I C T 活 用		□双方向型授業 □自主学习支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 身体には様々な外界情報を取得する機構があり、正常な日常生活を維持するにはその何れも欠かすことはできない。本講義では『視覚』と『聴覚』及び『言語』に視点をおき、両感覚器の情報処理に関連する知識の習得を目的とする。正常状態、病的状態で眼、耳を介してとらえられる外界情報取得状況の検出法、異常状態に対する対処法の発展には昨今日覚しいものがある。最近の研究成果を中心に基礎医学、臨床医学の立場からこれらを概説する。また随時ディスカッション・ディベートも行われる。 【学習の到達目標】 課題に対して「レポート」をまとめて、「プレゼンテーションし、ディスカッション」できるようになる。 【成績評価方法】 プレゼンテーション、ディスカッションなど：100%							
授 業 計 画							
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間				
			予習・復習				学修時間
1	辻川 寛	視覚器の解剖学・生理学領域の研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
2	小野 峰子	ロービジョン領域の研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
3	高卓 輝	聴覚器の解剖生理学領域の研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
4	藤原加奈江	言語発達障害の領域の研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
5	坂本 保夫	眼光学領域の研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
6	坂本 保夫	眼鏡・サングラスの特性領域の研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
7	坂本 保夫	水晶体研究の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
8	坂本 保夫	白内障屈折矯正手術の実際	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
9	高卓 輝	聴覚障害領域の研究の実際①	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
10	高卓 輝	聴覚障害領域の研究の実際②	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
11	藤原加奈江	言語発達障害領域の研究の実際①	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
12	藤原加奈江	言語発達障害領域の研究の実際②	予めテーマに沿った文献検索などを準備・速やかにレポートにまとめる				
13	全員	総合討論	予め決まったテーマのプレゼンテーションを準備・討論で頂いた意見を基に学習する				
14	全員	総合討論・まとめ	改善したもので再プレゼンテーション・復習しながらまとめ上げる				
教 科 書		プリント等配布					
参 考 書		図書館蔵書。関連した文献（オンラインを含む）。視覚機能学および言語聴覚学専攻内の蔵書など特に指定なし。必要に応じてプリント配布。					
備 考		問い合わせ：各授業担当教員まで					

科 目 名	健康福祉科学特別演習			担 当 者	○渡邊 隆夫・工藤 剛実 佐藤 秀隆・浅野 朝秋
科目ナンバリング					常勤・非常勤
D P				教 員 研 究 室	3214 他
学 科 (専攻)	健康福祉専攻			配 当 年 次	1 ～ 3 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 8 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 健康福祉科学領域において、実験、調査及び演習等を通じて、研究及び討論を行う。その成果をセミナー、論文等で発表するとともに、高度な専門的技術や研究能力を養う。 【学習の到達目標】 高度な専門的技術や研究能力を養い、深く理解できるようになること。 【成績評価方法】 演習に関するレポート課題、研究活動状況等を総合して評価する。 【課題等のフィードバック方法】 別途説明する。 【履修上の注意・予習・復習について】 指導教員の指示に従うこと。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 計画的に博士論文をまとめる作業を行うことができる。 【実務家教員担当科目】 該当なし					
授 業 計 画					
計画的に博士論文をまとめる作業を行うことができる。					
教 科 書	指導教員が適宜指示する。				
参 考 書	指導教員が適宜指示する。				
備 考	問合せ教員：各指導教員				

健康福祉専攻（後期 3 年の課程）

科 目 名		教育原理特別講義		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング					非常勤	
D P				教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学习支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業		該当しない
【授業内容】 ・常に社会の変化や進展を背景に改訂される教育。教育の不易と流行（時代が激しく変化しようとも変わらない価値のあるもの〔不易〕、時代の変化とともに変えていく必要があるもの〔流行〕）を基底にすえ、受けてきた教育や見聞きする教育など身近な教育問題を取り上げながら、教育の目的・意義・方法・内容等についての基本的原則や理論的基礎を学ぶ。成長する教師に必要な教育観の形成に資する内容である。 【学習の到達目標】 ・教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則や理論的基礎を理解することができる。 ・教育現場や指導場面で役立つ基礎・基本を身に付けることができるとともに、学習者に寄り添う指導者としての教育観を形成できる。 【成績評価方法】 ・科目に必要な評価項目・基準を定めたルーブリックに基づき評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりする契機となる。他者の発言に傾聴し、深く思考する自身を実感できる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（到達目標、学習内容、学習評価等）④ルーブリック	予習：受けてきた教育を振り返り、教育に必要な要件を考える。復習：必要な学び方等を整理し、キャリアデザインを作成する。			
2	佐々木真由美	教育の原義をふまえ、教育の必要性を考える。④ルソーの『エミール』、『アヴェロン野生児』	予習：『エミール』『アヴェロン野生児』について調べる。復習：ルソーの理想とした教育について双括型の文章にまとめる。			
3	佐々木真由美	教育の意義と目的をおさえ、問題点を考える。 ○キ中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月 21 日）ゆとり教育	予習：公教育制度について 800 字程度で所見を述べる。復習：生きる力についてまとめる。			
4	佐々木真由美	人間の育ち・成長について考える。④発達最近接領域、タイダル・ウェーブ	予習：ヴィゴツキーの発達の最近接領域説を調べる。復習：その説を踏まえた経験 800 字程度にまとめる。			
5	佐々木真由美	様々な指導方法を取り上げ、教え方の変遷を理解する。④問答法、一斉教授、生活単元学習	予習：問答法、一斉教授、生活単元学習、系統学習、問題解決学習について調べる。復習：時代背景をふまえ、教え方の変遷をまとめる。			
6	佐々木真由美	教育を受ける権利と教育格差について理解する。④教育勅語、改定教育基本法、検定教科書	予習：指摘されている教育上の格差や差別を一覧にする。復習：教育を受ける権利をふまえ、教育格差を是正するための方策を提案する。			
7	佐々木真由美	学びを支える教育行政制度の仕組みを理解する。④文科省、教育委員会、地域協働	予習：文科省、教育委員会等の仕組みを調べる。復習：大学教育の効果を高めるための地域や関係機関との連携について提案する。			
8	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④夜間中学、フリースクール、	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
9	佐々木真由美	社会の要請に応える学校のあるべき姿について考える。④発達の特性、個別の支援 通級指導	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
10	佐々木真由美	授業における望ましい関係性について考える。④いじめ防止対策推進法、学習性無力感	予習：新聞記事から社会の要請を読み取る。復習：現状での課題についてまとめる。			
11	佐々木真由美	社会から求められる資質・能力について知り、今後の学び方を考える。	予習：資料（新聞記事）について考えをまとめる。復習：学友の意見を聞くことで考えを深める。			
12	佐々木真由美	教育課程の仕組みを理解し、理想の教育課程について考える。④ヒドゥンカリキュラム、初年次教育	予習：顕在的カリキュラム、潜在的カリキュラムについてについて知り調べる。復習：自身の無自覚の規範や価値観等を整理する。			
13	佐々木真由美	日本の教員養成制度を理解し、目指す教師像を考える。④教師の専門性と資質能力	予習：日本の教員養成制度の現状と課題についてレポートする。復習：「総合的な発達援助職としての教師に必要なこと」をまとめる。			
14	佐々木真由美	教育における課題について考え、自身や教育の未来を想像する。④キャリアデザイン	予習：レポート 800 字「私が目指す指導者（教師）像とその理由」。復習：キャリアデザインを見直し、加筆する。			
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（勝野正章、庄井良信 有斐閣ストゥディア）、教育学原論（ミネルヴァ書房）カリキュラム論（成文社）教育社会学（ミネルヴァ書房）				
備 考		特になし				

科 目 名		教育方法特別講義		担 当 者	佐々木真由美	
科目ナンバリング					非常勤	
D P				教員研究室	非常勤講師室	
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	1 年次・後期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		□協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □該当なし				
I C T 活 用		☒ 双方向型授業 □自主学習支援 □該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 ・「教師の指導方法は、受けた教育に影響される」と指摘されている。いわゆる、「教育の再生化」である。先達が実践し、築き上げた教育理念及び指導方法を学び、多様な視点から効果的な教育方法について考え、学習者と教材との出会いをコーディネートし、主体的な学習を促す教育方法について理解する。教育における「守破離」を実感し、学びの中心に学習者を位置付ける教育方法の修得に資する内容である。 【学習の到達目標】 ・先達の教育理念や指導方法について理解し、学習者の個性や特性及び教材等の特徴をふまえ、多様な視点から学習者の主体的な学習を促す効果的な教育方法について考えることができる。 【成績評価方法】 ・科目の評価項目と基準等を定めたルーブリックに基づき評価する。						
【課題等のフィードバック方法】 ・課題レポートをもとにしたプレゼンテーションと意見交換の後、解説をし、コメントを加える。 【履修上の注意・予習・復習について】 ・毎時間の記録をファイルし、学修や研究の深まりが見られる取組を文字化する。毎時間課題がある。予習をして授業に参加する。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 ・自己を相対化して考えたり学んだりすることができるようになる。他者の発言に傾聴し、深く思考するようになる。 ・社会から求められている資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性、多様性）の習得につながる。 【実務家教員担当科目】 該当なし						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間			
			予習・復習			学修時間
1	佐々木真由美	オリエンテーション（14 回の見通し：到達目標、学習内容、評価方法等）④ルーブリック	予習:自分自身の教育観を整理する。復習:ターニングポイントとなった授業、心に残る授業から特徴的な。導方法を取り上げる。			
2	佐々木真由美	大正自由教育を推進した先人	予習：樋口勘次郎、及川平治に関する資料を基に、両先達の教育理念を探る。復習：時代背景、両氏が学んだ教育、目指した教育についてまとめる。			
3	佐々木真由美	戦中・戦後教育の概要	予習：資料（戦後教育の概要等）を読み、時代と当時の教育の特徴等について調べる。復習:資料（学習指導要領の改訂ダイジェスト版）を参考に戦後の教育についてまとめる。			
4	佐々木真由美	無着成恭と生活綴方	予習：資料（無着成恭と生活綴方）等を読み、無着成恭の教育理念と教育方法について調べる。復習：無着成恭の「守破離」についてまとめる。			
5	佐々木真由美	糸賀一雄と障がい児教育	予習：⑦「この子らを世の光に」④「この子らに世の光を」違いを述べよ。800 字。復習：所見を推敲するとともに、糸賀一雄の目指した教育理念と実践についてまとめる。			
6	佐々木真由美	大村はまと教えること（1）	予習：大村はまの資料「教えるということ」について調べる。復習：大村はまの目指した「優劣のかなた」についてまとめる。			
7	佐々木真由美	大村はまと教えること（2）	予習：大村はまの生きた時代の教育を調べ、戦前戦後の教育の変遷を知る。復習:主体的な学びが可能となる学習の在り方について考える。			
8	佐々木真由美	斎藤喜博と教師の実践	予習：斎藤喜博について調べ「授業の展開」について所見を述べよ。800 字。復習:斎藤喜博の目指した教育理念と授業についてまとめる。			
9	佐々木真由美	岸本裕史と学力の基礎	予習：岸本裕史について調べる。復習:「落ちこぼれを出さない」実践を目指した教育理念についてまとめる。			
10	佐々木真由美	金森俊朗といのちの学習	予習：生と死のリアリティの回復を目指した教育について調べる。復習：金森俊朗の目指す教育理念と授業についてまとめる。			
11	佐々木真由美	和光小学校・和光」鶴川小学校と総合学習	予習：左記の学校の「実感のある学び」と「血の通った学力」について調べる。復習：生活教育と総合学習の展開についてまとめる。			
12	佐々木真由美	ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義	予習：ヘルバルト主義教育学、ベスタロッツ主義について調べる。復習：戦後教育への影響について考える。			
13	佐々木真由美	高大接続と教育方法	予習：高大システム改革会議最終報告書に示されたこれからの人材育成と教育方法を読み取る。復習：就職 1 年目に経験する課題を想定し、教育方法の視点から対応策を示す。			
14	佐々木真由美	教育答申に見るこれからの教育	予習:答申を貫く理念（教育の不易）と教育の流行を比較する。復習：これまでの授業と照らし合わせ、主体的な学びを促す教育方法についてまとめる。			
教 科 書		適宜プリントを配付				
参 考 書		問いからはじめる教育学（有斐閣ストゥディア）、時代を拓いた教師たち（田中耕治編著、日本標準）、教師の歴史（創文社）、及川平治、糸賀一雄、無著成恭、大村はま、斎藤喜博、岸本裕史、金森俊朗、和光小学校等の文献、高大接続システム改革会議最終報告（平成 28 年）、中央教育審議会答申（平成 8 年、平成 28 年他）、学制百年史（文科省）他				
備 考		特になし				

科 目 名	臨床運動学特別講義			担 当 者	藤澤 宏幸
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	4210
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 臨床運動学は、人体の構造および機能と身体運動との関係、とくに疾病や外傷による機能障害、あるいは老化による生理的機能の低下がもたらす機能的制限および活動制限の状態における両者の関係、さらにそれらの関係に治療介入がもたらす変化を対象とする学問領域である。運動分析や動作分析、さらに運動学的分析と運動力学的分析を通して得られる運動障害の病態にかかわる神経生理学および運動行動に関係する神経科学などの展開について解説する。 【学習の到達目標】 疾病または加齢の帰結としてもたらされる機能障害が、身体運動にどのような影響を与えるのか、理論的に説明できること。 【成績評価方法】 講義における取り組み 50%・課題への取り組み 50%					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
2	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
3	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
4	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
5	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 5	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
6	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 6	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
7	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 7	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
8	藤澤 宏幸	臨床運動学の諸相 8	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
9	西澤 哲	生体力学の手法 1	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
10	西澤 哲	生体力学の手法 2	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
11	西澤 哲	生体力学の手法 3	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
12	西澤 哲	生体力学の手法 4	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
13	西澤 哲	生体力学の手法 5	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
14	西澤 哲	生体力学の手法 6	予習：事前学習課題 復習：授業内容		
教 科 書	特になし				
参 考 書	特になし				
備 考	質問・問い合わせ先：科目責任者				

科 目 名		福祉工学特別講義			担 当 者	藤澤 宏幸
科目ナンバリング						常勤
D P					教 員 研 究 室	4210
学 科（専攻）		生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 年次・前期
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☒ 自主学習支援 ☐ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 障害者や高齢者の自立と社会参加とが実現できるユニバーサルデザイン化した社会の構築が要請されている。本講義では、工学分野からの視点、保健医療福祉分野からの視点、両者の複合支援による新たなアプローチとその方法論を取り上げる。ニーズに合致した機器や住宅の開発、さらに住宅環境の整備と改善（リフォーム）を導入した機器などが利用者の安全性の確保、自立の促進、介護負担の軽減、社会との交流などにどのように有効活用されるかの問題、生活環境の整備や改善による QOL の向上など、課題を解決するための理念と技術について紹介する。 【学習の到達目標】 「生活の質」の向上の観点から、対象者に合った福祉機器を選択できるようになること。また、専門家としての立場から、新たに必要な機器・装置の開発に関与できるようになること。 【成績評価方法】 講義中の取り組み 50％・課題への取り組み 50％						
【課題等のフィードバック方法】 授業をとおしてフィードバックする。 【履修上の注意・予習・復習について】 講義において適宜、予習・復習課題を与える。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 身体機能に対する理解のもと、福祉機器の総合的性能を評価できるようになる。 【実務家教員担当科目】 病院等で理学療法士、作業療法士として実務経験のある教員が、臨床での応用を含めて教授する。						
授 業 計 画						
回	担当教員	学修内容			学修課題・必要な学修時間	
					予習・復習	学修時間
1	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 1			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
2	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 2			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
3	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 3			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
4	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 4			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
5	藤澤 宏幸	身体障害とリハビリテーション工学 5			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
6	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 1			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
7	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 2			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
8	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 3			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
9	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 4			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
10	野崎 淳夫	室内環境改善にかかわる工学的アプローチ 5			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
11	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 1			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
12	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 2			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
13	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 3			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
14	大黒 一司	障害特性別の自立支援技術とその評価 4			予習：事前学習課題 復習：授業内容	
教 科 書		特になし				
参 考 書		特になし				
備 考		質問・問い合わせ先：科目責任者および授業担当者				

科 目 名		生活情報科学特別講義		担 当 者	鈴木 伸夫	
科目ナンバリング					常勤	
D P				教員研究室	1410	
学科（専攻）		生活環境情報専攻		配 当 年 次	2 年次・前期	
授 業 形 式		講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング		☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用		☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない	
【授業内容】 進展の著しい知能・情報技術の活用は、高齢者や障害者だけでなく、健常者にとっても健康社会システム構築のために、極めて重要な要素となる。ユビキタス（遍在）コンピューティング環境の実現が期待されている。豊かな QOL 実現のための社会基盤としての知能、情報技術について各担当者の専門に順じた講義をする。 【学習の到達目標】 研究方法を学ぶこと。 【成績評価方法】 総合評価による。 【課題等のフィードバック方法】 授業中に講評する 【履修上の注意・予習・復習について】 特になし 【受講して得られる効果・メリット、その他】 特になし 【実務家教員担当科目】 特記事項なし						
授 業 計 画						
(沈 /3 回) 並列分散処理技術の基礎と応用：並列分散処理技術は、気象予報、流体シミュレーション、電子回路シミュレーション、原子炉安全性解析、画像処理など幅広い分野で必要不可欠なコンピュータ基本技術である。本講義は、この並列分散処理技術におけるハードウェア技術とソフトウェア技術を総合的且つ分かりやすく解説することを目標としている。講義では、ロボット制御計算の並列処理や連続システムシミュレーションの並列処理などのマルチプロセッサシステム上での並列処理実例を通して、並列分散処理システムの仕組みと動作原理を解説し、効率的な並列プログラムの設計技法を説明する。 (鈴木伸夫 /3 回) 計算科学：自然現象や様々な事象を解明するには数学的モデルを構築し、それを適切に評価することが必要となる。コンピュータシミュレーションはその強力な解決法であるが様々な困難さがある。本講義では具体的な例をとりあげモデル化とシミュレーション法について概説する。						
教 科 書		指定なし				
参 考 書		授業中に指示				
備 考		特になし				

科 目 名	生活環境科学特別講義			担 当 者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1410
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	2 年次・前期
授 業 形 式	講義	授 業 時 間	30 時間	単 位	選択 2 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 健康社会を支えるためには、人にやさしい生活空間を創出する環境技術や文化が必要である。総合する環境計画・環境文化のあり方を誘引する設計の技術・技法のみならず、環境の文化的側面に至るまでの広い領域にわたる問題について理解を深める必要がある。本講義では、各要素技術に加えて、これらを生活空間に適用する総合化の技法やマネジメント技術、実態調査技術や最新の環境保全や創生の技術について論ずる。				【課題等のフィードバック方法】 講義中の討議	
【学習の到達目標】 博士論文をまとめ上げるために必要な、研究の背景情報を理解すること。				【履修上の注意・予習・復習について】 各自の研究テーマを明確化し、その位置づけとの関係をよく理解しながら講義に臨むこと。	
【成績評価方法】 オムニバス形式の講義である。各講師が講義への出席 30％程度、講義での議論への参加 20％程度、課題レポート 50％程度で評価し、それらを総合して評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 博士後期課程 2 年次の講義として、学位請求論文の執筆にあたって、それぞれの研究テーマの位置づけを確認することが可能となる。	
				【実務家教員担当科目】 特記事項なし	
授 業 計 画					
(山本/3 回) 生活空間・環境形成論：人間の生活する空間・環境の形成過程およびその形成技法について講義する。特に医療・福祉・居住の視点から論ずる。 (須藤/4 回) 都市供給処理施設の技術と整備：環境リスクの低減に資する生活基盤施設を保持するとともに安全な環境を保つため、都市域におけるエネルギー、水、物流、情報などの都市供給処理施設の整備について述べる。 (野崎/4 回) 健康・快適な空気環境の特性と制御技術：健康・快適な環境は空気環境に大きく依存し、汚染曝露量の低減が求められている。空気環境の特性、環境負荷、汚染浄化技術の特性について講義する。 (岡/3 回) 農山村の生活環境文化の実態と問題点：人口減少化社会が着実に到来する今日、地場の環境資源を活用した農林業の存続は、食・住の安全性の問題とも相まって重要な問題である。野生動物の増加による農業被害の対策という具体的課題とその対策を通じて、農山村の生活環境文化のあり方について、最新の事例を交えて講義する。					

科 目 名	生活環境情報科学特別演習			担 当 者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング					常勤
D P				教 員 研 究 室	1410
学 科（専攻）	生活環境情報専攻			配 当 年 次	1 ～ 3 年次・通年
授 業 形 式	演 習	授 業 時 間	120 時間	単 位	必修 8 単位
アクティブ・ラーニング	☐ 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ 該当なし				
I C T 活 用	☐ 双方向型授業 ☐ 自主学習支援 ☒ 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】 生活環境情報科学領域において、高度な知識や技術を修得し、高い学問的見識と自立的な研究開発・指導能力を有する、高度専門技術者、研究者及び教育者となることを目指し、実験、調査および演習等を通じて、研究および討論を行う。それらの成果を、各学協会が主催する研究報告会等へ参加して発表することを奨励する。				【課題等のフィードバック方法】 研究指導中に行う。	
【学習の到達目標】 各自の研究テーマに対する、博士学位論文をまとめ上げること。				【履修上の注意・予習・復習について】 各自の研究テーマの総仕上げとして、各指導教員の指導を受ける。	
【成績評価方法】 演習に関するレポート課題 30%，調査・シンポジウム・現場調査等への参加およびレポート 30%，その他演習時間以外の研究活動状況 40%，等を総合して評価する。				【受講して得られる効果・メリット、その他】 学生は各指導教員の研究室に所属する。学生の自主的研究活動の推進のために必要な指導を適切な指導を受けることによって、博士学位請求論文の作成法について具体学ぶことができる。	
				【実務家教員担当科目】 特記事項なし	
授 業 計 画					
(野崎淳夫) 生活環境科学における人間の生活と空気環境、人体有害物質、微量化学汚染物質の評価、環境負荷低減技術等に関する諸課題について、研究指導を行う。 (須藤 諭) 生活環境科学におけるエネルギー消費構造、未利用エネルギーの有効活用を実現する構成技術に関する諸課題について、研究指導を行う。 (沈 紅) 生活情報科学における分散並列処理技術、コンピュータハードウェア開発、プログラミング言語論等に関する諸課題について、研究指導を行う。 (山本和恵) 生活環境科学における生活福祉と建築計画、建築設計・インテリアデザインに関する諸課題ついて研究指導を行う。 (岡 恵介) 生活環境科学における生活環境文化、地場の環境資源の活用、循環型社会の構築に関する諸問題について、研究指導を行う。 (鈴木陽一) 生活情報科学におけるマルチメディア情報のセンシング技術、信号処理技術、提示技術に関する諸課題について、研究指導を行う。 (鈴木伸夫) 生活情報科学における数学的モデルの構築、コンピュータシミュレーション法の開発に関する諸課題について、研究指導を行う。					

VII 学位論文審査

東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科前期課程学位授与審査申合せ

「平成 30 年 2 月 7 日」
「学 長 制 定」

(趣旨)

第 1 条 この申合せは、健康社会システム研究科(以下「本大学院」という。)において東北文化学園大学学位規程第 5 条の規定により、学位授与と審査を行う場合に関し必要な事項を定める。

(修士論文の提出)

第 2 条 本大学院前期課程において、修士論文を提出することができる者は、本大学院に 1 年以上在学し、所定の授業科目について、22 単位以上を修得した者又は修得見込の者とする。

2 修士論文の審査を受けようとする者は、修士論文等審査願(様式第 M-1 号)を、指導教員の承認を得て、3 月修了者にあつては 9 月 15 日まで、9 月修了者にあつては 4 月 15 日までに研究科長に提出するものとする。

3 修士論文等様式(様式第 M-2 号)及び修士論文等要旨(様式第 M-3 号)の提出期限は、3 月修了者にあつては 1 月 15 日、9 月修了者にあつては 7 月 15 日とする。

(特定の課題についての研究の成果の提出)

第 3 条 本大学院前期課程において、特定の課題についての研究の成果(以下「研究成果」という。)を提出することができる者は、本大学院に 1 年以上在学し、所定の授業科目について、22 単位以上を修得した者又は修得見込の者とする。

2 研究成果の審査を受けようとする者は、修士論文等審査願(様式第 M-1 号)を、指導教員の承認を得て、教授会が定めるそれぞれの期日までに研究科長に提出するものとする。

3 修士論文等様式(様式第 M-2 号)及び修士論文等要旨(様式第 M-3 号)の提出期限は、3 月修了者にあつては 1 月 15 日、9 月修了者にあつては 7 月 15 日とする。

(修士論文題目の変更及び修士論文の取り下げ)

第 4 条 修士論文の題目を変更する場合は、指導教員の承認を得た後に修士論文等題目変更届(様式第 M-4 号)を提出しなければならない。

2 修士論文を取り下げる場合は、指導教員の承認を得て審査終了前に研究科長に願い出るものとする。

(研究成果の題目の変更及び研究成果の取り下げ)

第 5 条 研究成果の題目を変更する場合は、指導教員の承認を得た後に修士論文等題目変更届(様式第 M-4 号)を提出しなければならない。

2 研究成果を取り下げる場合は、指導教員の承認を得て審査終了前に研究科長に願い出るものとする。

(修士論文等審査委員の選出)

第 6 条 修士論文等審査委員(以下「審査委員」と

いう。)は、当該専攻学生の修士論文又は研究成果(以下「修士論文等」という。)1 編につき、主査 1 名及び副査 2 名以上の委員とし、主査は専任教員が当るものとする。なお、主査及び副査の候補者の選出は、原則として指導教員の指名により行い、修士論文等審査委員候補者名簿(様式第 M-5 号)により、研究科長が審査委員候補者(以下「候補者」という。)を研究科教授会に推薦する。

3 月修了者にあつては 11 月上旬、9 月修了者にあつては 6 月下旬までに研究科教授会に推薦するものとする。

2 前項の副査として、兼任教員及び他の大学院又は研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 研究科教授会は、第 1 項の推薦に基づき、候補者を決定し、学長に報告する。

4 学長は、前項の報告に基づき、審査委員を決定する。

(修士論文等の審査及び最終試験)

第 7 条 審査委員は、主査の総括のもとに、修士論文等の審査及び最終試験を行うものとする。

2 最終試験は、修士論文等の審査終了後、審査した修士論文及び研究成果並びにこれに関連のある専攻分野について口頭試問によって行うものとし、審査委員は、最終試験の方法及び期日を決定し、最終試験実施の 1 週間前までに当該専攻学生に通知するものとする。

3 修士論文等の審査及び最終試験の成績の評価は、合格又は不合格とする。

4 審査委員は、修士論文等の審査及び最終試験の結果を修士論文等審査及び最終試験結果報告書(様式第 M-6 号)により、3 月修了者にあつては 2 月 15 日、9 月修了者にあつては 8 月中旬までに研究科教授会に報告するものとする。

(修士論文等及び修士論文要旨の保管)

第 8 条 修士論文等は、当該専攻において保管するものとし、修士論文要旨は、教務部において保管するものとする。

2 前項の修士論文等及び修士論文要旨の保管期間は、永久とする。

(雑則)

第 9 条 この申合せに関して定める所定の期日に該当する日が、東北文化学園大学大学院学則第 17 条に定める休業日になるときは、その翌教務課受付日とする。

(申合せの改廃)

第 10 条 この申合せの改廃は、研究科教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

1 この申合せは平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

2 この申合せの施行日をもって、健康社会システム研究科前期課程学位授与審査申合せ(平成 29 年 1 月 6 日研究科教授会制定)は廃止する。

VII 学位論文審査

様式(第M-1号)

	指導教員 承認印
--	-------------

年 月 日

健康社会システム研究科長 殿

年度入学
健康社会システム研究科

専攻

学籍番号

氏 名

印

修 士 論 文 等 審 査 願

東北文化学園大学学位規程及び健康社会システム研究科前期課程学位授与審査申合せにより、修士論文等の下記予定論文題目を提出しますので、審査をお願いいたします。
併せて審査委員の選出をお願いいたします。

記

予定論文等題目 (和文または英文、英文の場合は和文併記)

様式(第M-2号)

修士論文・研究成果

題 目 (和文または英文、英文の場合は和文併記)

【修士論文等様式】

- 規格は、A4判とする。
- 論文は、和文又は英文のいずれかとし、原則として横書きの左綴りのものを必要部数提出すること。

なお、提出時は本説明文を記載している枠を削除し提出すること。

見 本

健康社会システム研究科

専攻

氏 名

様式(第M-3号)

修 士 論 文 等 要 旨			
提出者	氏 名		専攻
修士論文等 題 目	和文または英文		
	英文の場合は和文を記入		

(注) 1 規格は、A4判とする。
2 和文で約800字とする。

様式(第M-4号)

年 月 日

健康社会システム研究科長 殿

年度入学
健康社会システム研究科

専攻

学籍番号

氏 名

印

修士論文等題目変更届

下記のとおりに修士論文等の題目を変更したいので、届け出ます。

記

変更する題目 ☐和文 ☐英文

新題目名 _____

旧題目名 _____

指導教員 氏名 _____ 印

様式(第M- 5号)

年 月 日

健康社会システム研究科教授会 殿

健康社会システム研究科
研究科長 印

修士論文等審査委員候補者推薦名簿

下記修士論文等の審査委員候補者を次のとおり推薦します。

(職名) (氏名)

副 査

副 査

副 査

副 査

記

学生氏名	年度入学・学籍番号
健康社会システム研究科	専攻
修士論文等題目 (和文または英文、英文の場合は和文を併記)	

様式(第M- 6号)

年 月 日

健康社会システム研究科教授会 殿

修士論文等審査委員
(職名) (氏名)

主 査 印

副 査 印

副 査 印

副 査 印

等審査及び最終試験結果報告書

修士論文等審査及び最終試験を終了しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

学生氏名	年度入学・学籍番号
健康社会システム研究科	指導教員 専攻
修士論文等題目 (和文または英文、英文の場合は和文を併記)	

修士論文等の合否	最終試験の合否
----------	---------

修士論文等審査結果要旨

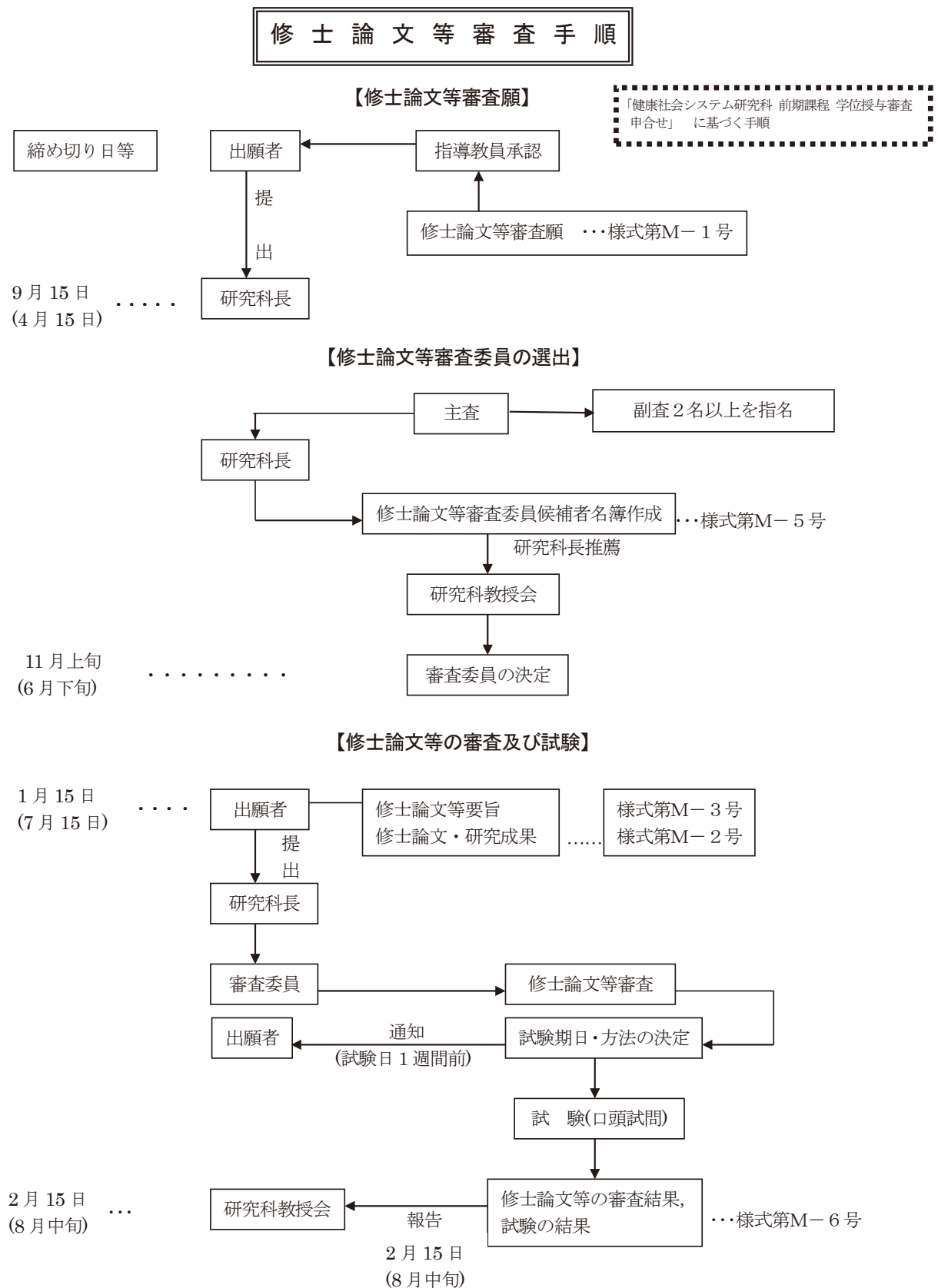
修士論文等題目	和文または英文
	英文の場合は和文を記入
専攻・氏名	

見 本

主査 印

※この書式は大学院 様式 (第M- 6号) 添付用です。

VII 学位論文審査



注：()内の月は9月学位授与の締め切り日等を示す。

東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科後
期課程学位授与審査申合せ

「平成 30 年 2 月 7 日」
「学 長 制 定」

(趣旨)

第 1 条 この申合せは、健康社会システム研究科(以下「本大学院」という。)において東北文化学園大学学位規程第 6 条の規定により、学位授与審査を行う場合に関し必要な事項を定める。

(博士論文の提出)

第 2 条 本大学院後期課程において、博士論文を提出することができる者は、本大学院に 2 年以上在学し、所定の授業科目について、4 単位以上を修得した者又は修得見込の者とする。

2 博士論文の審査を受けようとする者は、博士論文審査願(様式第 D-1 号)、博士論文要旨(様式第 D-3 号)、倫理審査に該当する研究においては倫理審査の審査結果通知書及び当該論文の研究課題に関連する内容が査読付きの学術雑誌に投稿されたこと(予定を含む。)が確認できる書類を指導教員の承認を得て、3 月修了者にあつては 9 月 15 日まで、9 月修了者にあつては 4 月 15 日までに研究科長に提出するものとする。

3 予備審査に合格した者は、博士論文(様式第 D-2 号)及び当該論文の研究課題に関連する内容が査読付きの学術雑誌に掲載されたこと(予定を含む。)が確認できる書類を、3 月修了者にあつては 1 月 15 日まで、9 月修了者にあつては 7 月 15 日までに研究科長に提出するものとする。

4 東北文化学園大学学位規程第 6 条第 2 項(論文博士)の規定の学位の授与については、別に定める。

(博士論文題目の変更及び博士論文の取り下げ)

第 3 条 博士論文の題目を変更する場合は、博士論文題目変更届(様式第 D-4 号)を指導教員の承認を得て提出しなければならない。

2 博士論文を取り下げる場合は、指導教員の承認を得て審査終了前に研究科長に願い出るものとする。

(博士論文審査委員の選出)

第 4 条 博士論文審査委員(以下「審査委員」という。)は、当該専攻学生の博士論文 1 編につき、主査 1 名及び副査 2 名以上とし、主査は専任教員が当るものとする。ただし、副査については、当該学生の指導教員及び副指導教員でない専任教員を含めるものとする。

2 審査委員候補者の選出は、原則として指導教員の指名により行う。

3 研究科長は、審査委員候補者を博士論文審査委員候補者推薦名簿(様式第 D-5 号)により、3

月修了者にあつては 11 月初旬、9 月修了者にあつては 5 月初旬までに研究科教授会に推薦するものとする。

4 第 1 項の副査として、兼任教員及び他の大学院又は研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

5 研究科教授会は、第 3 項の推薦に基づき、審査委員を決定し学長に報告する。

(博士論文の審査及び最終試験)

第 5 条 審査委員は、主査の総括のもとに、博士論文の審査及び最終試験を行うものとする。

2 審査委員は、博士論文提出の可否を決定するため予備審査を行い、博士論文予備審査結果報告書(様式 D-6 号)、博士論文予備審査意見書及び回答書(様式第 D-6 号の 2)により所定の期日までに研究科教授会に報告するものとする。ただし、指導教員は、審査の中立性を担保するため、予備審査には加わらないこととする。

3 研究科教授会は、前項の報告に基づき博士論文提出の可否を決定する。

4 最終試験は、博士論文の本審査において、審査した博士論文及びこれに関連のある専攻分野について口頭試問によって行うものとする。

5 前項の最終試験において、審査委員は博士論文予備審査意見書の指摘事項等を公表することとする。

6 博士論文の審査及び最終試験の成績の評価は、合格又は不合格とする。

7 主査は、博士論文審査及び最終試験結果報告書(様式第 D-7 号)並びに博士論文の審査結果の要旨(様式第 D-8 号)により所定の期日までに研究科教授会に報告し、了承を得るものとする。
(雑則)

第 6 条 本申合せに関して定める所定の期日に該当する日が、東北文化学園大学大学院学則第 17 条に定める休業日になるときは、その翌教務課受付日とする。

(申合せの改廃)

第 7 条 この申合せの改廃は、研究科教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

1 この申合せは平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
2 この申合せの施行日をもって、健康社会システム研究科後期課程学位授与審査申合せ(平成 29 年 1 月 6 日研究科教授会制定)は廃止する。

附 則

この申合せは 2021 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは 2023 年 4 月 1 日から施行する。

VII 学位論文審査

様式(第D-1号)

指導教員	
承認印	

年 月 日

健康社会システム研究科長 殿

年度入学
健康社会システム研究科

学籍番号 _____

氏 名 _____

専攻

印

博 士 論 文 審 査 願

東北文化学園大学学位規程及び健康社会システム研究科後期課程学位授与審査申合せにより、博士論文の下記予定論文題目を提出しますので、審査をお願いいたします。
併せて審査委員の選出をお願いいたします。

記

予定論文題目 (和文には英文を、英文には和文併記)

様式(第D-2号)

博 士 論 文

題 目 (和文には英文を、英文には和文併記)

【博士論文等様式】

- 規格は、A4判とする。
- 論文は、和文又は英文のいずれかとし、原則として横書きの左綴りのものを必要部数提出すること。
なお、提出時は本説明文を記載している枠を削除し提出すること。

見 本

健康社会システム研究科

_____ 専攻

氏 名 _____

様式(第D-3号)

博 士 論 文 要 旨			
提出者	氏名		専攻
博士論文 題 目	和文		
	英文		

(和文)

(英文)

見 本

(注) 1 規格は、A4判とする。
2 和文と英文で作成すること。
3 和文は約800字とする。

様式(第D-4号)

年 月 日

健康社会システム研究科長 殿

年度入学
健康社会システム研究科

学籍番号 _____

氏 名 _____

専攻

印

博士論文題目変更届

下記のとおり博士論文の題目を変更したいので届け出ます。

記

変更する題目 ☐和文 ☐英文

新題目名 _____

旧題目名 _____

指導教員 氏名 _____ 印

様式(第D-5号)

年 月 日

健康社会システム研究科教授会 殿

健康社会システム研究科
研究科長 印

博士論文審査委員候補者推薦名簿

下記博士論文の審査委員候補者を次のとおり推薦します。

(職名) (氏名)

副 査

副 査

記

氏名	☐ 後期課程 年度入学・学籍番号 _____
健康社会システム研究科	☐ 後期課程を経ない者 専攻
博士論文題目 (和文には英文を、英文には和文を併記)	

様式(第D-6号)

年 月 日

健康社会システム研究科教授会 殿

博士論文予備審査委員
(職名) (氏名)

主 査 印

副 査 印

副 査 印

副 査 印

博士論文予備審査結果報告書

博士論文予備審査を済ませたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

氏名	☐ 後期課程 年度入学・学籍番号 _____
健康社会システム研究科	☐ 後期課程を経ない者 指導教員
専攻	
予備審査結果	
博士論文題目 (和文には英文を、英文には和文併記)	
博士論文提出の可否	

様式(第D-6号の2)

博士論文予備審査意見書

報告日： 年 月 日

論文提出者	
論文題目	
予備審査結果	☐ このまま博士論文の提出可 ☐ 修正後博士論文の提出可、ただし審査委員は提出前に修正内容を確認する ☐ 博士論文の提出不可
指摘事項 1)	

見 本

予備審査実施日： 年 月 日
審査委員：

(注) 規格は A4 判とする。

回 答 書

(「博士論文予備審査意見書」の指摘事項に付された番号に対応するように記載すること。)

年 月 日

論文提出者：
指導教員：

(注) 規格は A4 判とする。

VII 學位論文審查

様式(第I－7号)	
年 月 日	
健康社会システム研究科教授会 殿	
博士論文審査委員 (職名) (氏名)	
主 査	印
副 査	印
副 査	印
副 査	印
博士論文審査及び最終試験結果報告書	
博士論文審査及び最終試験結果報告書を提出しましたので、その結果を下記のとおり報告します。	
記	
氏名	☐ 後期課程 年度入学・学籍番号 _____ ☐ 後期課程を経ない者
健康社会システム研究科 専攻	指導教員
博士論文題目（和文には英文を、英文には和文を併記） 	
博士論文の合否	最終試験の合否

博士論文の審査結果の要旨	
氏名	〇〇 〇〇
学位の種類	博士（〇〇〇〇）
学位記番号	健博〇第〇〇〇号
学位授与年月日	〇〇年〇月〇〇日
学位授与の条件	学則第44条第3項該当
学位論文題目	和文 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 英文 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
論文審査委員	主査 教授 〇〇 〇〇 副査 教授 〇〇 〇〇 教授 〇〇 〇〇

論文の要旨

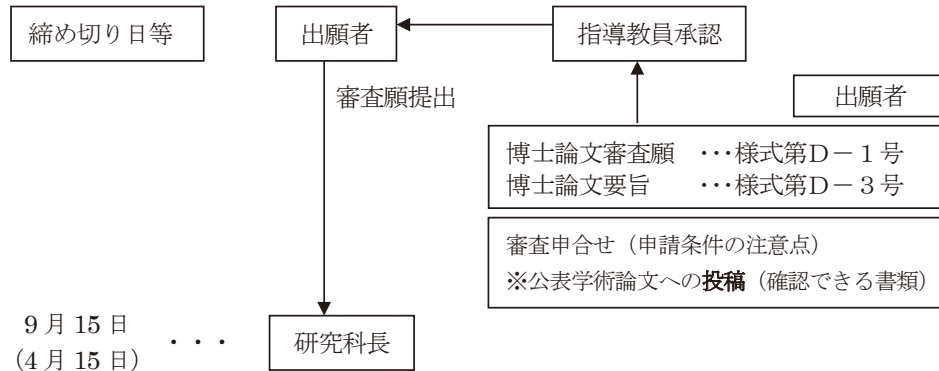
見本

以上の結果、本論文は学位論文として十分な内容を有するものと審査委員会全員の一致で判定された。したがって、申請者 〇〇 〇〇は博士（〇〇〇〇）の学位を授与されるに値すると判断した。

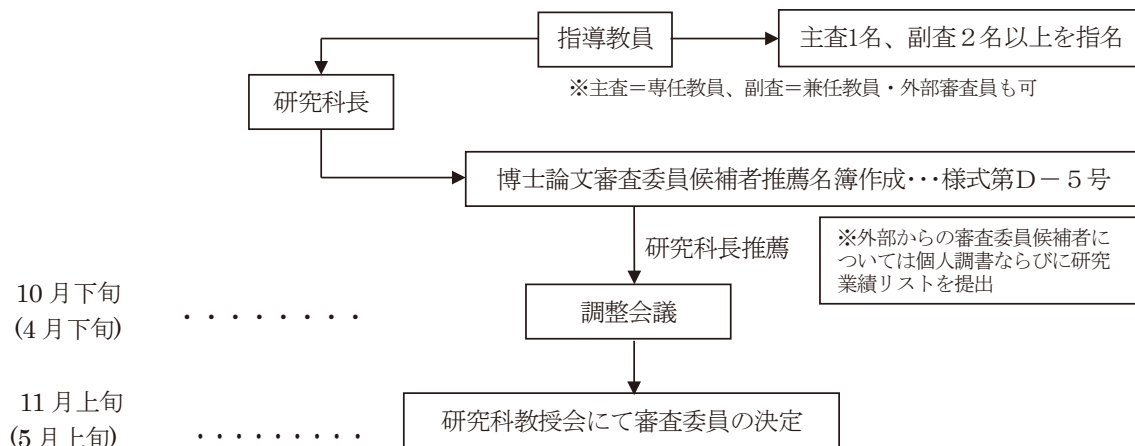
博士論文審査手順

「健康社会システム研究科 後期課程 学位授与審査
申合せ」に基づく手順

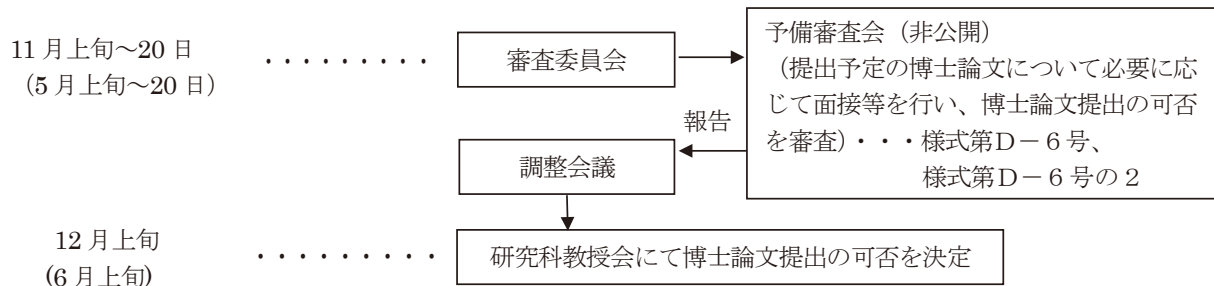
【博士論文審査願】



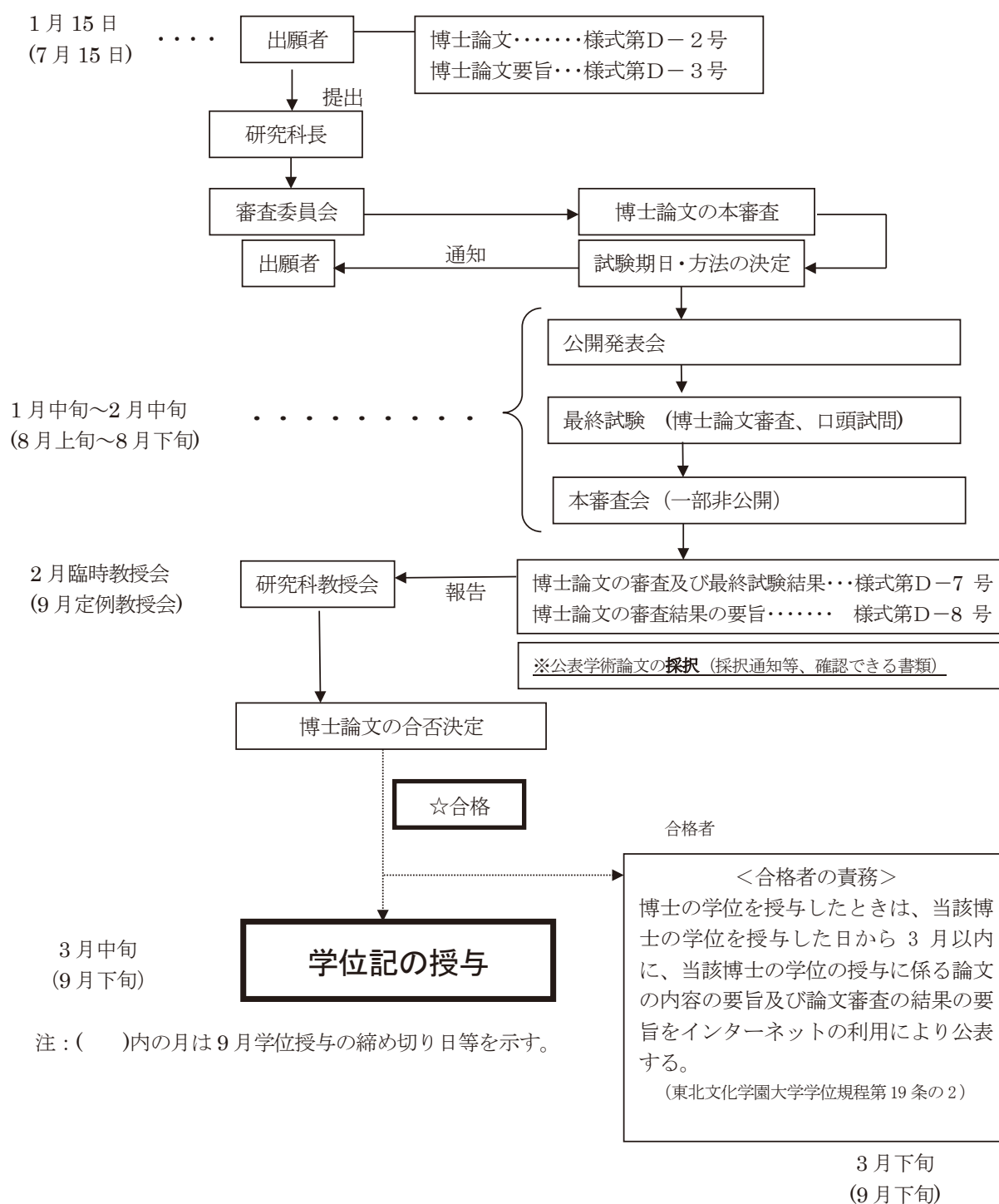
【博士論文審査委員の選出】



【博士論文の審査及び試験】



VII 学位論文審査



東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科後期課程を経ない者の学位授与申請及び審査に関する規程

「平成 30 年 2 月 7 日」
「学 長 制 定」

(趣旨)

第 1 条 この規程は、健康社会システム研究科（以下「本研究科」という。）において東北文化学園大学学位規程（以下「学位規程」という。）第 6 条第 2 項の定めにより、後期課程を経ない者の学位授与の申請及び審査について必要な事項を定める。

(申請条件)

第 2 条 学位規程第 6 条第 2 項の定めにより学位の授与を申請できる者は、次の各号を全て満たす者とする。

- (1) 次に掲げる研究歴のいずれかを有すること。
 - ア 大学院の博士後期課程において、所定の期間在学し、所定の単位を修得して退学した者
 - イ 大学院の博士前期課程又は 6 年制大学を修了した後、5 年以上の研究歴を有する者
 - ウ 学士の学位を取得した後、8 年以上の研究歴を有する者
- (2) 博士論文の研究課題に関連する内容の著書または学術論文が 3 編以上（単著または筆頭著者）またはそれに準ずる業績を有すること。

2 前項第 1 号の研究歴とは、次の各号に掲げる期間とする。

- (1) 大学、大学院、短期大学又は高等専門学校の教員として研究に従事した期間
- (2) 大学院の研究生又は研究員として研究に従事した期間
- (3) 大学院の学生として在学した期間
- (4) 公的研究機関等において、職員として研究に従事した期間

3 学位規程第 6 条第 2 項の定めにより学位の授与を申請しようとする者は、事前に、本研究科の論文指導教授に審査対象博士論文としての推薦理由書の作成を依頼しなければならない。

(学位授与の申請)

第 3 条 学位規程第 6 条第 2 項の定めにより学位の授与を申請しようとする者は、学位規程第 8 条の 2 の定めにより、次の書類を研究科長を経て学長に提出するものとする。

- (1) 学位申請書（様式第 E－1 号） 1 通
- (2) 学位論文（博士論文審査委員の人数分）（様式第 D－2 号）
- (3) 学位論文要旨（様式第 D－3 号） 1 通

- (4) 個人調書 1 通
- (5) 教育研究業績書 1 通
- (6) 最終学校の卒業証明書または修了証明書 1 通
- (7) 戸籍抄本（外国人の場合は外国人登録原票記載事項証明書） 1 通
- (8) 論文指導教授の審査対象博士論文としての推薦理由書 1 通（様式第 E－2 号）
- (9) 博士論文の研究課題に関連する内容の著書または学術論文の別刷 1 通
- (10) 前号の著書が共著である場合は、共著者の博士論文への使用承諾書 共著者 1 名につき 1 通（様式第 E－3 号）
- (11) 学位論文審査料

2 前項の書類の提出期限は、3 月授与者にあつては 9 月 15 日、9 月授与者にあつては 4 月 15 日とする。

(博士論文題目の変更及び博士論文の取り下げ)

第 4 条 博士論文の題目を変更する場合は、博士論文題目変更届（様式第 D－4 号）を論文指導教授の承認を得て提出しなければならない。

2 博士論文を取り下げる場合は、論文指導教授の承認を得て審査終了前に研究科長に願い出るものとする。

(博士論文審査委員の選出)

第 5 条 博士論文審査委員（以下「審査委員」という。）は、当該申請者の博士論文 1 編につき、主査 1 名及び副査 2 名以上の委員とし、主査は専任教員が当るものとする。なお、主査及び副査の候補者の選出は、原則として論文指導教授の指名により行い、博士論文審査委員候補者推薦名簿（様式第 D－5 号）により、研究科長が審査委員候補者（以下「候補者」という。）を研究科教授会に推薦する。

3 月修了者にあつては 10 月上旬、9 月修了者にあつては 5 月上旬までに研究科教授会に推薦するものとする。

2 前項の副査として、兼任教員及び他の大学院又は研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 研究科教授会は、第 1 項の推薦に基づき、候補者を決定し学長に報告する。

4 学長は、前項の報告に基づき、審査委員を決定する。

(博士論文の審査及び学力の確認)

第 6 条 審査委員は、主査の総括のもとに、博士論文の審査及び学力の確認を行うものとする。

2 審査委員は、学位申請受理の可否を決定するため予備審査を行い、博士論文予備審査結果報告書（様式第 D－6 号）を所定の期日までに提出し、

VII 学位論文審査

研究科教授会において了承を得るものとする。

- 3 学力の確認は、博士論文の本審査において、審査した博士論文及びこれに関連のある専攻分野について口頭試問によって行うものとする。
- 4 博士論文の審査及び学力の確認の成績の評価は、合格又は不合格とする。
- 5 審査委員は、博士論文審査及び最終試験結果報告書（様式第 D－7 号）並びに博士論文の審査結果の要旨（様式第 D－8 号）を所定の期日までに提出し、研究科教授会において了承を得るものとする。

（雑則）

第 7 条 本規程に関して定める所定の期日に該当する日が、東北文化学園大学大学院学則第 17 条に定める休業日になるときは、その翌教務課受付日とする。

（規程の改廃）

第 8 条 この規程の改廃は、研究科教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この申合せは平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この申合せの施行日をもって、健康社会システム研究科後期課程を経ない者の学位授与申請及び審査申合せ（平成 29 年 1 月 6 日研究科教授会制定）は廃止する。

附 則

この申合せは 2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 申合せの題名を「東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科 後期課程を経ない者の学位授与申請及び審査申合せ」から「東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科後期課程を経ない者の学位授与申請及び審査に関する規程」に改正する。
- 2 この規程は 2025 年 4 月 1 日から施行する。

様式（第E－1号）

学位申請書

東北文化学園大学長 殿

本 籍（都・道・府・県）

住 所

（ふりがな）
氏 名

生年月日 年 月 日生

貴学学位規程第8条に基づき、必要書類及び論文審査料 円
を添えて博士（ ）の学位を申請いたします。

年 月 日

氏 名 印

健康社会システム研究科長

受理番号	授与年月日	年 月 日
授与番号 乙第 号	授与年月日	年 月 日

様式（第E－2号）

推薦理由書

年 月 日

学位論文申請者氏名	
論 文 題 目	和文
	英文
（所 見）	

東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科教授

氏 名 印

様式（第E－3号）

承諾書

年 月 日

東北文化学園大学大学院
健康社会システム研究科長 殿

氏 名 _____ 印

住 所 _____

電 話 _____

所 属 _____

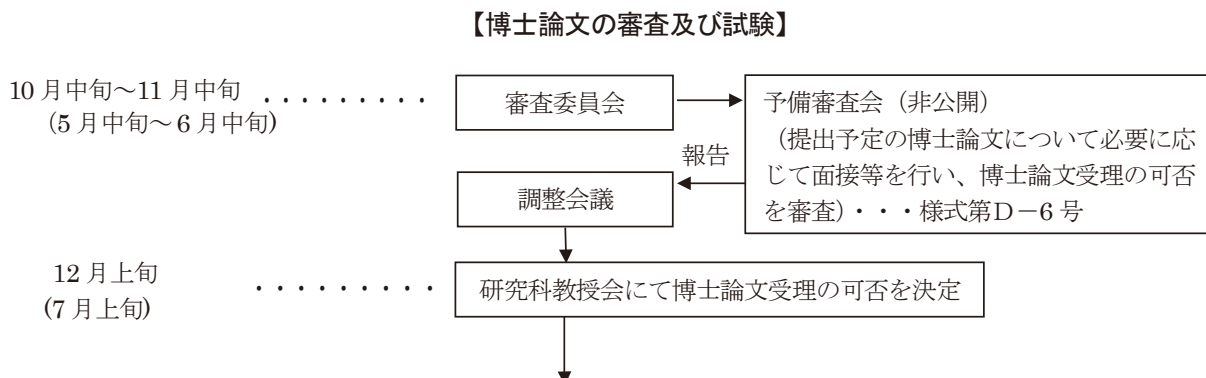
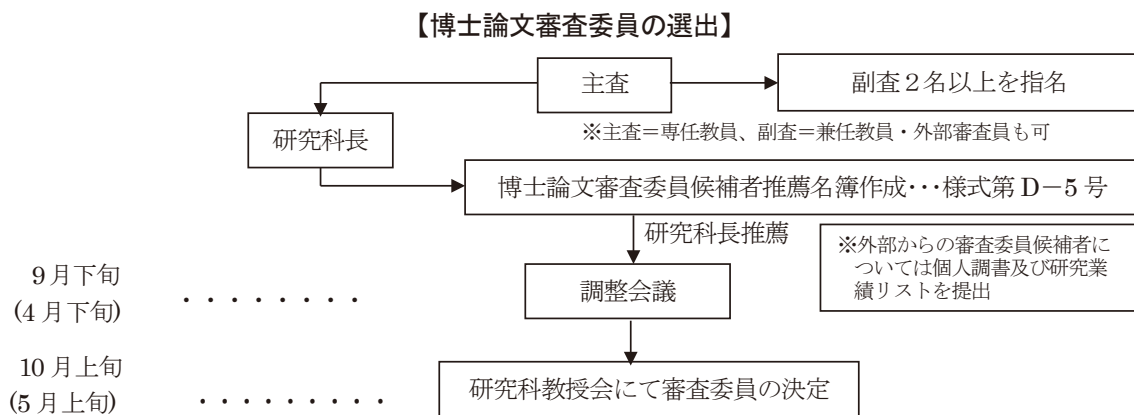
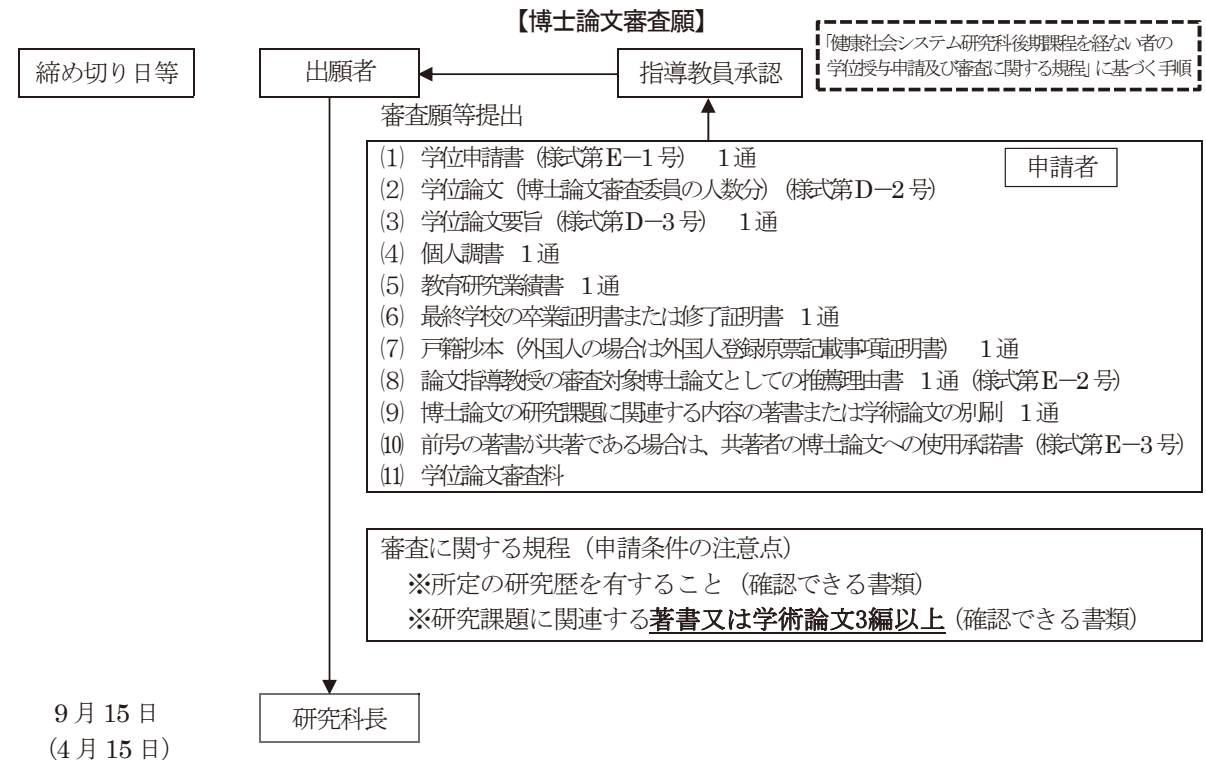
下記の論文を 氏が貴大学院健康社会システム研究科に博士論文として提出することを承諾します。
なお、私は当該論文を学位論文として学位の授与の申請に使用いたしません。

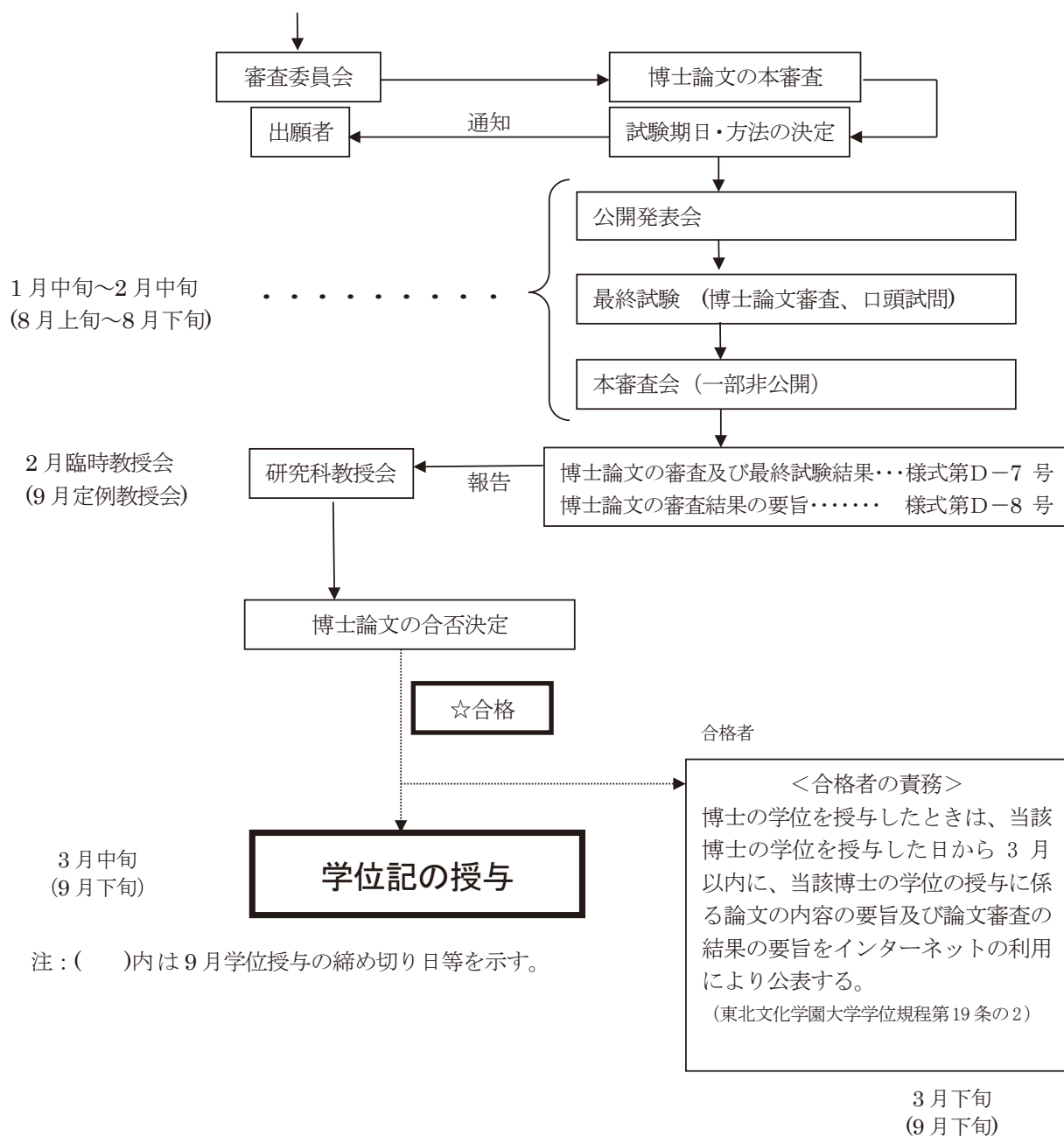
論文題目（和文には英文を、英文には和文併記）

備 考 この承諾書は、共著者が作成すること。

VII 学位論文審査

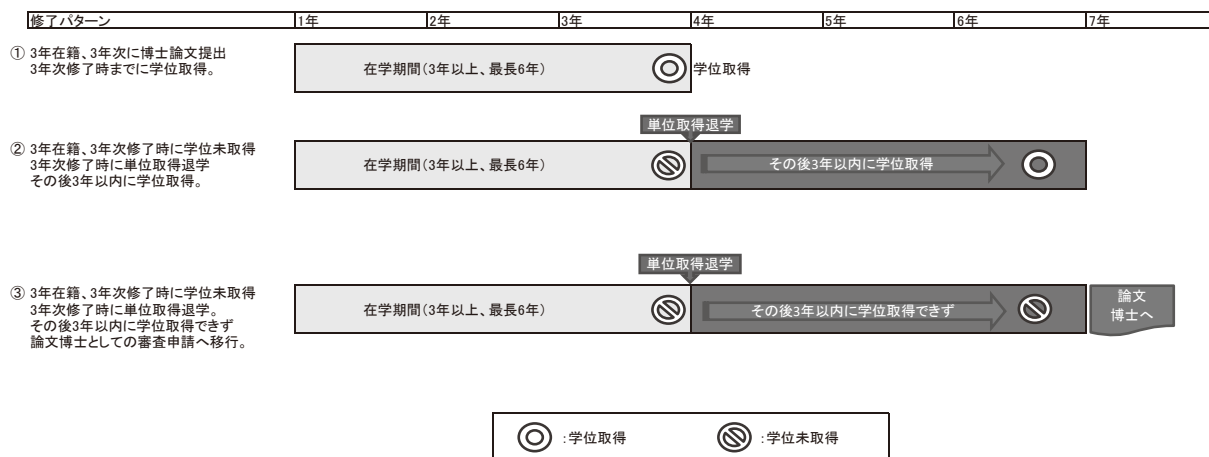
後期課程を経ない者の学位授与申請及び博士論文審査手順





【博士課程 後期3年の課程 修了モデル図】

(東北文化学園大学学位規程 第10条審査期間)



VIII 諸 規 程

東北文化学園大学大学院学則

「平成 15 年 2 月 12 日」
「理 事 会 制 定」

目次

第 1 章 総則

- 第 1 節 趣旨及び目的（第 1 条・第 2 条）
- 第 2 節 自己点検及び自己評価（第 3 条）
- 第 3 節 研究科の組織（第 4 条—第 9 条）
- 第 4 節 組織の長、教員組織及び事務（第 10 条—第 12 条）
- 第 5 節 大学運営会議及び研究科教授会（第 13 条・第 14 条）
- 第 6 節 学年、学期及び休業日（第 15 条—第 17 条）

第 2 章 大学院通則

- 第 1 節 標準修業年限及び在学年限（第 18 条・第 19 条）
- 第 2 節 入学、編入学及び進学の資格、時期等（第 20 条—第 24 条）
- 第 3 節 再入学（第 25 条・第 26 条）
- 第 4 節 教育課程の編成、履修方法等（第 27 条—第 32 条）
- 第 5 節 他の大学院等における修学（第 33 条—第 36 条）
- 第 6 節 留学、休学、復学、除籍、退学及び転学（第 37 条—第 43 条）
- 第 7 節 修了の要件及び学位の授与（第 44 条—第 46 条の 2）
- 第 8 節 賞罰（第 47 条・第 48 条）
- 第 9 節 検定料、入学金、授業料、施設設備費及び実験実習費（第 49 条—第 57 条）

第 3 章 補則

- 第 1 節 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、外国人留学生及び特別研究学生（第 58 条—第 62 条）
- 第 2 節 研究施設及び厚生施設（第 63 条・第 64 条）
- 第 3 節 規則等への委任（第 65 条）

附則

第 1 章 総則

第 1 節 趣旨及び目的

（趣旨）

第 1 条 東北文化学園大学学則第 3 条の 2 第 2 項の規定に基づく東北文化学園大学大学院（以下「本大学院」という。）に関する事項については、この大学院学則の定めるところによる。

（目的）

第 2 条 本大学院は、健康で文化的な生活の創造に

関する学術の理論と応用を教授研究し、その深奥を究めて、地域と文化の発展に寄与することを目的とする。

第 2 節 自己点検及び自己評価

（自己点検及び自己評価）

- 第 3 条 本大学院の教育研究の水準の向上を図るとともに、本大学院の目的及び社会的使命を達成するため、本大学院の教育研究活動等の状況について、自己点検及び自己評価を行うものとする。
- 2 自己点検及び自己評価に関し必要な事項は、別に定める。

第 3 節 研究科の組織

（研究科）

第 4 条 本大学院に、健康社会システム研究科（以下「研究科」という。）を置く。

（課程）

- 第 5 条 研究科に、博士課程を置く。
- 2 博士課程は、前期 2 年の課程（以下「前期課程」という。）及び後期 3 年の課程（以下「後期課程」という。）に区分し、前期課程は、これを修士課程として取り扱う。
- 3 前期課程は、保健医療福祉及び生活環境情報の分野における、広い視野に立った研究能力及び高度の知識と技術を有する専門的職業人の養成を目的とする。
- 4 後期課程は、前期課程の目標とする専門的能力を基礎に、さらに高度な知識や技術を修得し、高い学問的見識と自立的な研究開発能力を有する高度専門技術者、研究者及び教育者となる人材の養成を目的とする。

（専攻）

第 6 条 研究科に、次に掲げる専攻を置く。

健康福祉専攻

生活環境情報専攻

（研究科の目的）

第 6 条の 2 健康社会システム研究科は、健康福祉及び生活環境情報に関する学術の理論並びに応用を教授研究し、その深奥をきわめるとともに、高度の専門職性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、社会文化の進展に寄与することを目的とする。

- (1) 健康福祉専攻は、福祉社会の形成に必要な保健・医療・福祉に関する学術の理論及び応用を教授研究するとともに、高度の専門職性が求められる職業を担うための深い知識や卓越した能力を培い、健康福祉に関する高い学問的見識と研究能力を有する人材を育成する。
- (2) 生活環境情報専攻は、健康・安全生活環境の

VIII 諸規程

維持・創成に必要な情報・環境及びその応用工学に関する理論及び技術を教授研究するとともに、高度の専門職性が求められる職業を担うための深い知識や卓越した能力を培い、生活環境情報に関する高い学問的見識と研究能力を有する人材を育成する。

(収容定員等)

第7条 研究科の入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科	専攻	前期課程		後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
健康社会システム研究科	健康福祉専攻	10人	20人	2人	6人
	生活環境情報専攻	10	20	2	6
計		20	40	4	12

第8条 削除

第9条 削除

第4節 組織の長、教員組織及び事務

(研究科長)

第10条 本大学院の研究科に、研究科長を置き、研究科の教授をもって充てる。

2 研究科長の選考については、別に定める。

(研究科担当教員)

第11条 本大学院の研究科における授業及び研究指導は、研究科の担当を委嘱された教員が行う。

(客員教授)

第11条の2 本大学院に、客員教授を置くことができる。

2 客員教授に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第12条 本大学院に関する事務は、大学事務局においてこれを行う。

第5節 大学運営会議及び研究科教授会

(大学運営会議)

第13条 本大学院の管理運営に関する重要事項は、大学運営会議において行う。

(研究科教授会)

第14条 本大学院の研究科に、研究科教授会を置く。

2 研究科教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第6節 学年、学期及び休業日

(学年)

第15条 本大学院の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第16条 前条の学年は、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第17条 休業日は、次のとおりとする。ただし、第4号から第6号までの休業期間の始期及び終期は、年度により別に定める。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 東北文化学園大学（以下「本学」という。）の開学記念日 4月27日

(4) 春季休業

(5) 夏季休業

(6) 冬季休業

2 学長は、必要に応じ臨時に授業を中止又は変更することができる。

第2章 大学院通則

第1節 標準修業年限及び在学年限

(標準修業年限)

第18条 前期課程の標準修業年限は2年、後期課程の標準修業年限は3年とする。

(在学年限)

第19条 学生は、前期課程には4年、後期課程には6年を超えて在学することができない。

2 第25条の規定により再入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第2節 入学、編入学及び進学の資格、時期等

(入学、編入学及び進学の資格)

第20条 本大学院の前期課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学（以下「大学」という。）の卒業生

(2) 学校教育法第104条4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 大学に3年以上在学し、又は外国において学

校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(8) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

(9) その他本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2 本大学院の後期課程に編入学又は進学（本大学院の前期課程を修了して、引き続き後期課程へ進むことをいう。）することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 修士の学位を有する者

(2) 外国の大学院において修士の学位に相当する学位を授与された者

(3) 文部科学大臣の指定した者

(4) 本大学院において個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

（入学、編入学及び進学の時期）

第21条 本大学院の入学、編入学及び進学の時期は、毎年学年の初めとする。ただし、特に必要と認められる者については、学期の初めとすることができる。

（入学、編入学及び進学の出願）

第22条 本大学院に、入学、編入学及び進学を志願する者については、願書に所定の検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

（入学者、編入学者及び進学者の決定）

第23条 本大学院に、入学、編入学及び進学を志願する者については、選考の上、研究科教授会の議を経て、学長が合格者を決定する。

（入学、編入学及び進学の手続）

第24条 前条の規定により合格を決定された者は、所定の期日までに入学、編入学及び進学に必要な手続をしなければならない。

第3節 再入学

（再入学）

第25条 学長は、本大学院の研究科を中途退学した者又は除籍された者で、本大学院の研究科に再入学（在学していた同一専攻に限る。）することを志願する者があるときは、研究科の収容定員に余裕があり、かつ、教育研究に支障がないときに限り、選考の上、研究科教授会の議を経て、当該研究科の相当年次に再入学を許可することができる。

2 再入学に関し必要な事項は、別に定める。

（再入学の時期）

第26条 再入学の時期は、毎年学年の初めとする。

ただし、特に必要と認められる者については、学期の初めとすることができる。

第4節 教育課程の編成、履修方法等

（授業科目及び研究指導）

第27条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）により行うものとする。

2 前項の授業科目の種類及び単位数は、別表第1のとおりとする。

3 授業科目の履修方法その他の必要な事項は、別に定める。

（教育方法の特例）

第27条の2 本大学院の研究科においては、昼夜間その他特定の時間又は時期において教育を行うことができる。

（履修授業科目の承認）

第28条 学生は、学年の初めに履修を希望する授業科目を届け出て承認を得なければならない。

（1年間の授業期間）

第29条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。（単位の計算方法）

第30条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験及び実習については、30時間から45時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 1単位の計算の基礎となる授業時間については、研究科教授会の議を経て、学長がこれを決定する。（単位の認定及び成績の評価）

第31条 授業科目を履修した学生に対しては、試験の上、単位を与えるものとする。ただし、演習、実験及び実習は、平常の成績による。

2 授業科目の成績の評価は、S、A、B、C及びDの5種とし、その評点は、100点を満点として次のとおり定める。

S	90点以上	}	合 格
A	80点以上		
B	70点以上 80点未満		
C	60点以上 70点未満		
D	60点未満		不合格

VIII 諸規程

(研究指導の教員)

第 32 条 研究科長は、授業科目の履修の指導及び研究指導を行うために、研究科教授会の議を経て、学生ごとに研究指導の教員を定める。

第 5 節 他の大学院等における修学

(他の大学院における授業科目の履修等)

第 33 条 学長は、学生が他の大学の大学院(以下「他の大学院」という。)の授業科目を履修することが教育上有益と認めるときは、当該他の大学院と協議の上、当該他の大学院における授業科目の履修を認めることができる。

- 2 学生は、前項の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ研究科長の承認を受けなければならない。
- 3 前 2 項の規定により学生が修得した授業科目の単位については、15 単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。

(他の大学院等における研究指導等)

第 34 条 学長は、学生が他の大学院又は研究所等(以下「他の大学院等」という。)において研究指導を受けることが教育上有益と認めるときは、当該他の大学院等と協議の上、当該他の大学院等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 学生は、前項の研究指導を受けようとするときは、あらかじめ研究科長の承認を受けなければならない。
- 3 第 1 項の場合において、前期課程の学生が受ける研究指導の期間は、1 年を超えないものとする。
- 4 前 3 項の規定により学生が受けた研究指導は、本大学院において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

(外国の大学院等における修学)

第 35 条 学長は、学生が外国の大学の大学院(以下「外国の大学院」という。)において修得した修学の成果は、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定により履修したものとみなし、与えることのできる単位数は、第 33 条第 3 項の規定により本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位数と合わせて 15 単位を超えないものとする。
- 3 学長は、学生が外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関等(以下「外国の大学院等」という。)において修得した修学の成果は、本大学院において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第 36 条 学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に本大学院、他の大学院又は外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和 49 年文部省令第 28 号)第 15 条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項により修得したものとみなし、与えることのできる単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、15 単位を超えないものとし、また、第 33 条第 3 項及び前条第 2 項の規定により本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位数と合わせて 20 単位を超えないものとする。

第 6 節 留学、休学、復学、除籍、退学及び転学

(留学)

第 37 条 学長は、学生が外国の大学院等において修学することが教育上有益と認めるときは、当該外国の大学院等と協議の上、当該外国の大学院等に留学することを認めることができる。ただし、特別の事情があると認めるときは、当該外国の大学院等との協議を欠くことができる。

- 2 学生は、外国の大学院等における修学のため、当該外国の大学院等に留学しようとするときは、あらかじめ学長の承認を受けなければならない。
- 3 前期課程の学生が、外国の大学院等に留学する期間は、1 年を超えないものとし、第 18 条並びに第 19 条に規定する標準修業年限及び在学年限に含めることができる。
- 4 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(休学)

第 38 条 疾病その他やむを得ない理由により、引き続き 2 か月以上修学することができない者は、その理由及び期間を具して、学長の許可を受けて休学することができる。

- 2 休学の申請は、次の期限までに行わなければならない。

前期 前年度の 3 月末日

後期 当該年度の 9 月末日

- 3 前項の規定にかかわらず、学期の途中で休学の事由が生じた場合は、速やかに申請しなければならない。
- 4 疾病のため第 1 項の許可を受けようとするときは、医師の診断書を添付しなければならない。
- 5 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、研究科教授会の議を経て、学長が休学を命ずることができる。

(休学期間)

第 39 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、前期課程にあっては通算して 2 年、後期課程にあっては通算して 3 年を超えることができない。

3 休学期間は、第 19 条に規定する在学年限に算入しない。
(復学)

第 40 条 休学期間が満了した者は、復学しなければならない。

2 休学期間中にその理由が消滅した場合は、復学することができる。

3 第 1 項により復学するときは、あらかじめ学長に届出なければならない。

4 第 2 項により復学しようとするときは、あらかじめ学長に願い出なければならない。

5 疾病のため休学した者が復学するときは、医師の診断書を添付しなければならない。
(除籍)

第 41 条 次の各号のいずれかに該当する者は、研究科教授会の議を経て、学長が除籍する。

(1) 授業料の納付を怠り、催促してもなお納付しない者

(2) 在学年限を超えた者

(3) 休学の期間を超えてなお復学しない者

(4) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
(退学)

第 42 条 疾病その他やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を付し願い出て、学長の許可を受けなければならない。

(単位取得退学)

第 42 条の 2 後期課程において、3 年以上在籍し所定の単位を修得した場合には単位取得退学できる。単位取得退学を希望する者は、学長に願い出て許可を受けなければならない。

(転学)

第 43 条 他の大学院への入学又は転学を願い出ようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

第 7 節 修了の要件及び学位の授与

(修了の要件)

第 44 条 前期課程の修了の要件は、当該課程に 2 年以上在学し、第 27 条第 2 項に規定する授業科目について 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者と研究科教授会において認めた場合には、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、当該修士課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 後期課程の修了の要件は、当該課程に 3 年以上在学し、第 27 条第 2 項に規定する授業科目について 12 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者と研究科教授会において認めた場合には、当該課程に 1 年以上（2 年未満の在学期間をもって前期課程を修了した者にあっては、当該在学期間を含めて 3 年以上）在学すれば足りるものとする。
(前期課程における在学期間の短縮)

第 44 条の 2 学長は、学生が第 36 条の規定により修得した単位（入学資格を有した後、修得したものに限る。）を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の前期課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して 1 年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、本大学院に少なくとも 1 年以上在学するものとする。

(修了の認定)

第 45 条 第 44 条第 1 項及び第 3 項に規定する修了の認定は、研究科教授会の議を経て、学長が行う。

(学位の授与)

第 46 条 本大学院の課程を修了した者には、修士又は博士の学位を、次のとおり授与する。

(1) 前期課程

健康福祉専攻 修士（健康福祉）

生活環境情報専攻 修士（生活環境情報）

(2) 後期課程

健康福祉専攻 博士（健康福祉）

生活環境情報専攻 博士（生活環境情報）

2 前項に規定するもののほか、学位に関し必要な事項は、東北文化学園大学学位規程の定めるところによる。

(論文博士)

第 46 条の 2 本大学院の後期課程を経ないで、論文を提出し、博士の学位を申請した者には、その論文が前条第 2 号の規定により学位を授与される者と同等以上の内容のものであり、かつ、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力と、豊かな学識があると確認されたときに、博士の学位を授与することができる。

VIII 諸規程

- 2 論文博士に関し必要な事項は、別に定める。

第8節 賞罰

(表彰)

- 第47条 学生として表彰に値する行為があった者は、研究科教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が表彰することができる。

(懲戒)

- 第48条 本大学院の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、研究科教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が懲戒するものとする。

- 2 前項の懲戒は、謹慎、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対してこれを行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなくて出席が常でない者
- (4) 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第9節 検定料、入学金、授業料、施設設備費及び実験実習費

(検定料)

- 第49条 本大学院に、入学、編入学及び進学を志願する者は、別表第2に定める検定料を納付しなければならない。

- 2 本大学院に、科目等履修生及び研究生を志願する者は、別表第3に定める検定料を納付しなければならない。

(入学金)

- 第50条 本大学院に、入学及び編入学を許可された者は、別表第2又は別表第3に定める入学金を納付しなければならない。

(授業料等)

- 第51条 学生は、別表第2に定める授業料、施設設備費及び実験実習費(以下「授業料等」という。)を納付しなければならない。

- 2 科目等履修生、研究生及び特別研究学生は、別表第3に定める入学検定料、入学金、授業料及び実験実習費を納付しなければならない。ただし、特別研究学生については、別に定めのある場合には徴収しないことができる。

(授業料等の納付期)

- 第52条 授業料等は、次の2期に分けて納付しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる者は、延納又は分納を認めることがある。

前期分 4月中

後期分 10月中

(退学、除籍及び停学の場合の授業料等)

- 第53条 学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該期分の授業料等は、徴収する。

- 2 停学期間中の授業料等は、徴収する。

(休学の場合の授業料等)

- 第54条 第38条第2項に定める期限までに休学を申請し許可された者、又は休学を命ぜられた者は、許可又は命ぜられた学期の授業料等を免除する。

- 2 第38条第3項により休学を許可された者の当該学期授業料等は徴収する。

- 3 第1項の規定により授業料等が免除された者は、授業料等が免除される学期ごとに別表第4に定める在籍料を納付しなければならない。

- 4 第2項の規定により授業料等を納付した者は、在籍料を免除する。

- 5 第3項の在籍料の納付期は、第52条(延納又は分納を除く。)に準ずる。

(復学の場合の授業料等)

- 第55条 学期の中途において復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料等を、復学した月に納付しなければならない。

(学年の途中で修了する場合の授業料等)

- 第56条 学年の途中で修了する見込みの者は、修了する見込みの月までの授業料等を納付するものとする。

(後期課程における授業料免除について)

- 第56条の2 後期課程に3年以上在学し、博士論文を提出し受理され、論文審査が当該年度を超えて在学する場合には、その年度の授業料等は、これを免除する。

(納付した入学検定料等)

- 第57条 既納の検定料、入学金、授業料等は、いかなる事情があっても返還しない。ただし、入学、編入学及び進学を辞退した者から所定の期間内に返還請求があった場合は、既納のうち授業料等は返還することができる。

第3章 補則

第1節 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、外国人留学生及び特別研究学生

(科目等履修生)

- 第58条 学長は、本大学院において行う授業科目の履修を志願する者がいるときは、研究科の教育研究に支障のない限り、選考の上、研究科教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。(研究生)

第 59 条 学長は、本大学院において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、研究科の教育研究に支障のない限り、選考の上、研究科教授会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第 60 条 学長は、他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本大学院において授業科目の履修を志願する者があるときは、研究科の教育研究に支障のない限り、選考の上、研究科教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。
(外国人留学生)

第 61 条 学長は、外国人で、本大学院において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、研究科教授会の議を経て、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。
(特別研究学生)

第 62 条 学長は、他の大学院の学生又は外国の大学院等の学生で、本大学院において研究指導を受けることを志願する者があるときは、選考の上、研究科教授会の議を経て、特別研究学生として受入れを許可することができる。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、別に定める。

第 2 節 研究施設及び厚生施設

(学生研究室等)

第 63 条 本大学院に、学生研究室、演習室及び実験実習室を置く。

2 学生は、研究のため本学の施設及び設備を利用することができる。

(厚生施設)

第 64 条 学生は、本学の厚生施設を利用することができる。

第 3 節 規則等への委任

(規則等への委任)

第 65 条 この大学院学則及び別に定めのあるもののほか、本大学院の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この大学院学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 17 年 9 月 27 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

1 この大学院学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2 改正後の別表第 1 (第 27 条関係) の規定は、平成 18 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究科の教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 17 年度以前の入学者に対しても履修することを認めることがある。

附 則

この大学院学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この大学院学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2 改正後の別表第 1 (第 27 条関係) <前期課程> の規定は、平成 25 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究科教授会が特に必要と認めた授業科目については、定めるところにより、平成 24 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

3 改正後の第 31 条第 2 項の規定については、平成 25 年度の入学者から適用する。ただし、平成 24 年度以前に入学した者については、改正後の第 31 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

1 この大学院学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2 改正後の別表第 1 (第 27 条関係) <前期課程> の規定は、平成 26 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究

VIII 諸規程

科教授会が特に必要と認めた授業科目については、定めるところにより、平成 25 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附 則

- この大学院学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 改正後の別表第 1（第 27 条関係）＜前期課程＞の規定は、平成 27 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究科教授会が特に必要と認めた授業科目については、定めるところにより、平成 26 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附 則

この大学院学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- この大学院学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。
- 改正後の別表第 1（第 27 条関係）＜前期課程＞の規定は、平成 28 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究科教授会が特に必要と認めた授業科目については、定めるところにより、平成 27 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附 則

- この大学院学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

行する。

- 改正後の別表第 1（第 27 条関係）＜前期課程・後期課程＞の規定は、平成 31 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究科教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、平成 30 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附 則

- この大学院学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
- 改正後の別表第 1（第 27 条関係）＜前期課程・健康福祉専攻＞の規定は、2020 年度の入学者から適用する。ただし、別表第 1 に掲げる授業科目のうち、研究科教授会が特に必要と認めた授業科目については、別に定めるところにより、2019 年度以前の入学者に対しても履修を認めることがある。

附 則

この大学院学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- この大学院学則は、2022 年 2 月 1 日から施行する。
- 改正後の第 54 条及び別表第 4（第 54 条関係）は、2022 年度入学者から適用する。

別表第 1.（第 27 条関係）
＜前期課程＞

	授業科目の名称	配当年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	(健康社会システム研究科健康福祉専攻)					30 単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し、審査に合格すること。 ナースプラクティショナー養成分野は、ナースプラクティショナー領域の科目を全て修得すること。
	(共通科目)					
	教育原理特論	1 前		2		
	教育方法特論	1 後		2		
	地域活性システム論	1 前		2		
	健全都市環境形成論	1 前		2		
	快適・健康住環境論	1 前		2		
	居住福祉環境論	1 前		2		
	(専門科目)					
	【理学療法学領域】					
	理学療法研究法	1 前		4		
	身体運動学特論	1 前		2		
	運動生理学特論	1 前		2		
	数値解析法	1 前		4		
	運動・動作分析セミナー	1 後		2		
	体力評価セミナー	1 後		2		
	理学療法総合特別講義	2 前		4		

	授業科目の名称	配当年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	【作業療法学領域】					
	作業療法学特論	1 前		4		
	作業療法学専門特論	1 前		2		
	作業療法研究方法論	1 前		2		
	作業療法研究実践論	1 後		2		
	障害科学論	1 後		2		
	作業療法研究方法セミナー	2 前		2		
	作業療法研究実践セミナー	2 前		2		
	【言語聴覚学領域】					
	言語聴覚学研究法Ⅰ	1 前		4		
	言語聴覚学研究法Ⅱ	1 後		4		
	言語聴覚学臨床技術Ⅰ	1 前		2		
	言語聴覚学臨床技術Ⅱ	1 後		2		
	言語聴覚学臨床技術Ⅲ	2 前		2		
	心理言語学研究	1 前		2		
	地域言語聴覚学	2 前		2		
	視覚機能眼科学研究法Ⅰ	1 前		4		
	視覚機能眼科学研究法Ⅱ	1 後		4		
	眼光学特論	1 前		2		
	色彩学特論	1 前		2		
	眼鏡学特論	1 前		2		
	水晶体研究特論	1 後		2		
	ロービジョン特論	1 後		2		
	前眼部バイオメトリー特論	2 前		2		
	ロービジョンケア特論	2 前		2		
	【臨床工学領域】					
	臨床工学特論	1 前		2		
	医用機器安全管理特論	1 前		2		
	医用治療機器学特論	1 前		2		
	生体計測装置学特論	1 前		2		
	生体機能代行装置学特論Ⅰ	1 前		2		
	生体機能代行装置学特論Ⅱ	1 後		2		
	生体機能代行装置学特論Ⅲ	2 前		2		
	臨床工学特別セミナー	2 前		4		
	【保健福祉学領域】					
	保健福祉システム特論	1 前		2		
	保健福祉システムセミナー	1 後		4		
	健康長寿科学特論	1 前		2		
	健康長寿科学セミナー	1 後		4		
	保健福祉総合サービス論	1 前		2		
	保健福祉総合サービスセミナー	1 後		4		
	保健福祉総合特別講義	2 前		4		
	【ナースプラクティショナー領域】					
	現代医療看護学特論	1 前		2		
	外科医療病態診断学特論	1 前		3		
	臨床生理学	1 前		2		
	内科学総合講義	1 通		4		
	麻酔・救急・集中医療総合講義	1 通		4		
	フィジカルアセスメント	1 後		3		

VIII 諸規程

	授業科目の名称	配当年次	単 位 数			備 考	
			必修	選択	自由		
授業科目の概要	臨床薬理学	1 後		2			
	現代地域医療総合講義	1 前		2			
	外科治療学総合講義Ⅰ	1 後		2			
	外科治療学総合講義Ⅱ	1 後		3			
	ライフサイクル医療	2 前		2			
	外科治療学特別実習	2 通		8			
	麻酔・救急・集中医療特別実習	2 通		8			
	健康福祉特別研究	2 通	8				
	(健康社会システム研究科生活環境情報専攻)						
	(共通科目)						
	教育原理特論	1 前		2		30 単位以上を修得し、かつ修士論文等を提出し、審査に合格すること。	
	教育方法特論	1 後		2			
	地域活性システム論	1 前		2			
	健全都市環境形成論	1 前		2			
	快適・健康住環境論	1 前		2			
	居住福祉環境論	1 前		2			
	(専門科目)						
	健全都市環境形成セミナー	1 後		4			
	快適・健康住環境セミナー	1 後		4			
	生体情報福祉工学	1 前		2			
	生体情報福祉工学セミナー	1 後		4			
	安全・安心環境システム論	1 後		2			
	安全・安心環境システムセミナー	1 後		4			
	自然環境保全論	1 前		2			
	水環境システム論	1 前		2			
	水環境システムセミナー	1 後		4			
	居住福祉環境セミナー	1 後		4			
	音環境情報論	1 前		2			
	音環境情報セミナー	1 後		4			
	環境情報計測システム論	1 前		2			
環境情報計測システムセミナー	1 後		4				
ソフトコンピューティング論	1 後		2				
ソフトコンピューティングセミナー	1 後		4				
情報ネットワークシステム論	1 前		2				
生活環境文化論	1 前		2				
生活環境文化セミナー	1 後		4				
先端情報処理システム論	1 後		2				
先端情報処理システムセミナー	1 後		4				
生活環境関連法	1 後		2				
環境情報総合特別講義	2 前		2				
生活環境情報特別研究	2 通	8					

<後期課程>

	授業科目の名称	配当年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	(健康社会システム研究科健康福祉専攻)					12 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、審査に合格すること。
	(学際領域科目)					
	教育原理特別講義	1 前		2		
	教育方法特別講義	1 後		2		
	臨床運動学特別講義	1 前		2		
	福祉工学特別講義	1 前		2		
	(専門科目)					
	リハビリテーション科学特別講義	2 前		2		
	保健福祉科学特別講義	2 前		2		
	感覚器情報処理特別講義	1 後		2		
	健康福祉科学特別演習	1 ～ 3	8			
	(健康社会システム研究科生活環境情報専攻)					
	(学際領域科目)					
	教育原理特別講義	1 前		2		
	教育方法特別講義	1 後		2		
	臨床運動学特別講義	1 前		2		
	福祉工学特別講義	1 前		2		
	(専門科目)					
	生活情報科学特別講義	2 前		2		
	生活環境科学特別講義	2 前		2		
	生活環境情報科学特別演習	1 ～ 3	8			

別表第 2 (第 49 条～第 51 条関係)

検定料、入学金、授業料、施設設備費及び実験実習費 (単位 円)

区 分	前期課程		後期課程	
	東北文化学園大学からの入学者	他大学からの入学者	本大学院前期課程からの進学者	他大学院からの編入学者
検 定 料	30,000	30,000	30,000	30,000
入 学 金	0	200,000	0	200,000
授 業 料	800,000	800,000	800,000	800,000
施設設備費	300,000	300,000	300,000	300,000
実験実習費	200,000	200,000	200,000	200,000

別表第 3 (第 49 条～第 51 条関係)

検定料、入学金、授業料及び実験実習費 (単位 円)

区 分		東北文化学園大学及び本大学院前期課程からの入学者	他大学及び他大学院からの入学者
科目等履修生	検定料	10,000	10,000
	入学金	0	20,000
	授業料 (1 単位)	20,000	20,000
研究生	検定料	10,000	10,000
	入学金	0	20,000
	授業料 (月額)	20,000	20,000
特別研究学生	授業料 (月額)	—	20,000

備考：実験実習費は、必要に応じて徴収することがある。

別表第 4 (第 54 条関係)

在籍料 (単位 円)

在籍料 (各学期)	10,000
--------------	--------

VIII 諸規程

東北文化学園大学学位規程

「平成 14 年 5 月 1 日」
「学 長 制 定」

(趣旨)

第 1 条 学位規則(昭和 28 年文部省令第 9 号)第 13 条第 1 項の規定に基づき、東北文化学園大学(以下「本学」という。)が授与する学位については、東北文化学園大学学則(以下「学則」という。)及び東北文化学園大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(学位の種類)

第 2 条 本学において授与する学位の種類は、学士、修士及び博士とする。

(専攻分野の名称の付記)

第 3 条 前条の規定により学士、修士及び博士の学位を授与するに当たっては、次の区分により、専攻分野の名称を付記する。

(1) 学士

医療福祉学部 リハビリテーション学科

理学療法学専攻 学士(理学療法学)

作業療法学専攻 学士(作業療法学)

言語聴覚学専攻 学士(言語聴覚学)

視覚機能学専攻 学士(視覚機能学)

看護学科 学士(看護学)

現代社会学部 現代社会学科

社会学専攻 学士(社会学)

社会福祉学専攻 学士(社会学)

経営法学部 経営法学科 学士(経営法学)

工学部 知能情報システム学科

学士(工学)

建築環境学科 学士(工学)

臨床工学科 学士(工学)

(2) 修士

健康社会システム研究科

健康福祉専攻 修士(健康福祉)

生活環境情報専攻 修士(生活環境情報)

(3) 博士

健康社会システム研究科

健康福祉専攻 博士(健康福祉)

生活環境情報専攻 博士(生活環境情報)

(学士の学位授与の要件)

第 4 条 学士の学位は、学則に定めるところにより、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第 5 条 修士の学位は、大学院学則に定めるところにより、博士課程前期 2 年の課程(以下「前期課程」という。)を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第 6 条 博士の学位は、大学院学則に定めるところ

により、博士課程後期 3 年の課程(以下「後期課程」という。)を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、後期課程を経ない者であっても博士論文の審査に合格し、後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された場合は、これを授与することができる。

(修士論文及び博士論文の提出)

第 7 条 修士論文及び博士論文(以下「学位論文」という。)は、指定した期日までに研究科長に提出するものとする。

2 研究科長は、前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて、研究科教授会の審査に付さなければならない。

(学位論文)

第 8 条 学位論文は、1 編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 研究科教授会は、審査のため必要があるときは、学位論文の副本、訳本、模型、標本等の材料を提出させることができる。

3 研究科教授会は、当該前期課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果を修士論文に代えて提出させることができる。

(後期課程を経ない者の学位授与の申請)

第 8 条の 2 第 6 条第 2 項の規定により、博士の学位の授与を申請しようとする者は、学位申請書、学位論文要旨、学位論文審査料等を添え、第 3 条第 3 号に定める学位の専攻区分を指定して、論文を、研究科長を経て学長に申請しなければならない。なお、学位論文審査料は、別途定める。

2 学長は、前項の学位授与の申請があったときは、学位を授与できる者か否かについて、研究科長に研究科教授会において審査を行うよう付託しなければならない。

(審査委員)

第 9 条 研究科教授会は、第 7 条第 2 項及び第 8 条の 2 第 2 項の規定により学位を授与できる者か否かについて審査に付されたときは、審査する論文ごとに、研究科担当教員の教授のうちから 3 人(必要がある場合には、准教授を含めることができる。)を審査委員(主査 1 人及び副査 2 人とする。)として選出し、その学位論文の審査及び最終試験に当たらせるものとする。

2 研究科教授会は、必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず、前項の審査委員以外の研究科担当教員を、学位論文の審査及び最終試験の審査委員に委嘱することができる。

3 研究科教授会は、必要と認めるときは、学位論文の審査にあたって、他の大学院又は研究所等の

教員等の協力を得ることができる。

(審査期間)

第10条 博士論文の審査、博士論文の学位の授与に係る最終試験は、博士論文又は学位授与の申請を受理した後1年以内に、学位を授与できる者か否かを決定できるよう終了しなければならない。

2 後期課程に3年以上在学し、博士論文を提出し受理され、論文審査が当該年度を超えた場合は、引続き在学するか、あるいは単位取得退学するものとする。

3 後期課程を単位取得退学の後、3年間は博士学位論文審査を申請することができる。

(最終試験)

第11条 最終試験は、学位論文の審査が終了した後にその学位論文を中心として、これに関連のある専門分野について、口述その他の方法により行うものとする。

(審査の省略)

第12条 審査委員は、学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験を行わないものとする。

(審査委員の報告)

第13条 審査委員は、最終試験が終了したときは、直ちにその結果を文書により研究科教授会に報告しなければならない。

(学位授与の議決)

第14条 研究科教授会は、前条の報告に基づき、修士又は博士の学位を授与すべきか否かを審議し、議決するものとする。

2 前項の議決は、研究科教授会の構成員（学位を議決する日において、海外出張中、休職中、1か月以上の病気療養中の者その他研究科教授会がやむを得ない理由があると認める者を除く。）の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、出席者の3分の2以上の賛成がなければならない。

(学部長の報告)

第15条 学部長は、教授会の議を経て、その学部を卒業し、学士の学位を授与できる者と認定したときは、学長に報告しなければならない。

(研究科長の報告)

第16条 研究科長は、研究科教授会において、第14条の議決に基づき、修士又は博士の学位を授与できる者と認定したときは、学長に報告しなければならない。

(学士の学位の授与)

第17条 学長は、第15条の報告に基づき、学士の学位を授与する。

(修士又は博士の学位の授与)

第18条 学長は、第16条の報告に基づき、修士又は博士の学位を授与する。

(博士論文の公表)

第19条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、その博士論文をインターネットの利用により公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既にインターネットの利用により公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者が、やむを得ない事由で博士論文の全文を公表できないときは、研究科長の承認を得て、全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合において、研究科長は当該論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 第1項の規定により公表する場合は、博士論文に「東北文化学園大学審査学位論文（博士）」、前項の規定により公表する場合は、博士論文の要旨に「東北文化学園大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

第19条の2 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

(報告)

第20条 学長は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(学位の取消し)

第21条 本学の学士の学位、修士の学位又は博士の学位を授与された者が、次のいずれかに該当するときは、学長は、当該教授会又は研究科教授会の議を経て、既に授与した学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき。

(2) 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為を行ったとき。

2 研究科教授会において前項の議決を行う場合は、第14条第2項の規定を準用する。

(学位記の様式)

第22条 学位記の様式は、別記様式第1号から別記様式第4号のとおりとする。

(雑則)

第23条 この規程に定めるもののほか、学位の授与に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規程は、平成14年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年5月7日から施行する。

VIII 諸規程

附 則

この規程は、平成 19 年 7 月 5 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 5 月 13 日から施行し、平成 21 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 22 年 4 月 6 日から施行し、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 23 年 6 月 8 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 3 条第 1 号の規定にかかわらず、平成 25 年 3 月 31 日に在学する者については、従前の例による。

附 則

この規程は、平成 25 年 7 月 3 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 3 条第 1 号の規定にかかわらず、2021 年 3 月 31 日に在学する者については、従前の例による。

附 則

この規程は、2024 年 10 月 2 日から施行し、改正後の第 22 条に定める別記様式第 1 号から別記様式第 4 号までの規定は、2025 年 3 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、2025 年 2 月 19 日から施行する。

別記様式第1号（学士の学位記の様式）

(大学印)	○第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日生
本学○学部○学科所定の課程を修め卒業したことを認め学士(○○)の学位を授与する 年 月 日	
東北文化学園大学学長 氏 名 (学長印)	

別記様式第2号（修士の学位記の様式）

(大学印)	○修第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日生
本学大学院健康社会システム研究科○○専攻 博士課程前期2年の課程を修了したことを認め 修士(○○)の学位を授与する 年 月 日	
東北文化学園大学学長 氏 名 (学長印)	

別記様式第3号（博士の学位記の様式）

(大学印)	○第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日生 本学大学院健康社会システム研究科〇〇専攻博士 課程後期3年の課程において所定の単位を修得し 学位論文の審査及び最終試験に合格したことを認め 博士(〇〇)の学位を授与する 年 月 日 東北文化学園大学学長 氏 名
	(学長印)

別記様式第4号（論文博士の学位記の様式）

(大学印)	○第 号 学 位 記 氏 名 年 月 日生 本学に博士論文を提出し所定の審査に合格したの で博士(〇〇)の学位を授与する 年 月 日 東北文化学園大学学長 氏 名
	(学長印)

東北文化学園大学大学院履修規程

「平成 15 年 4 月 7 日」
「学 長 制 定」

(趣旨)

第 1 条 この規程は、東北文化学園大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第 27 条第 3 項の規定に基づき、東北文化学園大学大学院（以下「本大学院」という。）博士課程前期 2 年の課程（以下「前期課程」という。）及び博士課程後期 3 年の課程（以下「後期課程」という。）における授業科目の履修方法その他の必要な事項について定めるものとする。

(教育課程の編成)

第 2 条 本大学院の前期課程の教育課程は、次に掲げる授業科目をもって編成する。

- (1) 共通科目
- (2) 専門科目

2 本大学院の後期課程の教育課程は、次に掲げる授業科目をもって編成する。

- (1) 学際領域科目
- (2) 専門科目

(授業科目)

第 3 条 本大学院において開設する授業科目の種類、配当年次及び単位数は、大学院学則別表第 1 のとおりとする。

2 授業科目の授業内容等は、学年の初めに、授業概要（シラバス）を学生に配付し、周知する。

(履修方法)

第 4 条 前期課程修了に必要な修得単位数は、30 単位以上とし、次により修得しなければならない。

- (1) 共通科目及び専門科目（特別研究を除く。）は、原則として 1 年次に 14 単位以上とし、2 年次前期までに 22 単位以上
- (2) 特別研究は、2 年次までに 8 単位

2 後期課程修了に必要な修得単位数は、12 単位以上とし、次により修得しなければならない。

- (1) 学際領域科目から 2 単位以上、専門科目（特別演習を除く。）から 2 単位以上
- (2) 特別演習は、3 年次までに 8 単位

(履修手続)

第 5 条 学生は、毎学年又は毎学期の初めに、履修を希望する授業科目について、履修届を研究科長に届け出て、承認を得なければならない。

2 学生は、授業科目の履修計画を立てるに当たっては、指導教員の指導を受けるものとする。

(履修の禁止)

第 6 条 次に掲げる授業科目は、履修することができない。

- (1) 履修届を届け出していない授業科目
- (2) 既に単位を修得した授業科目

(3) 授業時間が重複する授業科目

(履修の取消)

第 7 条 次の各号のいずれかに該当する者は、履修を取り消すことがある。

(1) 授業料等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者。ただし、延納又は分納の手続を行った場合は除く。

(2) 学期の途中で退学、又は除籍された者。

(試験)

第 8 条 定期試験は、学期の末に期間を定めて行う。

2 前項の規定にかかわらず、授業科目によっては随時試験を行うことができる。

3 次のいずれかに該当する者は、試験を受けることができない。

- (1) 授業料等の未納入者
- (2) 授業の出席時間数が、その総時間数の 3 分の 2 に達していない者

(追試験)

第 9 条 追試験は、病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けられなかった者に対して行う。

2 前項の規定により追試験を受けようとする者は、試験日の翌日までに追試験願に、次に掲げるいずれかの書類を添えて研究科長に願い出て、その許可を受けなければならない。

区分	事 由	必要提出書類
1	疾病及び怪我等により欠席した場合	医師の診断書
2	公共交通機関の遅延により欠席した場合	遅延証明書
3	試験当日の事故・災害により欠席した場合	事故証明書等
4	忌引き（3 親等までの家族に限る。）	保証人の証明書（会葬御礼葉書等）
5	就職試験により欠席した場合	求人先若しくは、進学就職センターの証明書

3 追試験の実施時期は、その都度別に指定する。

(再試験)

第 10 条 再試験は、定期試験の結果、不合格になった授業科目について担当教員の承認を得た場合に行う。

2 再試験の実施時期は、その都度別に指定する。

3 再試験を許可された者は、教務課に再試験受験料（1 科目 1,000 円）を納めなければならない。（他の大学院等における授業科目の履修）

第 11 条 学生は、他の大学院等における授業科目を履修しようとする場合は、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項の規定により本大学院において修得したもののみならずとすることができる単位数は、前期課程に

VIII 諸規程

限って10単位までとする。

(他の大学院等における研究指導等)

第12条 学生は、他の大学院又は研究所等(以下「他の大学院等」という。)において研究指導を受けようとする場合、あらかじめ研究科長に願い出て、許可を受けなければならない。

2 前項の場合において、前期課程の学生が受ける研究指導の期間は、1年を超えないものとする。

3 第1項の規定により学生が受けた研究指導は、本大学院において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

(外国の大学院等における履修)

第13条 学生は、外国の大学院等における授業科目を履修しようとする場合は、学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

2 前項の規定により本大学院において修得したものとみなすことができる単位数は、前条第2項及び第14条第2項の規定により修得した単位数と合わせて前期課程に限って10単位までとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第14条 学生は、本大学院に入学する前に、本大学院、他の大学院等において修得した単位の認定を受けようとする場合は、学長に願い出なければならない。

2 前項の規定により本大学院において修得したものとみなすことができる単位数は、第11条第2項及び前条第2項の規定により修得した単位数と合わせて前期課程に限って10単位までとする。

(学位論文の提出及び審査)

第15条 学位論文は、指定した期日までに研究科長に提出しなければならない。

2 前項に関し、研究科教授会が前期課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。

(最終試験)

第16条 最終試験は、第4条に規定する単位を修得し、かつ、学位論文の審査が終了した者について、その学位論文を中心として、これに関連のある専門分野について、口述その他の方法により行う。

(修了の認定)

第17条 最終試験に合格した者の修了の認定は、研究科教授会の議を経て、学長が行う。

(雑則)

第18条 この規程に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は、研究科教授会及び大学運営会議の議を経て、学長が定める。

附 則

この規程は、平成15年4月7日から施行し、平

成15年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成16年3月2日から施行し、平成17年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成19年5月9日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

東北文化学園大学大学院科目等履修生規程

「平成20年2月6日」

「学 長 制 定」

(趣旨)

第1条 この規程は、東北文化学園大学大学院学則

第58条第2項の規定に基づき、科目等履修生に関し、必要な事項を定めるものとする。

(入学資格)

第2条 科目等履修生の入学資格は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 前号に定める者と同等以上の学力があると認められた者

(3) 東北文化学園大学に在学する者

2 前項第3項の取扱いについては、別に定める。

(入学の時期)

第3条 入学の時期は、学年の初めとする。ただし、特別の理由があるときは、これによらないことができる。

(志願方法)

第4条 入学を志願する者は、次に掲げる書類に入学検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

(1) 入学願書

(2) 履歴書

(3) 最終出身校の卒業(修了)証明書及び成績証明書

(4) 健康診断書

(5) 職業を有する者については、所属長の承諾書

(6) 外国人については、外国人登録済証明書又はこれにかわる証明書

(7) その他必要と認める書類

(選考)

第5条 入学を志願する者の選考は、研究科教授会が行い、学長が入学を許可する。

(在学期間)

第6条 科目等履修生の在学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由があるときは、願い出により在学期間の延長を許可することがある。

(単位の修得)

第7条 科目等履修生は、試験を受けて単位を修得することができる。

(単位修得証明書)

第8条 科目等履修生が、修得した単位について証明を願い出たときは、研究科長の単位修得証明書を交付することができる。

(準用規定)

第9条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生には、本大学院の学生に関する規定を準用する。

附 則

この規程は、平成20年2月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年2月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

東北文化学園大学大学院研究生規程

「平成15年4月7日」

「学 長 制 定」

(趣旨)

第1条 この規程は、東北文化学園大学大学院学則第59条第2項の規定に基づき、研究生に関し、必要な事項を定めるものとする。

(入学資格)

第2条 研究生の入学資格は、研究を遂行するに十分な学力及び経験を有すると認められた者とする。

(入学の時期)

第3条 研究生の入学の時期は、学年の初めとする。ただし、特別の理由があるときは、これによらないことができる。

(志願方法)

第4条 研究生を志願する者は、次に掲げる書類に入学検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

- (1) 研究生入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 最終出身校の卒業(修了)証明書及び成績証明書
- (4) 健康診断書
- (5) 職業を有する者については、所属長の承諾書
- (6) 外国人については、外国人登録済証明書又はこれにかわる証明書
- (7) その他必要と認める書類

(選考)

第5条 入学を志願する者の選考は、研究科教授会が行い、学長が入学を許可する。

(研究期間)

第6条 研究生の研究期間は、1年以内とする。ただし、研究期間の延長を願い出たときは、これを

許可することができる。

(研究証明書)

第7条 研究生が、研究期間終了後に、研究事項について証明を願い出たときは、指導教員の認定に基づいて、学長の研究証明書を交付することができる。

(準用規定)

第8条 この規程に定めるもののほか、研究生には、本大学院の学生に関する規定を準用する。

附 則

この規程は、平成15年4月7日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

東北文化学園大学大学院特別研究学生規程

「平成16年2月4日」

「学 長 制 定」

目次

第1章 総則(第1条・第2条)

第2章 特別研究学生の派遣(第3条―第9条)

第3章 特別研究学生の受入れ(第10条―第16条)

第4章 準用規定(第17条)

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、東北文化学園大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第34条、第35条及び第62条第2項の規定に基づき、東北文化学園大学大学院(以下「本大学院」という。)の学生が、他の大学院又は研究所等(外国の大学院又は研究所等を含む。以下「他の大学院等」という。)において研究指導を受ける者(以下「派遣特別研究学生」という。)及び他の大学院(外国の大学院を含む。)の学生で、本大学院の研究科において研究指導を受けようとする者(以下「特別研究学生」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(他の大学院等との協議)

第2条 大学院学則第34条、第35条及び第62条第2項の規定に基づき、学生の交流にあたって、本大学院の研究科と他の大学院等との間で、次に掲げる事項について、あらかじめ協議(以下「大学間協議」という。)を行うものとする。

- (1) 研究題目
- (2) 学生数
- (3) 研究指導の期間
- (4) 研究指導報告書
- (5) その他必要な事項

2 大学間協議の内容は、研究科教授会の議を経て、

VIII 諸規程

学長が決定する。

第2章 派遣特別研究学生

(派遣の要件)

第3条 特別研究学生の派遣は、大学間協議が成立した他の大学院等について行う。ただし、外国の大学院等で、やむを得ない理由がある場合は、事前の大学間協議を欠くことができる。

(志願方法)

第4条 派遣特別研究学生を志願する者は、所定の願書により研究科長に願い出なければならない。

(派遣の承認)

第5条 研究科長は、前条の願い出があったとき、大学間協議に基づき、研究科教授会の議を経て、他の大学院等において研究指導を受けることを承認する。

(研究指導期間)

第6条 派遣特別研究学生の研究指導を受ける期間は、1年以内とする。ただし、特別な理由がある場合は、研究指導を受ける期間を延長することができる。

2 前項の研究指導を受ける期間は、通算して2年を超えることが出来ない。

(標準修業年限及び在学年限の取扱い)

第7条 前条の研究指導期間は、大学院学則第18条及び第19条に規定する標準修業年限及び在学年限に算入する。

(研究報告)

第8条 派遣特別研究学生は、他の大学院等において研究指導が終了したときは、直ちに（外国の大学院等で研究指導を受けた者にあつては、帰国の日から1月以内に）研究科長に研究報告書及び他の大学院等の長の交付する研究指導報告書を提出しなければならない。

(派遣の取消し)

第9条 研究科長は、派遣特別研究学生が次のいずれかに該当するときは、研究科教授会の議を経て、他の大学院等と協議の上、派遣を取り消すことがある。

- (1) 本大学院又は他の大学院等の規定等に違反したとき。
- (2) その他派遣の趣旨に反する行為があると認められたとき。

第3章 特別研究学生の受入れ

(受入れの要件)

第10条 特別研究学生の受入れは、大学間協議が成立した他の大学院について行う。ただし、外国の大学院で、やむを得ない理由がある場合は、事前の大学間協議を欠くことができる。

(志願方法)

第11条 特別研究学生を志願する者は、次に掲げる書類を所属する大学院（外国の大学院を含む。）の長を通じて提出し、学長に願い出なければならない。

- (1) 特別研究学生願
 - (2) 在学証明書
 - (3) 成績証明書
 - (4) 所属する大学院の長の推薦書
 - (5) 健康診断書
 - (6) その他学長が必要と認めた書類
- (受入れの許可)

第12条 特別研究学生を志願する者があったときは、大学間協議に基づき、選考の上、研究科教授会の議を経て、学長が受入れを許可する。

(研究指導報告書の交付)

第13条 研究科長は、特別研究学生が所定の研究指導を終了したときは、研究指導報告書を交付するものとする。

(入学検定料、入学金及び授業料等)

第14条 特別研究学生に係る入学検定料及び入学金は、徴収しない。

2 特別研究学生は、大学院学則第51条第2項に定める授業料等を所定の時期までに納付しなければならない。

3 大学間協議において授業料等の相互不徴収の基準を定めた場合は、授業料等を徴収しない。

(実験、実習等の費用)

第15条 実験、実習等に要する費用は、徴収することがある。

(受入れの取消し)

第16条 研究科長は、特別研究学生が次のいずれかに該当するときは、研究科教授会の議を経て、他の大学院と協議の上、受入れを取り消すことがある。

- (1) 本大学院又は他の大学院の規定等に違反したとき。
- (2) その他受入れの趣旨に反する行為があると認められたとき。

第4章 準用規定

(準用規定)

第17条 この規程に定めるもののほか、特別研究学生には、本大学院の学生に関する規定を準用する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

東北文化学園大学研究倫理規程

「平成 20 年 7 月 2 日」
「学 長 制 定」

(目的)

第 1 条 この規程は、東北文化学園大学（以下「本学」という。）における研究の計画及び実施に関し、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 3 年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第 1 号）（以下「告示」という。）に定められている事項のほか、研究倫理教育等の実施について必要な事項を定め、研究活動の適切な実施を図ることを目的とする。

(定義)

第 2 条 この規程において「人を対象とする生命科学・医学系研究」（以下「研究」という。）とは、人を対象として実施される傷病の成因（健康に関する様々な事象の頻度及び分布並びにそれらに影響を与える要因を含む。）の理解、病態の理解、傷病の予防方法の改善又は有効性の検証若しくは医療における診断方法及び治療方法の改善又は有効性の検証を通じて、国民の健康の保持増進又は患者の傷病からの回復若しくは生活の質の向上に資する知識を得る活動をいう。

2 前項に規定するもののほか、この規程において使用する「研究責任者」等の各用語の定義は、告示に定めるところによる。

(適用範囲)

第 3 条 この規程は、本学において実施される研究活動に適用される。

(学長の責務)

第 4 条 研究を実施しようとするとき、学長は、告示及びこの規程の定めに基づき、必要な措置を講じなければならない。

(研究倫理審査委員会)

第 5 条 学長は、本学における研究倫理教育及び研究計画が告示に適合しているか否かその他、研究に関し必要な事項の審査を行わせるため、研究倫理審査委員会（以下「倫理審査委員会」という。）を置かなければならない。

2 倫理審査委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(研究責任者)

第 6 条 研究責任者は、研究を遂行するとともに、その研究に係る業務を統括する。

2 研究責任者は、研究の実施に当たり、研究対象者の意思の尊重（インフォームド・コンセント）、研究資料・データ等の適切な収集管理、個人情報保護、研究機器・薬品等の安全管理等に必要の体制を整備しなければならない。

3 研究責任者は、研究期間が数年にわたる場合に

は、別に定める研究実施状況報告書を学長に毎年提出しなければならない。

4 研究責任者は、研究対象者に危険又は不利益が生じたときは、直ちに学長に報告しなければならない。

5 研究責任者は、学長が当該研究計画の変更、中止その他研究に関し必要な事項を決定したときは、その決定に従わなければならない。

(審査手続き)

第 7 条 研究責任者は、研究を実施しようとするときは、別に定める研究倫理審査申請書及び研究計画書を作成し、学長に研究計画の許可を求めなければならない。研究を変更する場合も同様とする。

(審査の実施)

第 8 条 学長は、前条の規定に基づき申請があったときは、倫理審査委員会の意見を聞かなければならない。

(研究計画の可否等の決定)

第 9 条 学長は、倫理審査委員会の意見を尊重し、研究計画の承認又は不承認その他研究に関し必要な事項を決定し、研究責任者に別に定める審査結果通知書で通知しなければならない。

2 前項の場合において、学長は、倫理審査委員会が不承認の意見を述べた研究については、その実施を許可してはならない。

3 学長は、公衆衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため緊急に研究を実施する必要があると判断する場合には、倫理審査委員会の意見を聴く前に許可を決定することができる。

4 前項の場合において、学長は許可後遅滞なく倫理審査委員会の意見を聴くものとし、倫理審査委員会が研究の変更又は中止の意見を述べた場合には、研究責任者に対し研究の変更又は中止を指示しなければならない。

(結果報告)

第 10 条 研究責任者は、研究の終了後、速やかに別に定める研究終了報告書を学長に提出しなければならない。

(雑則)

第 11 条 この規程に定めるもののほか、研究の実施に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 20 年 7 月 2 日から施行する。
2 この規程の施行日をもって、東北文化学園大学における疫学研究に関する規程（平成 16 年 6 月 2 日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成 23 年 8 月 3 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

VIII 諸規程

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 1 月 7 日から施行する。

附 則

この規程は、2019年7月3日から施行する。

附 則

この規程は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

様式第2号	年 月 日
研 究 計 画 書	
1. 申請者（研究責任者）	
所属・職： _____ 氏 名： _____	
2. 課題名：	
_____ _____	
3. 研究組織	
研究責任者： _____（ _____ ） 研究担当者： _____（ _____ ） _____（ _____ ） _____（ _____ ） _____（ _____ ） _____（ _____ ）	
4. 研究期間：	
_____ 年 月 日 ～ _____ 年 月 日	
5. 研究計画（目的、方法、対象者、用いる情報等）	
6. 本研究で明らかになることが期待される事項	

様式第 1 号	学長	研究科長	学部長	学科長	事務局長

研究倫理審査申請書

年 月 日

東北文化学園大学学長 殿

申請者（研究責任者）
所属・職名 _____
氏 名 _____印

東北文化学園大学研究倫理規程第 7 条の規定に基づき、下記のとおり申請します。

記

○ 課題名： _____

	氏名	所属・職名	倫理委員会 講習会
研 究 責 任 者			☐ 受講済
	指導教員（研究代表者が学生の場合）	指導教員の所属・職名（研究代表者が学生の場合）	☐ 未受講
			☐ 受講済
			☐ 未受講

倫理委員会出席説明者氏名	倫理委員会時連絡先電話番号	e'mail アドレス

○ 研究の種類：（全欄いすれかを選ぶ）

研究の種類	侵襲性	臨床研究登録	補償
☐ 医療・医療機器介入研究 ※ ☐ 上記以外の介入を伴う研究 ☐ 観察研究又は疫学研究、その他	☐ 有 ☐ 無	☐ UMIN-CTR ☐ J A P I C ☐ 日本医師会試験促進センター ☐ その他（ ） ☐ 登録なし	☐ 有 ☐ 無

※ 医薬品又は医療機器を用いた予防、診断又は治療方法に関するもの。対外診断を目的とした研究を除く。

○ 研究形態：（いずれかを選ぶ）

1) 多施設共同研究に ☐ 該当する ☐ 該当しない

2) 東北文化学園大学が多施設共同研究の総括施設に ☐ 該当する ☐ 該当しない

3) 多施設共同研究の全体計画書を ☐ 添付する ☐ 添付しない（その理由： _____）

4) 多施設共同研究の倫理委員会承認書を ☐ 添付する ☐ 添付しない（その理由： _____）

○ 研究期間：西暦 年 月（研究倫理委員会承認後）～西暦 年 月

（原則 5 年以内、なお、研究期間には、症例登録期間、追跡（観察）期間を含みます。）

※本申請書と共に、研究計画書（様式第 2 号）及び関連資料を添えて提出すること。 以 上

7. 研究対象者の選定 (1) 予定数 (2) 選定方針 (対象者として選定した理由)
8. 研究対象者の負担 (調査票記載、長期間の追跡等)
9. 研究対象者へのインフォームド・コンセント (該当するものを○で囲み、必要事項を記載すること。) a. 研究対象者全員から書面による同意書を得る (様式を添付すること) b. 研究対象者の一部 (あるいは全部) は口頭による同意を得る (方法と理由を明示すること) c. 研究対象者の一部 (あるいは全部) からは同意を得られない (理由を明示すること)
10. 研究資料データ等の適切な収集管理方法
11. 個人情報保護のための方策 (予定を含めて記載すること。)
12. 研究機器・薬品等の安全管理方法

東北文化学園大学ティーチング・アシスタント取扱要項

「平成15年7月2日」
「学 長 制 定」

(趣旨)

第1条 この要項は、東北文化学園大学大学院（以下「大学院」という。）に在学する優秀な学生に対し、教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るため必要な事項を定めるものとする。

(名称)

第2条 前条の教育補助業務を行う者の名称は、
ティーチング・アシスタント（以下「TA」という。）
とする。

(職務内容)

第3条 TAは、授業科目を担当する教員（以下「科目担当教員」という。）の指示に従い、学部对学生に対する実験、実習及び演習の教育補助業務に従事する。

(選考)

第4条 TAの選考は、授業科目を開講する学部の長が行い、学長に報告する。

(任用期間)

第5条 TAの任用期間は、4月1日から翌年3月31日までの1年間の範囲内とする。

(勤務時間)

第6条 TAの勤務時間は月40時間以内とし、当該学生が受ける研究指導、授業等に支障が生じないように配慮するものとする。

(手当)

第7条 TAの手当は、別に定めるものとする。

(実施計画)

第8条 科目担当教員は、TAに教育補助業務を行わせる授業科目について、別に定めるところにより実施計画書を作成し、教務課に提出するものとする。

(実施報告)

第9条 科目担当教員は、TAの任用期間終了後、速やかに別に定めるところにより実施報告書を作成し、教務課に提出するものとする。

附 則

この要項は、平成 15 年 7 月 2 日から施行し、平成 15 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 4 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

13. 他の倫理審査委員会（またはこれに相当するもの）への申請状況 （予定を含めて記載すること。）
14. 結果の公表及び開示の方法 （予定を含めて記載すること。）
15. 経費の出所
16. 研究実施状況報告書の提出時期 （研究期間が数年にわたる場合、開始から３年ごとを目処とすること） ____年 ____月
17. 本研究の倫理面の問題点 （もしもあれば記載すること。）
18. 倫理審査委員会への依頼事項 （もしもあれば記載すること。）
19. 前回申請との変更点 （再申請の場合のみ記載すること。）

※ 一般的に以上のとおりとするが、研究内容に応じて変更できる。
 ※ 関連書類についても、添付すること。

様式第３号

____年 ____月 ____日

研究責任者

殿

東北文化学園大学
学 長

審 査 結 果 通 知 書

課 題 名： _____

研究期間： _____年 ____月 ____日 ～ _____年 ____月 ____日

____年 ____月 ____日付けで申請のあった上記課題に係る研究計画について、東北文化学園大学研究倫理審査委員会の審査結果に基づき、下記のとおり決定しましたので通知します。

記

【判 定】	承 認 条件付承認 （承認番号；文大倫第 ____号）
	変更の勧告 不承認 非該当

【理由又は勧告】

VIII 諸規程

東北文化学園大学総合情報センター図書館利用規程

「平成 11 年 3 月 10 日」
「制 定」

（趣旨）

第 1 条 この規程は、東北文化学園大学総合情報センター規程第 8 条の規定に基づき、東北文化学園大学総合情報センター図書館（以下「図書館」という。）の利用について定めるものとする。

（利用者）

第 2 条 図書館を利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 東北文化学園大学（以下「大学」という。）の教職員
- (2) 大学の学生
- (3) 総合情報センター長（以下「センター長」という。）が特に許可した者（以下「特別許可者」という。）

（開館日）

第 3 条 センター長は、次の各号に掲げる日（以下「休館日」という。）を除き、開館するものとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
- (3) 大学の定める休業日
- (4) その他センター長の定める日

2 センター長が必要と認めたときは、前項に定める休館日を臨時に変更することができる。

（開館時間）

第 4 条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、センター長が必要と認めたときは、これを変更することができる。

- (1) 月曜日から金曜日
午前 8 時 40 分から午後 9 時まで
- (2) 土曜日
午前 9 時から午後 6 時まで

（館内閲覧）

第 5 条 図書館に配架されている図書館資料は、自由に書架から取り出し、閲覧することができる。

2 閲覧した図書館資料は、当日の閉館時刻までに、所定の場所に返納しなければならない。

（館外貸出）

第 6 条 館外貸出は、所定の手続きを経て、館外へ帯出して閲覧するものとする。ただし、次の各号に掲げる図書館資料は、特別の理由があつてセンター長が認めた場合を除き、館外貸出を行わない。

- (1) 貴重図書
- (2) 貸出禁止のある図書館資料
- (3) 雑誌の最新号及び新聞
- (4) マイクロ資料

(5) 視聴覚資料

(6) その他センター長が指定した資料

2 館外貸出は、次のとおりとする。

- (1) 一般貸出
- (2) 研究用貸出
（一般貸出）

第 7 条 一般貸出の図書の冊数及び貸出期間は、次表のとおりとする。

区 分	貸出限度冊数 (1 人当り)	貸出期間
教 職 員	10 冊	30 日
大学院の学生	10 冊	30 日
大 学 の 学 生	5 冊	14 日
特 別 許 可 者	3 冊	14 日

2 前項の規定にかかわらず、センター長が必要と認めたときは、貸出図書冊数又は貸出期間を変更することができる。

3 第 1 項の貸出期間を超えて返納したときは、超過日数と同日数だけ次の貸出を停止することがある。
（貸出予約）

第 8 条 貸出を希望する図書が貸出中の場合は、所定の手続きを経て予約することができる。

（転貸の禁止）

第 9 条 館外貸出図書は、貸出を受けた者が保管の責任を負い、これを転貸してはならない。

（貸出図書の返却）

第 10 条 館外貸出図書は、所定の期日までに、返却しなければならない。

2 教職員、学生等で貸出を受けた者がその身分又は資格を失った場合は、直ちに返却しなければならない。

（研究用長期貸出）

第 11 条 教員は、教育研究上必要とする場合、図書館が受け入れた図書（以下「研究用図書」という。）を、次の各号により所定の手続きを経て長期に貸出を受けることができる。

- (1) 共同利用を図る目的で学部研究室（以下「研究室等」という。）に備え付ける図書
- (2) 研究費で購入した特定の教員が専用する図書
（1 人 300 冊以内）
- (3) 研究室等を通して図書館に寄付された図書
（管理責任者）

第 12 条 前条により貸出を受けた研究室等は、管理責任者を定め、研究用図書の保管の責任を負うものとする。

2 管理責任者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 研究室等で図書を共用する場合は、当該研究室等ごとに定められた教職員

- (2) 特定の教員が専用する場合は、当該教員
- 3 研究室等で前項第1号の管理責任者を定めるとき又は変更したときは、速やかにその職名及び氏名をセンター長に届け出なければならない。

(文献複写)

第13条 文献複写についての必要な事項は、別に定める。

(電子媒体資料の利用)

第14条 電子媒体資料の利用についての必要な事項は、別に定める。

(展示及び掲示)

第15条 図書館内に展示又は掲示をしようとする者は、センター長の許可を受けるものとする。

(弁償)

第16条 利用者は、利用中の図書、物品若しくは施設を汚損、破損又は亡失したときは、センター長の指示に従い、速やかにその損害を弁償しなければならない。ただし、センター長がやむを得ないものと認めたときは、免除することができる。

(規程の改廃)

第17条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

第18条 この規程に定めるもののほか、図書館の利用について必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年10月6日から施行し、平成11年9月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成15年7月2日から施行し、平成15年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月4日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成21年3月4日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2024年2月28日から施行する。

東北文化学園大学大学院学位論文審査料に関する基準

「平成23年6月30日」

「理事会 制定」

(目的)

第1条 この基準は、東北文化学園大学学位規程第8条の2の定めにより、学位論文審査料について定めるものとする。

(学位論文審査料)

第2条 東北文化学園大学大学院博士課程後期3年の課程を経ない者の学位論文審査料は、100,000円とする。

2 前項に該当する者のうち、次の各号に該当する者の学位論文審査料は、50,000円とする。

(1) 東北文化学園大学を卒業または東北文化学園大学院博士課程前期2年の課程を修了した者

(2) 東北文化学園大学大学院博士課程後期3年の課程を単位取得退学した者で、東北文化学園大学学位規程第10条第3項の申請期間を過ぎた者

(3) 学校法人東北文化学園大学就業規則第2条に規定する教職員として在籍している者

(雑則)

第3条 この基準に定めるもののほか、学位論文審査料に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、理事会が別に定める。

附 則

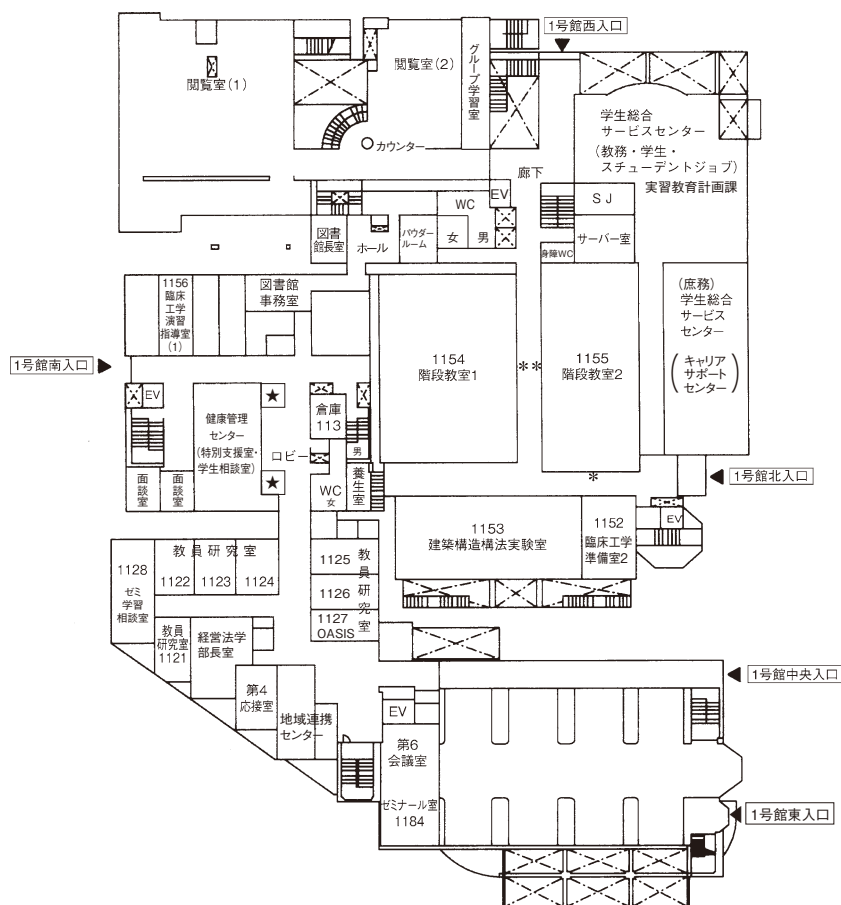
この基準は、平成23年6月30日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

IX 校舎案内・防災ガイド

東北文化学園大学校舎配置図



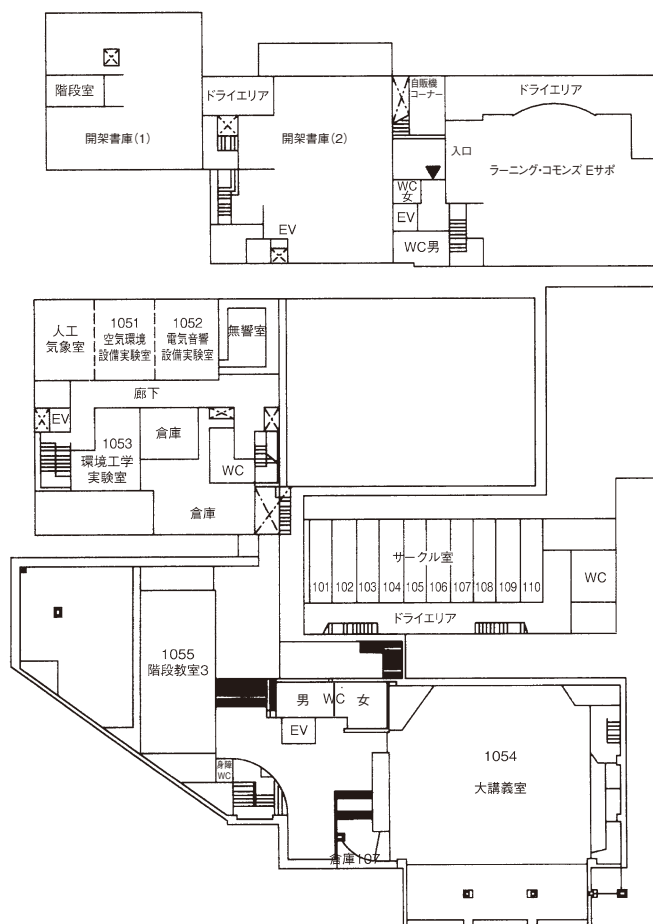
IX 校舎案内・防災ガイド



1 号 館

【1 階】

- 学生総合サービスセンター
(庶務・教務・学生・実習教育
計画課・スチューデントジョブ・
キャリアサポートセンター)
- 図書館閲覧室
- 階段教室 1・2
- 建築構造構法実験室
- 経営法学部長室
- 教員研究室
- 面談室
- 健康管理センター
(特別支援室・学生相談室)
- 臨床工学演習指導室(1)
- 臨床工学準備室(2)
- * 掲示板(経営法学部用・工学部/
科学技術学部用)
- ★ 証明書自動発行機



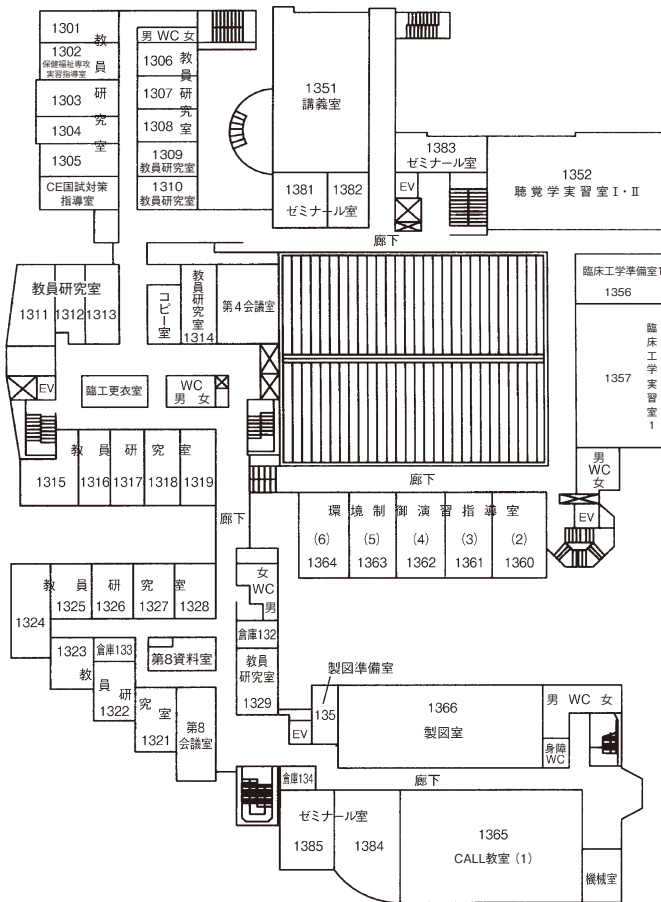
【地下1階】

- 大講義室
- 階段教室 3
- 人工気象室
- 空気環境設備実験室
- 電気音響設備実験室
- 無響室
- 自動販売機コーナー
- 図書館書庫
- サークル室
- ラーニング・commons Eサポ

1 号 館

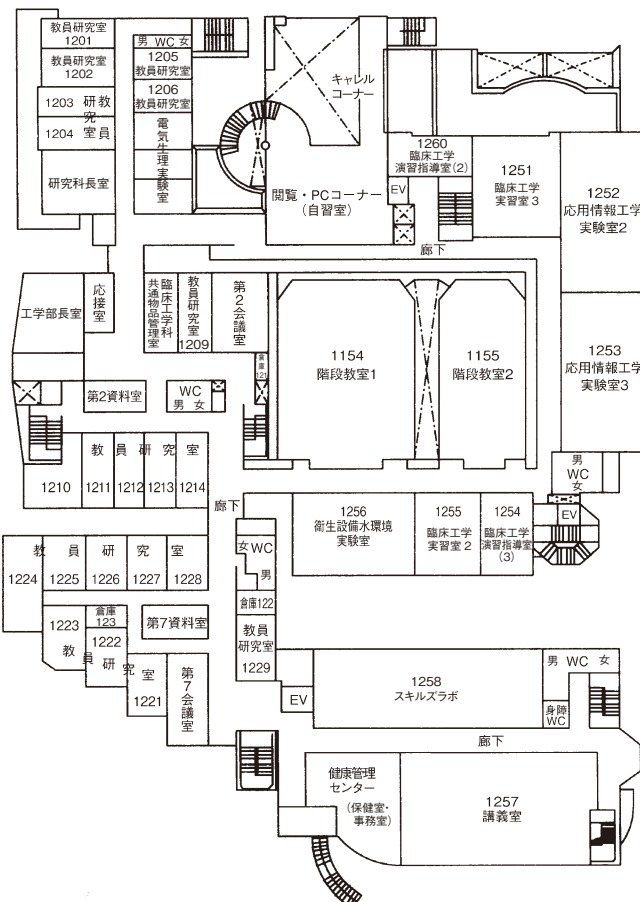
【3 階】

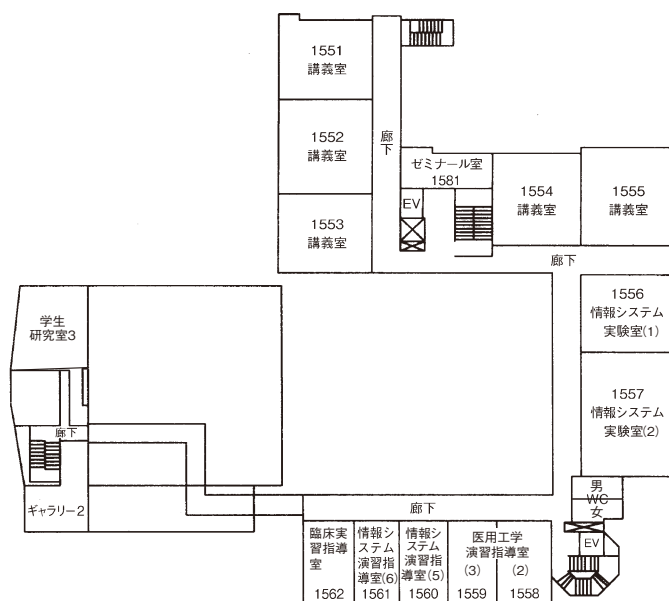
- 講義室
- 臨床工学実習室1・臨床工学準備室1
- 環境制御演習指導室(2)～(6)
- ゼミナール室
- 教員研究室
- 保健福祉セミナー室
- CALL教室(1)
- 聴覚学実習室I・II
- 製図室
- 更衣室



【2 階】

- 階段教室1・2
- 講義室
- 閲覧・PCコーナー(自習室)
- 応用情報工学実験室2～3
- 衛生設備水環境実験室
- 心理検査室
- 電気生理実験室
- 研究科長室
- 工学部長室
- 教員研究室
- 健康管理センター(保健室・事務室)
- スキルズラボ
- 臨床工学実習室2～3
- 臨床工学演習指導室2～3

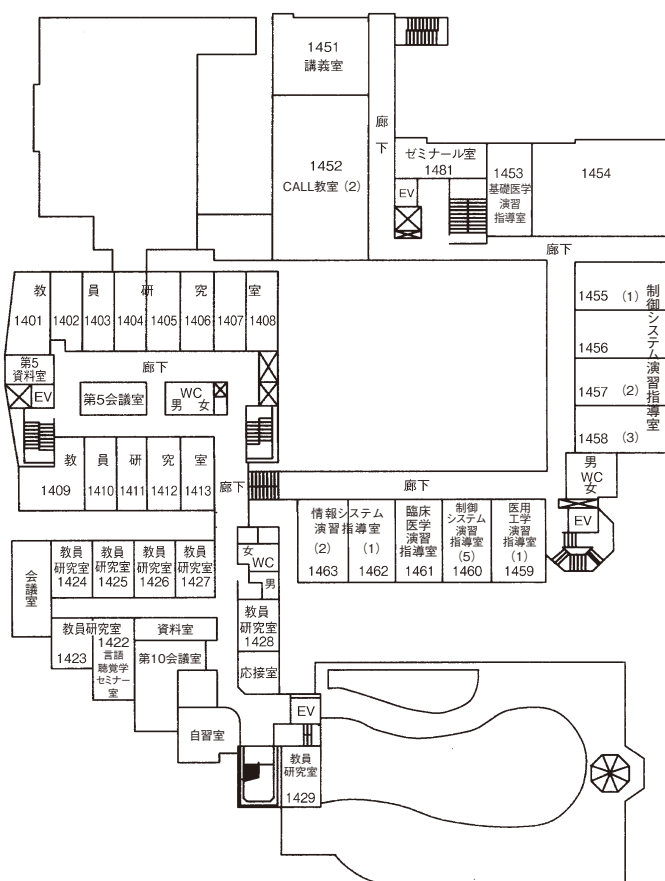




1 号 館

【5 階】

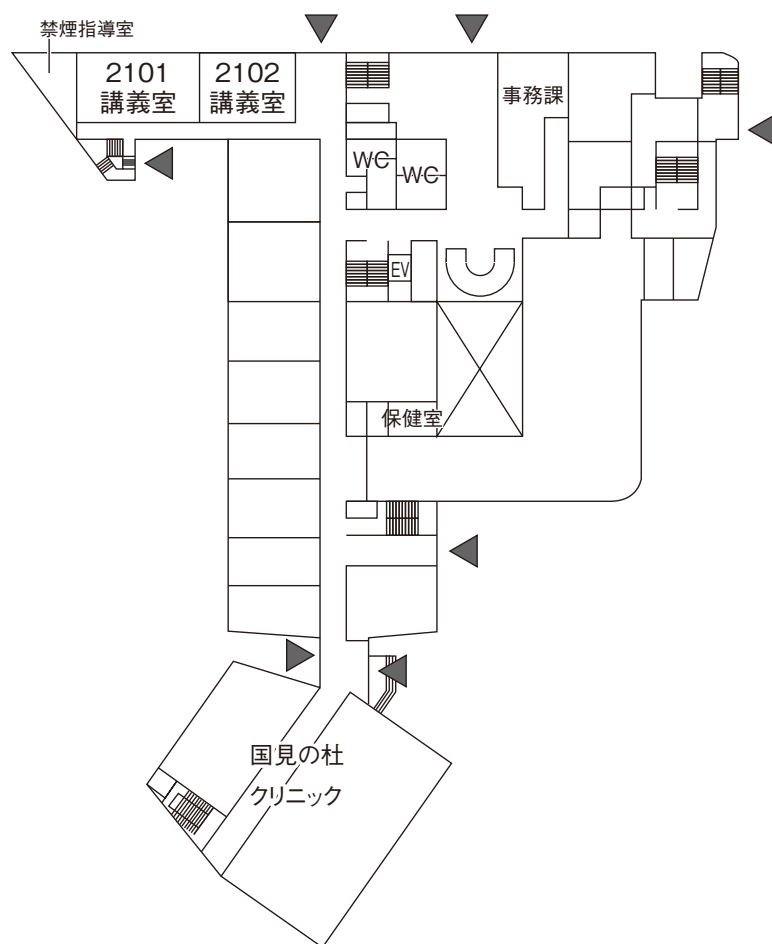
- 講義室
- ゼミナール室
- 情報システム実験室(1)～(2)
- 情報システム演習指導室(5・6)
- 学生研究室
- 言語聴覚実習対策室
- 医用工学演習指導室(2・3)
- ギャラリー 2



【4 階】

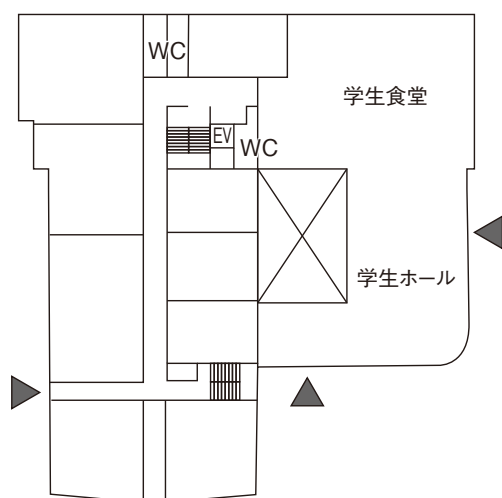
- 講義室
- CALL教室(2)
- 情報システム演習指導室(1・2)
- 制御システム演習指導室(1～3・5)
- 学生研究室
- 教員研究室
- ゼミナール室
- 言語聴覚学セミナー室
- 基礎医学演習指導室
- 医用工学演習指導室(1)
- 臨床医学演習指導室
- 自習室

2 号 館



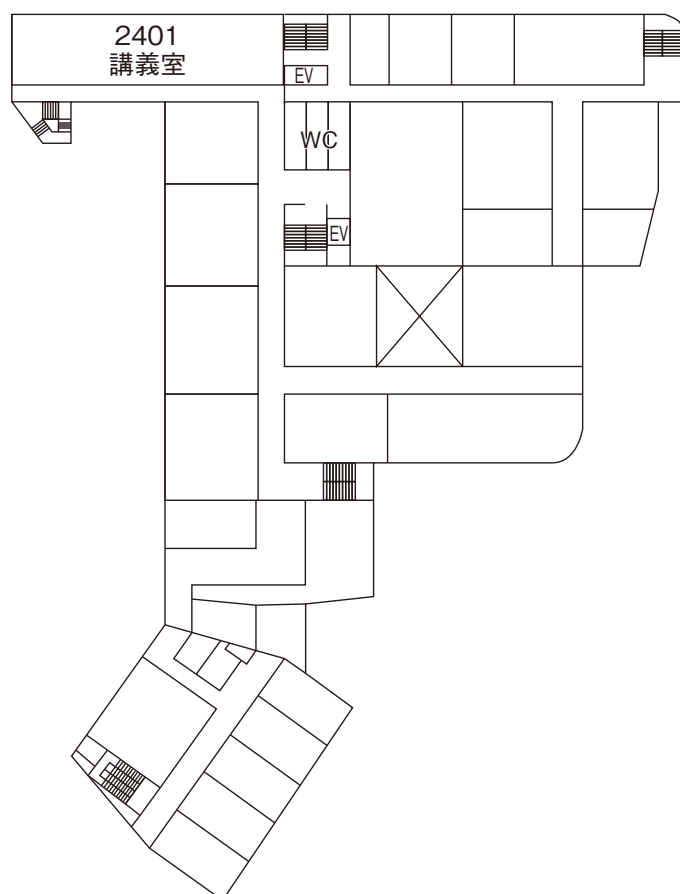
【 1 階 】

- 講義室
- 事務課（専門学校）
- 保健室



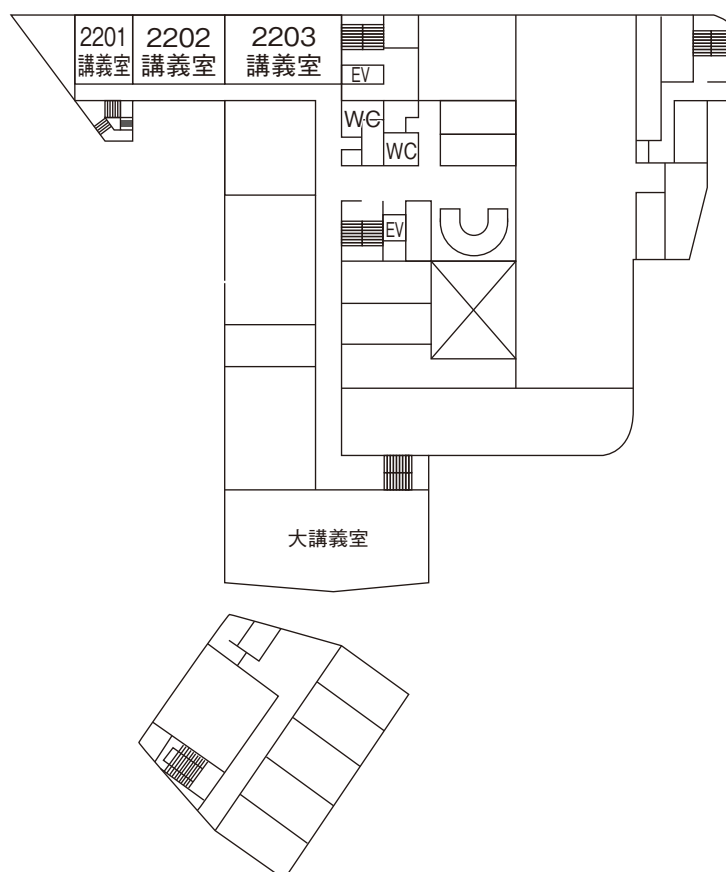
【 地下1階 】

- 学生食堂
- 学生ホール



2 号 館

【 4 階 】
●講義室



【 2 階 】
●講義室

3号館

【2階】

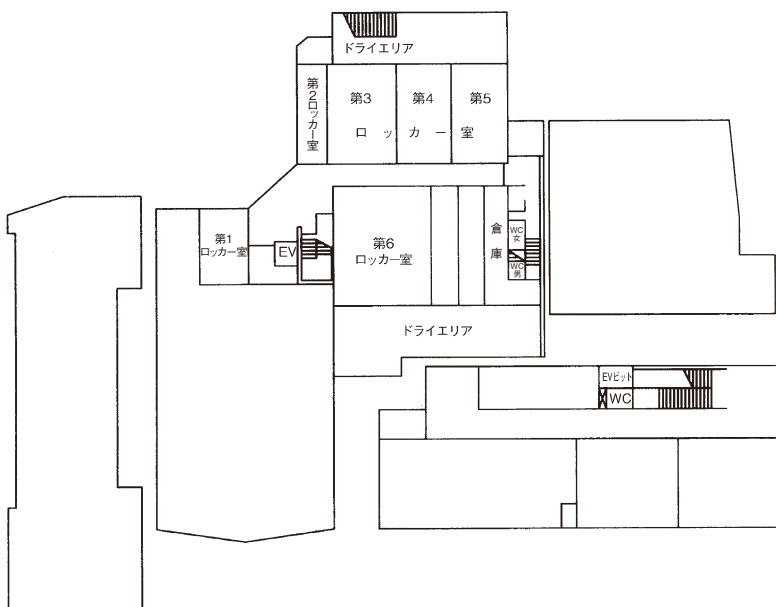
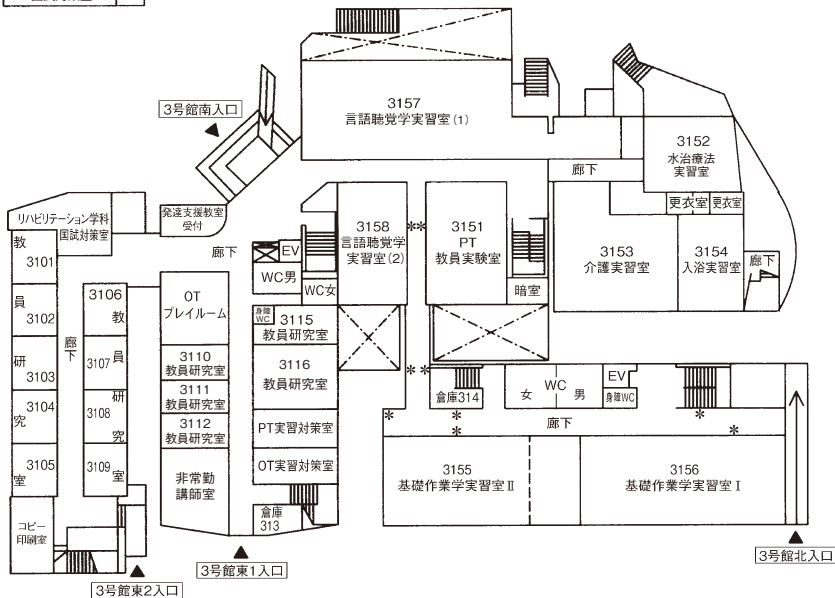
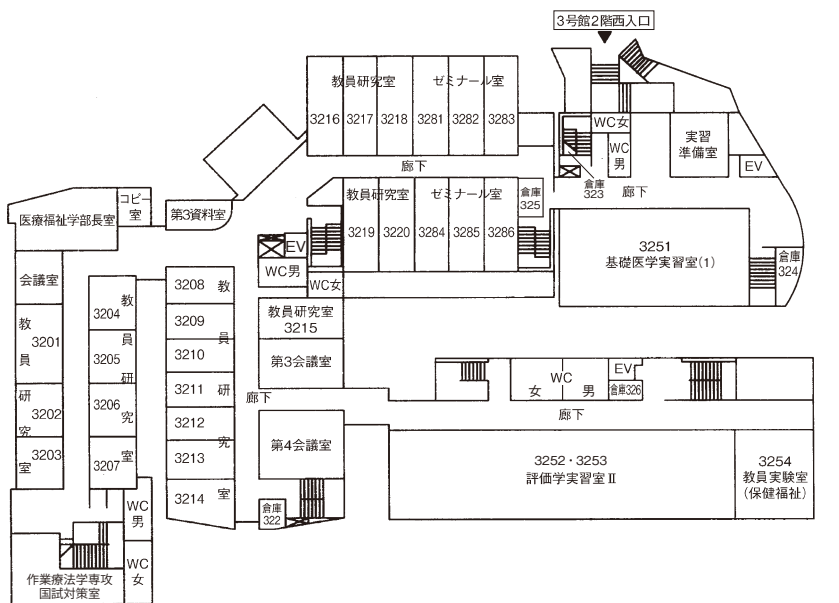
- 基礎医学実習室(1)
- 実習準備室
- ゼミナール室
- 医療福祉学部長室
- 教員研究室
- 評価学実習室Ⅱ
- 作業療法学専攻
国試対策室

【1階】

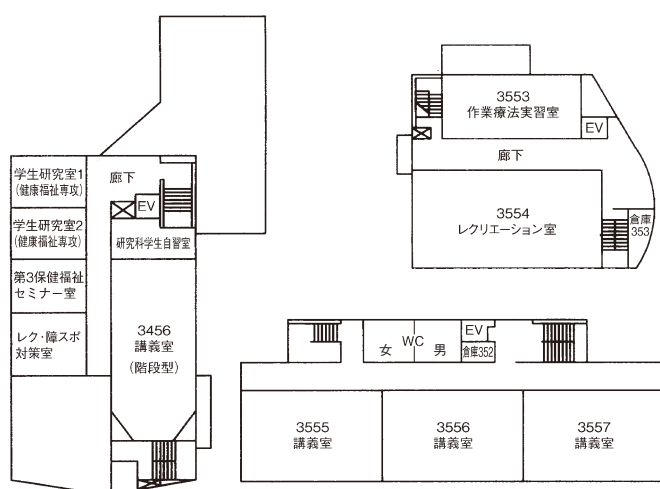
- 基礎作業学実習室(Ⅰ)・(Ⅱ)
 - 介護実習室
 - 入浴実習室
 - 水治療室
 - 教員研究室
 - 非常勤講師室
 - PT実習対策室
 - OT実習対策室
 - リハビリテーション学科
国試対策室
 - 言語聴覚学実習室(1)・(2)
 - OTプレイルーム
- * 掲示板(医療福祉学部・
現代社会学部用)

【地下1階】

- ロッカールーム



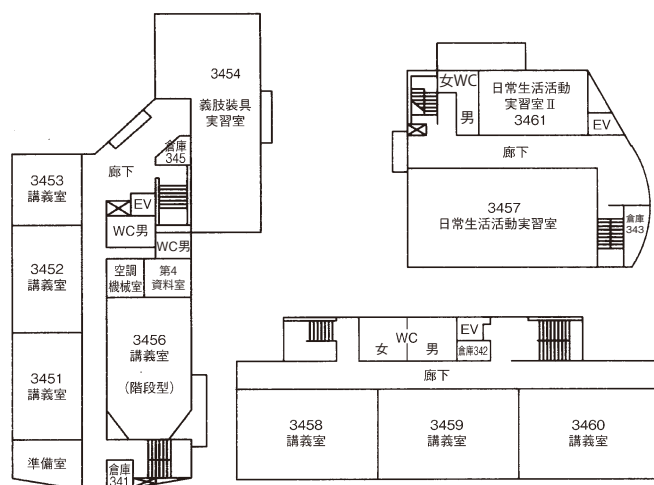
IX 校舎案内・防災ガイド



3号館

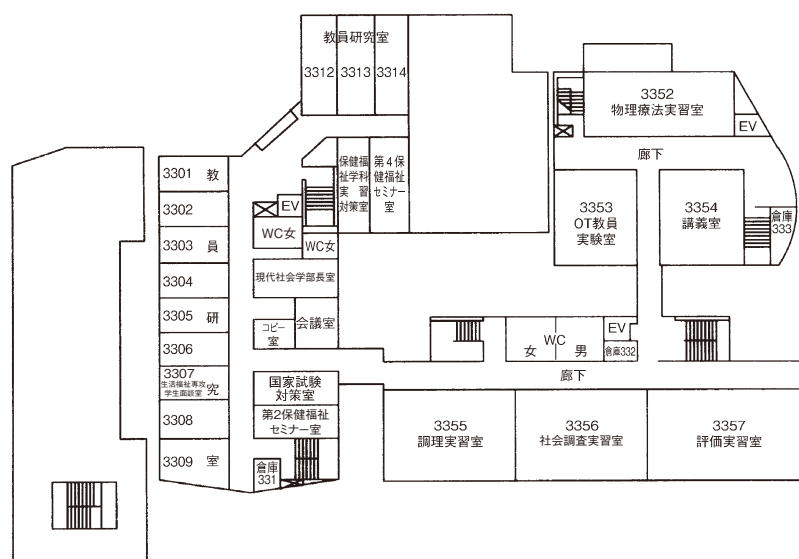
【5階】

- 講義室
- 学生研究室
- レクリエーション室
- 作業療法実習室
- 保健福祉セミナー室
- レク・障スポ対策室
- 研究科学生自習室



【4階】

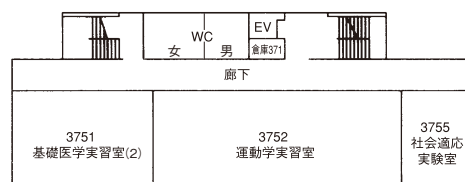
- 講義室
- 義肢装具実習室
- 日常生活活動実習室
- 準備室



【3階】

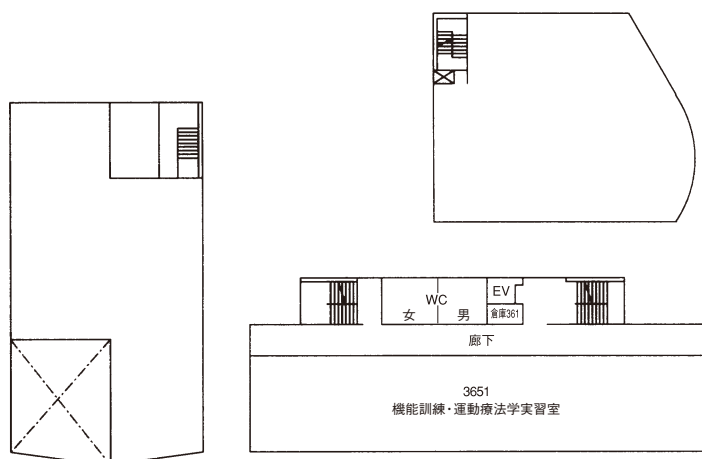
- 講義室
- 物理療法実習室
- 調理実習室
- 社会調査実習室
- 評価実習室
- 現代社会学部長室
- 教員研究室
- 保健福祉セミナー
- 保健福祉学科実習指導室
- OT教員実験室
- 保健福祉学科国家試験対策室

3号館



【7階】

- 基礎医学実習室(2)
- 運動学実習室
- 社会適応実験室

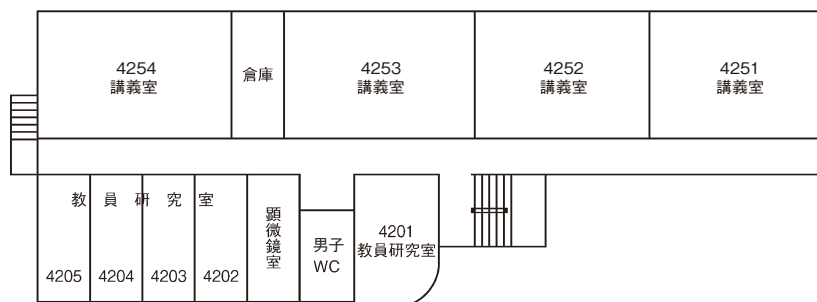


【6階】

- 機能訓練・
運動療法学実習室

4 号 館

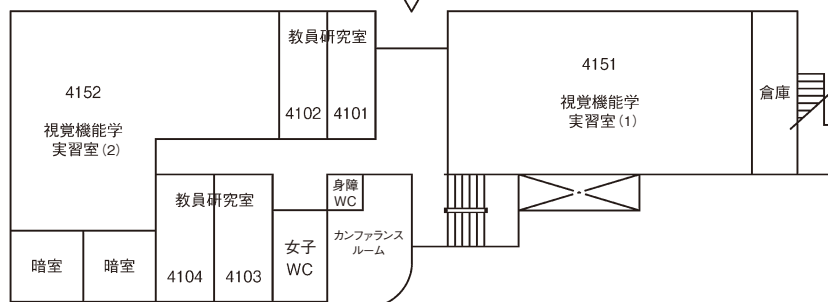
【2 階】



【2 階】

- 講義室
- 教員研究室

【1 階】

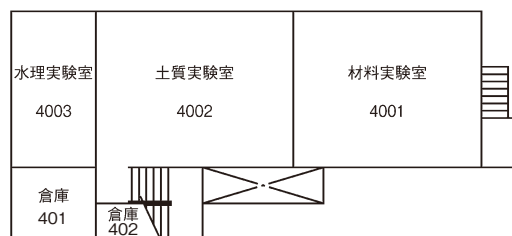


【1 階】

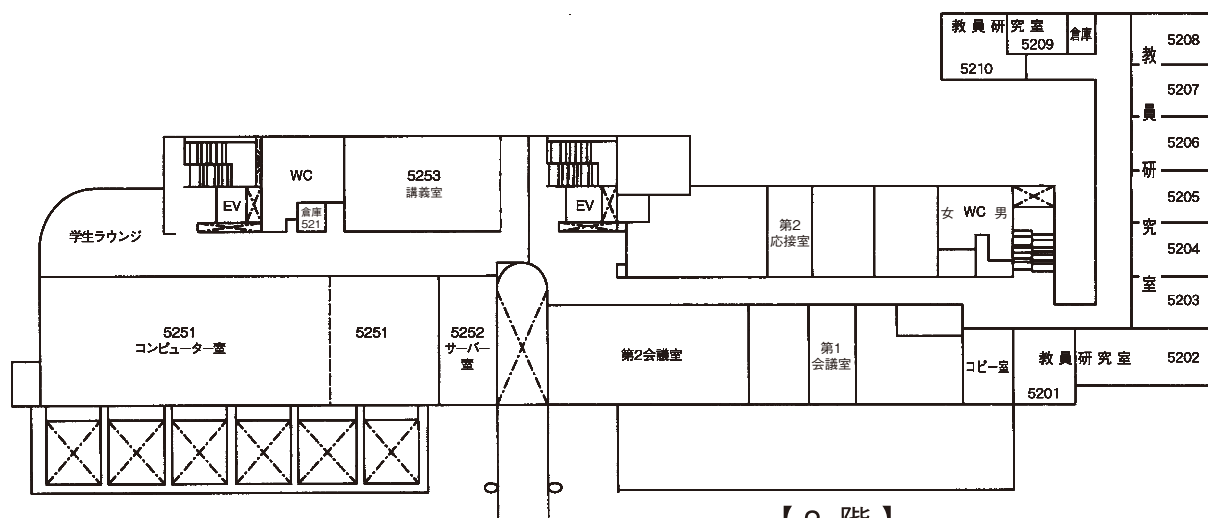
- 視覚機能学実習室
- 教員研究室

【地下1階(専門学校)】

- 水理実験室
- 土質実験室
- 材料実験室

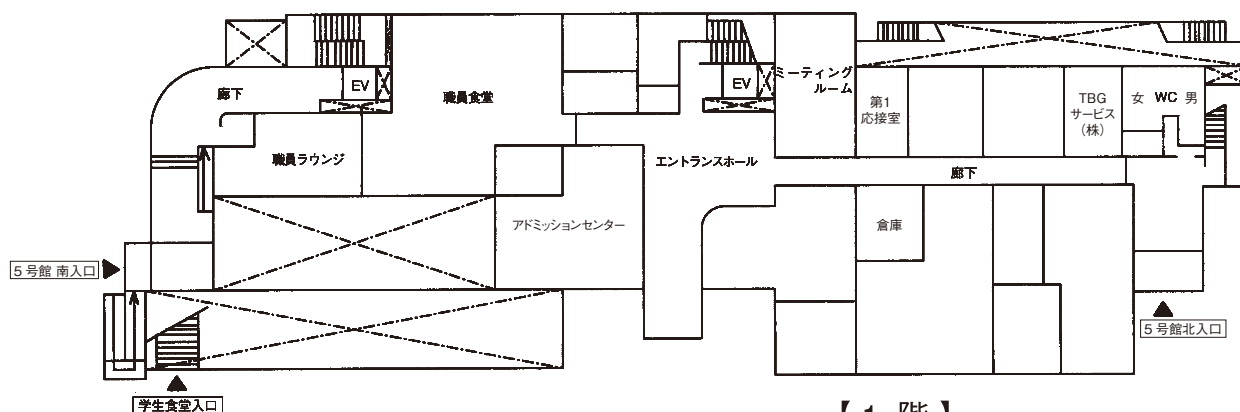


5号館



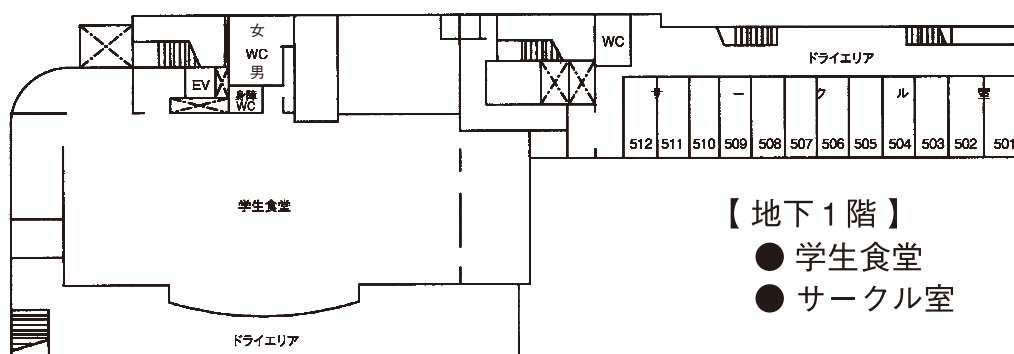
【2階】

- コンピューター室
- 講義室
- サーバー室
- 教員研究室



【1階】

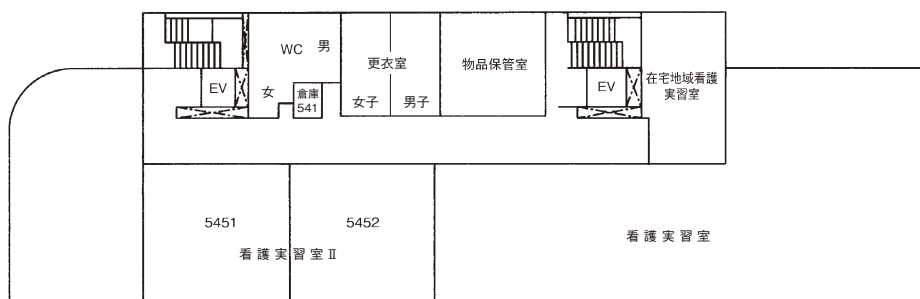
- 職員食堂
- TBGサービス(株)



【地下1階】

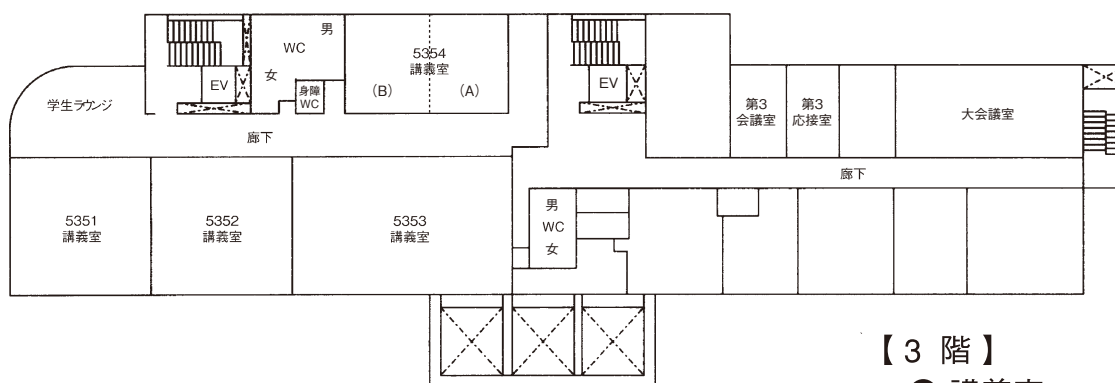
- 学生食堂
- サークル室

5 号 館



【 4 階 】

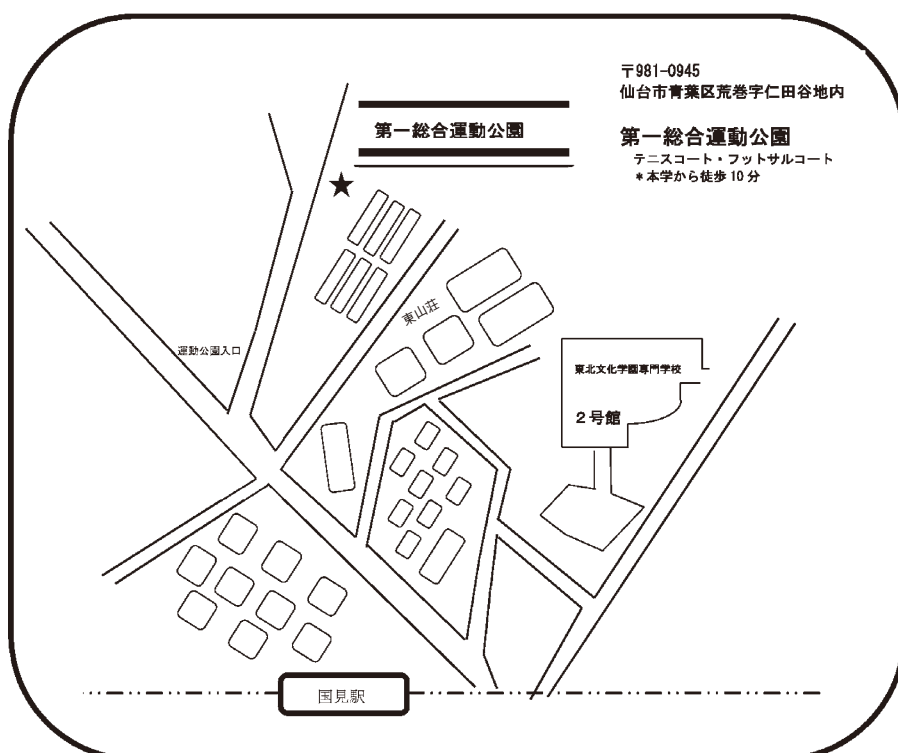
- 看護実習室
- 看護実習室 II
- 在宅地域看護実習室
- 更衣室



【 3 階 】

- 講義室

総合運動公園

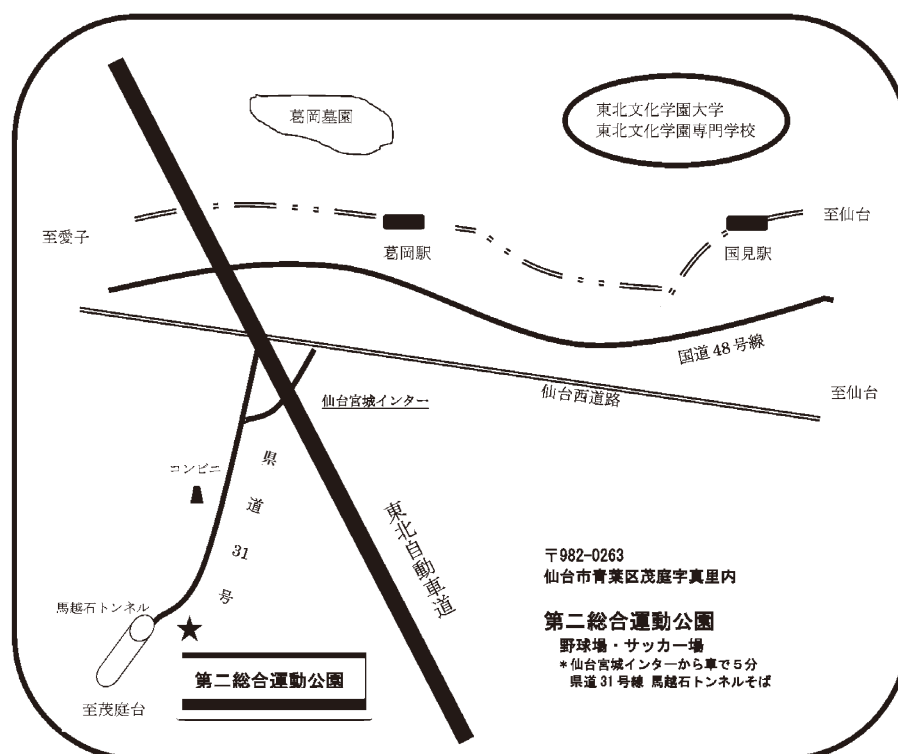


【第一総合運動公園】

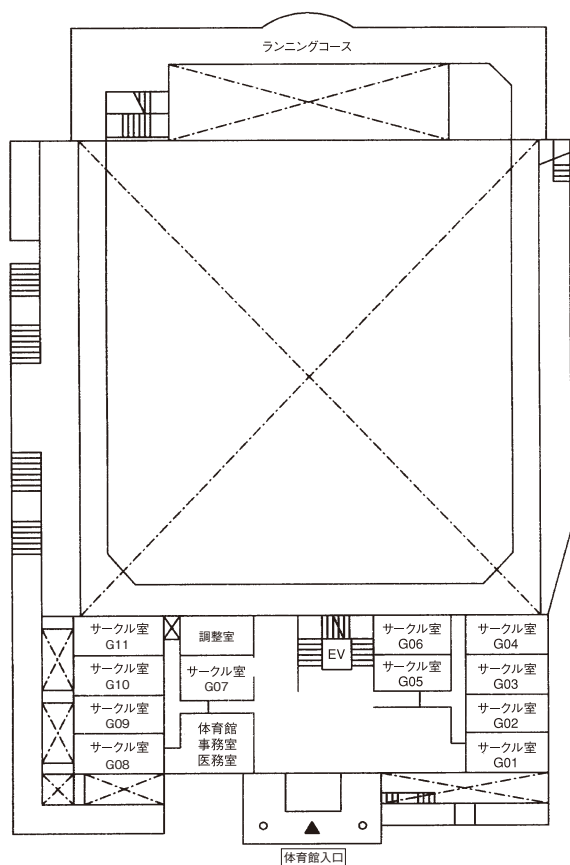
- テニスコート
- フットサルコート

【第二総合運動公園】

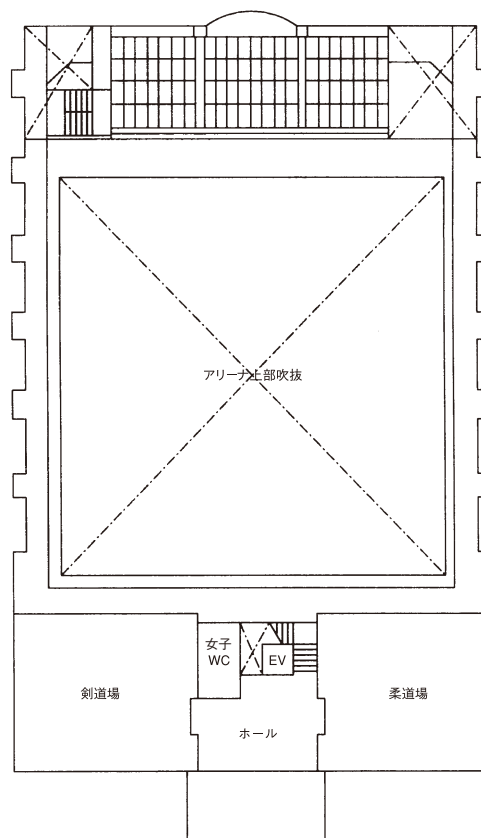
- 野球場
- サッカー場



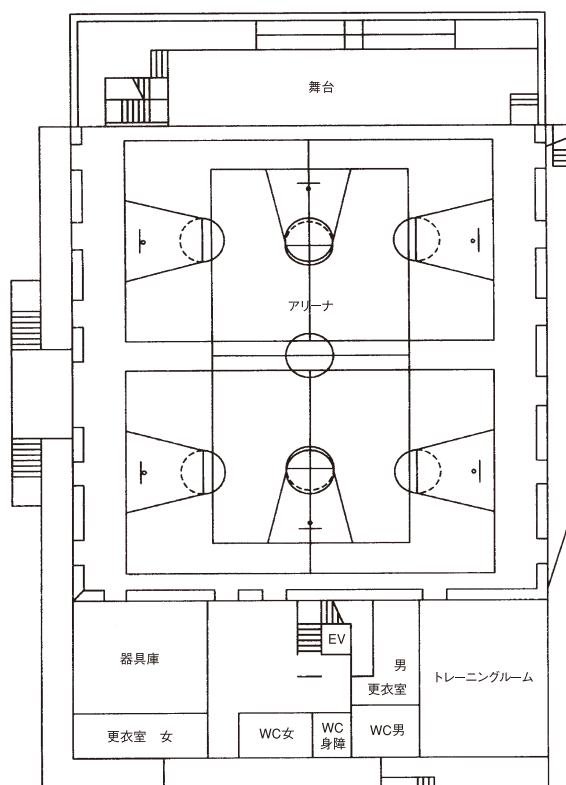
IX 校舎案内・防災ガイド



1 階



2 階



地下1階

体育館

【地下1階】

- アリーナ
- トレーニングルーム
- 更衣室
- 器具庫

【1 階】

- サークル室
- ランニングコース

【2 階】

- 柔道場
- 剣道場

防 災 ガ イ ド

災害に備えて

2011年3月11日東日本大震災が発生しました。このような巨大災害でなくとも突然起きる災害、事故から自らの身を守ることがとても重要となります。各自適切な対処が出来るように日頃より備えて下さい。

災害用伝言ダイヤル「171」の利用方法

災害発生時（震度6弱以上の地震など）には、NTTの災害用伝言ダイヤルサービスが開始されます。事前契約などは一切不要ですから、被災した場合の安否の確認や連絡に活用出来ます。

安否を登録する場合	安否を確認する場合
『①⑦①』にダイヤルする	
▼ガイダンスが流れます	
録音の場合『①』	再生の場合『②』
▼ガイダンスが流れます	
(×××) ×××-××××	

※電話番号は市外局番からダイヤルして下さい。

他にも携帯各社で災害用伝言板サービスがあります。いざというときに使用できるよう携帯各社の使い方を確かめておく必要があります。

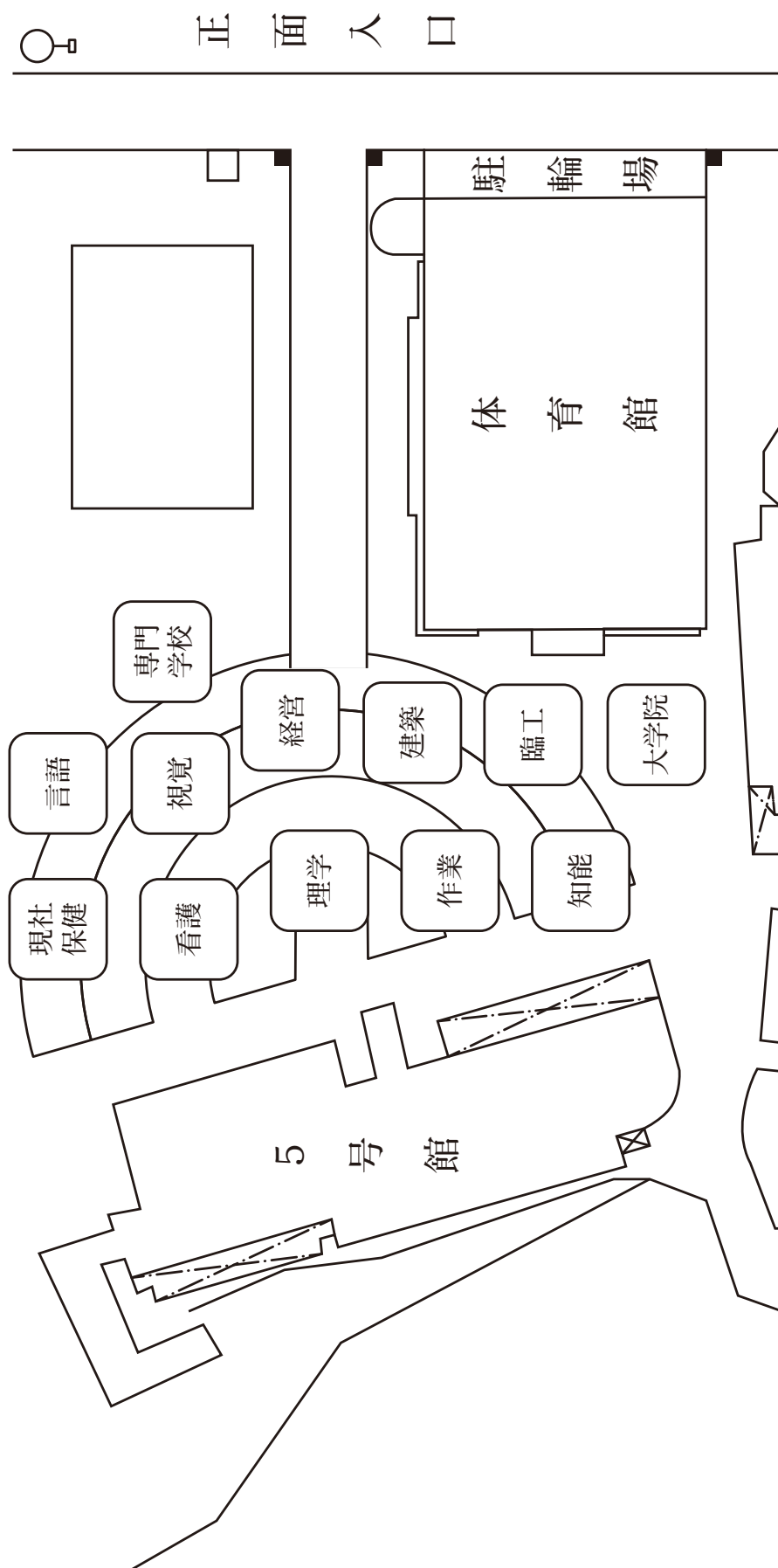
別途配布「震災対応マニュアル」参照。大学HPからも確認できます。

災害時、キャンパス内の避難場所



避難集合場所

高台
仙
至



－ 輝ける者 －

作詞・作曲：さとう宗幸

♩ = 90

がく の み や こ せいほくのみど り ーそまるお かに ーわ が
 おお ー き はらからよ ひん が しのうみを みよ ーわ が

せいしゅんのひょう ぼーうをこの く にみのおか に ーいちず
 じんせいのなみ のうねりはいま こ こにはじま る ーいちず

に あれあつき た まよ かが やけるもの よ ーと きの
 に あれあつき た まよ かが やけるもの よ ーと きの

な かでもとめ つづ けよ かが やけるもの よ
 な かでもとめ つづ けよ かが やけるもの よ

1.

ゆめ よ いちず

2.

に あれあつき た まよ かが やけるもの よ ーと きの

な かでもとめ つづ けよ かが やけるもの よ

一、
 がく みやこ せいほく
 学の都 西北の
 みどり おか
 緑そまる丘に
 せいしゅん ひょうぼう
 わが青春の標榜を
 く に み おか
 この国見の丘に
 いちず あつ たま
 一途にあれ 熱き魂よ
 かがや もの
 輝ける者よ
 と とき なか もと つづ
 時代の中で 求め続けよ
 輝ける者よ

二、
 ゆめおお
 夢多き はらからよ
 ひんがし うみ み
 東の海を見よ
 じんせい なみ
 わが人生の波のうねりは
 いま
 今ここにはじまる
 一途にあれ 熱き魂よ
 輝ける者よ
 時代の中で 求め続けよ
 輝ける者よ

東北文化学園大学

TOHOKU BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

教務課・学生課

981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1
TEL 022-233-6116 FAX 022-233-6419
教務課 kyomu@office.tbgu.ac.jp
学生課 gakusei@office.tbgu.ac.jp